履修要覧

University of the Sacred Heart, Tokyo

聖心女子大学

2023年度入学者用

現代教養学部
大学院人文社会科学研究科

教学支援システム「Sophie」について

「Sophie（ソフィー）」とは…

この名前は、カトリック女子修道会（聖心会）の創立者Madeleine Sophie Barat（マグダレナ・ソフィア・バラ）の愛称に由来していると同時に、以下の頭文字を取っています。

SOPHisticated Interactive Environment for the Seishin Human Network

1. ログイン方法

USH-Cloud（学生向けページ）から Sophie のアイコンをクリックしてください。

USH-Cloud アカウントのユーザー名とパスワードを入力し、ログインします。

❖ユーザー名：大学メールの@ 以前の文字（半角）

（例）xxxxxx@u-sacred-heart.ac.jp

❖パスワード：任意の英数字（半角）

※ 携帯電話からのログインはこちらから

2. Sophie による掲示

授業に関する情報、学生への個人連絡などをSophieに掲示します。掲示にはメール通知のあるものとないものがありますので下表を参照してください。また、毎日必ずSophieの掲示板を確認するよう習慣づけてください。その他、大学からのお知らせはUSH-Cloud、または、大学公式HPで掲示しますのであわせて確認してください。掲示を見なかったために生じる不利益は学生本人の責任となります。

〈Sophie 掲示板〉重要な情報が掲示されることがありますので、毎日確認するようにしましょう。

掲示板のジャンル	掲示内容	通知
授業担当者からのお知らせ	授業担当教員や開講学科研究室等からのお知らせを掲示します	原則としてメール通知あり
呼び出し	各部署からの呼び出しに関する情報が表示されますので、速やかに対応してください	原則としてメール通知あり
お知らせ	各部署、各資格課程等からの連絡事項が表示されます	原則としてメール通知あり
全学掲示	大学からのお知らせ等を掲示します	メール通知なし
学科・専攻別掲示板	各学科・専攻からのお知らせを掲示します	メール通知なし
奨学金	奨学金に関するお知らせを掲示します	メール通知なし
学科決定	学科決定に関するお知らせを掲示します	メール通知なし
履修登録（人数制限・クラス分け含む）	人数制限などを含む、履修登録に関するお知らせを掲示します	メール通知なし
（教員宛）各種通知	主に教員向けの情報を掲示します	メール通知なし

3. Sophie でできる事柄

- 履修登録と登録状況の確認
- シラバスの参照
- 教室の確認
- 休講・補講・一時的な教室変更情報の確認
- 成績の確認（各年度GPA および累積GPA の確認含む）
- 出欠情報の参照
- 自己判定機能の利用
- 個人呼び出しなど各種掲示の確認（授業に関する掲示を含む）

4. Sophie ダウンロードセンター掲載情報

- 学年暦
- 学寮暦
- オリエンテーション日程
- 学生生活ハンドブック
- 履修要覧
- シラバス
- オフィスアワー（専任教員及び各研究室のメールアドレス掲載）
- Sophie 操作マニュアル
- 教務関連情報（履修取消、試験・レポート、卒論・修論・博論・交流学生など）
- 資格課程関連情報（教職課程履修カルテ、博物館学芸員課程など）
- 証明書関連情報（申込方法、証明書自動発行機スケジュール等）

※ 上記以外でも必要と思われるものを適宜掲載します。

履 修 要 覧

2023年度入学者用

本冊子は、卒業するまで大切に扱ってください。
変更等については、Sophieにて通知します。

聖心女子大学

履修要覧　目　次

学部・大学院　共通事項

1．大学の理念…… 4
2．教育組織…… 4
3．聖心女子大学　教育の３つのポリシー…… 5
4．聖心女子大学大学院　教育の３つのポリシー…… 7
5．聖心女子大学　研究倫理ガイド…… 9
6．教務課取扱事務等について…… 11
＜参考＞ 2024年度　学年暦（2024 ～ 2025）　学部・大学院…… 12

学部　履修全般

1．履修の基本…… 14
2．履修登録…… 18
3．授業…… 21
4．試験・レポート…… 23
5．成績評価…… 25
6．留学（含　単位認定・継続履修）…… 28
7．交流学生制度…… 30
8．渋谷４大学連携単位互換制度…… 30
科目コード分類表…… 31

学部　カリキュラム

1．現代教養学部　共通事項…… 34
　A．全学必修分野…… 36
　B．関連分野…… 39
　C．卒業論文…… 46
　D．卒業要件外となる単位…… 47
2．基礎課程（１年次生）…… 48
3．英語文化コミュニケーション学科…… 52
4．日本語日本文学科…… 56
5．史学科：日本史コース…… 60
6．史学科：世界史コース…… 64
7．人間関係学科…… 68
8．国際交流学科：グローバル社会コース…… 72
9．国際交流学科：
　異文化コミュニケーションコース…… 76
10．哲学科…… 80
11．教育学科：教育学専攻…… 84
12．教育学科：
　初等教育学専攻（初等教育コース）…… 88
13．教育学科：
　初等教育学専攻（幼児教育コース）…… 93
14．心理学科…… 100

副専攻・特別プログラム

1．副専攻…… 106
2．グローバルリーダーシップ・プログラム…… 107

資格課程

1．教職課程　共通事項…… 112
2．教職課程　各学科別…… 117
3．博物館学芸員課程…… 133
4．日本語教員課程…… 134
5．司書教諭課程・司書課程・学校司書課程…… 136

大学院　履修全般

1．履修の基本…… 140
2．履修登録…… 143
3．授業…… 146
4．試験・レポート…… 147
5．成績評価…… 149
6．留学…… 150
7．資格課程…… 150
参考：委託聴講生制度協定書…… 156

大学院　カリキュラム

＜修士・博士前期課程＞
1．英語英文学専攻（修士課程）…… 162
2．日本語日本文学専攻（修士課程）…… 165
3．史学専攻（修士課程）…… 167
4．社会文化学専攻（博士前期課程）…… 169
5．哲学専攻（修士課程）…… 172
6．人間科学専攻（博士前期課程）：
　教育研究領域…… 174
7．人間科学専攻（博士前期課程）：
　心理学分野…… 177
＜博士後期課程＞
8．人文学専攻（博士後期課程）…… 182
9．社会文化学専攻（博士後期課程）…… 185
10．人間科学専攻（博士後期課程）：
　教育研究領域…… 188
11．人間科学専攻（博士後期課程）：
　心理学分野…… 191

学部・大学院　共通事項

1. 大学の理念

聖心女子大学は、マグダレナ・ソフィア・バラが1801年にフランスで創立した聖心女子学院の教育理念に基づいて、設立された大学である。その教育理念は、一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心（みこころ）に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深めることにある。この精神（「聖心スピリット」）は、世界各地の聖心姉妹校に共通するものである。

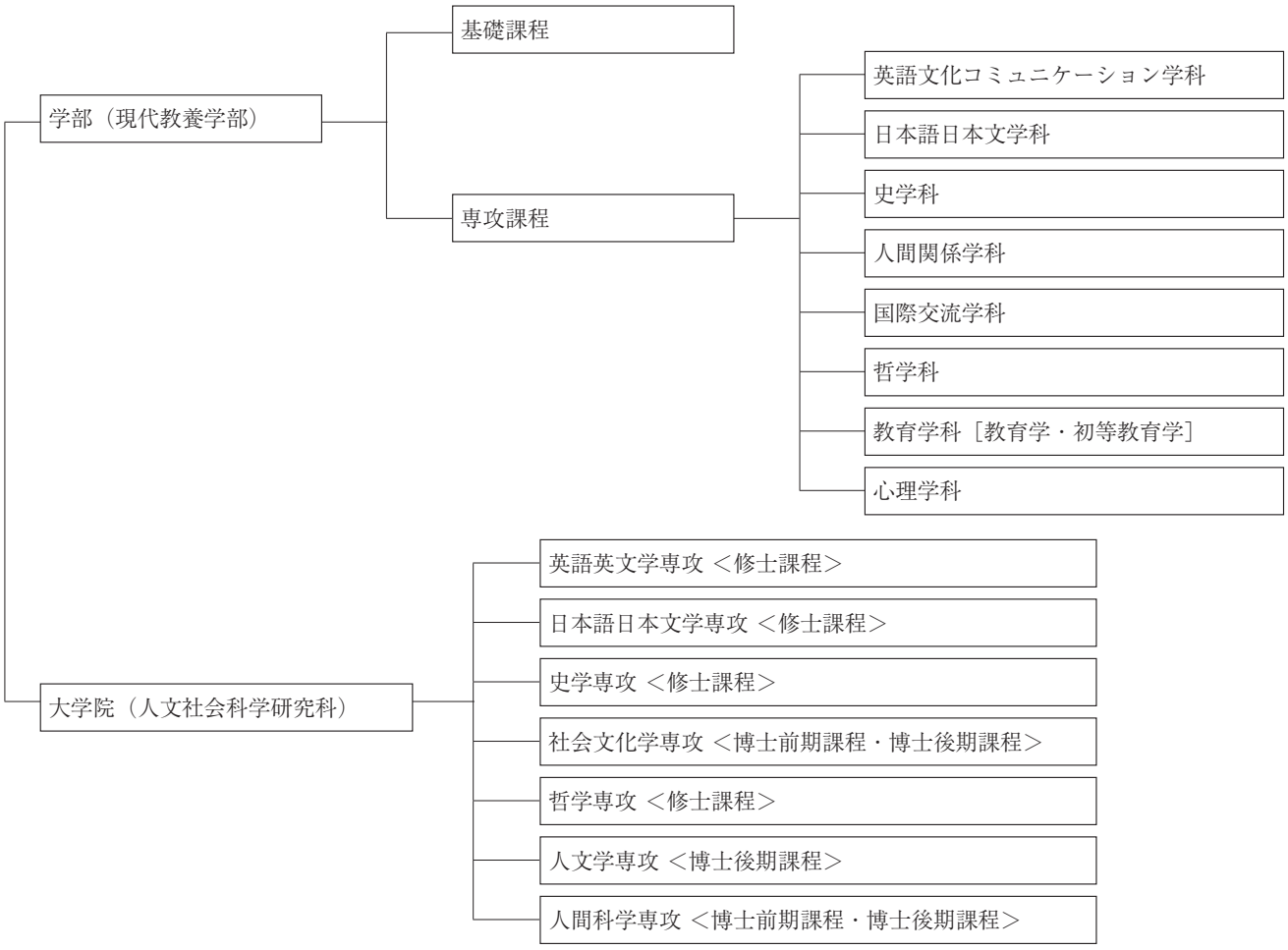
本学は、この建学の精神に基づき、

- **高度な学術的・専門的知識の探求を通じ、新たな知の世界を切り拓く創造力と批判力を養い、それにより高められる豊かな教養を備えた人間を育成する。**
- **個としての自己を確立し、かつ地球を共有する人類の一員として世界を視、人々と交わり、そしてこれらの重要な関心事に自ら関わることのできる広い視野、感受性、柔軟性および実践的な行動力を持つ人間を育成する。**
- **社会の急激な変動に対応できる思考力と判断力を持ち、現代のみならず、未来に向けても自らの考えを自らの言葉で発信できる人間を育成する。**

この目標を実現するために、大学・教職員・学生・卒業生は、一体となって聖心の教育コミュニティーを形成する。

大学および教職員は常に研究・教育水準の向上に努め、学生および卒業生は、その育まれた資質や成果を、在学中に培われた「聖心スピリット」とともに広く社会に還元できるよう、それぞれにおいてその責任と積極性が求められるものである。

2. 教育組織



3. 聖心女子大学　教育の３つのポリシー

１.〈アドミッション・ポリシー〉―このような人に入学してほしいと願っています―

聖心女子大学では、大学の理念に共感し、国際化した社会のなかで自立した女性として実践的に活動することをめざし、そのための幅広い教養と高い専門性、柔軟な思考力と的確な判断力を身につけようと希望する皆さんに入学していただきたいと願っています。そのため、高等学校では国語、外国語、地理歴史、公民はもとより、数学、理科、総合的な学習、特別活動などあらゆる授業の履修を通じて、またさらに課外活動、読書などを通じて、知識・技能を十分に磨くとともに豊かな体験を積み、積極的に興味・関心の幅を広げてください。そうした主体的な学習姿勢こそが、本学入学後の学修に大いに役立ちます。さらに、聖心女子大学では、自らの問題意識に基づいて探究を行い、自分の意見を正確に発信し、異なる意見も尊重しながら議論を進め、適切な判断を下す力も重要だと考えています。そのため高校時代には、興味・関心のある事柄について協力し合って調べることを体験し、また論理的に考え、書き、話す力、すなわち論理的思考力とコミュニケーション能力を養っておくことが望まれます。このような学習姿勢や能力を身につけた皆さんに入学していただくため、聖心女子大学では、次の３つの方針を掲げています。

1．皆さんに聖心女子大学をより良く知っていただく機会を広く設けます。そのためにオープンキャンパスや大学公式ＷＥＢサイトなどによって、在学生や教員のようすをさまざまな形でご紹介していきます。
2．一人ひとりの受験生に丁寧に向き合います。そのために皆さんの能力・特性が発揮できるよう一般選抜をはじめ、さまざまな選抜方式を用意しています。どの選抜方式でも記述式を採用し、また学校推薦型選抜や総合型選抜などではじっくりと面接を行うことなどによって、皆さんの「発信力・表現力」を評価します。
3．聖心で学びたい、という気持ちを大切にします。そのために学科・専攻を入学時に決めるのではなく、入学後の日々の勉学を通して、自分にふさわしい方向性を見出し、２年次に学科・専攻を決める、そのような制度を採用しています。また、聖心女子大学では資質・能力や背景の異なる多様な学生を受け入れるために、さまざまな入学者選抜方式を採用しています。

○一般選抜（３教科方式）　国語、外国語（英語または仏語）、地理歴史（日本史または世界史）の３教科３科目の筆記試験（記述式・マークシート式の双方を含む）により評価します。高等学校で身につけた基礎的な学力と思考力、知識を応用する力を評価し、あわせて記述式問題では的確に表現する力を評価します。
○一般選抜（総合小論文方式）　特定のテーマに関係する資料（論説文等の日本語の資料、英語の資料、表・グラフなどの統計資料など）を読み、それをふまえて小論文を書く形式の試験で、資料を正確に読み取る力と、論理的で、説得力のある、筋の通った文章を構成する力を評価します。
○総合型選抜（アドミッション・オフィス方式）　本学の理念や教育方針をよく理解し、本学を第一志望とする入学意欲、勉学意欲の高い学生を対象とします。エントリーシート、小論文、面接、高校の成績（調査書）などによって、入学意欲や勉学意欲、高校での勉学や諸活動、思考力や自身の言葉による表現力、コミュニケーション力などを、多面的、総合的に評価します。なお、この選抜方式の一部に卒業生子女対象選抜を採用しています。
○総合型選抜（帰国子女入試）　外国の高等学校出身で、異文化の中で生活した経験のある帰国子女（日本国籍を有するか日本国の永住許可を得ている女子）を対象とします。英語４技能資格・検定試験の成績によって英語力を、小論文試験と面接では日本語の力と論理的な思考力と表現力を評価します。
○総合型選抜（外国人留学生入試）　外国の高等学校出身で外国籍を有し、入学後に日本人学生と同様に授業を受けられる日本語能力のある学生を対象とします。「日本留学試験」もしくは「日本語能力試験」の成績によって基本的な日本語運用能力を評価し、一部英語の問題を含む総合科目試験と面接では、基本的な学力と論理的な思考力、表現力を評価します。
○学校推薦型選抜（指定校制、姉妹校制）　本学が指定した高等学校より、本学を第一志望とし一定の成績条件を満たして高等学校長による推薦のある学生を対象とします。調査書と提出資料・書類、面接などと、高校での基礎学力・人物・勉学意欲・諸活動などを総合して評価します。

２.〈ディプロマ・ポリシー〉―このような卒業生を社会に送り出します―

聖心女子大学は、「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心（みこころ）に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」女性を社会に送り出すことを建学の精神として掲げています。したがって、学業もまた、単なる専門知識や技能を修得することにとどまらず、精神的に豊かな人間的成長を実現し、他者との共生の場を開くためのものであると考えています。このような考え方から、本学の卒業生には、次のような能力と資質を身につけることが求められます。

1．世界と人間についての幅広い視野と深い洞察を備えた教養
2．専攻する学問分野に関する高度な専門知識と基本的な研究・調査能力
3．論理的な思考力と柔軟かつ的確な判断力
4．自己の立場や価値観を見定め、自らの意見を自らの言葉で発信する力
5．他者と共感的に関わり、他者を尊重し、理解し、協働する態度
6．現代の諸問題をグローバルな視野でとらえ、具体的、現実的に取り組む行動力
7．各自の置かれた場で、根本的な問題や隠れたニーズを発見して、対応する力
8．生涯にわたり、知的関心を発展させ、主体的に学び続ける姿勢

これらの能力と資質は、各自が大学の学業と生活の全体を通して、自覚的かつ主体的に追求することで有機的に結びつき、全人的な自己を確立し、生涯にわたり向上していく支えとなるものです。さらにそれによって、物事が急速に変化し、複雑化する現代において、真の価値を追求し、対立や無関心を乗り越えて、他者と共に生きる世界の建設に貢献できるようになるのです。

３．〈カリキュラム・ポリシー〉―このような方針でカリキュラムを編成しています―

上記のディプロマ・ポリシーに基づき、本学はリベラル・アーツの考え方を基盤とするカリキュラムを採用しています。本学が掲げるリベラル・アーツとは、専門知識の準備段階として誰もが身につけるべき一般的な知識・技能（一般教養）にとどまらず、高度な学術的専門知識を探求しつつ、世界や人間に対する根本的な問いを発し、多様な観点を統合して「生きた教養」とする学びを意味します。本学では学士課程の全体を通して、こうした学びを、各自が主体的に追求することのできるカリキュラムを置いています。

Ⅰ　科目種別

科目種別としては、以下の四種類を置き、各自の目的と関心に応じた多様な学びを柔軟に追求することができるようになっています。

(1) 全学必修分野　全学生が共通に身につけるべき基礎知識、観点、能力を身につけるもの
　キリスト教学、第一外国語、第二外国語、ウェルネス・身体活動、AI・データサイエンス
(2) 専攻分野　所属学科・専攻の専門的知識や学術的能力を身につけるもの
　所属学科・専攻の専門科目
(3) 関連分野　専攻分野の研究に関連づけて、また各自の関心に応じて自由に履修するもの
　総合現代教養科目、基礎課程科目、他学科の専門科目
(4) 卒業論文　４年間の学びの集大成として全員が取り組むもの

Ⅱ　課程編制

入学時には学科専攻を定めず、１年次には全員が基礎課程に所属します。１年次の終わりに進学先を決定し、２年次以後の専攻課程では各学科・専攻に所属して学びます。

基礎課程（１年次生）

基礎課程においては、専門的学問の基礎となる知識・技能の習得と同時に、リベラル・アーツ的な学びを追求するために必要な、統合的なものの見方や学び方の基礎を身につけます。同時に、専門分野に対する理解を深めながら、自らの適性と意欲を見極め、所属学科専攻の決定につなげます。

(1) 全学必修分野

＜キリスト教学Ⅰ＞　本学の教育の基盤であるキリスト教の世界観・人間観・価値観を、多面的、多角的な視点から学び、世界と人間に対する深い洞察力と心の豊かさを身につけます。キリスト教学Ⅰにおいては、特にキリスト教への基本的な理解を深めます。

＜第一外国語・第二外国語＞　第一外国語（英語）・第二外国語（フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・コリア語から選択）では、上質かつ多彩な外国語の授業を通して高い語学力を身につけるとともに、言語を通じて異文化に対する理解を深め、国際的な視野や関心を広げます。

＜ウェルネス・身体活動＞　身体的、精神的、社会的によりよい健康状態をつくりだすための基本的な理解と身体活動の実践的理解を深め、生涯にわたる健康の保持増進と豊かな身体活動に取り組むための基礎的な能力を身につけます。

＜AI・データサイエンス＞　Society 5.0時代に必要な「数理・データサイエンス・AI」に関する知識と技術を学び、それを活用する基礎的な能力を獲得します。

(2) 関連分野

＜基礎課程演習＞　専任教員の指導のもと少人数のゼミ形式で、学術研究の基礎的な方法や観点を学び、また主体的な学習姿勢を身につけます。

＜各学科入門科目＞　各学科での学びの全体像や学科教員全員の研究分野を知ることができます。

＜総合現代教養科目＞　地球規模で考え、行動し、交流することが求められる現代において、世界の多様な社会と文化を理解し、時代を見通し、課題を発見し、自身の生き方を考えていくための幅広い知識と教養を獲得するものです。基礎課程段階では、幅広い多様な視点にふれ、リベラル・アーツ的な学びの基礎を身につけることを目指します。

＜専攻科目＞　各学科が開講する１年次生向け科目を通して、専門分野に対する基礎的な理解を深めるだけでなく、１年次生も受講できる専攻科目を通して、専門分野についてより深い理解を先取りすることもできます。

専攻課程（２ ～ ４年次生）

専攻課程においては、所属学科・専攻の専門的な授業科目を中心に、専門的な学術的能力の習得を目指すと同時に、リベラル・アーツ的な学びに必要な能力や視点をさらに深めます。

(1) 全学必修分野

＜キリスト教学Ⅱ＞　主として３年次で学ぶキリスト教学Ⅱでは、キリスト教に対する理解をさらに深めると共に、歴史、文化、社会などにおけるキリスト教の多様な展開を学びます。

＜第一外国語・第二外国語＞　２年次においては、１年次において築いた基礎の上にさらに高い語学力や国際的視野を獲得します。

(2) 専攻分野

＜専攻科目＞　各学科・専攻が開講する専攻分野の授業科目を履修し、演習、講義、実習等を通して専門性を深めます。とくにカリキュラムの中心に据えられる演習は少人数のゼミ形式で行われ、学生が主体となって行う研究や発表を通して、専門領域についての知識や理解を深めるとともに、課題発見能力と課題解決能力を高め、的確な判断力や十分な発信力・説得力を身につけます。演習での議論を通じて、論理的・批判的な思考力が鍛えられ、他者の多様な見解に耳を傾け、学び合う姿勢も育ちます。

(3) 関連分野

＜他学科・専攻の授業科目＞　各学科・専攻が開講する授業科目の多くは、他学科・専攻所属の学生にも開かれており、各自の関心に応じて自由に修得することで、幅広い視野や複眼的な思考力を身につけます。

＜総合現代教養科目＞　専攻課程段階では、自らが専攻する学問分野を相対化する多様な視点や、現代を生きる社会人として必要な知識や視点を獲得することも期待されています。

＊副専攻制度　関連分野履修を体系的に行うことで、主専攻に加えて「もう一つの専攻」を学ぶ制度です。自分の属する学科・専攻で学ぶのとは異なる学問分野や主題のもとで体系的に授業科目を選択履修します。所定の要件を満たした学生には副専攻修了の認定がなされます。

・各学科副専攻
　自分が専攻する以外の学科専攻が定める授業科目の中から、各自の関心に応じて選択履修するものです。専攻する以外の学問分野についての一定の知識を獲得すると同時に、複眼的な学問的視野や多様な学術的方法が身につきます。
・グローバル共生副専攻
　指定科目の中から、定められた履修要件を満たすように選択

履修するものです。人と人が共生する持続可能な社会を目指したグローバル共生を実践するために必要な資質・能力が身につきます。

(4) 卒業論文

4年次には、4年間にわたる学問成果の集大成として、指導教員（メンター）の丁寧な個別的指導のもと、全員が卒業論文を執筆します。各自でテーマを設定し、学問的な研究・調査方法に基づいて探求し、得られた内容を論文としてまとめることによって、思考力、判断力、表現力の大きな伸長が期待されます。

4. 聖心女子大学大学院　教育の3つのポリシー

1. 大学院学生受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

聖心女子大学大学院は、大学の理念に共感するとともに、高度な専門性と学識、研究能力によってグローバル化が進む現代の文化と社会の発展に寄与することを目指し、学術研究への道を志す皆さんに入学していただきたいと願っています。

(1) 修士課程・博士前期課程

修士課程・博士前期課程への入学者の受入れにあたっては、次のようなことを重視します。

まず、大学院入学以前に、専攻する学問分野についての学士課程修了程度の専門知識と研究・調査能力、論理的で柔軟な思考力・判断力、適切に意見を発信する力を獲得し、大学院での学業に主体的に取り組む姿勢を身につけてください。大学院での研究活動を効果的、計画的に進める上では、自身の研究の目的意識と課題を明確にしておくことも大切です。

また、学士課程での学業や社会での活動を通じて、幅広く深い教養や語学力、他者と協働する姿勢、豊かな人間性、高い倫理性を培い、広く人間の生き方やその歴史、多様な社会のあり方に対して深い関心を寄せてください。これらのことは、大学院での学業を現代社会への貢献に結びつける際に重要なことです。

学術研究への道を多様な研究関心と背景を持つ皆さんにも開くため、多くの専攻で外国人特別入試、社会人特別入試および長期履修学生制度を設けています。社会や家庭などにおける活動経験を基に、生涯にわたる様々なステージにおいて学問的探究を志す方を積極的に受け入れます。

(2) 博士後期課程

博士後期課程の入学者の受入れにあたっては、旺盛な探究心と深い洞察力を備えた信頼できる人格であることに加え、2. 学位授与方針（1）に示す修士課程・博士前期課程修了程度以上の十分な学識と研究能力を備えていることが必要とされます。

さらに独自性、発展性のある明確な研究課題があらかじめ設定されており、課題を着実に推進できる明確な研究計画が立てられていることが重視されます。

2. 大学院学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

聖心女子大学大学院の修了生には、「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心（みこころ）に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」という建学の精神を体現する女性として自己の人格を磨くとともに、次のような能力と資質を身につけることが求められます。

(1) 修士課程・博士前期課程

1. 専攻する学問分野を中心とする、広い視野に立つ精深な学識
2. 研究倫理の遵守と、専攻分野に関する適切な研究方法に支えられた高度な研究能力
3. 専攻する分野において自ら課題を見出し、柔軟な思考力と、的確で総合的な判断力によって、課題を解決する能力
4. 独自性のある研究成果を導き出し、それを精確に発信する力
5. 多様な他者を尊重しつつ、能動的に関わり、協働する態度
6. 自らの研究と専門性を基礎に、グローバル化する社会の諸問題を理解し、その解決をつうじて地域および国際社会に貢献する力
7. 生涯にわたり、知的、学問的関心を発展させ、主体的に探究し続ける姿勢

修士の学位は、2年以上在学し、所定の方法により30単位以上修得し、かつ研究指導を受けて修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格することによって授与されます。

(2) 博士後期課程

博士後期課程では、上記（1）1 ～ 7に加えて、次のような能力と資質を身につけることが求められます。

8. 専攻する学問分野を中心とする、該博にして精深な学識
9. 独創性ある研究者として自立した研究を行い得る能力
10. 専攻する学問分野の発展に寄与し、他の研究者と協働できる力
11. 修めた学業に基づき、社会において高度に専門的な業務を遂行し得る能力

博士の学位は、3年以上在学し、所定の方法により10単位以上修得し、かつ研究指導を受けて博士論文を提出し、その審査および最終試験に合格することによって授与されます。

3. 大学院教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

聖心女子大学大学院は、学位授与方針に基づき、次のような方針で教育課程を編成し実施します。

1.「聖心女子大学の理念」および「聖心女子大学大学院学則」に基づき、体系性、順次性を考慮し、標準修業年限以内に確実かつ効果的に目的、目標を達成できるよう教育課程を編成します。
2. 学問分野の研究蓄積を十分に踏まえたうえで、体系的で幅広い学識を培うコースワークと、研究活動の遂行をとおして研究能力を育成するリサーチワークとの順次性とバランスに配慮して教育課程を編成します。

3．授業形態については、講義、演習、実習等の適切性とバランスに配慮して、十分な数の科目を開設し、全体として効果が上がるように教育課程を編成します。少人数制を基本とする授業と研究活動をとおして「聖心女子大学の理念」および研究倫理への理解を深め、思考力、判断力を伸ばし、自発性、創造性を発揮することができるよう、特に配慮します。
4．各専攻の設置目的と特性とを生かし、専攻ごとにその「修了生像」の実現に向けて最新の研究状況を反映させて教育課程を編成します。

（1）修士課程・博士前期課程

修士課程・博士前期課程では、上記 1 ～ 4 に加えて、次のような方針で教育課程を編成し実施します。

5．研究活動の集大成として、 2 年次以降において全員が修士論文を提出します。専攻にふさわしいテーマを自ら設定し、先行研究を適切に踏まえて論文を作成するため、特に、修士論文作成に向けた研究指導、論文作成指導の機会を十分に保証します。
6．広い学識と多角的な視点を身につけるため、他専攻の科目の履修を一定の範囲内で認め、他大学院との単位互換、委託聴講制度を活用することもできます。国際的な視野を養い、研究活動の活性化を図るために、外国の大学院への留学による履修を一定の範囲内で認めます。

（2）博士後期課程

博士後期課程では、上記 1 ～ 4 に加えて、次のような方針で教育課程を編成し実施します。

7．博士論文の作成を博士後期課程の研究活動の中心として重視し、専攻にふさわしく価値の高いテーマを自ら設定し、学界の研究水準を十分に踏まえつつ独創性のある論文を作成するため、特に、論文作成に向けた研究指導、論文作成指導の機会を十分に保証します。
8．授業と研究活動をとおして自発的精神と応用力を養い、研究者としての独創性を発揮し、自立して研究活動を行い得る研究能力を身につけることができるよう、特に配慮します。

5. 聖心女子大学　研究倫理ガイド

学生も研究者の一人です

聖心女子大学における学術的な研究活動は、「聖心女子大学の理念」に基づいて行われ、新たな知の創造と価値の提起をつうじて人類文化の発展と福祉の向上に寄与することを目的としています。

学術的な研究活動を行っているのは、大学教員だけではありません。学部および大学院の学生も、自らの問題意識に基づいて、指導教員の責任の下に高度な学術的・専門的知識の探究を行っています。すなわち、学生の皆さんも学術的な研究活動を行っている研究者の一人なのです。

理解したい３つの研究倫理指針

学術研究に携わる者には、学術研究の目的から常に高い倫理を求められています。

そこで、聖心女子大学では、本学における学術研究の信頼性と公正性を確保し、健全な研究活動が展開されることを目的として、研究活動の倫理に関し大学構成員が遵守すべき基本的な方針を明らかにするために「聖心女子大学研究倫理指針」（以下、「研究倫理指針」と呼ぶ）を定めています。

皆さんも、聖心女子大学における研究者の一人として、この研究倫理指針に従って研究活動を行わなければなりません。研究倫理指針の全文は、『履修要覧』に掲載されていますので、よく読んで理解してください。

ここでは、次にあげる 3 つの指針について取り上げ、順に説明をしていきます。

point 1．公正な研究の確保

・研究活動にあたっては、
「ねつ造」（存在しないデータ、研究結果等の作成）
「改ざん」（データ、研究結果等の加工、変造）
「盗用（剽窃／ひょうせつ）」
（他者の研究アイディア、データや研究成果、著作物等の適切な表示なき流用）
などの不正行為を決して行ってはなりません。

point 2．法令、規則の遵守

・研究活動にあたっては、
関連する法令、規則、ガイドライン等に従わなければなりません。
著作権・版権等を遵守し、他者の知的財産を守らなければなりません。

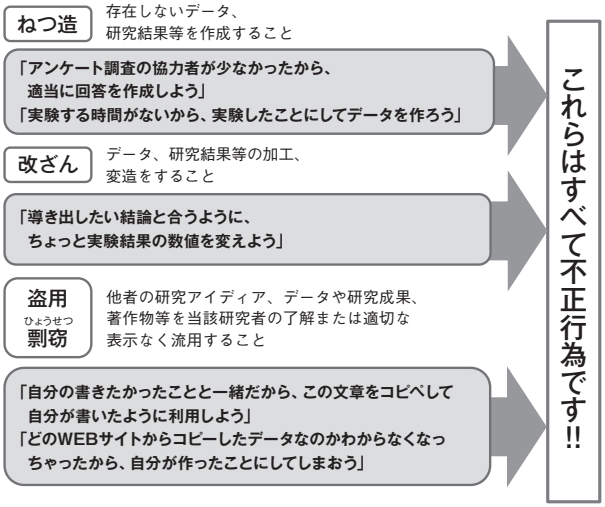
point 3．研究対象者、研究協力者への配慮

・研究者が実験、観察、調査などを行う対象者である個人、団体などに対しては事前に研究の趣旨について説明し、協力の了承を得なければなりません。
・研究の過程と成果の公表に際して研究対象者の個人情報、プライバシー、および尊厳性の保持等に十分配慮し、差別、ハラスメント等の言動があってはなりません。

point 1：公正な研究の確保　～研究活動における不正行為とは～

皆さんは、試験におけるカンニングは不正行為だと理解していると思います。では、研究活動における不正行為とは何でしょうか？

次に掲げる行為は、研究活動においては不正行為となります。研究活動にこれらの不正行為が一つでもあった場合、その価値が失われてしまいますので、正しい研究活動を行ってください。



その他にも、研究成果の重複発表、不適切なオーサーシップ、研究データの不適切な管理等が不正行為としてあげられます。

自分の研究に不正行為がなかったことを証明するためにも、日ごろから研究データや研究資料を適切に保存・管理しておきましょう。

point 2：法令、規則の遵守　～皆さんに読んでほしい本学の規程等～

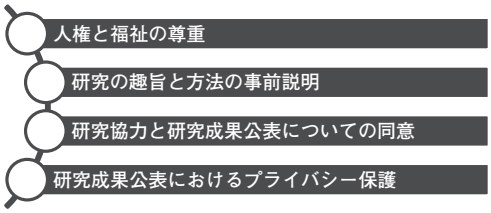
著作権法など国などが定めた法令、規則を守ることはもちろんですが、本学が定めた規則等も本学で研究活動を行う者は守らなければなりません。本学で研究活動を行うにあたっては、次にあげる本学の規程、ガイドライン等を読んで理解につとめてください。わからないことがあったら、指導教員等に質問してみましょう。

USH-Cloud（学生向けページ）「研究倫理」

・研究倫理ガイド（リーフレット）
・対人調査ガイドライン＆チェックリスト（学部学生対象）
・研究倫理審査申請書＆チェックリスト（大学院学生対象）
・関連規程等（参考）

point 3：研究対象者、研究協力者への配慮 ～人を対象とする研究～

「人を対象とする研究」とは、個人または集団を対象として、個人情報、行動、価値観等に関する情報・データを、実験、観察、調査（インタビュー、質問紙調査の類）等により収集・採取して行う研究活動をいいます。学問分野によっては、学生の皆さんも、卒業論文等の執筆のために、アンケート調査を行ったり、インタビュー調査を行ったりすることがあるかもしれません。その場合、例えば下記に関する配慮が求められます。



「人を対象とする研究」を行うにあたっては、上記の他、必要な配慮等について指導教員から十分な説明を受けるようにしてください。

学生への研究倫理教育

本学では、学生に対して研究倫理教育を実施しています。詳細はUSH-Cloud（学生向けページ）「研究倫理」ページを参照してください。

6. 教務課取扱事務等について

1．取扱事務

教務課（３号館２階）では以下の事務を行なっています。

・履修登録
・授業（教室、休講・補講、公欠届）
・試験・試験にかわるレポート提出
・成績評価
・単位認定
・卒業論文・修士論文・博士論文提出
・副専攻、特別プログラム
・資格課程（教職課程、保育士課程、博物館学芸員課程、日本語教員課程、司書・司書教諭課程）
・交流学生、特別聴講学生、科目等履修生、研究生、委託聴講生
・証明書（成績・卒業に関する証明書、資格関係の証明書、留学・進学関係の推薦書）
・授業評価

2．開室時間

教務課の開室時間は以下のとおりです。この他大学行事等により、開室時間が変更になる場合があります。

掲示に注意してください。

※教務課窓口での手続きには、学生証を提示する必要があります。常に携帯するようにしてください。

	学期中	前期授業終了後～後期授業開始前日	冬期休暇期間	後期授業終了後～翌年度前期授業開始前日
月～金曜日	9：00～11：30 12：30～17：30	9：00～11：30 12：30～16：00	閉室	9：00～11：30 12：30～17：00
土曜日	9：00～12：00	閉室	閉室	9：00～12：00

3．教務課への連絡・質問

新型コロナウイルス感染症の拡大防止への対応として、教務課への質問や連絡は、Sophieトップ画面に掲載の教務課の質問・連絡フォームを使用してください。電話での質問は受け付けませんので、ご了承ください。

4．掲示板

大学から学生に対するお知らせは、教学支援システム「Sophie（ソフィー）」の掲示によって行います。あわせて３号館２階でも掲示することがあります。掲示されたものについては各自が確認しているものとして取り扱いますので、毎日の習慣として掲示を確認するようにしてください。

5．ガイダンス

履修登録に関する各種ガイダンス（４月）、資格関係のガイダンス（随時）、学科決定のガイダンス（９月・１月）、卒業論文のガイダンス（11月）等、年間を通して複数のガイダンスがあります。ガイダンスへの出席自体が手続きの一部となるものもありますので、各自掲示で日時を確認し、必要なガイダンスには必ず出席してください。

＜参考＞　2024年度　学年暦　（2024～2025）

※次年度以降は、年度ごとにSophieに掲示される学年暦を参照してください。

学　部

【学部・前期】

入学式	4月6日(土)
資格課程ガイダンス・オリエンテーション	3月28日(木)～4月12日(金)
前期授業開始	4月15日(月)
前期事前登録 ～ 登録確定	4月上旬～ 5月上旬 ●詳細は3月下旬公開の履修登録ガイド＜学部＞を参照のこと
創立記念週間（休日）	4月30日(火)・5月1日(水)～ 5月2日(木)
履修取消	6月 3日(月)～ 6月 5日(水)
履修取消確定	6月12日(水)
授業及び前期試験	7月15日(月)～ 7月27日(土)
前期授業終了	7月31日(水)
夏期休暇	8月 1日(木)～ 9月16日(月)

前期土曜開講科目授業実施 (みなし土曜日)	なし

前期祝日授業実施	5月6日(月)(振替休日)、7月15日(月)(海の日)

前期補講日	5月25日、6月1日、8日、15日、7月6日、13日（いずれも土曜午後）、7月29日（月）～31日（水）

【学部・後期】

後期事前登録～登録確定	9月17日(火)～ 10月中旬 ●詳細は3月下旬公開の履修登録ガイド＜学部＞を参照のこと
後期授業開始	9月27日(金)
聖心祭	10月19日(土)・10月20日(日)
聖心祭準備（終日休講） 聖心祭後片付け（終日休講）	10月18日(金) 10月21日(月)
履修取消	11月13日(水)～ 11月15日(金)
履修取消確定	11月22日(金)
卒業論文提出日	12月13日(金)～ 12月16日(月)
冬期休暇	12月24日(火)～ 1月 5日(日)
授業再開	1月 6日(月)
授業及び後期試験	1月 6日(月)～ 1月20日（月）
後期授業終了	1月27日(月)
春期休暇開始	1月28日(火)
卒業式	3月15日(土)

後期土曜開講科目授業実施 (みなし土曜日)	なし

後期祝日授業実施	10月14日(月)（スポーツの日） 11月 4日(月)（振替休日） 11月23日(土)（勤労感謝の日）

後期補講日	1月21日(火)～25日(土)、27日(月)

大学院

【大学院・前期】

履修ガイダンス	4月 2日(火)
入学式	4月 6日(土)
前期授業開始	4月15日(月)
修士論文テーマ・指導教員届及び 博士論文題目・指導教員届	4月 1日(月)～ 4月19日(金)
前期履修登録～登録確定	4月上旬～5月上旬 ●詳細は3月下旬公開の履修登録ガイド＜大学院＞を参照のこと
創立記念週間（休日）	4月30日(火)・5月 1日(水)～ 5月 2日(木)
授業及び前期試験	7月15日(月)～ 7月27日(土)
前期授業終了	7月31日(水)
夏期休暇	8月 1日(木) ～ 9月16日(月)

前期土曜開講科目授業実施 (みなし土曜日)	なし

前期祝日授業実施	5月6日(月)(振替休日)、7月15日(月)(海の日)

前期補講日	5月25日、6月1日、8日、15日、7月6日、13日（いずれも土曜午後）、7月29日(月)～7月31日(水)

【大学院・後期】

後期履修登録～登録確定	9月17日(火)～ 10月中旬 ●詳細は3月下旬公開の履修登録ガイド＜大学院＞を参照のこと
後期授業開始	9月27日(金)
聖心祭	10月19日(土)・10月20日（日）
聖心祭準備（終日休講） 聖心祭後片付け（終日休講）	10月18日(金) 10月21日(月)
博士論文提出期限	10月31日(木)
冬期休暇	12月24日(火) ～ 1月 5日(日)
授業再開	1月 6日(月)
授業及び後期試験	1月 6日(月) ～ 1月20日(月)
修士論文提出日	1月17日(金)・1月20日(月)
後期授業終了	1月27日(月)
春期休暇開始	1月28日(火)
学位記授与式	3月15日(土)

後期土曜開講科目授業実施 (みなし土曜日)	なし

後期祝日授業実施	10月14日(月)（スポーツの日） 11月 4日(月)（振替休日） 11月23日(土)（勤労感謝の日）

後期補講日	1月21日(火)～25日(土)、27日(月)

※補講が必要な場合は原則としてオンデマンドとする。
　ただし対面での補講は原則として補講日に実施することとする。

学部　履修全般

1．履修の基本

1-1．大学での履修

1．カリキュラムとは

大学の授業科目、単位数、履修年次を体系的に編成したものを「カリキュラム（教育課程）」といいます。所属する学科・専攻・コースのカリキュラムに沿って学習を進め、最終的に、定められたカリキュラムの授業内容を修得することが、大学での学習の目的です。

カリキュラムは入学年度ごとに定められており、原則として卒業まで変更はありません。『履修要覧』は入学年度に配付されたものを卒業時まで使用することになるので、大切に扱ってください。

2．履修とは

各学科・専攻・コースのカリキュラムにそって配置された授業科目の受講を大学に申請し（履修登録）、授業を受け、成績評価を受け単位を修得する一連の流れを「履修」といいます。

大学では、カリキュラムで定められた範囲で履修する科目を自分の学問的関心や将来の進路、勉学の目的等に合わせて選択し、独自の時間割を作ることができます。カリキュラム等については『履修要覧』を熟読し、授業内容については、Sophieのシラバス参照でよく確認して、履修計画を立てるようにしてください。

自分自身が立てた履修計画を進めるにあたって、卒業するまでの一切の過程は自己責任で行うことになります。各自の責任において、履修登録確認時に正しく履修登録できているかを確認し、Sophieの単位修得状況照会画面で学修の達成状況を確認するようにしなければなりません。必要な手続きを怠った場合、授業の受講や単位修得、卒業が不可能となる場合もあります。この『履修要覧』を熟読し、自分自身で学修計画を立て、掲示を毎日確認し、必要な手続きは自己責任において行うようにしてください。

履修計画を立てるうえで不明な点、不安な点がある場合は、そのまま放置せず事前に教務課に質問・相談し、問題を解決するように心がけてください。

3．単位とは

単位は、学修量を表すものです。授業科目を履修し、定められた達成目標に到達していると担当教員が判断し、以下に定める単位修得要件を満たしている場合、所定の単位が与えられます。

大学設置基準により、1単位の標準=“45時間の学修が必要な内容”と規定されています。大学設置基準の“1時間”は授業時間45分に置き換えて表し、本学での1時限の授業は100分で行われており、単位計算上、1時限は2時間分以上の授業となります。

単位数は、授業科目ごとに定められており、授業形態によって算定方法が異なります。本学では授業科目の性質によって次のように単位修得上1単位の時間数を定めています（学則第25条）。

①講義および演習科目……15時間～30時間の授業
②実験、実習および実技……30時間～45時間の授業
③講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う授業科目……①②で示した組み合わせに応じた時間の授業
④外国語科目……30時間の授業

また、単位を修得するためには授業時間数の2倍の授業時間外の学習（準備学習・復習等）が前提となりますので、それも考慮しながら学修計画をたて、無理のない履修を心がけてください。

4．単位の修得要件

各授業科目の単位を修得するためには、次の要件を満たさなければなりません。

①授業科目の履修登録がなされていること
②授業回数の3分の2以上出席していること
③授業担当者から合格の評価（AA・A・B・Cのいずれか）が与えられること
④授業料等納付金を所定の期日までに納入していること
（事情がある場合は、所定の期日までに学生生活課に申し出ること）
⑤所定の健康診断を原則として受診していること

5．本学以外で修得した単位の認定

本学へ入学・編入学・再入学をする前に大学等において修得した単位について、本学の卒業所要単位として認定することがあります。申請方法等については、該当の入学者に通知します。

また、留学制度や交流学生制度等で他の大学等において修得した単位等について、本学の卒業所要単位として認定することがあります。詳細は、それぞれ該当する制度のページを参照してください。

6．GPA（Grade Point Average）とは

GPAとは、成績評価（AA・A・B・C・F）をポイント（GP：Grade Point）に置き換えて、科目の単位数をかけ、その総和（GPT：Grade Point Total）を履修登録単位数の合計で割った平均値のことです。

GPAは、学生自身が学習成果を把握することによって、主体的に学修を進めていくために利用されます。

⇒「GPA制度」p.25参照

7．履修計画作成上の注意

履修計画を立てる際には次を参照してください。

・『履修要覧』（本冊子）：カリキュラムの確認
※カリキュラムマップを参考にしてください
・「開講科目一覧」（Sophie掲載）：履修条件等の確認
・「シラバス」（Sophie掲載）：授業科目の詳細の確認
・「履修登録ガイド」：履修登録手続きの確認

その他、下記の手引き等も参考にしてください。

・「教職課程・保育士養成課程の手引き」
・「副専攻の手引き」
・「長期留学の手引き」：国際センター発行

本学では2年次進級時と4年次進級時にそれぞれ進級に必要な修得単位数の要件があるので留意してください。

⇒「学年ごとの進級要件」p.15参照

なお、無理のない学修計画を立てるよう、大学設置基準第27条の2に基づき、各年次の年間登録単位数の上限を定めています。

⇒「登録単位数の上限」p.18参照

1-2．本学のカリキュラム

本学のカリキュラムは、1年次生が所属する基礎課程と2年次からの専攻課程によって編成されています。基礎課程を修了して専攻課程に進むためには2年次への進級要件を、大学を卒業するためには卒業要件を満たす必要があります。履修科目を決める際

には、その年度だけでなく４年間を通じた履修計画を立て、進級要件、卒業要件を満たすように履修科目を選択する必要があります。

１．基礎課程

１年次生は基礎課程に所属します。この課程は、大学での基礎的な学問や幅広い視点に触れることを通して、各自の興味を広げつつ、学修の方針を決定するための課程です。基礎課程では「１年英語」「第二外国語」「ウェルネス・身体活動」「AI・データサイエンス」「基礎課程演習」を全員が履修し、その他「キリスト教学Ⅰ」の科目、１年次生向けに開講されている各学科の入門的な科目、総合現代教養科目の中から選択して履修します。

⇒「基礎課程」pp.48-51参照

２年次からの学科決定の日程については、Sophieに掲載される「教務関係事務日程」で確認してください。

２．専攻課程

所属学科が決定し進級要件を満たすと、２年次より専攻課程に所属することになります。本学の専攻課程は下表のとおりです。各専攻課程のカリキュラムは、『履修要覧』のカリキュラムのページを参照して下さい。分野系列ごとに、卒業所要単位が定められています。卒業所要単位を満たすように履修計画をたて、授業科目を履修登録して学修します。

＜本学における専攻課程＞

英語文化コミュニケーション学科			⇒p.52
日本語日本文学科			⇒p.56
史学科		日本史コース	⇒p.60
		世界史コース	⇒p.64
人間関係学科			⇒p.68
国際交流学科		グローバル社会コース	⇒p.72
		異文化コミュニケーションコース	⇒p.76
哲学科			⇒p.80
教育学科	教育学専攻		⇒p.84
	初等教育学専攻	初等教育コース	⇒p.88
		幼児教育コース	⇒p.93
心理学科			⇒p.100

３．学年ごとの進級要件

進級には、各年次前期・後期の１年を在学していなければなりません（在学期間の要件）。

２年次進級および４年次進級については、在学期間の要件に加えて、下記に示した修得単位数の要件を満たしていなければなりません。

＜２年次進級、４年次進級の修得単位数要件＞

２年次への進級要件	１年次終了時20単位（卒業要件外単位を含む）修得していること
４年次への進級要件	３年次終了時86単位（卒業要件外単位を含まず）修得していること
	【特例措置】上記要件を満たしていない場合でも、3年次終了時に76単位（卒業要件外単位を含まず）以上修得しており、かつ、3年次終了時の累積GPAが2.50以上の場合は、特別に4年次進級を認める

２年次へ進級できなかった場合は、学科専攻に所属することはできず、基礎課程に留まることになります。また、４年次へ進級できなかった場合は、卒業論文の提出資格が得られず、卒業することができません。

なお、進級できなかった場合は、その旨を本人及び保証人に通知します。

４．卒業要件と在学年限

本学を卒業するためには、次の条件を満たすことが必要です。卒業要件を満たした者については、教授会の議を経て卒業が決定し、学士の学位が授与されます。

①４年間在学すること（学則第14条）
②履修要項に定められた卒業所要単位を修得すること
③最終年次に卒業論文を提出し、その審査に合格すること

卒業所要単位を４年間で修得できない場合は留年となり、在学期間を延長することになります。ただし、通算して８年を超えて在学することはできません（学則第15条）。

５．副専攻

副専攻制度は、主専攻（２年次以降に所属する学科）に加えて、もう一つの専攻を副専攻として体系的に学ぶことができるシステムです。副専攻には、各学科が設置する副専攻と、学科横断的に開設する副専攻の二種類があります。

本学の教育システムは、基礎課程の１年間で多様に学ぶ機会を経験し、３年間の専攻課程で研究テーマを選び、深く追求するとともに広い視野で学修していくことをめざしています。今日の複雑な社会には解決すべき多くの問題点とともに、自身を成長させ輝かすことのできる多くのチャンスが潜んでいます。これらを敏感に察知し、適切に対応するためには、社会の動きを的確に理解するための深い教養と自身の関心領域を拡げるための多様で柔軟な価値観が必要です。そこで、主専攻に加えてもうひとつの専攻を体系的に学修することで、現代社会が求めている複眼的な視野と多面的な能力を養う機会となることが期待されています。

履修中の副専攻は、成績通知書および和文の成績証明書に記載されます。副専攻を修了した場合、卒業時に副専攻修了証が授与され、卒業後は和文の成績証明書に修了した副専攻が記載されます。

＊副専攻は卒業要件ではなく、希望者が履修する制度です。他学科開講科目を自由に選択して学修していくことができます。

⇒「副専攻」p.106参照

６．グローバルリーダーシップ・プログラム

グローバル化の時代に世界が直面する、難民問題や気候変動をはじめとした地球規模の課題に対応できるリーダーシップの資質や能力、スキルの習得を目指すものです。グローバルリーダーシップ・プログラムは、２年間の特別プログラムであり、基本的に英語で実施されます。

また、本プログラムを修了した場合、卒業時にディプロマ（修了証）が授与されます。

⇒「グローバルリーダーシップ・プログラム」pp.107-109参照

７．資格課程

本学には次の資格課程があります。

・教職課程
・博物館学芸員課程
・日本語教員課程

⇒「資格課程」pp.112-135参照

また、学科・専攻に設置されたカリキュラムによって取得可能な資格があります（所属学科生のみ取得可能）。

・人間関係学科：社会調査士
・心理学科　　：認定心理士、公認心理師の受験資格
・教育学科初等教育学専攻幼児教育コース：保育士

詳細は、それぞれ学科・専攻のカリキュラムを参照してください。

その他、司書教務課程、司書課程、学校司書課程については、清泉女子大学と本学との協定により、清泉女子大学で科目等履修生の身分で履修することが可能です。

1-3. 授業科目について

1. 授業科目の種類

本学の授業科目は、大きく分けて次の４つで構成されています（学則第23条）。

①全学必修科目
②総合現代教養科目
③基礎課程科目
④専攻課程科目（専攻科目と呼ぶこともある）

これらの科目の履修方法を説明するにあたって、以下のように分類することがあります。

（1）履修方法による分類

①必修科目
必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
②選択必修科目
指定された科目群から定められた単位数分以上を選択して修得しなければならない科目
③選択科目
自由に選択履修し、必要単位数を修得する科目
④卒業要件外科目
卒業所要単位に算入されない科目

※上記科目のうち、履修年次が指定されている科目を次のように呼んでいます。
・年次指定科目
指定された年次に必ず履修する必要のある必修科目あるいは選択必修科目
・必履修科目
指定された年次に必ず履修する必要がある選択科目

（2）授業実施時期による分類

①通年科目：前期、後期の１年を通じて授業が行われる科目
②前期科目：前期に授業が行われる科目
③後期科目：後期に授業が行われる科目
※上記の中には、一定の時期に集中して授業を行う「集中講義」として開講される科目もあります。
※通年科目は、継続履修が認められた場合に限り、前期と後期を異なる年度に分けて履修することが可能です。

⇒「継続履修」p.29参照

（3）履修目的による分類

①全学必修分野
・全学生が共通に身につけるべき基礎知識、観点、能力を身につけるもの
・「全学必修科目」を配置
②専攻分野
・所属学科・専攻の専門的知識や学術的能力を身につけるもの
・主に所属学科専攻開講の「専攻課程科目」を配置
③関連分野
・専攻分野の研究に関連づけて、また各自の関心に応じて自由に履修するもの
・「総合現代教養科目」「基礎課程科目」および主に他学科専攻開講の「専攻課程科目」を配置
④卒業論文
⑤資格関係分野
・「卒業要件外科目」で、資格取得のために履修するもの

※①～⑤を「分野系列」と呼んでいます。なお、①および②については、分野系列はさらに細かく分類されています。詳細は、各カリキュラムのページを参照してください。

2. ナンバリングコードについて

本学で提供するすべての科目には、学修の段階や履修順序等の教育課程の体系性を示すための７桁のナンバリングコードが以下のルールによって付与されて付与されており、シラバスに記載されています。

1桁目	2桁目	3桁目	4 ～ 7桁目
レベル	授業形態	使用言語	科目コード
1～7	0～3	0～3	4・5桁目：アルファベット 6・7桁目：数字

＜レベル：1桁目＞

番号	レベル	対象
1	基礎レベルの科目	学部
2	基礎から専門への導入レベルの科目 専門の科目（初級レベル）	
3	専門の科目（中級レベル）	
4	専門の科目（上級レベル）	
5	博士前期（修士）課程1年次レベルの科目	大学院
6	博士前期（修士）課程2年次レベルの科目 修士論文指導	
7	博士後期課程レベルの専門科目 博士論文指導	

＜授業形態：2桁目＞

番号	授業形態
0	講義
1	演習
2	実習
3	その他（講義・演習など）

＜使用言語：3桁目＞

番号	使用言語
0	日本語で行う授業
1	英語で行う授業
2	英語以外の外国語で行う授業
3	その他（バイリンガル授業など）

<科目コード：4 ～ 7桁目＞
※4・5桁目のアルファベット部分が大まかな科目所属を示している。

⇒「科目コード分類表」p.31参照

3. ディプロマポリシーナンバー・カリキュラムマップ番号

全学共通科目と専攻課程科目には、それぞれディプロマ・ポリシーナンバーとカリキュラムマップ番号が付与されており、シラバスに記載されています。履修計画を立てる際に活用してください。
・ディプロマポリシー・ナンバーは、履修要覧に掲載されている「ディプロマ・ポリシー」の項目番号に対応しています。
・カリキュラムマップ番号は、履修要覧に掲載されている「カリキュラムマップ」の項目番号に対応しています。

1-4. オフィスアワーについて

1. オフィスアワーとは

本学では、教員が主として学習状況についての相談に応じる「オフィスアワー」の時間を設定しています。授業内容に関する質問や、単位修得について、学習の進め方、履修登録の相談など、

学習全般に関する相談をすることができます。広く学生に対して開かれた時間ですので、有効に活用してください。

一方で、本学教員は、学生の質問や相談に対して、可能な限りいつでも対応するよう努めています。「オフィスアワー」の時間以外でも教員への相談は可能ですので、不明な点は各学科研究室に問い合わせてください。

2．オフィスアワーの活用方法

オフィスアワーを活用する際は、Sophieに掲載されている「専任教員オフィスアワー一覧」の時間帯を各自で確認し、教員の個人研究室を訪問してください。ただし、急用などにより教員がいない場合もありますので、各学科研究室を通じて事前に連絡をとることをお勧めします。

非常勤講師（「専任教員オフィスアワー一覧」に掲載されていない教員）については、授業開始前・終了後の時間に教室や各研究室にて質問・相談に応じます。

1-5．編入学に係る特記事項

1．在学年限

学則第15条および21条の定めるところによります。

2．単位認定

本学に編入学した場合、編入学前に短期大学・大学等で修得した単位の一部について、所定の審査後、教授会の議を経て、本学の卒業所要単位として認定されます。認定された科目の分野系列は単位認定時に決定し、変更することはできません。

ただし、編入学後に第二外国語を変更する場合、認定された科目の分野系列は「関連分野」になります。

3．カリキュラム

編入学生のカリキュラムは、編入学年度の前年度のカリキュラムとなります。編入学時に認定された既修得単位数と本学に編入後に修得した単位数の合計をもって卒業所要単位を満たすようにしてください。

1-6．転科・転専攻・転コース

1．転科について

定員に空きがある場合に限り次年度４月より転科が認められる場合があります。転科願の締切りは12月上旬です（詳細はSophie掲示を確認）。期限に間に合うように所属学科の教員に相談の上準備を進めてください。教授会で転科が了承された場合、４月より２年次に在籍します。

転科前の副専攻の登録は無効となります。なお、休学中の転科の願出は認められません。

2．転専攻・転コースについて

次年度４月より、所属学科内での転専攻・転コースが認められる場合があります（転専攻は、定員に空きがある場合に限る）。転専攻・転コース願の締切りは12月上旬です（詳細はSophie掲示を確認）。期限に間に合うように所属学科の教員に相談の上準備を進めてください。

・教授会で転専攻・転コースが了承された場合の４月からの在籍年次については、次表を参照してください。
・休学中の転コース願出は認められません。

学科	所属専攻・コース	希望専攻・コース	4月からの在籍年次
史学	日本史コース	世界史コース	3年次
	世界史コース	日本史コース	2年次
国際交流	グローバル社会コース	異文化コミュニケーションコース	2年次
	異文化コミュニケーションコース	グローバル社会コース	2年次
教育	初等教育学専攻	教育学専攻	3年次
	教育学専攻 または 初等教育コース	幼児教育コース ※保育士養成課程を履修する	2年次
		幼児教育コース ※保育士養成課程は履修しない	3年次
	教育学専攻 または 幼児教育コース	初等教育コース	3年次

※教育学科生の転専攻願または転コース願に関しては、併願申請が可能となります（基本的には単願申請）。

3．手続きの流れ

現所属学科代表委員・指導教員に相談
↓
転科の場合は、転科を希望する学科の学科代表委員に相談
↓
教務課にて該当の願出用紙（様式）を受領し、提出期限までに教務課へ「転科願」を提出
↓
教授会にて審査
↓
可否を通知　2月末日を予定

2. 履修登録

2-1. 履修登録について

1. 履修登録とは

履修登録とは、定められた時期にその年度・期に履修しようとする科目を、本人の責任において、登録する手続きのことです。履修する全ての科目をSophieにて登録します。登録されていない科目は履修することができないので、登録事項に間違いのないよう注意して登録を行ってください。

2. 履修登録準備

年度・期の初めにSophie上で、単位の修得状況を確認します。『履修要覧』により今年度の履修計画を立て、シラバスで授業内容を参考にしながら履修科目を選び、履修登録を行います。なお、冊子類の内容には変更が生じることがあるので、必ず毎日Sophieの掲示を確認してください。

3. 履修登録の時期

	1 ～ 3年次生	4 年次生
前期履修登録	前期科目・後期科目	前期科目・後期科目
後期履修登録	後期科目	なし※

※4年次生の後期履修登録
前期の単位修得状況により、卒業、副専攻修了、資格取得のために後期科目をさらに履修登録する必要が生じた場合は、本人の責任において後期履修登録が可能です。

2-2. 履修登録のルールと諸注意

1. 登録単位数の上限

無理のない学修計画を立てるよう、大学設置基準第27条の２に基づき、各年次の年間登録単位数の上限を次表のとおり定めています。

年間登録単位数とは、その年度に履修登録（含 自動登録）したすべての単位（卒業要件外科目、修得できなかった科目の単位も含む）の合計です。

なお、次の単位については年間登録単位数の上限に含みません。

①短期留学等で認定された単位
ただし、国際交流学科異文化コミュニケーションコース生が、短期留学を「海外異文化研究１」または「海外異文化研究２」として履修登録した場合は、年間登録単位数の上限に含める。

②履修取り消しが認められた科目の単位

＜学年ごとの登録単位数の上限＞

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
20	20	22	22	22	22	20	20
	1年前期のGPA 2.75以上 ↓ 2単位超過可能	1年後期のGPA 2.75以上 ↓ 2単位超過可能	2年前期のGPA 2.75以上 ↓ 2単位超過可能	2年後期のGPA 2.75以上 ↓ 2単位超過可能	3年前期のGPA 2.75以上 ↓ 2単位超過可能	3年後期のGPA 2.75以上 ↓ 2単位超過可能	4年前期のGPA 2.75以上 ↓ 2単位超過可能

※1 通年科目については、前期・後期それぞれの履修登録上限単位数にその科目の単位数の2分の1を算入する

※2　集中講義の成績発表に伴い、GPAが変わった場合は、履修登録期間中に登録単位数上限が変更となることがあります。
詳細はSophie掲示板でお知らせいたします。

【特例措置】

①教職課程履修者は、GPAによる登録上限の緩和とは別に、最大半期６単位の年間登録単位超過が許可されます。

②３年次終了時の修得単位（卒業要件外単位を含まず）が86単位未満だが特例措置で４年次進級が認められた者は、学科が許可した場合に限り、４年次登録単位の上限40単位を超えて卒業所要単位数を満たす単位までの履修が許可されます。

2. クラス

１つの科目について複数の「クラス」が設けられている場合があります。カリキュラム上、１つの科目を複数のクラスに分けて授業を行うので、この場合、履修できるクラスは１つに限られます。

3. クラス指定科目

以下の科目は授業開始前にクラス分けが行われます。指定されたクラスを履修登録してください。クラスの変更は原則受け付けません。

①クラスが指定される科目
「第一外国語」、「第二外国語」の各授業科目

②希望クラスの調査後にクラス指定される科目
「ウェルネス・身体活動（実技）」の各授業科目、「基礎課程演習」、教職に関わる科目等、その他の科目でクラス指定がある場合、シラバス等にその旨を記載します。

4. 自動登録科目

自動登録科目とは、履修登録期間前までにあらかじめ履修登録されている科目です。自動登録科目が正しく登録されているか、必ず確認してください。登録内容に不明な点がある場合は、速やかに教務課に申し出てください。

なお、自動登録の対象者が限定されている場合があります。自動登録の対象者以外が履修する場合は、履修登録期間に各自で履修登録する必要があります。

自動登録科目は、履修登録ガイドを参照してください。

5. 人数制限科目

人数制限科目とは、授業内容等により授業開始前に選抜等を行い、受講人数を制限する科目です。あらかじめ人数を制限する科目については、シラバスに記載されているので、Sophieの事前登録画面または研究室指定の手続きを経て申請してください。後期科目であっても前期の事前登録期間に人数制限のための選抜等が行われることがあります。また、人数制限の欄に記載がない場合でも、教室等の利用施設の定員数を超えた場合に選抜等が行われることがあります。

履修を希望する科目については、後期科目を含め、前期の事前登録期間前に、選抜等が行われるかどうかをシラバスおよびSophieで確認するようにしてください。

人数制限は、「削除不可科目抽選」「研究室抽選」のいずれかの方法で行われます。抽選方法によって、応募方法、申請期間等が異なりますので、下表をよく確認してください。

<抽選方法>

	削除不可科目抽選	研究室抽選
応募方法	Sophie事前登録にて申込	研究室指定の方法による（Google Form等）~~Sophieの履修登録掲示板参照~~開講科目一覧参照
申請期間	削除不可(Sophie)抽選受付期間	研究室抽選受付期間
結果発表	Sophieの事前登録照会	Sophieの履修登録掲示板
履修登録	自動登録（当選者のみ）	自動登録（当選者のみ）
登録削除	不可	不可
履修取消	不可	取消対象外科目（⇒ p.19）でなければ可

6．履修年次

「開講科目一覧」や「シラバス」には「対象学年」として、履修できる年次を示しています。科目の難易度や学修の習熟度に応じて決められていますので、これに従い履修登録するようにしてください。

「年次指定科目」「必履修科目」は必ず指定された年次に履修してください。科目によっては指定された年次においてのみ履修できる科目もありますので注意してください。

推奨される履修年次が、「標準履修年次」として記載されている場合があります。また、カリキュラムマップや科目リストに示された科目のレベル（科目の難易度）を参考にしてください。

7．再履修

原則として、すでに修得済みの科目を履修することはできません。ただし、「開講科目一覧」に再履修できる科目として掲載されている科目に限り履修が認められ、修得した単位は卒業所要単位に含めることができます。

8．時間割重複

同一時間に複数科目を重複して履修することはできません。また、集中講義の日程が重複して行われる場合(含、一部日程重複)、登録することはできません。

9．開講取止め

履修登録確定時点で、以下の科目は開講取止めとなります（履修取消期間に履修登録者が減少した場合、履修登録者がいる限りは継続して授業を行います)。

①学部生の履修登録者が 0 名となった学部開講科目

②学部生の履修登録者が 5 名未満となった、非常勤講師による学部開講科目

※ただし、次に該当する科目は開講する

・必修、選択必修、副専攻、グローバルリーダーシップ・プログラム、教職課程、博物館学芸員課程、日本語教員課程、保育士養成課程として履修登録者がいる場合

・公認心理師受験資格選抜試験に合格した者を対象としている場合

・同時限開講科目が成立する場合

③大学院学生の履修登録者が 0 名の大学院開講科目

※学部生履修可で学部生の履修登録者がいる場合でも開講取止めになります。

2-3. 履修取消

1．履修取消とは

履修取消制度とは、授業を受けてみた結果授業内容が勉強したい内容と異なっていた、あるいは授業についていくだけの知識が不足していた等、そのままでは単位を修得することが難しいと判断した場合、履修登録した科目の取り消しを申請することができます。ただし、4 年次生のみ取り消しの申請は前期までとし、後期（11月）の取り消しはできません。

2．取消不可の科目

以下のいずれかに該当する科目は、取り消すことができません。

①必修科目（全学必修分野、所属学科の専攻課程分野）

②以下の全学必修分野の選択必修科目のうち卒業所要単位が未修得のもの

キリスト教学Ⅰ、キリスト教学Ⅱ、第二外国語

③以下の実習科目

教育実習、保育実習Ⅰ・Ⅱ、博物館実習、

日本語教育実習、心理実習１・２

④履修取消の申請期間より前に成績が確定する科目（一部の集中講義、通年科目で前期の中間評価がF（OC）となった科目など）

⑤削除不可科目（Sophie）抽選により履修が確定した人数制限科目（ただしキリスト教学Ⅰ・Ⅱは卒業所要単位を修得済であれば取消す）

⑥卒業論文

3．申請方法

申請方法は、Sophieに掲示します。

・申請期間（日程詳細は掲示参照）

前期：６月上旬

前期、後期、通年科目の取り消しを申請する

後期：11月上旬（４年次生は取り消し不可）

後期および通年科目の取り消しを申請する

※期間外の取り消し

・履修取消申請期間と学外実習（教育実習など）期間がすべて重なる場合のみ、学外実習１週間前から申請手続きを受け付ける。

・集中講義期間中に、「学校保健安全法」により定められた感染症罹患による出席停止になった場合、教務課への申請により、登録している集中講義科目の履修を取り消すことができる。集中講義最終日から~~22~~2週間以内に教務課に申請すること。

4．履修取消の確認

履修取消確定後にSophieにログインし、履修登録照会画面上で取り消し内容を確認してください。申請要件を満たしている科目のみ取り消しが認められます。なお、申請期間後の申請内容の変更、および、追加は認められません。

5．注意事項

①取り消した科目は成績通知書および成績証明書には記載されません。

②取り消した科目の単位は登録単位数から減ずることができます。

⇒「登録単位数の上限」p.18参照

③特別な申し出がない限り、退学時点、休学・留学開始時点で履修中の科目がある場合は、履修取消となります。

2-4. 履修登録のながれ

履修登録の大まかなながれを示します。履修登録の詳細については「履修登録ガイド」を確認してください。

成績を確認

Sophie［成績］メニューから成績を確認

【前期前】後期分の成績発表　2月上旬	【後期前】前期分の成績発表　9月上旬

履修計画を考える

前期に1年間の履修登録をおこないます（一部後期の履修登録期間にも修正できます）。

- 履修要覧 ……学びに関するルール、学科専攻カリキュラム、科目リスト等を確認。
- 履修登録ガイド ……履修登録に関するスケジュールや詳細情報を確認。
- シラバス ……科目の概要を確認（3月下旬公開）。
- 開講科目一覧 ……科目の履修条件を確認（3月下旬公開）
- 各種ガイダンス ……学科専攻や資格・教職課程等における説明を確認。

履修登録

自動登録

手続不要で、自動で登録されます。（「自動登録科目」p.18参照）

削除不可科目抽選

「削除不可抽選科目」をSophie事前登録画面より各自で申し込んでください。
抽選後、結果はSophieの事前登録照会で確認できます。
当選科目は自動時に履修登録され、Sophie履修登録画面に表示されます。

↓

研究室抽選

「研究室抽選科目」を各学科が指定した登録方法（開講科目一覧に掲載）に沿って各自で申し込んでください。
当選科目は自動的に履修登録され、Sophie履修登録画面に表示されます。

↓

科目コード登録

抽選科目以外の科目をSophie履修登録画面から各自で申し込みます。
教室収容定員を超える履修者数となった場合のみ、登録期間終了後に履修調整を行います。
履修調整対象者はSophieを通じてお知らせします。

授業開始

オンライン授業のURLや初回授業について先生方からお知らせがある場合は、授業の開始前にSophie掲示「授業掲示板」から連絡があるので、必ず授業前に確認してください。

登録確認

Sophie履修登録画面で、計画通り授業が履修できているか確認してください。
一部の科目（科目コード登録科目のうち履修調整が行われなかった科目）はこの期間内に登録内容を変更することができます。

登録確定

履修登録内容が正式に確定となりますので、履修登録状況を確認してください。

履修取消

一部の科目はこの期間内に履修登録の取り消しを申請することができます。（「履修取消」p.19参照）

前期 6月上旬 （前期、後期、通年科目）	後期 11月上旬 （後期、通年科目）

3. 授業

3-1. 授業期間・授業時間

1. 授業期間

半期科目は14週、通年科目は28週が通常の授業期間となります。初回授業では授業に関するオリエンテーションが行われますので必ず出席してください。

2. 授業時間

授業時間は、以下のとおりです。土曜日は、集中講義等を除き２時限まで授業が行われます。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9：00～10：40	10：50～12：30	13：30～15：10	15：20～17：00	17：10～18：50

3. 祝日授業実施

授業日数を確保するため、特定の祝日にも授業を行うことがあります。当該年度の祝日授業実施日程については、学年暦で確認してください。

4. 土曜開講科目授業実施（みなし土曜日）

土曜日の授業日数を確保するために設けられた日程で、特定の土曜日に２回分の授業を行います。通常の授業時間とは異なりますので、実施日１週間前頃に掲示される内容を必ず確認してください。なお、当該年度の土曜開講科目授業実施（みなし土曜日）日程については、学年暦で確認してください。

【参考】過年度に実施されたみなし土曜日の時間割
■通常［土１］開講科目 ⇒１限・２限に授業実施
■通常［土２］開講科目 ⇒３限・４限に授業実施

5. 集中講義

授業科目によっては、一定の時期に集中して授業を行う「集中講義」として開講される科目があります。各集中講義の日程は、Sophieの掲示で確認してください。

※授業形式が対面、対面（一部オンライン）、オンライン（リアルタイム型）で実施される集中講義科目において、曜時が他の授業科目と重なっている場合や、集中講義科目同士の日程が一部でも重複している場合、出席できる授業はいずれか一科目のみです。日時の重複等により出席できなかった集中講義は欠席扱いとなりますのでご注意ください。

3-2. 出欠席・公欠

1. 出欠席

①出欠席の確認は授業開始日より行なわれ、その方法は授業担当者が決定し学生に伝えます。

「遅刻または早退３回で１回欠席」といったルールは、Sophie［授業担当者からのお知らせ］に掲示、またはシラバス［その他、履修上の注意事項や特記事項］に示します。

②授業担当者が入力した出欠席情報が、Sophieにより学生にも開示されます。ただし、出欠席情報の更新頻度は、授業担当者・授業の履修人数等により異なりますので、ご承知おきください。

③交通機関による遅延、病気などによってやむを得ず欠席する（した）場合は、各自で授業担当者に事情を説明してください。教務課で欠席の連絡を取りつぐことはできません。

④大学を長期（２週間以上）にわたって欠席する（した）場合、および忌引きの場合は学生生活課に連絡してください。なお、単位を修得するためには、授業回数の３分の２以上出席していることが必要です。

⇒『学生生活』参照、「単位の修得要件」p.14参照

⑤他の授業科目との日時の重複等により出席できなかった集中講義は欠席扱いとなります。

2. 公欠

「公欠」とは、（1）に掲げるものについて、教務課へ公欠届を提出することにより、所定期間内の履修科目の欠席を認めることを意味します。公欠届が提出された場合の欠席は、授業出席回数に算入されます。

公欠届の申請方法、様式はSophieのダウンロードセンターに掲載されています。忌引公欠の場合を除き、必ず事前に公欠の手続きを教務課で行ってください。

（1）公欠の対象となるもの

①教育実習、介護等体験、日本語教育実習、博物館実習(学外)、心理実習（学外）等
②「災害救援ボランティア講座」に大学から派遣される場合
③忌引公欠
④その他特別な事情（災害等）により、大学が認めたもの

※就職活動による授業欠席については「公欠」の扱いは認められません。
※①～④に関して、保育士養成課程における授業欠席については「公欠」の扱いは認められません。

（2）忌引公欠の手続き

公欠期間の最終日の翌日から起算して５日以内（土・日・休校日を除く）に、忌引公欠届（保証人の署名・捺印を要する指定用紙。Sophieに掲載）およびこれを証明する書類（会葬御礼・死亡診断書の写し等）を提出してください。

▼最長公欠認定日数

・配偶者の場合
　死亡した日から起算して連続７日（休日を含む）の範囲内の期間
・１親等（父母、義父母、子）の場合
　死亡した日から起算して連続７日（休日を含む）の範囲内の期間
・２親等（祖父母・兄弟姉妹、孫）の場合
　死亡した日から起算して連続３日（休日を含む）の範囲内の期間

3. 出席停止

「学校保健安全法」により定められた感染症（インフルエンザ、麻疹、百日咳等。本学ホームページから確認ができます）に罹患した場合、その旨大学保健センターに速やかに連絡をし、医師の指導に基づき大学への通学を控えてください。その間は「出席停止」の扱いとなり、出席停止期間中の欠席回数は、出席すべき回数から除外されます。病院で医師の診断書を取得し、速やかに大

学保健センターに提出してください。
※集中講義期間中に出席停止になった場合、教務課への申請により、登録している集中講義科目の履修を取り消すことができます。集中講義最終日から 2 週間以内に教務課に手続きを行ってください。

3-3. 休講・休校・補講

1. 休講

授業担当者の公務、学会出席、病気等によりやむを得ず授業を休講することがあります。大学からの休講連絡はSophieで配信します。電話やメール等での照会には応じません。休講の情報がなく授業時間を20分経過しても授業担当者が入室しない場合は、教務課に連絡して指示を受けてください。

2. 補講

休講となった授業は、補講が行なわれます。補講日時等は、Sophieで通知します。

オンデマンド配信で行われる補講について、Sophieで通知される補講日時は配信日時の目安です。詳細は各授業担当者の指示に従ってください。

補講日については学年暦に定めているとおりですが、その他の日程で行われる場合もあります。

3. 交通機関の大幅な乱れを伴う災害・交通ストライキや、感染症などの場合の休講・休校について

①～④に関する大学からの連絡事項は、
大学公式ウェブサイトのトップページの
「重要なお知らせ」に本学の対応を掲載します。
（また、代替手段として大学公式SNSで告知する場合があります。）

①台風の接近や暴風雨雪などが予想される場合
- 前日の午後６時を目途に措置内容を掲載します。
- 休講・休校を解除し授業・諸活動を再開する又は対応を延長するなど、前日の午後６時に告知した対応内容に変更・追加がある場合は当日の午前６時を目途に掲載します。
- 午前６時掲載の対応内容に変更・追加がある場合には当日の午前11時を目途に掲載します。

②本学への主たる交通機関であるJR山手線、東京メトロ日比谷線の運行状況により判断して、措置内容を告知します。

③学校保健安全法の「学校において予防すべき感染症」による患者が一定数を超えた場合の休校措置について、措置内容を告知します。

④予測ができない災害（大地震等）の場合など、緊急の対応を要する場合や、そのほか広く本学の対応・措置を告知する必要がある事柄についても、随時掲載します。

※大学が休講・休校になった場合には、学外からご来学の一般の方の活動や課外活動も同時に中止とします。在校中の場合は諸活動を取りやめ、身の安全を図ってください。

※登校中または帰宅途中の場合は、原則として帰宅することとし、在校中は大学の指示に従ってください。

4. 試験・レポート

4-1. 試験・レポートについて

学期末、学年末の成績評価の方法は授業科目によって異なります。評価方法はシラバスに記載されていますので必ず確認するようにしてください。

「定期試験」として実施される場合には、学年暦の「授業および試験」期間に行われます。「教務課提出のレポート」として実施される場合には、所定の期日に教務課に提出します。提出日・提出方法は別途Sophie上に掲示します。それ以外の場合は授業担当者の指示に従ってください。

1. 試験時間

定期試験の場合の試験時間割は、以下のとおりです。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9：00～10：40	10：55～12：35	13：30～15：10	15：25～17：05	17：20～19：00

2. 試験受験上の注意

次の各項を確認の上、試験時間中は試験監督者の指示にすべて従ってください。

①学生証は常に携帯し、試験時間中は必ず机の上に置く。学生証を忘れた場合は、試験開始までに証明書自動発行機にて「在学証明書」発行の手続きを行う。

②座席が指定されている場合は、試験監督者の指示に従い、定められた席に着く。

③学生証、筆記用具（鉛筆・シャープペンシル・万年筆・ボールペン・消しゴム・その他特別に指示があるもの）以外のものは、机の上に置かない。

④携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末等の電子機器は、アラームの設定を切り電源も切ってカバンの中にしまう。これらは時計としても使用できない。持ち物は各自の椅子の脇に置く。

⑤時計のアラームの設定を切り、時刻表示以外の他の機能がついた時計は使用しない。

⑥試験開始後50分までは、試験場から退出しない。

⑦遅刻者は試験場に入ることが許されず、受験することができない。ただし試験開始後30分以内の遅刻で、公共交通機関の事故など不可抗力による遅刻であれば、試験監督者の指示に従い、受験することができる。

3. レポート作成・提出についての注意

①提出するすべてのレポートについて、本学の研究倫理ガイドおよび研究倫理指針を熟読し、不正に相当する行為を行わないよう注意してください。

⇒「研究倫理ガイド」p.8 参照

②教務課提出のレポートは、授業担当者に直接届けたり、郵送する等しても受理されないので注意してください。

③教務課にレポートを提出する際は、次のことに注意してください。

・指定された期日に提出すること。

・教務課指定の「レポート提出票」に必要事項を記入し、掲示の見本どおりの体裁に整えて提出すること。

・学生証を提示し、本人が提出すること（郵送では受理されない）。

4-2. 追試験・追審査について

1. 受験が認められる理由と必要な証明書類

次の①～⑥の理由で定期試験が受験できなかった、または教務課提出のレポートを提出できなかった場合、指定期間に必要書類を教務課に提出し、授業担当教員の許可が得られれば、所定の手数料を納付し、追試験・追審査の受験が認められます。詳細についてはSophieの掲示を確認してください。

①病気・怪我（手数料：有料※1）

・医師の診断書（試験当日に通院・療養中であったことを証明するもの：他の書類は不可）

※1：学校保健安全法施行規則第18条に定められた感染症（インフルエンザ等）の場合は手数料免除

②両親、兄弟、姉妹、祖父母の死亡による忌引(手数料：有料)

・死亡に関する公的証明書（会葬礼状でも可）

③台風、水害、火災等の災害（手数料：免除）

・官公庁による被災証明書

④交通関係の事故や遅延（手数料：有料）

・（自宅からの通常の通学路における）交通機関が発行した証明書（インターネット上の遅延証明書は不可）

⑤単位互換科目との試験日程重複（手数料：有料）

・受入れの大学の試験日程を証明するもの（交流学生制度、渋谷4大学間単位互換制度のみ対象）

⑥その他学務部長が正当な理由として認めた場合

・手数料、証明書類については指示に従うこと

2. 対象となる科目

定期試験、教務課提出のレポート

ただし、第一外国語・第二外国語の追試験は行いません。

3. 受験手続等（詳細はSophieの掲示参照）

（1）受付期間

追試験　試験日翌日から試験期間最終日まで

※最終日の科目についてはその翌日まで

追審査　レポート提出期限翌日と翌々日

※実施時期　前期 8 月上旬　後期 1 月下旬

（2）申請に必要な書類等

①追試験願、または追審査願

②理由に応じた証明書類（1.を参照、予め取得しておくこと）

（3）申請結果の通知と手数料の納入

①追試験願、または追審査願が承認されたか否かについては、Sophieで通知します。

②受験が認められた場合は、Sophieでの通知にしたがい、追試験料／追審査料3,000円分の証紙を購入してください（出席停止の場合は免除）。何らかの理由で追試験を受験しなかった場合、または追審査レポートを提出しなかった場合でも返還しません。

4. 受験上の諸注意

①追試験を受験する際には、学生証と追試験受験票（証紙帖付）を必ず持参してください。受験票は試験開始前に教務課にて交付します。受験上の注意は、定期試験に準じます。

②追審査レポートを提出する際には、所定の提出票に必要事項

を記入した上、追審査受験票（証紙帖付）とともに、学生証を提示して教務課に提出してください。受験票はレポート提出前に教務課にて交付します。提出上の注意は、教務課提出のレポートに準じます。

③追試験／追審査による成績評価は定期試験に準じて各授業担当者が行います。

4-3. 再試験（4年次後期のみ）について

1. 受験の条件

4年次生で、次の①～④の条件を満たす者に、再試験の受験が認められます。

①卒業論文審査に合格している者

②卒業に必要な後期科目又は通年科目が不合格（「F」）となったものの、その科目に合格すれば、その年度に卒業できる見込みがある者

※前期科目は対象外

③上記②でその年度に「F」が2科目以内の者

※「出席回数不足／F（OC）」の科目は再試験の対象外

④上記①～③の条件を満たしたうえで再試験の受験願を提出した者のうち、②の科目の担当者が再試験の実施を認めた者

2. 受験手続等（詳細はSophieの掲示参照）

①成績発表期間に成績を確認し、再試験の受験を希望する者は、教務課にて手続きを行ってください。

受付期間：2月中旬（成績通知期間）

※理由の如何に関わらず受付期間内に申請しなかった場合、受験は認められません。

②再試験の受験が認められたか否かのSophieで通知します。

③受験が認められた場合は、Sophieでの通知にしたがい、再試験料3,000円分の証紙を購入し提出すること。

※一旦納入された再試験料は理由の如何に関わらず返還しません。

④再試験実施期間は2月中旬の指定日です。

3. 再試験による成績評価

再試験受験による成績評価は「C」「F」のいずれかとなります。

※指定日に受験しなかった場合は、成績評価の訂正は認められません。

4-4. 不正行為について

1. 試験における不正行為

次の各項の行為は不正行為とします。また、この各項以外でも試験監督者が不正行為と認めた場合は、不正行為とみなす場合があります。

①試験監督者の指示・注意等に従わない、所定の答案を提出しない、偽名または故意により無記名答案を提出する、不要なことを答案に書くこと。

②代人受験するまたは代人受験させる、他人の学生証を使用したり受験資格のない者が受験すること。

③答案・解答を他人と交換する、他人の答案・解答を写すまたは写させる、あるいは盗み見る、答案・解答について声・動作等で伝達を受ける又は伝達すること。

④試験監督者により使用が許された文献類・辞書類以外の物を使用する、または借りたり貸したりすること。

⑤試験監督者により使用が許された文献類・辞書類以外の物を机上に置いたり見たりすること（身体や衣服、机等への書き込み等も含む）。

⑥通信機能を有する機器または通信機能を有しないことが不明確な機器（音楽プレーヤー等）を、かばん等にしまわず身につけているまたは触れていた場合。

⑦その他、上記の各項に類すると試験監督者が認めた場合。

2. レポートにおける不正行為

提出されたすべてのレポートについて、研究倫理ガイドおよび研究倫理指針に反する行為があったと認められた場合は、これを不正行為とします。

⇒「研究倫理ガイド」p.8 参照

3. 不正行為を行なったと認められた場合の処置

試験およびレポートにおいて不正行為を行ったと認められた場合は、次の処置が科されます。

①その学期の履修科目（後期の場合は通年科目も含む）の評価はすべて不合格とする

②教授会での報告

③保証人（保護者）への通知

④誓約書（再度不正行為を行なわない旨が記されたもの）の提出

なお、不正行為の内容によっては、学則第54条に則り退学・停学または訓告の懲戒とします。また、これらの処置は、事後（卒業後を含む）に不正行為が発覚した場合も、遡って適用されます。

5. 成績評価

5-1. 成績評価

各授業科目の評価は、その科目の授業担当者が行います。成績は、AA・A・B・C・F・出席回数不足・評価不能、継続履修および認定の評価が与えられます。AA・A・B・Cおよび認定が合格、F・出席回数不足、評価不能および継続履修が不合格です。

＜中間評価＞

通年科目によっては、前期終了時点での評価を行うことがあります。これを「中間評価」と呼んでいます。中間評価には、成績評価の後ろに「＊」（アスタリスク）が記載されています。

中間評価が出席回数不足以外の場合は、その中間評価にかかわらず、最終的に単位修得できるか否かは後期終了時点での評価によって決まります。

1．成績評価の達成基準等

	評点	評価	表記	達成基準等
合格	100～90	AA	AA	学習目標を十分満たし、秀でている
	89～80	A	A	学習目標を満たしている
	79～70	B	B	学習目標をほぼ満たしている
	69～60	C	C	合格と認められる最低水準を満たしている
	－	認定	Tr.	（編入学時や留学等、他大学で修得した単位を本学の単位として認定可）
不合格	59～0	F	F	合格と求められる最低水準を満たしていない
	－	出席回数不足	F（OC）	下記参照
	－	評価不能	F（UG）	
	－	継続履修	継続履修	

（1）出席回数不足／F（OC）

欠席が授業回数の３分の１を超えたと授業担当者が判断した場合、評価は「出席回数不足」となり、単位修得はできません。

⇒「単位修得要件」p.14参照

通年科目については、前期終了時点での欠席が通年の授業回数の３分の１を超えると授業担当者が判断した場合、出席回数不足となり中間評価の時点で評価が確定するので単位修得はできません。この場合、その授業の履修資格は失われないので、履修を継続することは許可されます。

（2）評価不能／F（UG）

履修科目について、授業担当者が成績評価を与えることができない場合、評価は「評価不能」となり、単位修得はできません。

通年科目で中間評価が「評価不能／F（UG）*」の場合、最終的に単位修得できるか否かは後期終了時点での評価によって決まります。

評価不能となるのは、次の場合です。

①成績評価時の在籍状態が、休学・退学・留学のいずれかで特別な申し出があった場合

②試験および提出したレポート、出席確認等において不正行為を行ったと認められた場合

また、次の場合も評価不能となることがあります。

③試験を受けなかった場合

④レポートを提出しなかった場合

⑤追試験・追審査を許可されたにもかかわらず受けなかった場合

⑥まわりの学生に迷惑をかける等、受講態度に問題があり、教職員等から指導を受けても改善が見られない場合

（3）継続履修

継続履修申請が受理された通年科目は、前期評価については通常の評価が行われますが、申請年度の学年末の評価は「継続履修」となり、単位は修得できません。

留学後に継続履修が認められなかった場合、あるいは継続履修を取り止めた場合は、この「継続履修」は変更されません。

留学後に、継続履修が認められ、後期分の履修を再開すれば、留学前に履修した前期分とあわせた成績評価が後期履修後に与えられます。

2．評価における特記事項

①追試験および追審査の成績評価は、定期試験に準じて各授業担当者が行います。

②再試験の成績評価は、AA・A・Bを除く、C・Fのいずれかとなります。

③卒業論文の成績評価は、AA・A・B・C・Fのいずれかとなります。卒業論文を履修登録し、期日までに提出しなかった場合は、「F（UG）」（評価不能）となります。

④編入学時や留学等で認定された単位は、成績証明書・成績通知書等の成績評価欄には「Tr.」と表記されます。

5-2. GPA制度

GPA制度は、学生自身が学習成果を把握することによって、主体的に学修を進めていくことを目的とした制度です。

1．GPA（Grade Point Average）とは

GPAとは、成績評価（AA・A・B・C・F）をポイント（GP：Grade Point）に置き換えて、科目の単位数をかけ、その総和（GPT：Grade Point Total）を履修登録単位数の合計で割った平均値のことです。

成績評価	グレード・ポイント（GP）
AA	4
A	3
B	2
C	1
F、F（UG）、F（OC）	0

2．GPA算出計算式

$$\frac{\text{AAの単位数}\times 4+\text{Aの単位数}\times 3+\text{Bの単位数}\times 2+\text{Cの単位数}\times 1}{\text{総履修登録単位数}}$$

・中間評価は対象外
（通年科目のF（OC）は前期中間評価でも成績が確定するが、後期が終了するまではGPAに算入されない）

・小数点第３位を四捨五入し小数点第２位までの数値を表記

・不合格科目（F評価）を再履修し合格の評価を得た場合、最初のF評価を含め全ての評価をGPAに算入する

3．GPA算出の対象科目・対象外科目

GPA算出の対象科目・対象外科目は次のとおりです。なお、入学年度、所属学科・専攻・コースによって該当する科目が異なりますので、カリキュラムをよく確認してください。

（1）GPA対象科目

①卒業要件となる科目（全学共通／必修分野、専攻課程分野、卒業論文）
②卒業要件外の科目のうち「資格関係分野」以外の科目
③1年次に履修した全ての科目（1年次のみ）
※卒業要件となる科目は入学年度、学科により異なるので各履修要項で確認すること

（2）GPA対象外の科目

①編入学、留学等により認定された科目（評価＝認定／Tr.）
②継続履修申請が受理された通年科目（評価＝継続履修）
③卒業要件外の科目のうち「資格関係分野」の科目

4．成績通知書・成績証明書への表示

・入学してから現在までの全ての成績をもとに計算する「累積GPA」を記載します。
・成績通知書、成績証明書（和・英）、和文の成績証明書（含卒業見込）に記載されます。

5-3．成績通知

1．成績通知日

（1）学生本人への通知

成績通知は、下記の日程にてSophieで通知します。

	通知対象者	成績通知日
前期成績	学部生、大学院学生、交換留学生、科目等履修生、委託聴講生	9月上旬
後期成績		2月上旬

※9月に開講される集中講義や、留学などにより他大学で修得した単位の認定は、上記とは異なる日程で通知することがあります。
※保育実習Ⅱおよび保育実習指導Ⅱは、3月末以降の通知になります。

（2）保証人への通知

学部生、大学院学生（博士後期課程は除く）の保証人に対する成績通知は、学生本人への通知と同時期に行います。保証人への成績通知を希望しない場合は、学期ごとに授業終了日までを期限とし、教務課での手続きが必要です。手続きが完了したら、補修人宛に成績は通知しませんが、【学生本人の希望があったので成績は通知しない】旨を通知します。

2．成績通知書の見方

・AA・A・B・CおよびTr.が合格、F・F（OC）・F（UG）および継続履修が不合格
・「＊」（アスタリスク）が記載されている評価は通年科目の中間評価で、確定評価ではありません
・履修登録済みの科目のうち、前期終了時に成績評価が与えられていない科目の評価欄は［履修中］と表示

＜成績通知書の右側の欄＞

	記載内容
学部1年次生	進級要件、および、これまでに修得した単位、履修中の単位の集計を記載
学部2～4年次生	卒業要件、および、これまでに修得した単位、履修中の単位の集計を記載

＜成績通知書の評価欄＞

	最終評価	中間評価	備考
合格	AA	AA*	
	A	A*	
	B	B*	
	C	C*	
	Tr.		認定科目
不合格	F	F*	成績証明書には記載されない
	F（UG）	F（UG）*	成績証明書には記載されない（評価不能）
	F（OC）		成績証明書には記載されない（出席回数不足）
	継続履修	継続履修	成績証明書には記載されない

5-4．成績評価確認願

成績評価について、シラバスの評価方法欄に記載された評価基準と照らし合わせ、具体的な根拠に基づく確認事項がある場合には、定められた期間内に「成績評価確認願」を教務課に提出することができます。

受付期間等、詳細はSophieに掲示します。なお、期間外の申し出は一切認められません。

注意事項

この申し出は、成績評価の確認を求めるものであり、成績評価への異議や再考を求めるものではありません。したがって、以下のような理由による「成績評価確認願」の提出は受け付けません。

①再考を求めるもの。
②担当教員に情状を求めるもの。
③他の学生との対比のうえ不満を訴えるもの。（「友人はA評価だが、なぜ自分はC評価なのか」など）
④具体的な内容の記載がないもの。（「自分なりの努力はした」など）

5-5．学業不振者への対応

1．対象者

次のいずれかに該当する学生は、1年次センター及び各学科・専攻において前期履修登録前に面談を実施し、修学支援を行います。教職課程の履修者に対しては、履修継続の意思確認も合わせて行います。

1年次	①1年次の修得単位が20単位未満
2年次	①前年度の不合格科目数が5科目以上 ②合計単位数が30単位未満 ③英語および第二外国語がまったく修得できていない ④年度GPA1.00未満
3年次	①前年度の不合格科目数が5科目以上 ②合計単位数が60単位未満 ③英語または第二外国語がまったく修得できていない、両方に未修得分がある ④年度GPA1.00未満
4年次	①前年度の不合格科目数が5科目以上 ②合計単位数が90単位未満 ③英語または第二外国語に未修得科目がある ④年度GPA1.00未満

2．面談を担当する教員

1年次生……1年次センター長

2年次生～ 4年次生

……所属学科代表委員または所属学科の教員

3．保証人への連絡

学生との面談が実施できなかった場合、教務課から保証人に連絡します。

5-6．進級・卒業要件の自己判定について

1．Sophieによる自己判定機能について

現在履修中の科目を「合格」とみなして判定する機能です。この判定機能は目安であり、進級・卒業を保証するものではありません。判定結果についての質問、進級・卒業要件に関する相談は教務課で受け付けます。

進級要件については、「学年ごとの進級要件」、卒業要件については、「卒業要件と在学年限」のページで確認してください。

⇒「学年ごとの進級要件」p.15、「卒業要件と在学年限」p.15

なお、卒業に必要な科目および単位数は、所属の学科によって異なります。要件となっている科目および単位数については自分が所属する学科のカリキュラムを熟読してください。

2．自己判定機能の利用対象者と利用方法

・利用対象者：学部生、大学院学生

※交換留学生、科目等履修生は利用できません。

・自己判定機能の利用は、Sophieにログインして行います。

3．自己判定機能の注意点

①履修登録期間中は、正しく表示されない場合があります。

②特殊な履修などは、正しく計算されないケースがあります。

③通年科目の中間評価で出席回数不足「F（OC）」と評価された場合は、前期終了時点で評価が確定になり、単位修得はできません。しかしながら、システム上は通年科目の期間終了時点まで成績評価が確定にならないため、自己判定では「合格」という結果になってしまいます。Sophieの履修成績照会で成績評価も必ず確認するようにしてください。

5-7．成績証明書

成績証明書とは、履修した科目のうち、単位を修得した科目の成績評価のみが記載されており、証明書として対外的に発行される書類です。中間評価、および、不合格の科目は記載されません。（成績通知書は履修した全科目の成績評価が記載されており、学生本人に通知されるものになります。）

5-8．卒業見込証明書の発行基準について

卒業見込証明書とは、その年度の3月に大学を卒業する見込みであることを大学が証明する書類です。4年次に進級し就職活動をする際には、企業等から提出を求められることがあります。「卒業見込」とは、4年次に履修登録した単位を修得することにより、年度末には卒業所要単位を満たし卒業が可能と見込まれる状態を指します。

6. 留学（含　単位認定・継続履修）

6-1. 本学の留学制度

本学には、海外大学との協定に基づいた長期留学と短期留学の制度があります。

＜長期留学＞

長期留学はその種類によって、学内留学審査、留学先大学への手続き、在学年数への算入の可否、本学及び留学先大学への学生納付金等が異なるため、長期留学を考えている場合は、国際センター発行の『留学の手引き』及びUSH-Cloud学生向けページ「国際センターのWebサイト」をよく確認し、国際センターの留学に関する個別相談を受けながら、早めに準備を進めることが大切です。

国際センターでは「長期留学説明会」を開催しています。また、前年度に留学を終えた学生による「帰国報告会」など、留学に関する様々なイベントを開催していますので参考にしてください。

⇒『留学の手引き』（国際センター発行）参照

⇒ USH-Cloud学生向けページ「国際センターのWebサイト」参照

＜短期留学＞

例年主に夏期休暇中に開催します。詳細は国際センター発行の『短期留学募集要項』及びUSH-Cloud学生向けページ「国際センターのWebサイト」を参照してください。

⇒『短期留学募集要項』（国際センター発行）参照

⇒ USH-Cloud学生向けページ「国際センターのWebサイト」参照

＜制度を利用しない留学（休学中の留学）＞

上記制度ではなく、休学をして留学する場合は、休学の手続き期限や、継続履修科目の有無に注意してください。

6-2. 長期留学

1．交換留学・推薦留学

本学と協定を結ぶ海外大学（協定校）に長期留学をする制度を「交換留学」・「推薦留学」といい、留学候補者は学内留学審査で決定します。

2．認定留学

本学の協定校以外の海外大学に長期留学をする場合、留学先大学への手続きを留学希望者本人が行った上で、事前に学内留学審査に願い出て承認を得られれば、在学資格を保持したまま留学し、修得単位の一部を本学の卒業所要単位に算入することができます。この制度を「認定留学」といいます。

3．留学期間と在籍

長期留学の留学期間は１学期間または１年間です。１年以内の留学期間は本学の在学年数に算入することができます。特に必要と認められた場合には、引き続き１年に限り留学期間を延長することができますが、２年目は休学扱いとなります。

なお、４年次に留学期間がかかる場合、卒業論文の履修登録を期間外に手続きできる制度があります。

⇒「長期留学にともなう卒業論文の履修登録について」p.29参照

4．本学の学生納付金の取り扱い

本学及び留学先大学における学生納付金の取り扱いは長期留学の種類や協定校によって異なります。詳細は『留学の手引き』及び「国際センターのWebサイト」を参照してください。

交換留学：留学先大学の学費は免除され、本学学生納付金のみを納めます。

推薦留学：学内留学審査の成績により、留学期間中の本学学生納付金の全額または一部が免除されることがあります。

認定留学：学内留学審査の成績により、留学期間中の本学学生納付金の一部が免除されることがあります。

5．長期留学希望者の募集

長期留学希望者の募集、学内留学審査の詳細については『留学の手引き』及び「国際センターのWebサイト」により通知します。

6．単位

長期留学中の修得単位の一部は、教授会の議を経て本学の卒業所要単位として認められます。留学先大学で修得した単位の扱いや本学での履修計画については、Sophieダウンロードセンター「長期留学の学びに関する手続き」を確認してください。

⇒「単位認定」p.28参照

6-3. 短期留学

短期留学とは主に夏期休暇中に本学指定の海外大学等の語学研修プログラムに参加しながら、文化を学び海外生活を体験する留学制度です。短期留学についての詳細は、『短期留学募集要項』及び「国際センターのWebサイト」を参照してください。

6-4. 単位認定

1．長期留学の場合

交換・推薦留学および認定留学によって、海外の大学等で修得した単位は、単位認定願によりその一部について、教授会の議を経て、本学の卒業所要単位として認定されます。留学前に必ず所属学科代表委員に相談のうえ、留学先での学修や単位認定について計画を立ててください。帰国後は速やかに国際センターに帰国を報告し、必ず所属学科代表委員に相談のうえ、教務課で単位認定のための手続きを行ってください。

留学先での履修科目のうち、①「キリスト教学Ⅱ」②「専攻分野のうち必修及び選択必修科目」に相当すると認定された場合は、本学開講科目として読み替えます。③「その他の科目」に相当すると認定された場合は、専攻分野又は関連分野科目として認定できる場合があります。

なお、認定された科目の分野系列は変更することはできません。認定単位数の上限は30単位です。

2．本学指定の短期留学の場合

本学指定の短期留学に参加し、所定の成績を収めた場合は、教授会の議を経て、本学の卒業所要単位として２単位が認定されます。認定された科目の分野系列は「関連分野」となります。ただし、英語文化コミュニケーション学科（英語圏の留学先のみ）と国際交流学科のみ本人の申請に基づき「専攻分野」としても認められます。単位認定は１プログラムにつき２単位とし、同一大学

におけるプログラムの複数回の単位認定は認められません。

6-5. 単位認定後の処理（科目削除等）

単位認定後、履修科目で下記に当てはまる場合は、教務課からの掲示の指示に従って科目削除を行ってください。

①科目読替の認定によって、再履修が認められていない本学の科目に読み替えられた場合で、読替後の科目と同じ科目を履修登録していた場合

②単位認定により卒業要件単位を満たしたため、履修を取り止めたい科目がある場合

なお、①の場合を除き、履修の継続を希望する科目は、科目削除を行う必要はありません。

6-6. 継続履修

継続履修制度とは、後期から長期留学をする学生が、前期に履修登録をした通年科目の後期部分について、次年度（隔年開講の場合は次々年度）に履修することができる制度です。

手続き等の詳細は、Sophieに掲示します。

1．継続履修願の提出資格

①通年授業科目を履修登録し、前期授業に出席していること

②交換・推薦留学、認定留学、または長期留学のための休学であること

③留学あるいは休学の期間が当年度後期であるか、または当年度後期から次年度前期まで継続すること

④当該授業科目担当者と開講学科及び所属学科の許可を得ていること

2．成績評価

継続履修申請が受理された通年科目の成績評価は、前期は通常どおり行われますが、後期は評価ができないため、申請年度の最終評価は「継続履修」となります。

継続履修が認められ、後期分の履修を再開すれば、留学前に履修した前期分とあわせた成績評価が後期履修年度の最終評価となります。

6-7. 長期留学にともなう卒業論文の履修登録について

本学では、留学期間を含めて4年間で卒業できるよう、長期留学制度（交換・推薦留学および認定留学）を利用した学生を対象に、卒業論文の履修登録を期間外に手続きする制度を2017年度から導入しました。

対象となるのは、長期留学の期間が、

Ⓐ 学部3年次後期～学部4年次前期（1年間）

Ⓑ 学部4年次前期（半年間）

の学生に限ります。

詳細はSophieダウンロードセンター「長期留学の学びに関する手続き」を確認してください。

※所属学科の卒業論文執筆の要件によっては、上記の登録が認められない場合があります。希望者は、事前に所属学科で確認してください。なお本件は、留学期間が 1 年を超える留学には適用できません。

1．卒業論文の履修登録方法

＜留学期間：Ⓐ学部３年次後期～学部４年次前期（１年間）の場合＞

3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期
	留学中		
①履修登録申請 （提出先：教務課）	②計画書の提出 （提出先：指導教員）		③報告書の提出 （提出先：指導教員）

①履修登録申請 留学前

留学前に所定書式の書類に必要事項を記入し、**教務課**へ提出する。

②卒業論文執筆に係わる計画書の提出 留学中

留学期間中の「卒論作成計画書」を作成し、学部３年次の年度末までに**指導教員**へ提出する。

③卒業論文執筆に係わる報告書の提出 帰国後

留学期間中の「卒論作成報告書」を作成し、帰国後に**指導教員**へ提出する。

＜留学期間：Ⓑ学部 4年次前期（半年間）の場合＞

3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期
	①履修登録申請 （提出先：教務課） ②計画書の提出 （提出先：指導教員）	留学中	③報告書の提出 （提出先：指導教員）

①履修登録申請 留学前

留学前に所定書式の書類に必要事項を記入し、**教務課**へ提出する。

②卒業論文執筆に係わる計画書の提出 留学前

留学期間中の「卒論作成計画書」を作成し、学部３年次の年度末までに**指導教員**へ提出する。

③卒業論文執筆に係わる報告書の提出 帰国後

留学期間中の「卒論作成報告書」を作成し、帰国後に**指導教員**へ提出する。

7. 交流学生制度

1. 交流学生制度

交流学生制度とは、本学に籍を置きながら、本学と学生交流協定を締結している大学（上智大学、東京音楽大学、日本赤十字看護大学）において、協定校が開講する科目を交流学生の身分で履修することができる制度です。

交流期間は半期（4月～ 9月、10月～翌年3月）または、1年間（4月～翌年3月まで）です。

2. 協定校において履修する場合

（1）出願について

協定校での履修を希望する場合は、Sophieに掲示する募集要項を確認の上、申し込んでください。

（前期：3月下旬、後期：9月上旬）

出願資格：①～③を満たす者のみ応募できます。

①学部2～4年次生（卒業判定にかかる学期の出願は不可）

②出願時の累積GPAが2.7以上

③年次必修科目を標準履修年次に修得していること

※希望者が多い場合は、累積GPA値により選考を行います。

（2）履修上の注意

・交流学生制度により履修した単位は、各年次の年間登録単位数上限に含みます。

・履修できる科目、履修登録の手続きおよび履修方法は協定先大学の規定に従います。

・東京音楽大学の一部科目（主に実技系科目）は、事前に面談または審査が必要です。

・下表のとおり、定員や履修単位数に条件があります。

	上智大学	東京音楽大学	日本赤十字看護大学
各科目の履修定員	若干名	若干名	3名以内
	希望者が多い場合は累積GPA値により選考を行います		
年間履修可能単位数	6単位まで	10単位まで	4単位まで
各大学との履修単位数の合計	年間50単位まで（東京音楽大学は年間5名まで）		

3. 単位認定

協定先の大学で修得した単位は、教授会の議を経て、本学の所要単位として認定されます。認定された単位の分野系列は「関連分野」となります。

8. 渋谷4大学連携単位互換制度

1. 渋谷4大学連携単位互換制度

渋谷4大学連携単位互換制度とは、渋谷4大学（青山学院大学、國學院大學、実践女子大学・実践女子大学短期大学部、聖心女子大学）の協定により、協定校で開講される科目を特別聴講学生の身分で履修できる制度です。

渋谷にキャンパスのある4大学が、以下の6つのテーマに沿った科目を相互に提供することにより、渋谷で学ぶ意義を高めると共に、大学間の交流を深め、学生に対して、所属大学における学びにとどまらない多様な価値観に基づく学修機会を提供することを目的としています。

テーマ①：まち・渋谷の歴史、各大学の歴史を学ぶ

テーマ②：宗教・思想を学ぶ

テーマ③：外国の文化・芸術・歴史を学ぶ

テーマ④：日本の文化・芸術・歴史を学ぶ

テーマ⑤：生活・健康・人生（キャリア）を学ぶ

テーマ⑥：人権・ジェンダー・女性論を学ぶ

2. 協定校において履修する場合

（1）出願について

協定校での履修を希望する場合は、Sophieに掲示する募集要項を確認の上、申し込んでください。

（前期：3月下旬、後期：9月上旬）

出願資格：①～③を満たす者のみ応募できます。

①学部2～4年次生（卒業判定にかかる学期の出願は不可）

②出願時の累積GPAが2.7以上

③年次必修科目を標準履修年次に修得していること

※各科目の本学における履修定員は若干名です。定員を超過した場合は、累積GPA値により選抜を行います。

（2）履修上の注意

・本制度で年間に履修できる単位は8単位までで、本学を除く3大学合計の単位数となります。

・本制度で履修した単位は各年次の年間登録単位数上限に含みます。

・協定校での履修が認められた場合、申請年度毎に一大学につき事務手数料として1,000円が必要です。事務手数料以外の受講に必要な教材費等の経費も、各自の負担となります。

3. 単位認定

協定先の大学で修得した単位は、教授会の議を経て、本学の所要単位として認定されます。認定された単位の分野系列は「関連分野」となります。

科目コード分類表

科目コード	開講所属	科目担当研究室	科目所属	科目大分類
ＡＡ＊＊	教育	教育学研究室	全学必修科目	体育運動学
ＡＢ＊＊	－	－	基礎課程科目	１年次生限定科目
ＡＣ＊＊	総現	総合現代教養研究室	総合現代教養科目	運動学
ＡＥ＊＊	英文	英文研究室	全学必修科目	英語（※Advancedのみ総合現代教養科目）
ＡＦ＊＊	国際	国際交流研究室	全学必修科目	フランス語（※Advancedのみ総合現代教養科目）
ＡＧ＊＊	国際	国際交流研究室	全学必修科目	ドイツ語（※Advancedのみ総合現代教養科目）
ＡＨ＊＊	国際	国際交流研究室	全学必修科目	スペイン語（※Advancedのみ総合現代教養科目）
ＡＪ＊＊	国際	国際交流研究室	全学必修科目	中国語（※Advancedのみ総合現代教養科目）
ＡＫ＊＊	国際	国際交流研究室	全学必修科目	コリア語（※Advancedのみ総合現代教養科目）
ＡＬ＊＊	国際	国際交流研究室	全学必修科目	日本語（※Advancedのみ総合現代教養科目、一部日本語関連科目は全学必修科目から除く）
ＡＭ＊＊	哲学	哲学研究室	全学必修科目	キリスト教学Ⅰ
ＡＮ＊＊	哲学	哲学研究室	全学必修科目	キリスト教学Ⅱ
ＡＲ＊＊	総現	総合現代教養研究室	総合現代教養科目	
ＡＳ＊＊	総現	総合現代教養研究室	総合現代教養科目	
ＡＴ＊＊	総現	総合現代教養研究室	総合現代教養科目	ジェンダー学、ボランティア研究
ＡＵ＊＊	総現	総合現代教養研究室	総合現代教養科目	グローバル共生
ＢＡ＊＊	－	－	全学必修科目	AI・データサイエンス基礎
ＢＤ＊＊	－	－	基礎課程科目	基礎課程演習
Ｃ＊＊＊	日文	日文研究室	専攻課程科目	日本語日本文学科開講科目
Ｄ＊＊＊	史学	史学研究室	専攻課程科目	史学科開講科目
ＤＪ＊＊	史学	史学研究室	博物館学芸員課程科目	博物館関連科目
Ｅ＊＊＊	人関	人間関係研究室	専攻課程科目	人間関係学科開講科目
Ｆ＊＊＊	【欠番】			
Ｇ＊＊＊	国際	国際交流研究室	専攻課程科目	国際交流学科開講科目
Ｈ＊＊＊	哲学	哲学研究室	専攻課程科目	哲学科開講科目
Ｉ＊＊＊	－	－	教務（委託聴講科目）	
Ｊ＊＊＊	教育	教育学研究室	専攻課程科目	教育学科開講科目
Ｋ＊＊＊	教育	教育学研究室	専攻課程科目	教育学科（初等教育学専攻）開講科目
Ｌ＊＊＊	心理	心理学研究室	専攻課程科目	心理学科開講科目
Ｍ＊＊＊	英文	英文研究室	専攻課程科目	英語文化コミュニケーション学科開講科目
Ｎ＊＊＊	【欠番】			
Ｏ＊＊＊	【欠番】			
Ｐ＊＊＊	教育	教育学研究室	保育士養成課程科目	
ＱＡ＊＊	史学<１>	－	教職括弧付科目	史学科開講科目＜１＞
ＱＢ＊＊	哲学<２>	－	教職括弧付科目	哲学科開講科目＜２＞
ＱＣ＊＊	教育<３>	－	教職括弧付科目	教育学科開講科目＜３＞
ＱＤ＊＊	心理<４>	－	教職括弧付科目	心理学科開講科目<4>
Ｒ＊＊＊	教育	教育学研究室	教職に関する科目	
ＳＡ１１	－	－	卒業論文	
ＳＢ＊＊	総現	総合現代教養研究室	総合現代教養科目	副専攻修了レポート
ＴＡ＊＊	院日文	日文研究室	大学院開講科目	日本語日本文学専攻　修士課程
ＴＣ＊＊	院史学	史学研究室	大学院開講科目	史学専攻　修士課程　日本史科目
ＴＤ＊＊	院史学	史学研究室	大学院開講科目	史学専攻　修士課程　東洋史科目
ＴＥ＊＊	院史学	史学研究室	大学院開講科目	史学専攻　修士課程　西洋史科目
ＴＦ＊＊	院社文	社会文化学研究室	大学院開講科目	社会文化学専攻　博士前期課程
ＴＧ＊＊	院社文	社会文化学研究室	大学院開講科目	社会文化学専攻　博士前期課程
ＴＨ＊＊	院社文	社会文化学研究室	大学院開講科目	社会文化学専攻　博士前期課程
ＴＪ＊＊	院哲学	哲学研究室	大学院開講科目	哲学専攻　修士課程
Ｕ＊＊＊	【欠番】			
Ｖ＊＊＊	【欠番】			
ＷＡ＊＊	院人科（教育、心理）	教育学研究室、心理学研究室	大学院開講科目	人間科学専攻　博士前期課程　人間科学基礎論
ＷＢ＊＊	院人科（心理）	心理学研究室	大学院開講科目	人間科学専攻　博士前期課程「発達心理学研究」領域
ＷＣ＊＊	院人科（心理）	心理学研究室	大学院開講科目	人間科学専攻　博士前期課程「臨床心理学研究」領域
ＷＤ＊＊	院人科（心理）	心理学研究室	大学院開講科目	人間科学専攻　博士前期課程「視聴覚情報研究」領域
ＷＥ＊＊	院人科（教育）	教育学研究室	大学院開講科目	人間科学専攻　博士前期課程「人間教育過程研究」領域
ＷＦ＊＊	院人科（教育）	教育学研究室	大学院開講科目	人間科学専攻　博士前期課程「教育研究」領域
ＷＧ＊＊	院人科（教育、心理）	教育学研究室、心理学研究室	大学院開講科目	人間科学専攻　博士前期課程　領域共通
ＷＬ＊＊	院英文	英文研究室	大学院開講科目	英語英文学専攻　修士課程
ＷＭ＊＊	院英文	英文研究室	大学院開講科目	英語英文学専攻　修士課程
Ｘ＊＊＊	院人文	人文学研究室	大学院開講科目	人文学専攻　博士後期課程
ＹＡ＊＊	院人科（心理）	心理学研究室	大学院開講科目	人間科学専攻　博士後期課程「心理学基礎研究」領域
ＹＢ＊＊	院人科（心理）	心理学研究室	大学院開講科目	人間科学専攻　博士後期課程「発達臨床研究」領域
ＹＣ＊＊	院人科（教育、心理）	教育学研究室、心理学研究室	大学院開講科目	人間科学専攻　博士後期課程　領域共通
ＹＤ＊＊	院人科（教育）	教育学研究室	大学院開講科目	人間科学専攻　博士後期課程「教育研究」領域
Ｚ＊＊＊	院社文	社会文化学研究室	大学院開講科目	社会文化学専攻　博士後期課程

学部　カリキュラム

1．現代教養学部　共通事項

1-1．カリキュラムマップ

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
全学1 キリスト教学Ⅰ		全学2 キリスト教学Ⅱ	
聖心女子大学の教育基盤であるキリスト教の価値観について、多角的な視点で学ぶ			
全学3 第一外国語（英語） 全学4a 第二外国語	語学力・コミュニケーション能力の習得を通じて、諸外国の文化を学び、国際的視野を広げる	全学4b その他の外国語（第二外国語以外の言語）	
全学5 ウェルネス・身体活動 健康の科学や運動文化への理解を深め、生涯にわたる健康保持のための基盤をつくる	全学8 総合現代教養科目 世界の多様な社会と文化を理解し、その中で自身の生き方を考えることのできる、幅広い知識と教養を獲得する		
全学6 AI・データサイエンス Society 5.0 時代に必要な「数理・データサイエンス・AI」の基礎を学ぶ			
全学7 基礎課程科目 大学での学修の基礎を学ぶとともに、各学科・専攻の専門分野について理解を深める 基礎課程演習 各学科の入門科目	専攻b 他学科専攻課程科目 副専攻・関連科目として履修し、物事を多面的に見る力をはぐくむ		
	専攻a 所属学科専攻課程科目 （各学科カリキュラムマップ参照：pp.52 ～103）		

全学9 卒業論文
自ら定めた課題について学問的に探究し、四年間の学習を集大成する

1-2. 卒業に必要な単位

分野系列ごとの卒業に必要な単位は、下記のとおりです。

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">分野系列</th><th rowspan="2">科目所属</th><th rowspan="2">カリキュラムマップ</th><th colspan="3">卒業所要単位</th></tr>
<tr><th colspan="2">初等教育学専攻以外</th><th>初等教育学専攻</th></tr>
<tr><td>1</td><td colspan="3">全学必修分野</td><td></td><td colspan="2">28単位</td><td>28単位</td></tr>
<tr><td rowspan="7"></td><td>1-1</td><td>キリスト教学Ⅰ</td><td>全学必修科目（キリスト教学Ⅰ）</td><td>全学1</td><td colspan="2">4単位</td><td>4単位</td></tr>
<tr><td>1-2</td><td>キリスト教学Ⅱ</td><td>全学必修科目（キリスト教学Ⅱ）</td><td>全学2</td><td colspan="2">4単位</td><td>4単位</td></tr>
<tr><td>1-3</td><td>第一外国語</td><td>全学必修科目（第一外国語）</td><td>全学3</td><td colspan="2">8単位</td><td>8単位</td></tr>
<tr><td>1-4</td><td>第二外国語</td><td>全学必修科目（第二外国語）
※第二外国語として選択した言語</td><td>全学4a</td><td colspan="2">8単位</td><td>8単位</td></tr>
<tr><td>1-5</td><td>ウェルネス・身体活動</td><td>全学必修科目（ウェルネス・身体活動）</td><td>全学5</td><td colspan="2">2単位</td><td>2単位</td></tr>
<tr><td>1-6</td><td>AI・データサイエンス</td><td>全学必修科目（AI・データサイエンス）</td><td>全学6</td><td colspan="2">2単位</td><td>2単位</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="3">専攻課程分野</td><td></td><td colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="10"></td><td>2-a</td><td>専攻分野
・詳細は各学科の履修要項参照</td><td>専攻課程科目／主に所属学科開講の科目</td><td>専攻a</td><td>56単位</td><td rowspan="9">90単位
※1</td><td>82単位</td></tr>
<tr><td rowspan="9">2-b</td><td rowspan="9">関連分野</td><td>基礎課程科目（基礎課程演習）</td><td rowspan="2">全学7</td><td rowspan="9">22単位</td><td rowspan="9">8単位
※2</td></tr>
<tr><td>基礎課程科目（１年次生限定科目）</td></tr>
<tr><td>総合現代教養科目</td><td>全学8</td></tr>
<tr><td>全学必修科目（その他の外国語）
※卒業所要単位を超えて修得した外国語科目</td><td>全学4b</td></tr>
<tr><td>専攻課程科目（聖心リベラル・アーツ群）</td><td rowspan="6">専攻b</td></tr>
<tr><td>専攻課程科目（副専攻科目）</td></tr>
<tr><td>専攻課程科目（博物館関連科目）</td></tr>
<tr><td>専攻課程科目（教職に関する科目）</td></tr>
<tr><td>専攻課程科目（その他）</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="3">卒業論文</td><td>卒業論文</td><td>全学9</td><td colspan="2">8単位</td><td>8単位</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">合計</td><td></td><td colspan="2">126単位</td><td>126単位</td></tr>
</table>

※1：専攻分野56単位、関連分野22単位を満たし、さらに専攻分野または関連分野から12単位を修得する必要がある

※2：「憲法1」または「憲法2」の2単位を含む必要がある

A．全学必修分野

A-1．履修の目的

（1）キリスト教学

本学の教育の基盤であるキリスト教の価値観について、多面的・多角的な視点で学ぶ。キリスト教の教えと聖書全体の理解を通して、またキリスト教をめぐる文化、社会、歴史、思考等の多様な主題の考察を通して、世界と人間に対する深い洞察力と心の豊かさを涵養することを目指す。

・キリスト教学Ⅰ

キリスト教への基本的な理解を求める。

・キリスト教学Ⅱ

キリスト教に対する理解をさらに深めると共に、歴史、文化、社会などにおけるキリスト教の多様な展開を学ぶ。

（2）第一外国語・第二外国語

国際化の時代にふさわしい語学力、コミュニケーション能力を身につける。これを通じて、諸外国の文化的背景を学び、国際的視野を広げ、また専攻課程での学習研究活動の準備ともする。

（3）ウェルネス・身体活動

健康の科学や運動文化への理解を深め、適切な運動習慣を身につけ、生涯にわたる健康保持のための基盤をつくる。

（4）AI・データサイエンス

すべての大学生が学ぶことを目的に設立された文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）において求められるモデルカリキュラムで、Society 5.0時代に必要な「数理・データサイエンス・AI」の基礎を学ぶ。

A-2．卒業要件と科目リスト

以下に、全学必修分野をさらに細かく分類した分野系列ごとの卒業要件及び科目リストを掲載しています。卒業要件を満たすように履修計画を立ててください。

履修にあたっては、卒業要件だけでなく、以降に記載されている「履修上の注意」等をよく読んでください。

＜科目リストの見方＞

・担当研究室：担当研究室
・レベル　　：授業内容のレベル　⇒「ナンバリングコード」p.16参照
・区分　　：「必修」必修科目、「選必」選択必修、「選」選択科目、「◎選」必履修科目、「－」卒業要件外科目
・基礎課程　：「○」1年次生履修可、「－」1年次生履修不可

※開講状況、履修条件は当該年度のシラバス、開講科目一覧等を確認してください。

担当研究室	レベル	区分	コード	授業科目名	単位	基礎課程
▼キリスト教学Ⅰ（カリキュラムマップ：全学1）						
卒業要件		□下記の科目から4単位を修得していること				
哲学	1	選必	AM31	キリスト教学I-1（1）	2	○
哲学	1	選必	AM32	キリスト教学I-1（2）	2	○
哲学	1	選必	AM33	キリスト教学I-2（1）	2	○
哲学	1	選必	AM34	キリスト教学I-2（2）	2	○
哲学	1	選必	AM35	キリスト教学I-3（1）	2	○
哲学	1	選必	AM36	キリスト教学I-3（2）	2	○
哲学	1	選必	AM37	キリスト教学I-4（1）	2	○
哲学	1	選必	AM38	キリスト教学I-4（2）	2	○
哲学	1	選必	AM39	キリスト教学I-5（1）	2	○
哲学	1	選必	AM40	キリスト教学I-5（2）	2	○
哲学	1	選必	AM41	キリスト教学I-6（1）	2	○
哲学	1	選必	AM42	キリスト教学I-6（2）	2	○
哲学	1	選必	AM43	キリスト教学I-7（1）	2	○
哲学	1	選必	AM44	キリスト教学I-7（2）	2	○
哲学	1	選必	AM45	キリスト教学I-8（1）	2	○
哲学	1	選必	AM46	キリスト教学I-8（2）	2	○
▼キリスト教学Ⅱ（カリキュラムマップ：全学2）						
卒業要件		□下記の科目から4単位を修得していること				
哲学	2	選必	AN31	キリスト教学II-1（1）	2	－
哲学	2	選必	AN32	キリスト教学II-1（2）	2	－
哲学	2	選必	AN33	キリスト教学II-2（1）	2	－
哲学	2	選必	AN34	キリスト教学II-2（2）	2	－
哲学	2	選必	AN35	キリスト教学II-3（1）	2	－
哲学	2	選必	AN36	キリスト教学II-3（2）	2	－
哲学	2	選必	AN37	キリスト教学II-4（1）	2	－
哲学	2	選必	AN38	キリスト教学II-4（2）	2	－
哲学	2	選必	AN39	キリスト教学II-5（1）	2	－
哲学	2	選必	AN40	キリスト教学II-5（2）	2	－
哲学	2	選必	AN41	キリスト教学II-6（1）	2	－
哲学	2	選必	AN42	キリスト教学II-6（2）	2	－
哲学	2	選必	AN43	キリスト教学II-7（1）	2	－
哲学	2	選必	AN44	キリスト教学II-7（2）	2	－
哲学	2	選必	AN45	キリスト教学II-8（1）	2	－
哲学	2	選必	AN46	キリスト教学II-8（2）	2	－
▼第一外国語（カリキュラムマップ：全学3）						
卒業要件		□1年英語の科目をすべて（計4単位）修得していること □所属学科に応じた2年英語の科目をすべて（計4単位）修得していること				
▽1年英語						
英文	1	必修	AE21	1年英語1	2	○
英文	1	必修	AE22	1年英語2	2	○
▽2年英語（英語文化コミュニケーション学科生）						
英文	2	必修	AE25	Academic Reading 1	1	－
英文	2	必修	AE26	Academic Reading 2	1	－
英文	2	必修	AE27	Academic Writing 1	1	－
英文	2	必修	AE28	Academic Writing 2	1	－
▽2年英語（英語文化コミュニケーション学科生以外）						
英文	2	必修	AE31	2年英語（Reading） 1	1	－
英文	2	必修	AE32	2年英語（Reading） 2	1	－
英文	2	必修	AE33	2年英語（Oral） 1	1	－
英文	2	必修	AE34	2年英語（Oral） 2	1	－
▼第二外国語（カリキュラムマップ：全学4a）						
卒業要件		外国人留学生以外の学生 □①~⑤の科目群のいずれかを選択し、その科目群の科目をすべて（計8単位）修得すること 外国人留学生 □⑥の科目群の科目をすべて（計8単位）修得すること				

担当研究室	レベル	区分	コード	授業科目名	単位	基礎課程
①フランス語科目群						
国際	1	選必	AF21	1年フランス語文法（1）	2	○
国際	1	選必	AF22	1年フランス語文法（2）	2	○
国際	1	選必	AF23	1年フランス語オラル（1）	1	○
国際	1	選必	AF24	1年フランス語オラル（2）	1	○
国際	2	選必	AF30	2年フランス語（1）	1	−
国際	2	選必	AF31	2年フランス語（2）	1	−
②ドイツ語科目群						
国際	1	選必	AG21	1年ドイツ語文法（1）	2	○
国際	1	選必	AG22	1年ドイツ語文法（2）	2	○
国際	1	選必	AG23	1年ドイツ語オラル（1）	1	○
国際	1	選必	AG24	1年ドイツ語オラル（2）	1	○
国際	2	選必	AG30	2年ドイツ語（1）	1	−
国際	2	選必	AG31	2年ドイツ語（2）	1	−
③スペイン語科目群						
国際	1	選必	AH21	1年スペイン語文法（1）	2	○
国際	1	選必	AH22	1年スペイン語文法（2）	2	○
国際	1	選必	AH23	1年スペイン語オラル（1）	1	○
国際	1	選必	AH24	1年スペイン語オラル（2）	1	○
国際	2	選必	AH25	2年スペイン語（1）	1	−
国際	2	選必	AH26	2年スペイン語（2）	1	−
④中国語科目群						
国際	1	選必	AJ21	1年中国語文法（1）	2	○
国際	1	選必	AJ22	1年中国語文法（2）	2	○
国際	1	選必	AJ23	1年中国語オラル（1）	1	○
国際	1	選必	AJ24	1年中国語オラル（2）	1	○
国際	2	選必	AJ29	2年中国語（1）	1	−
国際	2	選必	AJ30	2年中国語（2）	1	−
⑤コリア語科目群						
国際	1	選必	AK21	1年コリア語文法（1）	2	○
国際	1	選必	AK22	1年コリア語文法（2）	2	○
国際	1	選必	AK23	1年コリア語オラル（1）	1	○
国際	1	選必	AK24	1年コリア語オラル（2）	1	○
国際	2	選必	AK25	2年コリア語（1）	1	−
国際	2	選必	AK26	2年コリア語（2）	1	−
⑥日本語科目群（外国人留学生対象）						
国際	1	選必	AL22	1年日本語1	3	○
国際	1	選必	AL23	1年日本語2	3	○
国際	2	選必	AL24	2年日本語（1）	1	−
国際	2	選必	AL25	2年日本語（2）	1	−
▼ウェルネス・身体活動（カリキュラムマップ：全学5）						
卒業要件		・下記の科目をすべて（計2単位）を修得していること				
教育	1	必修	AA01	ウェルネス・身体活動(講義)	1	○
教育	1	必修	AA02	ウェルネス・身体活動(実技)	1	○
▼AI・データサイエンス（カリキュラムマップ：全学6）						
卒業要件		・下記の科目をすべて（計2単位）を修得していること				
教務	1	必修	BA01	AI・データサイエンス基礎	2	○

A－3．年次指定科目

指定年次	年次指定科目　（指定年次に履修すること）
1年次	1年英語の各科目、第二外国語の1年次対象科目、 ウェルネス・身体活動の各科目、 AI・データサイエンス基礎
2年次	2年英語の各科目、第二外国語の2年次対象科目

A－4．履修上の注意

(1) キリスト教学

①「キリスト教学Ⅰ」は1年次に、また「キリスト教学Ⅱ」は3年次に履修することを推奨します。
②各科目の(1)(2)はペアで履修・修得することを推奨します。
③卒業所要単位を超えて「キリスト教学Ⅰ」「キリスト教学Ⅱ」の科目を履修した場合、余剰分の修得単位を他の分野系列に振り替えることはできません。

(2) 第一外国語

①指定クラスが自動登録されています。必ず指定されたクラスを履修してください。
②1年英語の履修には、授業に加えてオンラインまたはメディア学習支援センターにおける、週1回、各60分間以上の学習が必修となっています。詳細は、4月中旬に行われる1年英語メディア授業のオリエンテーションで説明するので、必ず出席してください。オリエンテーションの詳しい日程は、各クラスの先生から指示があります。

(3) 第二外国語

①指定クラスが自動登録されています。必ず指定されたクラスを履修してください。発表されたクラスは原則として変更できません。
※UNHCR難民高等教育プログラム（RHEP）による推薦入試で入学した学生は、第二外国語研究室の指示に従ってください。
②外国語系列科目には、授業時間とは別にメディア学習支援センターでの学習が必要な授業科目があります。
③第二外国語の変更について
1年次に選択した言語が第二外国語となります。第二外国語の言語変更を希望する場合は、第二外国語研究室（1号館3階）へ申し出てください。言語変更をした場合、1年次対象科目から履修することになります。変更前の言語について修得した単位は、分野系列「第二外国語」から「関連分野」の単位に振り替えます。
④第二外国語の余剰分について
卒業所要単位を超えて、第二外国語とは異なる言語について履修した場合、修得単位は分野系列「関連分野」の単位に算入されます。

(4) ウェルネス・身体活動

①各クラスには定員があるのでオリエンテーション期間に調整を行ないます。調整の結果指定されたクラスを履修登録するようにしてください。

(5) AI・データサイエンス

①この科目はオンライン形式（オンデマンド型）で行われる授業です。
②前期に修得できなかった学生は、後期に再度履修し、修得を目指すことになります。これにより後期履修登録時点で、当該年度の年間履修登録単位数の上限を超える場合は、2単位分の登録科目の見直しが必要になります。
③当該科目を履修初年度に修得できなかった学生は、翌年度以降、履修する年度ごとに、eラーニングシステム延長利用費として5,000円（税別）の実費を納入しなければなりません。なお、納入されたeラーニングシステム延長利用費は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

A-5. 外国語外部検定試験による第二外国語の単位認定

第二外国語について、指定の外部検定試験の認定基準を満たせば「第二外国語」の１年次対象科目（文法）として単位認定を願い出ることができます。

1. 申請時期

Sophieに掲示します。

※期日を過ぎての申請は一切受け付けない。認定を考える者は、スコア到着日も含め受験日をよく確認のうえ、早めに受験すること。

2. 提出書類

①外国語外部検定試験単位認定申請書（所定用紙）

②資格取得証明書（コピー １部）

※申請のスコアは、前年４月以降受験のものに限る

3. 認定基準と認定対象科目

言語の種類	試験の種類	認定基準	本学における認定対象科目（各２単位）
フランス語	実用フランス語技能検定	３級以上	1年フランス語文法（1） 1年フランス語文法（2）
ドイツ語	ドイツ語技能検定 Goethe Zertifikat	４級以上 A１以上	1年ドイツ語文法（1） 1年ドイツ語文法（2）
スペイン語	スペイン語技能検定試験	４級以上	1年スペイン語文法（1） 1年スペイン語文法（2）
中国語	中国語検定	３級以上	1年中国語文法（1） 1年中国語文法（2）
コリア語	ハングル能力検定試験 韓国語能力試験	３級以上 ３級以上	1年コリア語文法（1） 1年コリア語文法（2）

※単位認定が認められた場合、第1回締切までに手続きした者は認定対象科目(1)(2)の合計4単位を認定、第2回締切までに手続きした者は認定対象科目のうち(2)の2単位を認定する。

4. 注意事項

①認定された科目の成績評価は「Tr.（認定)」とします。

②認定された科目はGPA算出の対象外科目となります。

③認定単位数は、年次および学期で定められた登録単位数の上限に含みます。

④単位認定を申請できるのは、第二外国語として選択した言語に限ります。ただし、認定後に第二外国語を変更する場合、認定された科目の分野系列は「関連分野」になります。

⑤すでに認定対象科目について単位修得している場合は、認定を申請することはできません。

⑥第二外国語による単位認定の上限は、検定科目に関わらず４単位を上限とします。

⑦長期留学、短期留学などと合わせて、在学中に認定を受けられる単位数の上限は60単位までです。

B. 関連分野

B-1. 履修の目的

(1) 基礎課程科目

基礎課程科目は、入学時には全員が基礎課程に所属する本学独自のカリキュラムにより設けられた科目です。基礎課程科目として、少人数の演習（ゼミ）形式の「基礎課程演習」と１年次生のみが履修できる１年次限定科目が開講されています。

▼基礎課程演習

①大学での学修・研究活動に求められる主体的な姿勢・意欲や積極性を身につけ、またこのような資質・能力を１年次から養うことにより、社会への主体的参加の準備とする。

②大学で効果的に学修を進めるための基盤として、「文章等による表現力」「発表の力」「情報収集の力」を重点的に強くする。

③専任教員の専門性を通じて、学問に対する知的・興味関心を深め、視野を広げていく。

④授業内で行われる図書館ガイダンスにより、図書館の利用方法、蔵書の検索、データベースの活用方法について学ぶ。

▼１年次生限定科目

・各学科での学びの全体像や学科教員全員の研究分野を知り、専門分野に対する理解を深めながら、自らの適性と意欲を見極め、所属学科専攻の決定につなげる。

(2) 総合現代教養科目

地球規模で人々が考え、行動し、交流することが求められる現代において、世界の多様な社会と文化を理解し、時代を見通し、その中で自身の生き方を考えていくことのできる、幅広い知識と教養を獲得する。

(3) 全学必修科目（その他の外国語）

第二外国語を修得後、別の言語を履修することを通じて、異なる文化を学び、国際的視野をさらに広げる。

(4) 専攻課程科目（聖心リベラル・アーツ群、副専攻、博物館関連、教職に関する科目　他）

各自の関心に応じて自由に修得することで、幅広い視野や複眼的な思考力を身につける。

B-2. 履修の方法

関連分野の科目は、シラバス等で履修条件を確認した上で履修可能な科目の中から各自が自由に選択して履修することができますが、下記を科目の選択の際の参考にすることもできます

(1) 聖心リベラル・アーツ群

総合現代教養科目と他学科生が受講できる専攻課程科目を、「聖心リベラル・アーツ群」として下記に挙げた７領域に整理しています。関連分野の数多くの科目から自分の興味や目的に応じた科目を選択する際、「聖心リベラル・アーツ群」の下表の各領域のキーワードを参考に選ぶことができます。

これらの科目を自由に履修することによって、学科で学ぶ専門的内容とは異なるより多くの分野に触れる、学科を横断する学際的な内容に触れる、学科の専門的内容とリンクさせながら地球的規模で考え行動するなど、自由で創造的な学びを実現することができます。

各領域の科目については、関連分野の科目リストを参照してください。

＜各領域のキーワード＞

領域		キーワード
第Ⅰ群	言語と思考	言語、言語学、ディスカッションベース、史料講読、交渉・対話
第Ⅱ群	文学と芸術	美学・芸能、文学、身体表現、文化史、サブカルチャー、ポップカルチャー、映画
第Ⅲ群	社会システム	政治（史）、経済（史）、金融、法律・法学
第Ⅳ群	コミュニティと環境	社会学、環境、持続可能性、文化人類学、比較文化、カルチュラルスタディーズ、ジャーナリズム、メディア
第Ⅴ群	心と科学	自然科学、科学史、健康科学、宗教、民俗学・民衆史・心性史、社会心理、組織心理、倫理、自然観・人間観、比較行動、進化心理、認知心理
第Ⅵ群	キャリアと生涯発達	キャリア、女性・ジェンダー、教育工学、職業社会、ライフコース、親子関係、発達心理、生活や暮らしに密着した科目
第Ⅶ群	聖心スピリット	難民、ボランティア、共生、地域連携

(2) 副専攻制度（⇒p.106）

関連分野の履修を体系的に行うことで、主専攻に加えて「もう一つの専攻」を学ぶ制度が用意されています。自分の所属学科専攻で学ぶのとは異なる学問分野や主題のもとで、各副専攻が指定した科目の中から体系的に選択履修し、所定の要件を満たした学生には副専攻修了の認定がなされます。

(3) グローバルリーダーシップ・プログラム（⇒pp.107-109）

グローバルリーダーシップ・プログラムは、学術的かつ実践的な学びにより、リーダーシップに関する知識、スキル、実践能力をホリスティックに高め、社会貢献ができるグローバルでアクティブなリーダーシップを考え身につけるプログラムです。このプログラムの履修目的に沿って、総合現代教養科目を中心に関連分野の科目を選択していく学び方もあります。

B-3. 必履修科目

指定年次	必履修科目　（指定年次に履修すること）
１年次	基礎課程演習
２年次	日本語作文（1）　※外国人留学生のみ

B-4. 関連分野：履修上の注意

(1) 基礎課程科目

①「基礎課程演習」は、１年次生の必履修科目です。入学年度に限り、１度だけ履修することができます。単位修得が卒業要件ではありませんが、必ず履修するようにしてください。

②「基礎課程演習」は、各クラスに定員があるのでオリエンテーション期間に調整を行ないます。調整の結果指定されたクラスを履修してください。なお、履修できるのは１クラスのみです。

③１年次生限定科目（各学科の入門科目）は、１年次生のみが履修できます。修得した単位のうち８単位までは、卒業所要単位として分野系列「関連分野」に算入されます。卒業所要

単位を超えて修得した場合、超過した単位は卒業要件外となり、「関連分野」の単位には算入されません。

（2）その他の外国語（第二外国語以外の外国語科目）

①原則として、第二外国語について卒業所要単位を修得した場合のみ、選択した第二外国語以外の言語（その他の外国語）を「関連分野」の科目として履修することができます。

（3）外国人留学生対象科目

日本語作文(1)(2)は、外交人留学生対象科目です。

B-5. 卒業要件と科目リスト

1. 関連分野の卒業要件

(1) 教育学科初等教育学専攻生以外

□関連分野の科目の中から、最低22単位を修得すること

□専攻分野と関連分野を合わせて、最低90単位を修得すること

(2) 教育学科初等教育学専攻生

□関連分野の科目の中から、憲法２単位を含み、最低８単位を修得すること

2. 関連分野の科目リスト

以下に、関連分野の科目リストを掲載しています。卒業要件を満たすように履修計画を立ててください。

なお、科目リストに掲載されている専攻課程科目のうち「関連分野」の単位となるのは、原則として所属学科以外の開講する科目です（１年次生は、２年次からの所属学科専攻が決定後、分野系列が決まります）。

また、履修にあたっては、卒業要件だけでなく、以降に記載されている「履修上の注意」等をよく読んでください。

＜科目リストの見方＞

・担当研究室：担当研究室
・レベル　　：授業内容のレベル　⇒「ナンバリングコード」p.16 参照
・区分　　：「必修」必修科目、「選必」選択必修、「選」選択科目、「◎選」必履修科目、「－」卒業要件外科目
・基礎課程　：「○」１年次生履修可、「－」１年次生履修不可
・L.A.区分　：Ⅰ～Ⅶ（聖心リベラル・アーツ群の領域番号）
「－」聖心リベラル・アーツ群の対象外
⇒ 表「各領域のキーワード」p.39参照

※開講状況、履修条件は当該年度のシラバス、開講科目一覧等を確認してください。

担当研究室	レベル	区分	コード	授業科目名	単位	基礎課程	L.A.区分
▼基礎課程科目（カリキュラムマップ：全学7）							
○基礎課程演習（1年次必履修科目）							
教務	1	◎選	BD30	基礎課程演習	2	○	－
○1年次生限定科目							
総現	1	選	AB10	英語文化コミュニケーション入門	2	○	－
総現	1	選	AB11	日本語日本文学入門	2	○	－
総現	1	選	AB12	史学入門	2	○	－
総現	1	選	AB01	人間関係入門	2	○	－
総現	1	選	AB02	国際交流入門	2	○	－
総現	1	選	AB13	哲学入門	2	○	－
総現	1	選	AB14	教育学入門	2	○	－
総現	1	選	AB03	心理学入門	2	○	－
▼総合現代教養科目（カリキュラムマップ：全学8）							
※1：初等教育学専攻生：「選必」（いずれか1科目修得） 初等教育学専攻生以外：「選」							
※2：外国人留学生：「◎選」 ※3：外国人留学生：「選」							
総現	1	選	AS34	現代を考える	2	○	Ⅰ
総現	1	選	AS14	ビートルズの詩と音楽	2	○	Ⅱ
総現	1	選	AS82	世界の身体表現文化	2	○	Ⅱ
総現	2	選	AS87	音楽と人間	2	○	Ⅱ
総現	1	※1	AR21	憲法1	2	○	Ⅲ
総現	1	※1	AS95	憲法2	2	○	Ⅲ
総現	1	選	AS35	暮らしのファイナンス	2	○	Ⅲ
総現	2	選	AS10	社会福祉論	2	○	Ⅲ
総現	2	選	AU01	グローバル時代の国際協力概論	2	○	Ⅲ
総現	2	選	AU10	グローバル・シチズンシップ育成論	2	○	Ⅲ
総現	3	選	AU08	平和構築と非暴力の諸課題	2	○	Ⅲ
総現	1	選	AL19	日本事情1	2	－	Ⅳ
総現	2	選	AL21	日本事情2	2	－	Ⅳ
総現	2	選	AS88	経済同友会連携インターンシップ	2	－	Ⅳ
総現	2	選	AU05	持続的開発目標（SDGs）を捉え直す	2	○	Ⅳ
総現	3	選	AU03	人新世時代の環境問題	2	○	Ⅳ
総現	3	選	AU09	多文化共生社会論	2	○	Ⅳ
総現	1	選	AS05	現代の脳科学	2	○	Ⅴ
総現	1	選	AS25	健康な生活と健康科学	2	○	Ⅴ
総現	2	選	AS07	科学史1	2	○	Ⅴ
総現	2	選	AS08	科学史2	2	○	Ⅴ
総現	3	選	AS37	進化論の世界	2	○	Ⅴ
総現	3	選	AS79	生命科学の最前線	2	○	Ⅴ
総現	3	選	AU12	グローバル・ヘルス	2	○	Ⅴ
総現	3	選	AS96	研究の方法論	2	－	Ⅴ
総現	1	選	AS59	生活と法律	2	○	Ⅵ
総現	1	選	AS92	ジェンダー学入門	2	○	Ⅵ
総現	1	選	AS93	キャリアデザイン入門１	2	○	Ⅵ
総現	1	選	AS94	キャリアデザイン入門２	2	○	Ⅵ
総現	2	選	AS11	児童福祉論	2	○	Ⅵ
総現	2	選	AS80	総合現代教養演習	2	○	Ⅵ
総現	2	選	AU07	現代社会における食料問題とオルタナティブ	2	○	Ⅵ
総現	2	選	AS97	Introduction to Leadership	2	－	Ⅵ
総現	1	選	AS24	聖心スピリットと共生	2	○	Ⅶ
総現	2	選	AS69	グローバル共生基礎Ⅰ	2	○	Ⅶ
総現	2	選	AS70	グローバル共生基礎Ⅱ	2	○	Ⅶ
総現	2	選	AS81	学生提案型授業	2	○	Ⅶ
総現	2	選	AS84	地域づくり演習１	2	○	Ⅶ
総現	2	選	AS85	地域づくり演習２	2	○	Ⅶ
総現	2	選	AT50	ボランティア研究概論	2	○	Ⅶ
総現	2	選	AU04	災害と人間	2	○	Ⅶ
総現	2	選	AU06	地域コミュニティにおける課題解決プロジェクト	2	○	Ⅶ
総現	3	選	AU02	赤十字によるグローバルな人道支援の状況	2	○	Ⅶ
総現	3	選	AU11	地球規模課題を探究する	2	○	Ⅶ
総現	4	選	AS86	グローバル共生総合演習	2	－	Ⅶ
総現	3	※2	AL26	日本語作文（1）	1	－	－
総現	3	※3	AL27	日本語作文（2）	1	－	－
▼その他の外国語（カリキュラムマップ：全学4b）							
※卒業に必要な第二外国語の修得とは別に、「全学必修分野－第二外国語」の科目から他の言語を選択して履修した場合、「その他の外国語」として修得単位を「関連分野」に算入する							－

担当研究室	レベル	区分	コード	授業科目名	単位	基礎課程	L.A.区分
▼専攻課程科目（カリキュラムマップ：専攻b）							
○英文学科生以外にとって「関連分野」となる科目							
英文	2	選	MA16	英語学概論１	2	○	Ⅰ
英文	2	選	MA17	英語学概論２	2	○	Ⅰ
英文	2	選	MB26	オラルコミュニケーション１	2	○	Ⅰ
英文	2	選	MB27	オラルコミュニケーション２	2	○	Ⅰ
英文	2	選	ML22	英文法	2	−	Ⅰ
英文	2	選	MM54	異文化理解	2	○	Ⅰ
英文	2	選	MP01	英語基礎研究１－１	2	○	Ⅰ
英文	2	選	MP05	英語基礎研究３－１	2	○	Ⅰ
英文	2	選	MP06	英語基礎研究３－２	2	○	Ⅰ
英文	2	選	MP15	英語基礎研究８－１	2	○	Ⅰ
英文	2	選	MP17	英語基礎研究９－１	2	○	Ⅰ
英文	2	選	MP18	英語基礎研究９－２	2	○	Ⅰ
英文	3	選	MB15	英語史１	2	−	Ⅰ
英文	3	選	MB16	英語史２	2	−	Ⅰ
英文	3	選	MB19	英会話１	2	−	Ⅰ
英文	3	選	MB20	英会話２	2	−	Ⅰ
英文	3	選	MF25	英語学特講３－１	2	−	Ⅰ
英文	3	選	MF26	英語学特講３－２	2	−	Ⅰ
英文	3	選	ML43	Impromptu Communication Skills	2	−	Ⅰ
英文	1	選	MB17	英語文学への招待１	2	○	Ⅱ
英文	1	選	MB18	英語文学への招待２	2	○	Ⅱ
英文	2	選	MA34	英文学史概説１	2	○	Ⅱ
英文	2	選	MA35	英文学史概説２	2	○	Ⅱ
英文	2	選	MB13	米文学史概説１	2	○	Ⅱ
英文	2	選	MB14	米文学史概説２	2	○	Ⅱ
英文	2	選	MM63	英語文化論１－１	2	○	Ⅱ
英文	2	選	MM64	英語文化論１－２	2	○	Ⅱ
英文	2	選	MP02	英語基礎研究１－２	2	○	Ⅱ
英文	2	選	MP03	英語基礎研究２－１	2	○	Ⅱ
英文	2	選	MP04	英語基礎研究２－２	2	○	Ⅱ
英文	2	選	MP07	英語基礎研究４－１	2	○	Ⅱ
英文	2	選	MP08	英語基礎研究４－２	2	○	Ⅱ
英文	2	選	MP09	英語基礎研究５－１	2	○	Ⅱ
英文	2	選	MP10	英語基礎研究５－２	2	○	Ⅱ
英文	2	選	MP11	英語基礎研究６－１	2	○	Ⅱ
英文	2	選	MP12	英語基礎研究６－２	2	○	Ⅱ
英文	2	選	MP13	英語基礎研究７－１	2	○	Ⅱ
英文	2	選	MP14	英語基礎研究７－２	2	○	Ⅱ
英文	3	選	MM71	英語文化論５－１	2	−	Ⅱ
英文	3	選	MM72	英語文化論５－２	2	−	Ⅱ
英文	2	選	MB23	メディア・コミュニケーション入門１	2	○	Ⅲ
英文	2	選	MB25	メディア・コミュニケーション入門２	2	○	Ⅲ
英文	2	選	MM73	英語文化論６－１	2	−	Ⅲ
英文	2	選	MP16	英語基礎研究８－２	2	○	Ⅲ
英文	2	選	MP19	英語基礎研究10－１	2	○	Ⅲ
英文	2	選	MP20	英語基礎研究10－２	2	○	Ⅲ
英文	3	選	MJ19	メディア・コミュニケーション特講１	2	−	Ⅲ
英文	3	選	MJ30	メディア・コミュニケーション特講８－２	2	−	Ⅲ
英文	3	選	MF31	英語学特講６－１	2	−	−
英文	3	選	MF32	英語学特講６－２	2	−	−
○日文学科生以外にとって「関連分野」となる科目							
日文	1	選	CD17	日本語の世界	2	○	Ⅰ
日文	1	選	CD18	日本語教育の世界	2	○	Ⅰ
日文	2	選	CF12	日本語教授法Ⅰ（1）	2	○	Ⅰ
日文	2	選	CF13	日本語教授法Ⅰ（2）	2	○	Ⅰ
日文	2	選	CD19	日本語学概説１	2	−	Ⅰ
日文	2	選	CD20	日本語学概説２	2	−	Ⅰ
日文	2	選	CD27	日本語史概説１	2	−	Ⅰ
日文	2	選	CD28	日本語史概説２	2	−	Ⅰ
日文	2	選	CG12	言語学概論１	2	−	Ⅰ
日文	2	選	CG13	言語学概論２	2	−	Ⅰ
日文	2	選	CG27	中国文学概論１	2	−	Ⅰ
日文	2	選	CG28	中国文学概論２	2	−	Ⅰ
日文	2	選	CG29	日本語日本文学特殊研究	2	−	Ⅰ
日文	3	選	CD58	日本語学研究１	2	−	Ⅰ
日文	3	選	CD59	日本語学研究２	2	○	Ⅰ
日文	1	選	CA13	古典文学の世界	2	○	Ⅱ
日文	1	選	CA14	近代文学の世界	2	○	Ⅱ
日文	2	選	CA71	日本文学史１	2	−	Ⅱ
日文	2	選	CA72	日本文学史２	2	−	Ⅱ
日文	2	選	CA73	日本文学史３	2	−	Ⅱ
日文	2	選	CA74	日本文学史４	2	−	Ⅱ
日文	2	選	CA75	日本文学史５	2	−	Ⅱ
日文	2	選	CA76	日本文学史６	2	−	Ⅱ
日文	2	選	CG14	文芸創作入門（1）	2	−	Ⅱ
日文	2	選	CG15	文芸創作入門（2）	2	−	Ⅱ
日文	3	選	CB17	古典文学研究１	2	−	Ⅱ
日文	3	選	CB18	古典文学研究２	2	−	Ⅱ
日文	3	選	CB19	古典文学研究３	2	○	Ⅱ
日文	3	選	CB20	古典文学研究４	2	−	Ⅱ
日文	3	選	CB42	近代文学研究１	2	−	Ⅱ
日文	3	選	CB43	近代文学研究２	2	−	Ⅱ
日文	3	選	CB44	近代文学研究３	2	○	Ⅱ
日文	3	選	CB45	近代文学研究４	2	−	Ⅱ
○史学科生以外にとって「関連分野」となる科目							
史学	2	選	DB80	日本史史料論１	2	○	Ⅰ
史学	2	選	DB81	日本史史料論２	2	○	Ⅰ
史学	3	選	DB82	日本史史料論３	2	−	Ⅰ
史学	3	選	DB83	日本史史料論４	2	−	Ⅰ
史学	3	選	DB84	史料講読１	2	−	Ⅰ
史学	3	選	DB85	史料講読２	2	−	Ⅰ
史学	3	選	DB86	史料講読３	2	−	Ⅰ
史学	3	選	DB87	史料講読４	2	−	Ⅰ
史学	3	選	DH25	世界史文献講読Ⅱ－１（1）	2	−	Ⅰ
史学	3	選	DH26	世界史文献講読Ⅱ－１（2）	2	−	Ⅰ
史学	3	選	DH27	世界史文献講読Ⅱ－２（1）	2	−	Ⅰ
史学	3	選	DH28	世界史文献講読Ⅱ－２（2）	2	−	Ⅰ
史学	3	選	DH29	世界史文献講読Ⅱ－３（1）	2	−	Ⅰ
史学	3	選	DH30	世界史文献講読Ⅱ－３（2）	2	−	Ⅰ
史学	3	選	DH31	世界史文献講読Ⅱ－４（1）	2	−	Ⅰ
史学	3	選	DH32	世界史文献講読Ⅱ－４（2）	2	−	Ⅰ
史学	3	選	DH33	世界史文献講読Ⅱ－５（1）	2	−	Ⅰ
史学	3	選	DH34	世界史文献講読Ⅱ－５（2）	2	−	Ⅰ
史学	2	選	DB23	日本文化史１	2	○	Ⅱ
史学	2	選	DB24	日本文化史２	2	○	Ⅱ
史学	2	選	DA35	教養としての歴史１	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DA36	教養としての歴史２	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DA37	教養としての歴史３	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DA38	教養としての歴史４	2	○	Ⅲ

担当研究室	レベル	区分	コード	授業科目名	単位	基礎課程	L.A.区分
史学	2	選	DA39	教養としての歴史５	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DA40	教養としての歴史６	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DA41	教養としての歴史７	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DA42	教養としての歴史８	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DA43	教養としての歴史９	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DA44	教養としての歴史10	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DA45	教養としての歴史11	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DA46	教養としての歴史12	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DA47	教養としての歴史13	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DA48	教養としての歴史14	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DA54	日本史概説	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DA64	外国史概説	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DA73	地誌学	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DB35	日本古代史１（１）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DB36	日本古代史１（２）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DB37	日本古代史２（１）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DB38	日本古代史２（２）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DB44	日本中世史１（１）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DB45	日本中世史１（２）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DB46	日本中世史２（１）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DB47	日本中世史２（２）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DB67	日本近世史１（１）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DB68	日本近世史１（２）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DB69	日本近世史２（１）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DB70	日本近世史２（２）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DB74	日本近現代史１（１）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DB75	日本近現代史１（２）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DB76	日本近現代史２（１）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DB77	日本近現代史２（２）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DD24	中国史	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DD25	朝鮮史	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DD26	東南アジア史	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DD27	西アジア史（１）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DD28	西アジア史（２）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DD29	南アジア史	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DD30	古代地中海世界	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DF24	ヨーロッパ中世史１（１）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DF25	ヨーロッパ中世史１（２）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DF26	ヨーロッパ中世史２（１）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DF27	ヨーロッパ中世史２（２）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DF28	ヨーロッパ近代史１（１）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DF29	ヨーロッパ近代史１（２）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DF30	ヨーロッパ近代史２（１）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DF32	ヨーロッパ近代史２（２）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DF34	ヨーロッパ現代史１（１）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DF35	ヨーロッパ現代史１（２）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DF36	ヨーロッパ現代史２（１）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DF37	ヨーロッパ現代史２（２）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DF38	ロシア史	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DF39	アメリカ史（１）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DF40	アメリカ史（２）	2	○	Ⅲ
史学	2	選	DF45	ラテンアメリカ史	2	○	Ⅲ
史学	4	選	DH69	世界史演習Ⅱ－２（１）	2	－	Ⅲ
史学	4	選	DH70	世界史演習Ⅱ－２（２）	2	－	Ⅲ
史学	4	選	DH77	世界史演習Ⅱ－３（１）	2	－	Ⅲ
史学	4	選	DH78	世界史演習Ⅱ－３（２）	2	－	Ⅲ
史学	4	選	DH79	世界史演習Ⅱ－４（１）	2	－	Ⅲ
史学	4	選	DH80	世界史演習Ⅱ－４（２）	2	－	Ⅲ
史学	4	選	DH81	世界史演習Ⅱ－５（１）	2	－	Ⅲ
史学	4	選	DH82	世界史演習Ⅱ－５（２）	2	－	Ⅲ
史学	2	選	DB19	日本考古学	2	○	Ⅳ
史学	2	選	DB20	日本民俗学	2	○	Ⅳ
史学	2	選	DB78	日本史フィールドワーク１	2	○	Ⅳ
史学	2	選	DB79	日本史フィールドワーク２	2	○	Ⅳ
○人間関係学科生以外にとって「関連分野」となる科目							
人関	3	選	EG13	文化人類学特講３	2	○	Ⅱ
人関	2	選	EE17	社会学	2	○	Ⅳ
人関	2	選	EE77	ファッションの社会学	2	－	Ⅳ
人関	2	選	EE92	社会学特講２	2	－	Ⅳ
人関	2	選	EE93	社会学特講３	2	○	Ⅳ
人関	2	選	EE94	社会学特講４	2	－	Ⅳ
人関	2	選	EF01	文化人類学１	2	○	Ⅳ
人関	2	選	EF03	文化人類学	2	－	Ⅳ
人関	2	選	EF12	文化人類学特講１	2	－	Ⅳ
人関	2	選	EF13	文化人類学特講４	2	－	Ⅳ
人関	2	選	EG12	文化人類学特講２	2	○	Ⅳ
人関	2	選	EG15	文化人類学特講５	2	－	Ⅳ
人関	2	選	EG16	文化人類学特講６	2	－	Ⅳ
人関	2	選	EG17	文化人類学特講７	2	○	Ⅳ
人関	2	選	EN03	人間関係概論３	2	－	Ⅳ
人関	2	選	EP19	観光と文化	2	○	Ⅳ
人関	2	選	EP20	開発と文化	2	－	Ⅳ
人関	3	選	EG22	文化人類学特講11	2	－	Ⅳ
人関	3	選	EL14	自然地理学	2	－	Ⅳ
人関	3	選	EL23	人文地理学	2	－	Ⅳ
人関	3	選	EP21	環境と人間	2	－	Ⅳ
人関	2	選	EA10	社会心理学	2	－	Ⅴ
人関	2	選	EB13	社会心理学特講３	2	○	Ⅴ
人関	2	選	EB15	社会心理学特講５	2	－	Ⅴ
人関	2	選	EB16	社会心理学特講６	2	○	Ⅴ
人関	2	選	EB20	社会心理学特講10	2	－	Ⅴ
人関	2	選	EB21	社会心理学特講11	2	－	Ⅴ
人関	2	選	EB22	社会心理学特講12	2	○	Ⅴ
人関	2	選	EN01	人間関係概論１	2	－	Ⅴ
人関	3	選	EA08	メディアと社会心理	2	○	Ⅴ
人関	3	選	EB01	社会心理学特講１	2	○	Ⅴ
人関	3	選	EB14	社会心理学特講４	2	－	Ⅴ
人関	3	選	EB17	社会心理学特講７	2	○	Ⅴ
人関	3	選	EB18	社会心理学特講８	2	－	Ⅴ
人関	3	選	EB19	社会心理学特講９	2	－	Ⅴ
人関	2	選	EE23	家族社会学	2	－	Ⅵ
人関	2	選	EE34	職業社会学	2	－	Ⅵ
人関	2	選	EE91	社会学特講１	2	○	Ⅵ
人関	2	選	EE95	人間関係特講１	2	○	Ⅵ
人関	2	選	EE96	人間関係特講２	2	○	Ⅵ
人関	2	選	EN02	人間関係概論２	2	－	Ⅵ
人関	3	選	EE97	社会学特講５	2	－	Ⅵ
人関	3	選	EE98	社会学特講６	2	－	Ⅵ
人関	3	選	EB02	社会心理学特講２	2	－	－
○国際交流学科生以外にとって「関連分野」となる科目							
国際	2	選	GL15	Japan in the Global Context	2	－	Ⅰ
国際	2	選	GL21	情報処理入門Ⅰ	2	－	Ⅰ

ここにテキストを入力

担当研究室	レベル	区分	コード	授業科目名	単位	基礎課程	L.A.区分
国際	2	選	GN67	English for Global Communicators	2	−	Ⅰ
国際	2	選	GP37	交渉と対話	2	−	Ⅰ
国際	2	選	GP38	言語とアイデンティティ	2	−	Ⅰ
国際	2	選	GP53	リーダーシップ論	2	−	Ⅰ
国際	3	選	GL12	Talking about Global Issues	2	−	Ⅰ
国際	3	選	GL22	情報処理入門II	2	−	Ⅰ
国際	3	選	GP39	グローバル社会と言語	2	−	Ⅰ
国際	3	選	GP40	異文化理解とコミュニケーション	2	−	Ⅰ
国際	2	選	GM48	国際文化政策論1	2	−	Ⅱ
国際	2	選	GP34	異文化メディア論1	2	−	Ⅱ
国際	2	選	GP35	異文化メディア論2	2	○	Ⅱ
国際	2	選	GP54	フランスの社会と文化1	2	○	Ⅱ
国際	2	選	GP55	フランスの社会と文化2	2	○	Ⅱ
国際	1	選	GM15	政治学1	2	○	Ⅲ
国際	1	選	GM37	国際法	2	○	Ⅲ
国際	2	選	GB13	法律学I	2	○	Ⅲ
国際	2	選	GB14	法律学II	2	○	Ⅲ
国際	2	選	GD22	国際経済学1	2	−	Ⅲ
国際	2	選	GD32	ICT社会論	2	−	Ⅲ
国際	2	選	GM11	国際政治学1	2	○	Ⅲ
国際	2	選	GM16	政治学2	2	○	Ⅲ
国際	2	選	GM17	マクロ経済学	2	○	Ⅲ
国際	2	選	GM18	ミクロ経済学	2	○	Ⅲ
国際	2	選	GM19	経済政策論	2	○	Ⅲ
国際	2	選	GM59	国際問題ワークショップ1	2	○	Ⅲ
国際	2	選	GM60	国際問題ワークショップ2	2	○	Ⅲ
国際	2	選	GM67	国際機構論	2	○	Ⅲ
国際	2	選	GM78	現代人権論1	2	○	Ⅲ
国際	2	選	GM79	現代人権論2	2	○	Ⅲ
国際	3	選	GD23	国際経済学2	2	−	Ⅲ
国際	3	選	GM12	国際政治学2	2	○	Ⅲ
国際	3	選	GM20	開発経済論	2	−	Ⅲ
国際	3	選	GM55	難民・移民論	2	−	Ⅲ
国際	3	選	GM56	EU論	2	−	Ⅲ
国際	3	選	GP60	現代家族法1	2	−	Ⅲ
国際	3	選	GP61	現代家族法2	2	−	Ⅲ
国際	4	選	GP26	メディアと社会3	2	−	Ⅲ
国際	1	選	GM50	国際協力基礎ワークショップ	2	○	Ⅳ
国際	1	選	GM63	NGO基礎ワークショップ	2	○	Ⅳ
国際	1	選	GP24	メディアと社会1	2	○	Ⅳ
国際	1	選	GP25	メディアと社会2	2	○	Ⅳ
国際	1	選	GP28	国際メディア論1	2	○	Ⅳ
国際	2	選	GM47	国際文化協力論	2	○	Ⅳ
国際	2	選	GM68	東アジア地域論	2	○	Ⅳ
国際	2	選	GM69	東南アジア地域論	2	○	Ⅳ
国際	2	選	GM70	中東地域論	2	○	Ⅳ
国際	2	選	GM76	ラテンアメリカ地域論	2	○	Ⅳ
国際	2	選	GM77	アフリカ地域論	2	○	Ⅳ
国際	2	選	GM81	国際環境論1	2	○	Ⅳ
国際	2	選	GP27	メディアと社会4	2	○	Ⅳ
国際	2	選	GP29	国際メディア論2	2	○	Ⅳ
国際	2	選	GP36	比較文化論	2	−	Ⅳ
国際	2	選	GP56	フランス事情1	2	○	Ⅳ
国際	2	選	GP57	フランス事情2	2	○	Ⅳ
国際	2	選	GP58	東アジアの社会と文化1	2	○	Ⅳ
国際	2	選	GP59	東アジアの社会と文化2	2	○	Ⅳ
国際	3	選	GM25	ソーシャルビジネス論	2	−	Ⅳ
国際	3	選	GM49	国際文化政策論2	2	−	Ⅳ
国際	3	選	GM64	環境学1	2	−	Ⅳ
国際	3	選	GM65	環境学2	2	−	Ⅳ
国際	3	選	GM82	国際環境論2	2	−	Ⅳ
国際	3	選	GP30	国際ニュースワークショップ1	2	−	Ⅳ
国際	3	選	GP31	国際ニュースワークショップ2	2	−	Ⅳ
国際	3	選	GP33	メディアワークショップ2	2	−	Ⅳ
国際	4	選	GL20	国際協力プロジェクト実習	2	−	Ⅳ
国際	4	選	GP32	メディアワークショップ1	2	−	Ⅳ
○哲学科生以外にとって「関連分野」となる科目							
哲学	1	選	HA15	哲学概論1	2	○	Ⅰ
哲学	1	選	HA16	哲学概論2	2	○	Ⅰ
哲学	2	選	HE28	ギリシア語Ⅰ（1）	2	○	Ⅰ
哲学	2	選	HE29	ギリシア語Ⅰ（2）	2	○	Ⅰ
哲学	2	選	HE30	ラテン語Ⅰ（1）	2	○	Ⅰ
哲学	2	選	HE31	ラテン語Ⅰ（2）	2	○	Ⅰ
哲学	3	選	HB29	哲学・倫理学特講3	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HB33	哲学・倫理学特講7	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HB34	哲学・倫理学特講8	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HB36	哲学・倫理学特講10	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HB45	哲学・倫理学演習1（1）	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HB46	哲学・倫理学演習1（2）	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HB47	哲学・倫理学演習2（1）	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HB48	哲学・倫理学演習2（2）	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HB49	哲学・倫理学演習3（1）	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HB50	哲学・倫理学演習3（2）	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HB53	哲学・倫理学演習5（1）	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HB54	哲学・倫理学演習5（2）	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HB55	哲学・倫理学演習6（1）	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HB56	哲学・倫理学演習6（2）	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HB57	哲学・倫理学演習7（1）	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HB58	哲学・倫理学演習7（2）	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HB59	哲学・倫理学演習8（1）	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HB60	哲学・倫理学演習8（2）	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HE32	ギリシア語II（1）	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HE33	ギリシア語II（2）	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HE34	ラテン語II（1）	2	−	Ⅰ
哲学	3	選	HE35	ラテン語II（2）	2	−	Ⅰ
哲学	1	選	HC15	美学・芸術学概論1	2	○	Ⅱ
哲学	1	選	HC16	美学・芸術学概論2	2	○	Ⅱ
哲学	2	選	HC17	日本美術史1	2	−	Ⅱ
哲学	2	選	HC18	日本美術史2	2	−	Ⅱ
哲学	2	選	HC19	東洋美術史1	2	−	Ⅱ
哲学	2	選	HC20	東洋美術史2	2	−	Ⅱ
哲学	2	選	HC23	西洋美術史1	2	−	Ⅱ
哲学	2	選	HC24	西洋美術史2	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HB35	哲学・倫理学特講9	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HB73	日本思想史学演習2（1）	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HB74	日本思想史学演習2（2）	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HC35	美学・芸術学特講1	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HC36	美学・芸術学特講2	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HC37	美学・芸術学特講3	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HC38	美学・芸術学特講4	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HC39	美学・芸術学特講5	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HC40	美学・芸術学特講6	2	−	Ⅱ

担当研究室	レベル	区分	コード	授業科目名	単位	基礎課程	L.A.区分
哲学	3	選	HC53	美学・芸術学演習1（1）	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HC54	美学・芸術学演習1（2）	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HC55	美学・芸術学演習2（1）	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HC56	美学・芸術学演習2（2）	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HC57	美学・芸術学演習3（1）	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HC58	美学・芸術学演習3（2）	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HD89	キリスト教美術（1）	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HD90	キリスト教美術（2）	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HD91	キリスト教音楽（1）	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HD92	キリスト教音楽（2）	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HD93	キリスト教文学（1）	2	−	Ⅱ
哲学	3	選	HD94	キリスト教文学（2）	2	−	Ⅱ
哲学	1	選	HA17	倫理学概論1	2	○	Ⅲ
哲学	1	選	HA18	倫理学概論2	2	○	Ⅲ
哲学	2	選	HA98	社会思想史1	2	○	Ⅲ
哲学	2	選	HA99	社会思想史2	2	○	Ⅲ
哲学	3	選	HB61	哲学・倫理学演習9（1）	2	−	Ⅲ
哲学	3	選	HB62	哲学・倫理学演習9（2）	2	−	Ⅲ
哲学	1	選	HD43	宗教学概論1	2	○	Ⅳ
哲学	2	選	HA94	西洋古代・中世哲学史1	2	−	Ⅳ
哲学	2	選	HA95	西洋古代・中世哲学史2	2	−	Ⅳ
哲学	2	選	HA96	西洋近現代哲学史1	2	−	Ⅳ
哲学	2	選	HA97	西洋近現代哲学史2	2	−	Ⅳ
哲学	3	選	HB30	哲学・倫理学特講4	2	−	Ⅳ
哲学	3	選	HB71	日本思想史学演習1（1）	2	−	Ⅳ
哲学	3	選	HB72	日本思想史学演習1（2）	2	−	Ⅳ
哲学	3	選	HD77	キリスト教学特講2（1）	2	−	Ⅳ
哲学	3	選	HD78	キリスト教学特講2（2）	2	−	Ⅳ
哲学	1	選	HD41	キリスト教学概論1	2	○	Ⅴ
哲学	1	選	HD42	キリスト教学概論2	2	○	Ⅴ
哲学	1	選	HD44	宗教学概論2	2	○	Ⅴ
哲学	2	選	HD55	キリスト教思想史1	2	○	Ⅴ
哲学	2	選	HD56	キリスト教思想史2	2	○	Ⅴ
哲学	2	選	HD57	宗教思想史1	2	○	Ⅴ
哲学	2	選	HD58	宗教思想史2	2	○	Ⅴ
哲学	3	選	HB27	哲学・倫理学特講1	2	○	Ⅴ
哲学	3	選	HB28	哲学・倫理学特講2	2	○	Ⅴ
哲学	3	選	HB37	哲学・倫理学特講11	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HB38	哲学・倫理学特講12	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HD75	キリスト教学特講1（1）	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HD76	キリスト教学特講1（2）	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HD79	キリスト教学特講3（1）	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HD80	キリスト教学特講3（2）	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HD81	聖書学特講1	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HD82	聖書学特講2	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HD83	宗教学特講1	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HD84	宗教学特講2	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HD85	宗教学特講3	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HD86	宗教学特講4	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HE01	キリスト教学演習1（1）	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HE02	キリスト教学演習1（2）	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HE03	キリスト教学演習2（1）	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HE04	キリスト教学演習2（2）	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HE05	キリスト教学演習3（1）	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HE06	キリスト教学演習3（2）	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HE07	キリスト教学演習4（1）	2	−	Ⅴ
哲学	3	選	HE08	キリスト教学演習4（2）	2	−	Ⅴ
哲学	1	選	HA19	日本思想史学概論1	2	○	Ⅵ
哲学	1	選	HA20	日本思想史学概論2	2	○	Ⅵ
哲学	3	選	HB31	哲学・倫理学特講5	2	−	Ⅵ
哲学	3	選	HB32	哲学・倫理学特講6	2	−	Ⅵ
哲学	3	選	HB51	哲学・倫理学演習4（1）	2	−	Ⅵ
哲学	3	選	HB52	哲学・倫理学演習4（2）	2	−	Ⅵ
○教育学科生以外（※1は教育学専攻生以外）にとって「関連分野」となる科目（聖心リベラル・アーツ群の科目）							
教育	2	選	JC23	教育哲学	2	−	Ⅰ
教育	4	選	JD48	人間学習3	2	−	Ⅱ
教育	4	選	JD49	人間学習4	2	−	Ⅱ
教育	4	選	JD50	人間学習5	2	−	Ⅱ
教育	4	選	JD51	人間学習6	2	−	Ⅲ
教育	4	選	JD52	人間学習7	2	−	Ⅱ
教育	2	選	JC55	比較教育学1 ※1	2	−	Ⅳ
教育	3	選	JC93	発展途上国における教育問題（1）	2	−	Ⅳ
教育	3	選	JC94	発展途上国における教育問題（2）	2	−	Ⅳ
教育	4	選	JD47	人間学習2	2	−	Ⅳ
教育	4	選	JD53	人間学習8	2	−	Ⅳ
教育	4	選	JD46	人間学習1	2	−	Ⅴ
教育	2	選	JC47	生涯学習概論	2	−	Ⅵ
教育	3	選	JC56	比較教育学2 ※1	2	−	Ⅵ
教育	4	選	JD54	人間学習9	2	−	Ⅵ
○心理学科生以外にとって「関連分野」となる科目（ただし、※2は初等教育学専攻生、※3は教育学専攻生にとって「専攻分野」となる）							
心理	1	選	LN17	発達・認知心理学特講7	2	○	Ⅰ
心理	2	選	LM26	学習・言語心理学	2	−	Ⅰ
心理	1	選	LP12	臨床心理学特講2	2	○	Ⅴ
心理	2	選	LM13	感情・人格心理学	2	−	Ⅴ
心理	2	選	LM29	福祉心理学	2	−	Ⅴ
心理	2	選	LN15	発達・認知心理学特講5	2	−	Ⅴ
心理	2	選	LP15	臨床心理学特講5	2	−	Ⅴ
心理	3	選	LM21	精神疾患とその治療	2	−	Ⅴ
心理	1	選	LN11	発達・認知心理学特講1	2	○	Ⅵ
心理	1	選	LP11	臨床心理学特講1	2	○	Ⅵ
心理	2	選	LN16	発達・認知心理学特講6	2	−	Ⅵ
心理	2	選	LN18	発達・認知心理学特講8	2	−	Ⅵ
心理	3	選	LN12	発達・認知心理学特講2	2	−	Ⅵ
心理	2	選	LH11	発達心理学1 ※2	2	−	
心理	2	選	LH12	発達心理学2 ※3	2	−	
~~心理~~	~~2~~	~~選~~	~~LM14~~	~~社会・集団・家族心理学~~	~~2~~	~~−~~	~~−~~
~~心理~~	~~2~~	~~選~~	~~LN19~~	~~発達・認知心理学特講9~~	~~2~~	~~−~~	~~−~~
○副専攻・GLP科目							
※開講学科が所属学科以外の科目が「関連分野」の単位となる。対象となる科目については、各副専攻およびグローバルリーダーシップ・プログラム（GLP）で確認すること。							
○博物館関連科目							
※博物館学芸員課程の科目のうち、以下の科目は、史学科生を含む履修者全員にとって「関連分野」の単位となる。詳細は博物館学芸員課程の履修要項で確認すること。							
史学	2		DJ21	博物館概論	2	○	−
史学	2		DJ28	博物館経営論	2	○	−
史学	2		DJ29	博物館展示論	2	○	−
史学	2		DJ30	博物館資料論	2	○	−
史学	2		DJ32	博物館資料保存論	2	○	−
史学	3		DJ26	博物館情報・メディア論	2	−	−

①心理学科生以外では人間関係学科生のみ「関連分野」として履修可。その他は履修不可。

心理	2	選	LM14	社会・集団・家族心理学	2	−	−

心理　2　選　LN19　発達・認知心理学特講9　2　−　−

ここにテキストを入力

担当研究室	レベル	区分	コード	授業科目名	単位	基礎課程	L.A.区分
史学	3		DJ27	博物館教育論	2	−	−
○聖心リベラル・アーツ群以外の教育学科開講科目（主に教職に関する科目）							
①履修者全員にとって「関連分野」となる科目							
教育	3		RB13	国語科教育法2	2	−	−
教育	3		RB14	国語科教育法3	2	−	−
教育	3		RB15	国語科教育法1（1）	2	−	−
教育	3		RB16	国語科教育法1（2）	2	−	−
教育	3		RB36	社会科教育法1	2	−	−
教育	3		RB37	社会科教育法2	2	−	−
教育	3		RB38	社会・地理歴史科教育法1	2	−	−
教育	3		RB39	社会・地理歴史科教育法2	2	−	−
教育	3		RB40	社会・公民科教育法1	2	−	−
教育	3		RB41	社会・公民科教育法2	2	−	−
教育	3		RB73	英語科教育法2	2	−	−
教育	3		RB74	英語科教育法3	2	−	−
教育	3		RB75	英語科教育法1（1）	2	−	−
教育	3		RB76	英語科教育法1（2）	2	−	−
教育	3		RB82	宗教科教育法2	2	−	−
教育	3		RB83	宗教科教育法3	2	−	−
教育	3		RB86	宗教科教育法1（1）	2	−	−
教育	3		RB87	宗教科教育法1（2）	2	−	−
教育	4		RC16	教育実習指導1	1	−	−
教育	4		RC17	教育実習指導4	1	−	−
教育	4		RC31	教育実習1	2	−	−
教育	4		RC32	教育実習2	2	−	−
②教育学科生以外にとって「関連分野」となる科目							
教育	2		JA13	教育原理1	2	−	−
教育	2		JC13	西洋社会思想	2	−	−
教育	2		JC30	教育方法［含ICT活用］	2	○	−
教育	2		JC48	社会学概論1	2	−	−
教育	2		JC49	社会学概論2	2	−	−
教育	2		JH83	教育心理学	2	−	−
教育	2		KH15	カリキュラム論	2	−	−
教育	2		KH16	外国教育史	2	○	−
教育	2		KH17	日本教育史	2	○	−
教育	3		JH81	道徳教育の理論と実践	2	−	−
教育	3		JH82	教育相談	2	−	−
教育	3		JH84	特別活動	2	○	−
教育	3		JH85	生徒指導［含進路指導］	2	○	−
教育	3		KH18	教育経営と学校制度	2	−	−
③教育学専攻生以外の履修者にとって「関連分野」となる科目							
教育	2		RA22	教育原理 2	2	○	−
教育	3		JC34	教育メディア論	2	○	−
教育	3		JE13	メディア教材開発	2	−	−
教育	3		JE14	教育情報と学習デザイン	2	−	−
④教育学専攻生・初等教育学専攻初等教育コース生以外の履修者にとって「関連分野」となる科目							
教育	2		JH86	特別支援教育概論	2	−	−
教育	3		JH87	総合的な学習の時間の指導法	2	−	−
⑤初等教育学専攻初等教育コース生以外の履修者にとって「関連分野」となる科目							
教育	3		KH19	教職入門	2	○	−
教育	4		KG44	教職実践演習	2	−	−

担当研究室	レベル	区分	コード	授業科目名	単位	基礎課程	L.A.区分
○大学院開講科目							
※学部生が履修可能な大学院開講科目のうち、所属学科専攻コースのカリキュラムで「専攻分野」となる科目以外の科目は「関連分野」の単位となる。							

C. 卒業論文

C-1. 卒業要件

担当研究室	レベル	区分	コード	授業科目名	単位	基礎課程
▼卒業論文（カリキュラムマップ：全学９）						
卒業要件	□最終年次に卒業論文を提出し、その審査に合格（８単位修得）すること					
教務	4	必修	SA11	卒業論文	8	−

C-2. 提出資格

卒業論文は、本学に在籍している 4 年次生で、前期履修登録時に「卒業論文」を履修登録した者が提出することができます。

C-3. 卒業論文の履修登録

「卒業論文」は、自動登録科目です。

卒業論文提出予定者（４年次生で卒業論文の単位を未修得の者）は、前期履修登録時に必ずSophieの履修登録画面にて登録されていることを確認してください。履修登録確認期間にも、再度確認してください。履修登録がない場合は卒業論文を提出することができませんので注意してください。

C-4. 提出スケジュール

卒業論文に関する日程については、Sophieに掲示します。

C-5. 提出に関する注意事項

① 卒業論文は、提出期日・時間を厳格に定めています。提出時間にわずかでも遅れた場合、たとえどのような事情があろうと、一切受理されません。また、卒業論文を本人以外の者が提出することはできません。健康管理も含め、十分に注意してください。

② 体裁・仕様が所定の規格を満たしていない場合や、必要な書類がそろっていない場合は受理されません。~~ガイダンスでの説明および~~掲示~~物~~をよく確認し、提出の準備を進めてください。

③ 卒業論文が受理されなかった場合は、卒業所要単位を修得できないため、卒業することができません。

C-6. 評価について

1. 評価方法

当該学科・専攻の複数の教員による評価および卒業論文審査会議で合否を決定します。

2. 評価の前提条件

・各学科・専攻が定める分量と形式の基準を満たしていること。
・剽窃、改竄などの研究倫理に反する行為がないこと。
・各学科・専攻が指定する研究指導を受けていること。

3. 評価基準

各学科・専攻の学問領域によって細部は異なりますが、概ね以下の基準を適用します。

・研究テーマの設定（自らの問題意識に基づき、学術的にも意義のあるテーマを設定しているか）
・先行研究の把握（先行研究を的確に整理し、先行研究の到達点と問題点を正確に理解しているか）
・資料の収集と使用（資料を充分に収集し、それらを正確かつ批判的に使用しているか）
・論理的な思考展開（資料に基づく実証を積み重ね、論理的な思考を展開しているか）

4. 成績評価

上記（1）（2）に基づき、それらを総合して、「AA」「A」「B」「C」「F」の判定をし、「C」以上を合格とします。

AA：とくに優れている。
A：優れている。
B：充分である。
C：不充分な点が多い。
F：合格の最低基準を満たしていない。

＊合格した論文についても、指導教員から形式上の修正等を求められる場合があります。とくに「C」評価の場合には、指導教員からの指示を受け、修正しなければなりません。

D. 卒業要件外となる単位

D-1. 卒業要件外となる単位

以下の修得単位は、卒業所要単位に含まれません。

①４単位を超えて修得した「キリスト教学Ⅰ」の単位
②４単位を超えて修得した「キリスト教学Ⅱ」の単位
③８単位を超えて修得した「１年次生限定科目」の単位
④分野系列「資格関係分野」に算入された単位

成績通知書等の単位集計欄では、①②は全学必修分野の単位に含まれていますが、余剰分となります。③は、「その他卒業要件外」の欄に集計されます。④は、「資格関係分野」の欄に集計されます。

D-2. 資格関係分野の科目

資格課程にかかわる科目のうち、分野系列「資格関係分野」に分類される科目の修得単位は卒業要件外の単位となります。対象となる科目は、資格課程履修者の所属によって異なります。

資格関係分野の科目は、卒業に必要な科目ではありませんが、資格課程を修了するために必要な科目が含まれていますので、資格課程履修者は、各資格課程の履修要項やガイダンス等でカリキュラムをよく確認してください。

＜科目リストの見方＞

・レベル　：授業内容のレベル　⇒「ナンバリングコード」p.16参照
・区分　　：「必修」必修科目、「選必」選択必修、「選」選択科目、「◎選」必履修科目、「－」卒業要件外科目
・基礎課程：「○」１年次生履修可、「－」１年次生履修不可

※開講状況、履修条件は当該年度のシラバス、開講科目一覧等を確認してください。

開講学科	レベル	区分	コード	授業科目名	単位	基礎課程
▼履修者全員にとって「資格関係分野」となる科目						
史学	4	－	DJ41	博物館実習	3	－
▼初等教育学専攻初等教育コース生以外にとって「資格関係分野」となる科目 ※初等教育コースの学生にとっては「専攻分野」の単位となる。詳細は初等教育コースのカリキュラムページを参照						
教育	3	－	KA13	国語概論［含書写］	2	
教育	3	－	KA21	社会科概論	2	－
教育	3	－	KA31	生活科概論	2	－
教育	3	－	KA42	算数概論	2	－
教育	3	－	KA51	理科概論	2	－
教育	3	－	KA65	音楽概論	2	－
教育	3	－	KA73	図画工作概論	2	－
教育	3	－	KA82	家庭科概論	2	－
教育	3	－	KA92	体育概論	2	－
教育	3	－	KA94	外国語概論	2	－
教育	3	－	KB12	国語科教育法（小学校）	2	－
教育	3	－	KB22	社会科教育法（小学校）	2	－
教育	3	－	KB31	生活科教育法	2	－
教育	3	－	KB41	算数科教育法	2	－
教育	3	－	KB51	理科教育法	2	－
教育	3	－	KB61	音楽科教育法	2	－
教育	3	－	KB72	図画工作科教育法	2	－
教育	3	－	KB81	家庭科教育法	2	－
教育	3	－	KB91	体育科教育法	2	－
教育	3	－	KB93	外国語教育法（小学校）	2	－
教育	4	－	KG15	教育実習指導２	1	－
教育	4	－	KG16	教育実習指導５	1	－
▼初等教育学専攻幼児教育コース生以外にとって「資格関係分野」となる科目 ※幼児教育コースの学生にとっては「専攻分野」の単位となる。詳細は幼児教育コースのカリキュラムページを参照						
教育	3	－	KA66	子どもと音楽表現	2	○
教育	3	－	KA96	特別支援教育・保育総論	2	－
教育	3	－	KC12	保育・幼児教育課程論	2	－
教育	3	－	KD01	保育内容総論	2	－
教育	3	－	KD13	保育内容[健康]	2	－
教育	3	－	KD33	保育内容[人間関係]	2	－
教育	3	－	KD43	保育内容[環境]	2	－
教育	3	－	KD53	保育内容[言葉]	2	－
教育	3	－	KD74	保育内容[表現]	2	－
教育	3	－	KD83	保育内容の理解と方法１	2	－
教育	3	－	KD84	保育内容の理解と方法２	2	－
教育	3	－	KE17	保育方法論	2	－
教育	3	－	KG25	教育実習指導３	1	－
教育	3	－	KG26	教育実習指導６	1	－
教育	3	－	KG43	保育・教職実践演習	2	－
教育	4	－	KH14	保育者論	2	－
教育	3	－	KJ01	子どもと健康	2	－
教育	3	－	KJ02	子どもと人間関係	2	－
教育	3	－	KJ03	子どもと環境	2	－
教育	3	－	KJ04	子どもと言葉	2	－
教育	3	－	KJ05	子どもと造形表現	2	－
教育	3	－	PB09	子ども理解と援助	2	－
教育	2	－	PA02	社会福祉	2	○
▼初等教育学専攻生以外にとって「資格関係分野」となる科目 ※初等教育学専攻の学生にとっては「専攻分野」の単位となる。詳細は各自所属のコースのカリキュラムページを参照。						
教育	4	－	KH12	保育原理	2	○
教育	4	－	KH09	教育実習３	2	－
教育	4	－	KH10	教育実習４	2	－

2. 基礎課程（1年次生）

2-1. 基礎課程（1年次生）の履修

大学では、開講されている科目の中から自分自身で科目を選択して時間割を作ります。時間割を作る際には、ルールがあり、それがカリキュラムです。カリキュラムには卒業までに履修する科目とその履修方法が定められていて、定められた年次に順序よく必ず修得しなければならない科目（必修科目）、科目群から指定の単位数修得しなければならない科目（選択必修科目）を履修し、それに加え、自由に選択して履修できる科目（選択科目）を学修する仕組みになっています。4年次には学修の集大成として「卒業論文」を執筆します。

本学では1年次を「基礎課程」と呼び、2年次以降、学科・専攻・コースに分かれてからを「専攻課程」と呼んでいます。基礎課程では、専攻課程に向けての基礎をしっかり作るための学修を進めます。なお、1年次終了時に最低20単位（卒業要件外単位を含む）修得していることが、2年次に進級するための修得単位数要件となっています。

⇒「学年ごとの進級要件」p.15参照

履修計画を立てるにあたっては、まず、この『履修要覧』の「学部　基本事項」のページをよく読んでください。次に、卒業までに修得しなければならない科目のうち、1年次に履修すべき「年次指定科目」から順番に履修計画をたてていきます。

1. 年次指定科目のクラス分けの方法

1年次の年次指定科目は「1年英語」「第二外国語」「ウェルネス・身体活動」「基礎課程演習」「AI・データサイエンス」です。「AI・データサイエンス」を除き、それぞれクラスに分かれて履修することになるので、自分のクラスを間違えないように履修のための手続きを進めることが重要です。クラス分けは次のような順序で行いますので、一つ一つ順番に進めてください。

①第二外国語の希望をWebで申請する→第二外国語の言語とクラスが決まる→Sophieの履修登録状況照会画面上に表示される。

②プレイスメントテストを受ける→「1年英語」のクラスが決まる→Sophieに表示される。

③「基礎課程演習」の希望をSophieの事前登録で申請する→クラスが決まる→Sophieに表示される。

④第二外国語の時間割に重ならないように「ウェルネス・身体活動（実技）」の希望をSophieの事前登録で申請する→クラスが決まる→Sophieに表示される。

2. 年次指定科目以外の科目の選択について

科目を選ぶ際には『授業計画書』（通称：シラバス）を見てください。シラバスには、授業の内容等が記載されています。1年次生が履修できる科目は、開講年度のシラバスに記載された対象学年や、『履修要覧』の「1．現代教養学部　共通事項」に掲載されている科目リストの「基礎課程」欄に○が記載されている科目です。開講年度ごとの『開講科目一覧』の対象学年も確認してください。また、ナンバリングコードで示されている学修段階における各授業科目のレベルも参考に科目を選択してください。

・1年次生の登録単位数の上限は40単位です。40単位に収まるよう、1年次の前期後期を通じた履修計画を立て、前期登録時には通年科目と前期科目、後期科目を履修登録してください。後期履修登録時に、後期科目を追加で履修登録することもできます。

・「ジェネラルレクチャー」のある水曜4時限目は、履修登録をすることができません。

・「AI・データサイエンス基礎」は1年次の年次指定科目および必修科目です。前期に修得できなかった学生は、後期に再度履修し、修得を目指すことになります。これにより後期履修登録時点で、登録単位数の上限（40単位）を超える場合は、2単位分の登録科目の見直しが必要になります。

・クラス分けが行われた①～④の時間割に重ならないように科目を選んでください。

・「キリスト教学Ⅰ」は1年次での履修が推奨されます。

・毎日Sophieで掲示を確認してください。開講情報の変更や、人数制限や抽選の方法についての情報があります。最新の情報にしたがって履修計画を立ててください。

・履修したい科目は初回の授業に必ず出席してください。人数制限のための抽選が行われる場合もあります。

・1年次生限定科目は、8単位まで卒業所要単位に含めることができます。8単位を超えて履修して修得した単位は、卒業所要単位に含めることができないので注意が必要です。

3. 基礎課程で修得した専攻課程科目の単位の扱い

1年次生が履修可能な専攻課程科目について修得した単位は、2年次進級後は、所属の学科・専攻・コースのカリキュラムに従って、該当する分野系列に算入されます。所属学科決定後の成績通知書等で確認してください。

4. アカデミック・アドバイザー制度

基礎課程演習のクラスは前期科目ですが、基礎課程演習で選択したクラスの授業担当者（本学専任教員）が、1年間を通じてアカデミック・アドバイザーとなります。授業のこと、将来の進路と学びの関係、専攻決定、学生生活などアドバイスを受けることができます。

5. 1年次センター

各学科には学生研究室があり、学科に分かれる前の基礎課程1年次生のためには、1年次センターがあります。専任職員が常駐していて、学生生活全般にわたる相談や質問を受け付けています。センター内には1年次生が自由に使用できるパソコンがあり、授業の準備や予習・復習などもできます。また、学生同士の交流の場としても活用できます。

＜時間割表（例）＞

◆Sophie 時間割表　　※履修登録に際しては、『履修要覧』および掲示をよく読んでください

履修登録・登録状況照会

氏名				学籍番号	
所属	現代教養学部　基礎課程			学年	1年
年度・学期	20○○年度　前期	期限	前期	年度登録単位数	40単位
副専攻 資格情報					

最終更新日時：

前期　後期　　集中講義・副専攻修了レポート等を登録　※時間割の科目名の下に教員名が入ります

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	未登録	AE21-16 1年英語１　Z	未登録	未登録	AE21-16 1年英語１　Z	未登録
2限		AK21-01 1年コリア語文法 （1）Z	未登録	AS35-01 暮らしのファイナンス	AK21-01 1年コリア語文法 （1）Z	AK23-01 1年コリア語オラル （1）Z
3限	AB04-01 英語の世界	未登録	未登録	AA10-11 体育運動学　11	AM17-01 キリスト教学Ⅰ－7	未登録
4限		AS38-01 ジャーナリズムの現在	ジェネラル レクチャー	AS69-01 グローバル共生基礎Ⅰ	未登録	未登録
5限	BD30-11 基礎課程演習　11	未登録	GP12-01 グローバル・メディア Ⅰ（2）	GM55-01 難民・移民論	未登録	未登録

集中講義など				集中講義・副専攻修了 レポート等を登録
曜日	時限	講義コード	科目	担当教員名
その他	その他	BA01-01	AI・データサイエンス基礎	*

2-2. 各学科のアドミッション・ポリシー

アドミッション・ポリシーは、本来、受験生に対して示した大学や学科の入学者受入れ方針ですが、各学科の学びに必要と思われる能力や資質などが書かれています。学科専攻がどのような学生を求めているかを理解し、２年次の所属学科・専攻・コースの選択に向けて基礎課程での学修の仕方を考えてみましょう。

▼英語文化コミュニケーション学科

英語文化コミュニケーション学科に進学・編入学する学生は、卒業時までに学科のディプロマ・ポリシーに示した三種類の能力や姿勢を身に着けることが目標になります。そのため、本学科に進学・編入学を希望する学生には次のような能力や資質が必要と考えます。

1．英語の４技能についての「基礎力」をしっかりと身につけ、英語による卒業論文執筆に求められる論理的思考力・批評力・創造力を養うべく、授業だけでなく日頃の生活においても英語の運用能力を高めようという前向きの姿勢を持っていること。
2．「英語学・英語教育学」「英米文学」「メディアと社会」という三つの専門的な研究分野を体系的かつ体験的に学ぶ上で大切な、読書、創作や社会貢献などの「経験の積み重ね」をしてきていること。また、自分の興味・関心に応じて、その場限りに終わらない「経験の積み重ね」や「知識の蓄積」を３年間じっくりしていこうという姿勢があること。
3．積極的に新しい世界を見よう、つながろう、開こうとする「とらわれのない姿勢」と「前向きのチャレンジ精神」をもっていること。
4．グローバル社会における多文化共生や社会の多様性とインクルージョンの重要性を理解し、自らもその一員として積極的に行動しようとする意欲をもっていること。

▼日本語日本文学科

日本語日本文学科では、学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づく授業科目を履修し、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に見合う能力・姿勢を身につけて行くための素地として、高等学校での学習を通じて、入学前に次の能力・資質を身につけていることを期待します。編入学生に対しても、入学前の学業を通じて同様の能力・資質を備えていることを求めます。

1．日本語日本文学科が提供する３つの学問分野、日本語学・日本文学・日本語教育学は、いずれも言葉、人間、社会への関心を基盤としています。そのため、言葉に関わる科目である国語、英語（外国語）をはじめ、社会科などの文系諸科目の学習を通じて、言葉・人間・社会に関する正確な知識と、知的好奇心を身につけていることを求めます。
2．上記３つの学問分野はまた、いずれも学問として論理性を備えています。そのため、数学、理科などの理系諸科目の学習を通じて、論理的思考に慣れていることを求めます。
3．上記３つの学問分野はまた、言葉を読み取ること、言葉によって表現することに関わっており、豊かな感性や他者への共感力を必要とします。そのため、国語や芸術科（音楽、美術等）の授業、課外活動、授業外の読書などを通して、自ら表現したり、作品を鑑賞したりする経験を重ね、豊かな感性や共感力を育んでいることを望みます。
4．日本語日本文学科の演習、実習などの授業では、学生どうしの議論や共同作業が重要な位置を占めます。そのため、課外活

動、社会活動などを通じて多様な人と接し、一定の社会性とコミュニケーション力を身につけていることを望みます。

▼史学科

史学科では、日本史と世界史の別にかかわらず、歴史に対する強い好奇心をもち、過去や異文化に対する誤解や思い込みに気づけるような柔軟な姿勢を備えた人に進学してもらいたいと考えています。そのため、高等学校では、次のような学びを深めて欲しいと考えています。

1．地理歴史科の日本史や世界史などの科目を通じて、歴史や地域に関する正確な知識を身につけておく必要があります。また、同時に日本史コースでは古文や漢文、世界史コースでは英語などの外国語の技能が求められます。
2．卒業論文を作成するためには高い思考力・判断力・表現力が求められますので、国語や現代文に親しんでいることはもちろんとして、数学や理科などの授業で必要とされる論理的思考に慣れていることも望まれます。
3．演習科目では主体性を持ちつつ周囲と協働して学ぶ態度が必要とされますので、課外活動などによって、多種多様な人々と接する経験を多く積み重ねていることが大切です。

編入学生についても、上記のアドミッション・ポリシーを満たした学生生活を送っていることが求められます。

▼人間関係科

人間関係学科では、社会調査の方法論を用いて、社会と人間について研究を行います。そのためには、入学者には、研究の視点と社会調査スキルの土台となる素養として、以下の４点を求めます。

1．人間や社会に対して関心があり、日常生活の何気ない場面に埋もれている研究の芽に気づく視点が前提となります。そのためには、日ごろからあちこちにアンテナを張り、さまざまなメディアから情報を豊富に得てください。
2．文献の読解、調査の実施のために、国語や現代文のみならず、図表の読解やデータ処理を行う上で、統計学の素養も求められます。統計学については、入学後に初歩から指導しますが、高校までに機会があれば修得することを推奨します。または、高校までに挫折した場合でも、もう一度、新たな気持ちで初歩から学び直すという勤勉な姿勢が望ましいです。
3．一部の調査法や分析方法を除いて、学科生のほぼ全員が対人調査を実施することから、対人調査の倫理として、コミュニケーション・スキル、礼儀作法や社会常識は、社会人と同等に求められます。誰とでも良好なコミュニケーションを構築できるよう、課外活動、学外活動などを通じて、さまざまな属性の人との交流を経験することが望ましいです。
4．どの方法論でも自分でデータを収集しますので、現場に出ていく行動力やバイタリティが求められます。

編入学生についても、アドミッション・ポリシーは上記と同様に考えています。

▼国際交流学科

国際交流学科では、大学の理念に共感し、国際化した社会のなかで自立した女性として実践的に活動することをめざし、そのための幅広い教養と高い専門性、柔軟な思考力と的確な判断力を身につけようと希望する皆さんに進学していただきたいと願っています。

本学科では、自らの問題意識に基づいて探究を行い、自分の意見を正確に発信し、異なる意見も尊重しながら議論を進め、適切な判断を下す力も重要だと考えています。

そのため、興味・関心のある事柄について協力し合って調べることを体験し、また論理的に考え、書き、話す力、すなわち論理的思考力とコミュニケーション能力を養っておくことが望まれます。

本学科では、コース別に受け入れますが、どちらのコースで学んでも高い言語コミュニケーション能力と、深く幅広い専門知識を身に付け、将来、異文化を理解し国際社会に貢献できる人物になりたいと考える学生を望んでいます。そのため、国際交流の学生には国際社会における様々な現象、動態に関心を持ち、それらの分析や問題解決のために多角的な視野を持って論理的に判断、考察できる能力を身に付けることを期待されます。

▼哲学科

哲学科では、知ることを愛し、固定観念や社会通念にとらわれることなく、理論的、自立的に思考する能力と、他者に対する開かれた態度を身につけようとする人間に入学して欲しいと考えています。また教員養成課程においては、幅広い視野を持ち、総合的思考力を備えた社会科、公民科、地理歴史科、宗教科の教員を目指す人間を求めています。

編入学についても、同様の観点から、哲学への関心や志望動機を重視して選考を行います。

高等学校では、以下の様な学びを大切にして欲しいと考えています。

1．国語、外国語、社会から数学、理科にいたるまで、すべての教科を通じて、ただ細かい知識を学ぶだけではなく、世界、自然、社会、人間について、根本的な原理や構造に対する関心や問いを育む。
2．現代国語、古典、外国語（英語）を問わず、論説的文章と文学的文章の両方について、表面的な読解に終わらず、納得のいくまで考えながら読む習慣を身につけ、また、文献が生まれた背景（歴史、文化、思想など）にも関心を持つ。
3．国語や外国語の学習を通じて、文章力・表現力の基礎を養う。そのためにも、哲学書に限定する必要はないので、幅広い読書を心がける。また、様々な考えを持つ他者との対話の機会を持ち、自分の考えたことを的確に表現する文章力とプレゼンテーション力を磨く。
4．与えられた知識や情報をうのみにせず、論理的根拠や客観的根拠を確かめる習慣を持つ。また、与えられた学習課題に対して既存の答えを出すことに満足するのではなく、問題を掘り下げ、前提を疑う態度を養う。学校での学習だけでなく、日常生活や社会生活においても、固定観念や社会通念にとらわれることなく、幅広い関心を持ち、自分の頭でものを考える習慣を持つ。

▼教育学科：教育学専攻

教育学専攻では、さまざまな教育問題を取り上げながら、教育学を基礎とした理論と方法を学習します。単に必要な知識を身につけるだけでなく、豊かな感性や心を育てることも大切にしています。その中で、人が生きる様々な文脈における学びの課題に向き合うための資質・能力が望まれます。

本専攻では、次のような資質・能力を持つ皆さんに進学・編入学してもらいたいと願っています。

心理学科生

0．高等学校卒業相当の知識・技能
1．教育の持つ社会的重要性と人間形成上の意義についての興味、関心
2．教育の本質を実証的に理解しようとする知的探究心
3．広範で多様な現代の教育問題への関心と課題解決への意欲
4．生涯にわたり学びつづけ、自己向上に積極的に努めようとする気概をもち、教育現場、企業、地域社会、国際社会など、さまざまな「学びの場」で意欲的に活躍したいと考えている方が望まれます。

▼教育学科：初等教育学専攻（初等教育コース・幼児教育コース）

「子どもの成長を喜ぶことができる、感性豊かな教員・保育者」を育成します。専攻内には、4年間の学びを通じて、一人ひとりの子どもに寄り添い、心身の成長を支える教員に不可欠な、豊かな人間性や指導力を伸ばします。

初等教育学専攻は、将来、小学校教員あるいは幼稚園・保育園・子ども園の保育者になることを前提とした特別な専攻です。初等教育コースと幼児教育コースに分かれていて、専攻を修了すると、初等教育コースでは小学校1種の免許が取得でき、幼児教育コースでは幼稚園1種と保育士が取得できるようになっています。したがって、次のような資質・能力を持つ皆さんに進学してもらいたいと願っています。

0．高等学校卒業相当の知識・技能
1．子ども一人ひとりに心をこめて関わることのできる、温かさと豊かな人間性
2．たくましい知的探究心と倫理性、責任感
3．教職・保育職への情熱としなやかな実行力
4．教育・保育の持つ社会的重要性と人間形成上の意義についての興味、関心
5．生涯にわたり学びつづけ、自己向上に積極的に努めようとする気概

この専攻を希望する者は、現時点で、卒業後は教員あるいは保育士になるという強い意志とそのための努力を惜しまない学生であることが望まれます。

▼心理学科

心理学科では、人間の心の働きやその仕組みに興味をもつ人、また、人間の一生涯の発達に関心をもつ人、さらには、こころの問題と支援方法などに興味関心をもつ人など、広く人間のこころの問題に疑問や関心をもつ人に進学してもらいたいと考えています。

さらに、心理学の特色である実証的な研究手法にも関心をもち、主体的に認知、発達、臨床の基礎的知識を学び、それをもとに各自の関心のある専門性を深めたいという学生を受け入れます。
本学科に進学または編入学を希望する学生には、以下のような力、そして態度や姿勢が身についていることが望まれます。
1．自らの問題意識に基づく粘り強い探求心をもっていること。
2．主体的に学ぶ意欲と発信力。
3．他者と協働するのに必要なコミュニケーション能力。
4．自分と異なる意見にも耳を傾け、自分の考え方や行動を振り返ることができる謙虚な態度や姿勢。

3. 英語文化コミュニケーション学科

3-1. 学科のポリシーと卒業生像

1. ディプロマ・ポリシー

英語文化コミュニケーション学科は、学科の用意する様々な授業での学習・研究の経験を積み重ねた結果として、卒業時に次のような三種類の力を身につけていることを期待します。

1．過去から現在に至るまで、英語で培われてきた、さらには英語で新たに開かれていく、世界の多様な文化・社会について、的確な理解と判断をする力。そのために必要な、豊富な知識と柔軟な英語運用力。
2．物事を筋道立てて説明したり、場や状況に応じて有効で効果的な英語コミュニケーションに必要な発信力と表現力。そのために必要な批判的思考力と豊かな想像力。
3．多様な人や社会がつながってグローバル化する世界の一員として、積極的かつ創造的に行動できる計画力・指導力・協働力。

英語文化コミュニケーション学科の卒業生には、生涯を通じて、どのような立場や状況に置かれても、必要に応じて上記三種類の能力を発揮できる、次のような働き手となることを期待します。

a．普段から身近な場所や機会に自分の英語体験を豊かに積み重ね、様々な機会に様々な媒体を通して得られる情報に対して的確な理解・判断ができる人。
b．様々な媒体を柔軟に活用して積極的かつ創造的に発信や表現のできる人。
c．計画力・指導力・協働力を発揮して、積極的かつ創造的に人や社会に働きかけられる人。

2. カリキュラム・ポリシー

英語文化コミュニケーション学科は、ディプロマ・ポリシーに示した三種類の能力を身に着けるために、英語を軸として相互に有機的に結びつき、支えあう研究推進母体として、「土台」「三つの柱」「屋根」という「家」の構造になぞらえた分野系列と年次ごとのカリキュラム体系を示す時系列の二つの視点から以下のようにカリキュラムを編成しています。

また、英語による授業を多数用意して、学生が日常的に英語を使う機会をできるだけ多く持てるようにしています。

（分野系列）

「英語学・英語教育学」「英米文学」「メディアと社会」という三つの専門的な研究の分野が家を支える柱として「過去から現在に至るまで、英語で培われてきた、さらには英語で新たに開かれていく、世界の多様な文化・社会」という幅広い領域を研究対象にしながら、学生一人一人の「英語の世界」の探求を後押しする科目を用意しています。

土台となる「英語コミュニケーション」の系列では「読む・書く・話す・聴く」という英語の運用能力をトータルに訓練し、あわせてオンラインツール・デジタル媒体を学習・研究に活用する技術も習得します。

「世界の多様な文化」の系列では、英語が実際に運用される様々な具体的「世界」を取りあげて、上記三つの研究に直接的・間接的に役立つ英語文化の多様な広がりと厚みを生きた体験として理解します。

（時系列）

年次ごとに、段階的に研究分野の知識や研究能力を積み重ね、深めていけるよう、授業科目を編成しています。

２年次では本学科で学ぶ学問領域の入門、概論等の導入コースを学びます。ディプロマ・ポリシーで掲げる三種類の能力の基礎を学ぶ「英語基礎研究」や、研究分野の理解に必要な英語基礎力を「Academic Reading」「Academic Writing」で身につけます。

３－４年次にはそれぞれの学生が所属するゼミの学習・研究で、英語を自由に駆使しながら、経験・体験をとおして論理的思考力・批評力・創造力・計画力・指導力・協働力を養います。２年次で培った英語の基礎運用能力が段階的に積み重ねていけるよう、３年次必修の「英作文」でさらに高度な論文構成力を身に着け、４年次には、自分の選んだテーマについて主体的・計画的に研究を進め、その成果を論理的で筋道立った英語の卒業論文にまとめます。

そのほか、ゼミの学習・研究以外に、多数用意された自由選択科目や特講類の授業で三つの研究分野や多様な世界の文化について知見を広げ、英語力の向上を目指します。

3. 卒業生像

英語文化コミュニケーション学科生は卒業時に次のような力が身についている：

・過去から現在に至る多様な英語圏文化・社会について的確な理解と判断をするために必要な、豊富な知識と柔軟な英語運用力
・批評的思考力と豊かな想像力、およびその内容を筋道立てて表現できる発信力
・積極的かつ創造的に行動できる計画力・指導力・協働力
・普段から身近な場所や機会に自分の英語体験を豊かに積み重ねていく姿勢

これらを総合して卒業時に形成されている人材像は次のようになる：

・今日の多様な英語圏文化・社会とその歴史についての豊富な知識に基づいて、目的や必要に応じた適切な英語運用能力を発揮しながら、様々な機会に様々な媒体を通して得られる情報に対して的確な理解・判断ができる人、計画力・指導力・協働力を発揮して、積極的かつ創造的に社会への働きかけができる人。

このような人材として、卒業後には次のような姿での活躍が期待される：

・グローバル化する社会・世界の構成員として、どのような立場や状況に置かれても、上記の知識・能力・姿勢・実践力等を兼ね備えた、積極的かつ創造的な働き手となること。

3-2. カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.34を参照してください。

1年次	2年次	3年次	4年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	英語文化コミュニケーション学科の様々な学問領域に出会いながら、英語で読書や情報収集、レポート等の制作、口頭での討論や発表する力を伸ばす	所属ゼミの学習・研究を中心に英語を自由に駆使しながら論理的思考力、批評力・創造力・計画力・指導力・協働力を身につける	自分の選んだテーマに主体的計画的に研究を進め、その成果を論理的で筋道立った英語の卒業論文にまとめる
必修/選択必修	英文－1 概説・基礎研究		
（レベル２）	英文学史概説１、英文学史概説２、英語学概論１、英語学概論２、<英語基礎研究>		
		必修/選択必修 英文－２ 英作文・専門ゼミ	
（レベル３）		<３年英語学演習> <３年英米文学演習> <３年メディア・コミュニケーション演習> <英作文>	
（レベル４）			<４年英語学演習> <４年英米文学演習> <４年メディア・コミュニケーション演習>
	選択必修 英文－３ 特　講　類		
（レベル３）	<英語学特講>、<英米文学特講>、<メディア・コミュニケーション特講>		
（レベル５・６）		大学院英語英文学専攻修士課程開講科目（開講年度ごとに指定）	
自由選択科目 英語の多様なコミュニケーション技術を身につける。また多彩な研究分野を学びながら、文化や場に即した英語の運用能力を高める			
	選択 英文－４ 英語コミュニケーション		
（レベル２） （レベル３）	オラルコミュニケーション１、オラルコミュニケーション２、英文法、資格英語１、資格英語２、Build Your English Skills 英会話１、英会話２、メディア・リテラシー、英語発音法、Impromptu Communication Skills		
選択	英文－５ 英語文化論 等		
（レベル１） （レベル２） （レベル３）	英語文学への招待１、英語文学への招待２ メディア・コミュニケーション入門１、メディア・コミュニケーション入門２、米文学史概説１、米文学史概説２、 異文化理解、英語文化論（1-1・1-2・6-1） 英語史１、英語史２、英語文化論（2-1・2-2・3-1・3-2・4-1・4-2・5-1・5-2）、翻訳を通した企業協力		

3-3. 卒業に必要な単位

分野系列ごとの卒業に必要な単位は、下記のとおりです。

区分・分野系列				カリキュラムマップ	必要単位	卒業要件
● 卒業要件単位 ： 最低126単位					126	
1 全学必修分野： 28単位					28	⇒「全学必修分野」pp.36-38参照
2 専攻課程分野： 最低90単位 ※余剰①と余剰②の合計が最低12単位必要					90	
a 専攻分野： 最低56単位＋余剰①					56	
	必修	a1	必修科目	英文-1、2	12	「3-4. 専攻分野の卒業要件」を参照
	選択必修	a2	英語基礎研究	英文-1	4	
		a3	3年演習	英文-2	4	
		a4	4年演習	英文-2	4	
		a5	特講類	英文-3	8	
	選択	a6	自由選択科目	英文-4、5	−	
b 関連分野： 最低22単位＋余剰②					22	⇒「関連分野」pp.39-45参照
3 卒業論文： 8単位					8	⇒「卒業論文」p.46参照

3-4. 専攻分野の卒業要件

以下、専攻分野の履修要項を記載しています。卒業要件を満たすように履修計画を立ててください。

※履修にあたっては、卒業要件だけでなく、以降に記載されている「履修上の注意」等をよく読むこと。

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

＜科目リストの見方＞

・レベル：授業内容のレベル

⇒「ナンバリングコード」p.16参照

・区分 ：「必修」必修科目、「選必」選択必修、「選」選択科目、「◎選」必履修科目

⇒「履修方法による分類」p.16参照

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
専攻分野の卒業要件			□下記の卒業要件①～⑤を満たすように修得していること □a1～a6 の科目から最低 56 単位修得していること □関連分野と合わせて最低 90 単位修得していること		
▼a1：必修科目 （2・3年次指定科目）					
卒業要件①			□下記（a1）の科目をすべて（計12単位）修得していること		
2	必修	MA16	英語学概論 1	2	2年次指定科目
2	必修	MA17	英語学概論 2	2	2年次指定科目
2	必修	MA34	英文学史概説 1	2	2年次指定科目
2	必修	MA35	英文学史概説 2	2	2年次指定科目
3	必修	ML32	英作文 1	2	3年次指定科目
3	必修	ML33	英作文 2	2	3年次指定科目
▼a2：英語基礎研究 （2年次指定科目）					
卒業要件②			□下記（a2）の科目から最低 4 単位修得していること		
2	選必	MP01	英語基礎研究1－1	2	
2	選必	MP02	英語基礎研究1－2	2	
2	選必	MP03	英語基礎研究2－1	2	
2	選必	MP04	英語基礎研究2－2	2	
2	選必	MP05	英語基礎研究3－1	2	
2	選必	MP06	英語基礎研究3－2	2	
2	選必	MP07	英語基礎研究4－1	2	
2	選必	MP08	英語基礎研究4－2	2	
2	選必	MP09	英語基礎研究5－1	2	
2	選必	MP10	英語基礎研究5－2	2	
2	選必	MP11	英語基礎研究6－1	2	
2	選必	MP12	英語基礎研究6－2	2	
2	選必	MP13	英語基礎研究7－1	2	
2	選必	MP14	英語基礎研究7－2	2	
2	選必	MP15	英語基礎研究8－1	2	
2	選必	MP16	英語基礎研究8－2	2	
2	選必	MP17	英語基礎研究9－1	2	
2	選必	MP18	英語基礎研究9－2	2	
2	選必	MP19	英語基礎研究10－1	2	
2	選必	MP20	英語基礎研究10－2	2	
▼a3：3年演習 （3年次指定科目）					
卒業要件③			□下記（a3）の科目から最低 4 単位修得していること		
3	選必	MD01	3年英語学演習1－1	2	
3	選必	MD02	3年英語学演習1－2	2	
3	選必	MD03	3年英語学演習2－1	2	
3	選必	MD04	3年英語学演習2－2	2	
3	選必	MD05	3年英語学演習3－1	2	
3	選必	MD06	3年英語学演習3－2	2	
3	選必	MD07	3年英米文学演習1－1	2	
3	選必	MD08	3年英米文学演習1－2	2	
3	選必	MD09	3年英米文学演習2－1	2	
3	選必	MD10	3年英米文学演習2－2	2	
3	選必	MD11	3年英米文学演習3－1	2	
3	選必	MD12	3年英米文学演習3－2	2	
3	選必	MD13	3年英米文学演習4－1	2	
3	選必	MD14	3年英米文学演習4－2	2	
3	選必	MD15	3年英米文学演習5－1	2	
3	選必	MD16	3年英米文学演習5－2	2	
3	選必	MD23	3年メディア・コミュニケーション演習1-1	2	
3	選必	MD24	3年メディア・コミュニケーション演習1-2	2	
3	選必	MD25	3年メディア・コミュニケーション演習2-1	2	
3	選必	MD26	3年メディア・コミュニケーション演習2-2	2	
3	選必	MD27	3年メディア・コミュニケーション演習3-1	2	
3	選必	MD28	3年メディア・コミュニケーション演習3-2	2	

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
▼a4：4年演習　（4年次指定科目）					
卒業要件④		□下記（a4）の科目から最低4単位修得していること			
4	選必	MD51	4年英語学演習1－1	2	
4	選必	MD52	4年英語学演習1－2	2	
4	選必	MD53	4年英語学演習2－1	2	
4	選必	MD54	4年英語学演習2－2	2	
4	選必	MD55	4年英語学演習3－1	2	
4	選必	MD56	4年英語学演習3－2	2	
4	選必	MD57	4年英米文学演習1－1	2	
4	選必	MD58	4年英米文学演習1－2	2	
4	選必	MD59	4年英米文学演習2－1	2	
4	選必	MD60	4年英米文学演習2－2	2	
4	選必	MD61	4年英米文学演習3－1	2	
4	選必	MD62	4年英米文学演習3－2	2	
4	選必	MD63	4年英米文学演習4－1	2	
4	選必	MD64	4年英米文学演習4－2	2	
4	選必	MD65	4年英米文学演習5－1	2	
4	選必	MD66	4年英米文学演習5－2	2	
4	選必	MD73	4年メディア・コミュニケーション演習1-1	2	
4	選必	MD74	4年メディア・コミュニケーション演習1-2	2	
4	選必	MD75	4年メディア・コミュニケーション演習2-1	2	
4	選必	MD76	4年メディア・コミュニケーション演習2-2	2	
4	選必	MD77	4年メディア・コミュニケーション演習3-1	2	
4	選必	MD78	4年メディア・コミュニケーション演習3-2	2	
▼a5：特講類					
卒業要件⑤		□下記（a5）の科目から最低8単位修得していること			
3	選必	MF21	英語学特講1－1	2	
3	選必	MF22	英語学特講1－2	2	
3	選必	MF23	英語学特講2－1	2	
3	選必	MF24	英語学特講2－2	2	
3	選必	MF25	英語学特講3－1	2	
3	選必	MF26	英語学特講3－2	2	
3	選必	MF27	英語学特講4－1	2	
3	選必	MF28	英語学特講4－2	2	
3	選必	MF29	英語学特講5－1	2	
3	選必	MF30	英語学特講5－2	2	
3	選必	MF31	英語学特講6－1	2	
3	選必	MF32	英語学特講6－2	2	
3	選必	MG12	英米文学特講2－1	2	
3	選必	MG13	英米文学特講2－2	2	
3	選必	MG14	英米文学特講3－1	2	
3	選必	MG15	英米文学特講3－2	2	
3	選必	MG16	英米文学特講4－1	2	
3	選必	MG17	英米文学特講4－2	2	
3	選必	MG18	英米文学特講5－1	2	
3	選必	MG19	英米文学特講5－2	2	
3	選必	MG21	英米文学特講6－1	2	
3	選必	MG22	英米文学特講6－2	2	
3	選必	MG23	英米文学特講7－1	2	
3	選必	MG24	英米文学特講7－2	2	
3	選必	MG27	英米文学特講8－1	2	
3	選必	MG28	英米文学特講8－2	2	
3	選必	MJ19	メディア・コミュニケーション特講1	2	
3	選必	MJ31	メディア・コミュニケーション特講4-1	2	
3	選必	MJ32	メディア・コミュニケーション特講4-2	2	
3	選必	MJ33	メディア・コミュニケーション特講5-1	2	
3	選必	MJ34	メディア・コミュニケーション特講5-2	2	
3	選必	MJ35	メディア・コミュニケーション特講6-1	2	
3	選必	MJ36	メディア・コミュニケーション特講6-2	2	
3	選必	MJ27	メディア・コミュニケーション特講7-1	2	
3	選必	MJ28	メディア・コミュニケーション特講7-2	2	
3	選必	MJ30	メディア・コミュニケーション特講8-2	2	
5-6	選必	WL** WM**	大学院英語英文学専攻修士課程開講科目		
▼a6：自由選択科目					
1	選	MB17	英語文学への招待1	2	
1	選	MB18	英語文学への招待2	2	
2	選	MB13	米文学史概説1	2	
2	選	MB14	米文学史概説2	2	
2	選	MB23	メディア・コミュニケーション入門1	2	
2	選	MB25	メディア・コミュニケーション入門2	2	
2	選	MB26	オラルコミュニケーション1	2	
2	選	MB27	オラルコミュニケーション2	2	
2	選	ML22	英文法	2	
2	選	ML44	資格英語1	2	
2	選	ML45	資格英語2	2	
2	選	ML46	Build Your English Skills	2	
2	選	MM54	異文化理解	2	
2	選	MM63	英語文化論1－1	2	
2	選	MM64	英語文化論1－2	2	
2	選	MM73	英語文化論6－1	2	
3	選	MB15	英語史1	2	
3	選	MB16	英語史2	2	
3	選	MB19	英会話1	2	
3	選	MB20	英会話2	2	
3	選	ML21	メディア・リテラシー	2	
3	選	ML34	英語発音法	2	
3	選	ML43	Impromptu Communication Skills	2	
3	選	MM65	英語文化論2－1	2	
3	選	MM66	英語文化論2－2	2	
3	選	MM67	英語文化論3－1	2	
3	選	MM68	英語文化論3－2	2	
3	選	MM69	英語文化論4－1	2	
3	選	MM70	英語文化論4－2	2	
3	選	MM71	英語文化論5－1	2	
3	選	MM72	英語文化論5－2	2	
3	選	MM74	翻訳を通した企業協力	2	

3-5. 年次指定科目

指定年次	年次指定科目
2年次	英文学史概説1，英文学史概説2，英語学概論1，英語学概論2，「英語基礎研究」の各科目
3年次	英作文1，英作文2、「3年演習」の各科目
4年次	「4年演習」の各科目

3-6. 履修上の注意

①「3年演習」、「4年演習」について必要単位を超えて履修したい場合は、担当者の許可が必要です。
なお、必要単位を超えて修得した単位は、学科の承認を得られれば、分野系列「特講類」の単位に振り替えることができます。希望者は学科に申し出てください。

②大学院開講科目で学部生が履修可能な科目は、開講年度ごとに指定されます。なお、大学院生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

4. 日本語日本文学科

4-1. 学科のポリシーと卒業生像

1. ディプロマ・ポリシー

日本語日本文学科では、学科の設ける日本語学・日本文学・日本語教育学に関する授業科目（ただし、外国の言語・文学・言語教育との対照に関する授業科目を含む）、および卒業論文作成のための授業科目を履修し、授業内外の活動を通して自身の知見と体験を豊かにし、卒業時に次のような能力と姿勢を身につけることを期待します。

1．過去から今日までの日本の言語・文学・文化に関する、正確で深い理解。さらに日本の言語・文学・文化を、世界のさまざまな言語・文学・文化との関連において捉えるグローバルな視野。そうした理解と視野の上に、日本の言語・文学・文化を世界に向けて発信し、多様な文化的背景をもつ世界の人々との相互理解を促進する姿勢。
2．日本の、また世界の言語・文学・文化の多様性を知ることで養われる、多様な他者を理解し、協調する姿勢。また、既成の枠組みにとらわれず柔軟に思考する力。
3．日本語学・日本文学・日本語教育学の各分野において、考察すべき問題を発見する力。その問題の解明に向けて、信頼できる情報を適切な方法で収集する力。それらの情報に基づき論理的に思考する力。思考の結果を的確に表現する力。そのようにして自らの意見を他者と共有し、他者との議論や協働を通じてよりよいものに高める姿勢。
4．学問的訓練を通じて身につけた、問題発見・情報収集・論理的な思考・的確な表現・他者との協働という能力を、身近な、また社会的な問題に適用し、自らが置かれた立場でさまざまな問題に対応できる力。また、そうした力をいっそう伸ばすべく、生涯にわたって学び続ける姿勢。

2. カリキュラム・ポリシー

日本語日本文学科では、学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づき、日本語学・日本文学・日本語教育学の各分野に関する専門知識を修得し、複数の分野における標準的かつ基本的な研究方法を確実に身につけ、学部における知的訓練の集大成として卒業論文を作成するために、次のような方針で教育課程を編成します。

1．日本語学・日本文学・日本語教育学の各分野において、概説類、演習類、特講類、自由選択科目という４つの授業科目群を設けます。概説類は各分野の基礎的な知識や理論を学ぶ科目群。演習類は各分野の研究方法を身につける科目群。特講類は各分野についてより専門的に学ぶ科目群。自由選択科目は各分野の隣接領域などを幅広く学ぶ科目群です。これらを２年次から４年次にかけて並行して履修するよう、カリキュラムを編成します。その際、履修モデルの提示と履修ガイダンスを通じて段階的な学修を指導します。
2．卒業論文作成のためのゼミナールである研究法実習を４年次の必修とする以外は、全科目を選択必修または選択とします。これにより学生は各自の関心に応じた履修計画を立てることが可能です。ただし、複数の学問分野をバランスよく学ぶよう一定の履修条件を課します。
3．履修モデルは次のとおりです。２年次は概説類を中心に学び、演習類を１科目履修。３年次は特講類を中心に学び、演習類を２科目履修。４年次は特講類を中心に学ぶとともに、自らの専門分野を選択して研究法実習を履修。このように基礎的な知識の修得に始まり、段階的に専門性と研究能力を高め、卒業論文へと学修を進めます。
4．卒業論文は、自分が選んだ研究テーマの分野の指導教員から指導を受け、４年次に作成、提出します。学部における学修の集大成として、少人数制のきめ細かな指導体制を敷きます。

3．卒業生像

日本語日本文学科は、次の能力を身につけた卒業生を社会に送り出すことをめざします。

- 的確な日本語の知識にもとづく、高いコミュニケーション能力
- 過去の、また今日の日本の言語・文学・文化を理解し、世界に向けて発信できる能力
- 言語や文学の多様なあり方を知り、既成の枠組みにとらわれずに柔軟に思考できる能力

日本語日本文学科の学生は卒業後これらの力を生かし、中学校・高等学校の国語教員や外国人に日本語を教える日本語教員など専門性の高い職業をはじめ、航空、通信、放送、出版などさまざまな分野での活躍が期待されます。大学院に進学した場合も、これらの力を生かすことで学問の向上と成果の社会還元が可能となるはずです。

これらの能力を育てるため、日本語日本文学科は「日本語学」「日本文学」「日本語教育学」の３分野を設けています。

２年次の学生は「概説類」を中心に学び、各分野の基礎的な知識・理論を身につけます。３年次は「演習類・特講類」を主に履修し、各分野の研究方法と専門知識を習得します。４年次には自分が最も関心のある１分野を選択して卒業論文を執筆し、専門知識を増やすとともに、情報収集力、思考力、文章表現力を磨きます。

4-2. カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.34を参照してください。

1年次	2年次	3年次	4年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	【概説】を中心に、<日本語学><日本文学><日本語教育学>の3分野の基礎を学ぶ	【特講】【演習】を中心に、<日本語学><日本文学><日本語教育学>の3分野について専門的に学ぶ	<日本語学><日本文学><日本語教育学>の3分野から自分の専門分野を1つ選び、【研究法実習】【特講】を中心に学び、専門性を深める
			選択必修 日文－6 研究法実習
		（レベル4）	研究法実習1(1)(2)～7(1)(2)
	選択必修 日文－1 概　説		
（標準履修単位）	2年次：8単位	3年次：4単位	4年次：任意
（レベル2）	日本文学史1～6、日本語学概説1～2、日本語史概説1～2		
	選択必修 日文－2 特　講		
（標準履修単位）	2年次：4単位	3年次：8単位	4年次：4単位
（レベル2）	日本語日本文学特殊研究		
（レベル3）	古典文学研究1～4、近代文学研究1～4、児童文学研究 日本語学研究1～2、日本語の文法、日本語の音声		
	選択必修 日文－3 演　習		
（標準履修単位）	2年次：4単位	3年次：8単位	4年次：任意
（レベル3）	古典文学演習1(1)(2)～4(1)(2)、近代文学演習1(1)(2)～4(1)(2)、日本語学演習1(1)(2)～4(1)(2)		
	選択 日文－4 自由選択科目		
（レベル2）	日本語教授法Ⅰ(1)(2)、言語学概論1～2、文芸創作入門（1）（2）、日本文化研究1～2、文章表現法（1）、書道、中国文学概論1～2		
（レベル3）	日本語教授法Ⅱ(1)(2)		
（レベル4）	日本語教育実習(1)(2)		
		（レベル5）	大学院日本語日本文学専攻修士課程開講科目(開講年度ごとに指定)
選択 日文－5 入門科目			
（レベル1）	古典文学の世界、近代文学の世界、日本語の世界、日本語教育の世界		

4-3. 卒業に必要な単位

分野系列ごとの卒業に必要な単位は、下記のとおりです。

区分・分野系列				カリキュラムマップ	必要単位	卒業要件
● 卒業要件単位　：　最低126単位					126	
1　全学必修分野：　28単位					28	⇒「全学必修分野」pp.36-38参照
2　専攻課程分野：　最低90単位　※余剰①と余剰②の合計が最低12単位必要					90	
a　専攻分野：　最低56単位＋余剰①					56	
	選択必修	a1	研究法実習	日文-6	2	「4-4.　専攻分野の卒業要件」を参照
		a2	概説類	日文-1	12	
		a3	演習類 演習類A・演習類B・演習類C	日文-3	12	
		a4	特講類	日文-2	16	
	選択	a5	自由選択科目	日文-4，5	−	
b　関連分野：　最低22単位＋余剰②					22	⇒「関連分野」pp.39-45参照
3　卒業論文：　8単位					8	⇒「卒業論文」p.46参照

4-4. 専攻分野の卒業要件

以下、専攻分野の履修要項を記載しています。卒業要件を満たすように履修計画を立ててください。

※履修にあたっては、卒業要件だけでなく、以降に記載されている「履修上の注意」等をよく読むこと。

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

＜科目リストの見方＞

・レベル：授業内容のレベル

⇒「ナンバリングコード」p.16参照

・区分　：「必修」必修科目、「選必」選択必修、「選」選択科目、「◎選」必履修科目

⇒「履修方法による分類」p.16参照

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
専攻分野の卒業要件			□下記の卒業要件①～④を満たすように修得していること □a1～a5の科目から最低56単位修得していること □関連分野と合わせて最低90単位修得していること		
▼a1：研究法実習　（4年次指定科目）					
卒業要件①			□下記（a1）の科目から2単位を修得していること		
4	選必	CC76	研究法実習1（1）	1	
4	選必	CC77	研究法実習1（2）	1	
4	選必	CC78	研究法実習2（1）	1	
4	選必	CC79	研究法実習2（2）	1	
4	選必	CC80	研究法実習3（1）	1	
4	選必	CC81	研究法実習3（2）	1	
4	選必	CC82	研究法実習4（1）	1	
4	選必	CC83	研究法実習4（2）	1	
4	選必	CE33	研究法実習5（1）	1	
4	選必	CE34	研究法実習5（2）	1	
4	選必	CE35	研究法実習6（1）	1	
4	選必	CE36	研究法実習6（2）	1	
4	選必	CE37	研究法実習7（1）	1	
4	選必	CE38	研究法実習7（2）	1	
▼a2：概説類					
卒業要件②			□下記（a2）の科目から最低12単位を修得していること		
2	選必	CA71	日本文学史1	2	
2	選必	CA72	日本文学史2	2	
2	選必	CA73	日本文学史3	2	
2	選必	CA74	日本文学史4	2	
2	選必	CA75	日本文学史5	2	
2	選必	CA76	日本文学史6	2	
2	選必	CD19	日本語学概説1	2	
2	選必	CD20	日本語学概説2	2	
2	選必	CD27	日本語史概説1	2	
2	選必	CD28	日本語史概説2	2	
▼a3：演習類					
卒業要件③			□下記（a3）の科目から最低12単位を修得していること □演習類A、演習類B、演習類Cの3分野から少なくとも異なる2分野を含むように修得していること		
＜演習類A＞					
3	選必	CC15	古典文学演習1（1）	2	
3	選必	CC16	古典文学演習1（2）	2	
3	選必	CC17	古典文学演習2（1）	2	
3	選必	CC18	古典文学演習2（2）	2	
3	選必	CC19	古典文学演習3（1）	2	
3	選必	CC20	古典文学演習3（2）	2	
3	選必	CC21	古典文学演習4（1）	2	
3	選必	CC22	古典文学演習4（2）	2	
＜演習類B＞					
3	選必	CC45	近代文学演習1（1）	2	
3	選必	CC46	近代文学演習1（2）	2	
3	選必	CC47	近代文学演習2（1）	2	
3	選必	CC48	近代文学演習2（2）	2	
3	選必	CC49	近代文学演習3（1）	2	
3	選必	CC50	近代文学演習3（2）	2	
3	選必	CC51	近代文学演習4（1）	2	
3	選必	CC52	近代文学演習4（2）	2	
＜演習類C＞					
3	選必	CE16	日本語学演習1（1）	2	
3	選必	CE17	日本語学演習1（2）	2	
3	選必	CE18	日本語学演習2（1）	2	

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
3	選必	CE19	日本語学演習２（2）	2	
3	選必	CE20	日本語学演習３（1）	2	
3	選必	CE21	日本語学演習３（2）	2	
3	選必	CE22	日本語学演習４（1）	2	
3	選必	CE23	日本語学演習４（2）	2	
▼a4：特講類					
卒業要件④		●下記（a4）の科目から最低16単位を修得していること			
2	選必	CG29	日本語日本文学特殊研究	2	
3	選必	CB17	古典文学研究1	2	
3	選必	CB18	古典文学研究2	2	
3	選必	CB19	古典文学研究3	2	
3	選必	CB20	古典文学研究4	2	
3	選必	CB39	児童文学研究	2	
3	選必	CB42	近代文学研究1	2	
3	選必	CB43	近代文学研究2	2	
3	選必	CB44	近代文学研究3	2	
3	選必	CB45	近代文学研究4	2	
3	選必	CD29	日本語の文法	2	
3	選必	CD30	日本語の音声	2	
3	選必	CD58	日本語学研究1	2	
3	選必	CD59	日本語学研究2	2	
▼a5：自由選択科目					
1	選	CA13	古典文学の世界	2	
1	選	CA14	近代文学の世界	2	
1	選	CD17	日本語の世界	2	
1	選	CD18	日本語教育の世界	2	
2	選	CF12	日本語教授法Ⅰ（1）	2	
2	選	CF13	日本語教授法Ⅰ（2）	2	
2	選	CG12	言語学概論1	2	
2	選	CG13	言語学概論2	2	
2	選	CG14	文芸創作入門（1）	2	
2	選	CG15	文芸創作入門（2）	2	
2	選	CG16	日本文化研究1	2	
2	選	CG17	日本文化研究2	2	
2	選	CG18	文章表現法（1）	2	
2	選	CG20	書道	2	
2	選	CG27	中国文学概論1	2	
2	選	CG28	中国文学概論2	2	
3	選	CF22	日本語教授法Ⅱ（1）	2	
3	選	CF23	日本語教授法Ⅱ（2）	2	
4	選	CF32	日本語教育実習（1）	1	
4	選	CF33	日本語教育実習（2）	1	
5	選	TA**	大学院日本語日本文学専攻修士課程開講科目		

4-5. 年次指定科目

指定年次	年次指定科目
2年次	−
3年次	−
4年次	「研究法実習」の各科目

4-6. 履修上の注意

①「研究法実習」は卒業論文のテーマに合わせて選択してください。
②次の科目は、日本語日本文学科生は２年次生のみが履修できます。
「古典文学の世界」「近代文学の世界」
「日本語の世界」
③自由選択科目のうち、次の科目は、日本語教員課程登録者のみが履修できます。
「日本語教育の世界」
「日本語教授法Ⅰ（1）」「日本語教授法Ⅰ（2）」
「日本語教授法Ⅱ（1）」「日本語教授法Ⅱ（2）」
「日本語教育実習（1）」「日本語教育実習（2）」
④**国語科教員免許状取得希望者**は、３年次の終わりまでに「文章表現法（1）」を修得しておかなければなりません。
⑤大学院開講科目で学部生が履修可能な科目は、開講年度ごとに指定されます。また、大学院日本語日本文学専攻修士課程開講科目の学部生の履修者数は５名以内とします。なお、大学院生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

4-7. 履修者の人数調整

以下の科目の履修希望者はあらかじめ日文研究室所定の手続き（年度初めのガイダンスで説明）を済ませてください。

（1）演習科目
・規定の人数を超えた場合は、次の優先順位によって履修者の調整を行います。
①４年次生
②日本語日本文学科生（３年次生）
③日本語日本文学科生（２年次生）
④日本語教員課程登録者
⑤日本語日本文学副専攻生（３年次生。ただし、３年次に新規登録した学生は、４年次で履修可能。）

（2）「文芸創作入門（1）」「文芸創作入門（2）」
・規定の人数を超えた場合は、次の優先順位によって履修者の調整を行います。
①日本語日本文学科生（４年次生、３年次生、２年次生の順）
②日本語日本文学副専攻生（４年次生、３年次生、２年次生の順）
③他学科生（４年次生、３年次生、２年次生の順）

（3）「文章表現法（1）」
・規定の人数を超えた場合は、次の優先順位によって履修者の調整を行います。
①国語科教員免許状取得希望者
②日本語日本文学科生（４年次生、３年次生、２年次生の順）

（4）「書道」
・規定の人数を超えた場合は、次の優先順位によって履修者の調整を行います。
①国語科教員免許状取得希望者
②日本語日本文学科生（４年次生、３年次生、２年次生の順）
③国語科教員免許状取得希望の科目等履修生
④小学校教員免許状取得希望者および小学校教員免許状取得希望の科目等履修生

5. 史学科：日本史コース

5-1. 学科のポリシーと卒業生像

1. ディプロマ・ポリシー

史学科では、バランスのとれた歴史観と視野の広い国際感覚を持ち、絶えず変化する社会において、歴史的視点から新たな問題への対処方法を見出すことのできる人材を育成することを目指しています。そのために、３年間の専門課程教育を通して、卒業までに以下のような力を養うことを期待します。

1．我々の社会に生起するさまざまな事象について、歴史的な背景や社会の成り立ちを理解したうえで分析・評価する力。現実の問題に適切に対処するための知識と判断力。
2．教育機関、官公庁や企業などの職場や日々の社会生活において直面するさまざまな問題に対応しうる緻密な思考力と、問題解決に向けて計画を立てる力。
3．過去から現在にいたる日本および世界の文化や社会について、資料や情報を収集する力。また、その資料や情報を自ら分析する力。
4．多様な文化や社会の歴史的成り立ちに関する理解に基づく、高度なコミュニケーション能力と、主体性を持ちつつ周囲と協働する姿勢。
5．歴史知識と十分な情報をもとに考え、その考えを口頭発表や文章の著述を通して、自らの言葉で他者にわかりやすく的確に表現する力。

2. カリキュラム・ポリシー

史学科は、日本史コースと世界史コースに分かれており、必修科目、選択必修科目に加えて、「史学共通科目」並びにそれぞれのコースで開講されている自由選択科目を幅広く履修するカリキュラムを採用しています。そのほか、「教職必修科目」や「博物館関連科目」も開講されています。

２年次生は、日本史コースは「日本史演習Ⅰ」、世界史コースは「世界史演習Ⅰ」「世界史文献講読Ⅰ」を中心に、それぞれが所属する日本史または世界史コースの教員全員から、幅広い時代や地域のテーマを通じて、大学で歴史を学ぶための基礎を学びます。

３年次生は、日本史コースは「日本史演習Ⅱ」、世界史コースは「世界史演習Ⅱ」を履修します。それにより、各自が関心を持つ研究テーマについて、専門的な歴史研究を始めます。同時に、広い歴史的視野を養う目的で、学科の様々な専門的講義も受講します。

４年次生は、自ら設定したテーマを学問的に探究し、卒業論文を執筆します。日本史コースは「日本史演習Ⅲ」、世界史コースは重ねて「世界史演習Ⅱ」を履修し、漢文史料や外国語文献を正確に理解する力を強化します。あわせて、２年次、３年次で身に着けてきた情報収集力、分析力、論理的な文章力をさらに高めます。それらの集大成として、ゼミの教員の指導のもと、卒業論文を完成させます。

3. 卒業生像

史学科では、日本や世界各地における人類の歩みを多様な授業を通じて学びます。そのうえで、学生ひとりひとりが自分の問題関心に沿って研究テーマを決定し、教員の指導の下、残された諸史料や諸研究を収集して、これらをひとつひとつ厳密に分析し、自分なりの歴史像として再構成し、卒業論文として提示することが求められます。こうして３年間の専門課程の教育を受けることで、バランスのとれた歴史観や視野の広い国際感覚が磨かれることになります。つまり、現実の社会で生起するさまざまな事象を何よりも歴史的な視点から分析・評価し、それらに適切に対処できる力を身につけた卒業生として社会に巣立っていくことを願っています。卒業後も、教育機関、官公庁、企業などの職場や日々の社会生活においてさまざまな問題に直面することになるでしょう。そうしたときに、大学で歴史を深く学ぶことで得られた緻密な分析能力をぜひ発揮してもらいたいと思います。

5-2. カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.34を参照してください。

1年次	2年次	3年次	4年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	日本史コースの教員全員と接する機会を得て、各教員から「大学での歴史の学び方」の基礎を、幅広い時代や地域について学ぶ	各自が関心を持つ研究テーマについて、ゼミに所属しながら専門的な歴史研究をスタートさせる。同時に、広い歴史的視野を養う目的で、学科のさまざまな専門的講義も受講する	卒業論文の制作に向けて、ゼミでは漢文史料をはじめとする歴史資料や学術論文を正確に理解する力を強化する
	必修 **史学－5 必修科目**		
（レベル２）	日本史演習Ⅰ(1)(2)		
		選択必修 **史学－6 3・4年演習**	
	（レベル３）	日本史演習Ⅱ-1(1)(2)～4(1)(2)	
		（レベル４）	日本史演習Ⅲ-1(1)(2)～4(1)(2)
選択 **史学－1 史学共通科目**			
（レベル２）	教養としての歴史1～14		
選択 **史学－2 日本史コース講義科目**			
（レベル２）	日本考古学、日本民俗学、日本古代史1 (1)(2)～2 (1)(2)、日本中世史1(1)(2)～2(1)(2)、日本近世史1(1)(2)～ 2(1)(2)、日本近現代史1(1)(2)～2(1)(2) 日本フィールドワーク1～2、日本文化史1～2、日本史史料論1～2		
（レベル３）	日本史史料論3～4、史料講読1～4		
	（レベル５）	大学院史学専攻修士課程開講の日本史科目(開講年度ごとに指定)	
選択 **史学－3 世界史コース講義科目**			
（レベル２）	中国史、朝鮮史、東南アジア史、西アジア史 (1)(2)、南アジア史、古代地中海世界、ヨーロッパ中世史 1 (1)(2)～2(1)(2)、ヨーロッパ近代史 1 (1)(2)～2 (1)(2)、ヨーロッパ現代史 1 (1)(2)～2(1)(2)、ロシア史、アメリカ史(1)(2)、ラテンアメリカ史		
（レベル３）	世界史文献講読Ⅱ－1(1)(2)～Ⅱ－5(1)(2)		
（レベル４）	世界史演習Ⅱ－ 1 (1)(2)～Ⅱ－6(1)(2)		
	（レベル５）	大学院史学専攻修士課程開講の東洋史科目、西洋史科目(開講年度ごとに指定)	
選択 **史学－4 教職必修科目**			
（レベル２）	日本史概説、外国史概説、地誌学		
関連分野 **博物館関連科目（他学科の学生も資格取得可）**			
	関連分野　p.44参照		

5-3. 卒業に必要な単位

分野系列ごとの卒業に必要な単位は、下記のとおりです。

区分・分野系列				カリキュラムマップ	必要単位	卒業要件
● 卒業要件単位 ： 最低126単位					126	
1 全学必修分野： 28単位					28	⇒「全学必修分野」pp.36-38参照
2 専攻課程分野： 最低90単位　※余剰①と余剰②の合計が最低12単位必要					90	
a 専攻分野： 最低56単位＋余剰①					56	
	必修	a1	演習Ⅰ	史学-5	4	「5-4. 専攻分野の卒業要件」を参照
	選択必修	a2	演習Ⅱ	史学-6	4	
		a3	演習Ⅲ	史学-6	4	
	選択	a4	史学共通科目	史学-1	−	
		a5	日本史コース講義科目	史学-2	−	
		a6	世界史コース講義科目	史学-3	−	
		a7	教職必修科目	史学-4	−	
b 関連分野： 最低22単位＋余剰②					22	⇒「関連分野」pp.39-45参照
3 卒業論文： 8単位					8	⇒「卒業論文」p.46参照

5-4. 専攻分野の卒業要件

以下、専攻分野の履修要項を記載しています。卒業要件を満たすように履修計画を立ててください。

※履修にあたっては、卒業要件だけでなく、以降に記載されている「履修上の注意」等をよく読むこと。

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

＜科目リストの見方＞

・レベル：授業内容のレベル

⇒「ナンバリングコード」p.16参照

・区分 ：「必修」必修科目、「選必」選択必修、「選」選択科目、「◎選」必履修科目

⇒「履修方法による分類」p.16参照

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
専攻分野の卒業要件			□下記の卒業要件①～③を満たすように修得していること □a1 ～ a7の科目から最低56単位修得していること □関連分野と合わせて最低90単位修得していること		
▼a1：演習Ⅰ （2年次指定科目）					
卒業要件①			□下記（a1）の科目をすべて（計4単位）修得していること		
2	必修	DC26	日本史演習Ⅰ（1）	2	
2	必修	DC27	日本史演習Ⅰ（2）	2	
▼a2：演習Ⅱ （3年次指定科目）					
卒業要件②			□下記（a2）の科目から、(1) と (2) のペアで最低4単位を修得していること		
3	選必	DC28	日本史演習Ⅱ－1（1）	2	
3	選必	DC29	日本史演習Ⅱ－1（2）	2	
3	選必	DC30	日本史演習Ⅱ－2（1）	2	
3	選必	DC31	日本史演習Ⅱ－2（2）	2	
3	選必	DC32	日本史演習Ⅱ－3（1）	2	
3	選必	DC33	日本史演習Ⅱ－3（2）	2	
3	選必	DC34	日本史演習Ⅱ－4（1）	2	
3	選必	DC35	日本史演習Ⅱ－4（2）	2	
▼a3：演習Ⅲ （4年次指定科目）					
卒業要件③			□下記（a3）の科目から、(1) と (2) のペアで最低4単位を修得していること		
4	選必	DC36	日本史演習Ⅲ－1（1）	2	
4	選必	DC37	日本史演習Ⅲ－1（2）	2	
4	選必	DC38	日本史演習Ⅲ－2（1）	2	
4	選必	DC39	日本史演習Ⅲ－2（2）	2	
4	選必	DC40	日本史演習Ⅲ－3（1）	2	
4	選必	DC46	日本史演習Ⅲ－3（2）	2	
4	選必	DC47	日本史演習Ⅲ－4（1）	2	

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
4	選必	DC48	日本史演習Ⅲ－4（2）	2	
▼a4：史学共通科目					
2	選	DA35	教養としての歴史1	2	
2	選	DA36	教養としての歴史2	2	
2	選	DA37	教養としての歴史3	2	
2	選	DA38	教養としての歴史4	2	
2	選	DA39	教養としての歴史5	2	
2	選	DA40	教養としての歴史6	2	
2	選	DA41	教養としての歴史7	2	
2	選	DA42	教養としての歴史8	2	
2	選	DA43	教養としての歴史9	2	
2	選	DA44	教養としての歴史10	2	
2	選	DA45	教養としての歴史11	2	
2	選	DA46	教養としての歴史12	2	
2	選	DA47	教養としての歴史13	2	
2	選	DA48	教養としての歴史14	2	
▼a5：日本史コース講義科目					
2	選	DB19	日本考古学	2	
2	選	DB20	日本民俗学	2	
2	選	DB23	日本文化史1	2	
2	選	DB24	日本文化史2	2	
2	選	DB35	日本古代史1(1)	2	
2	選	DB36	日本古代史1(2)	2	
2	選	DB37	日本古代史2(1)	2	
2	選	DB38	日本古代史2(2)	2	
2	選	DB44	日本中世史1(1)	2	
2	選	DB45	日本中世史1(2)	2	
2	選	DB46	日本中世史2(1)	2	

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
2	選	DB47	日本中世史2(2)	2	
2	選	DB67	日本近世史1(1)	2	
2	選	DB68	日本近世史1(2)	2	
2	選	DB69	日本近世史2(1)	2	
2	選	DB70	日本近世史2(2)	2	
2	選	DB74	日本近現代史1(1)	2	
2	選	DB75	日本近現代史1(2)	2	
2	選	DB76	日本近現代史2(1)	2	
2	選	DB77	日本近現代史2(2)	2	
2	選	DB78	日本史フィールドワーク1	2	
2	選	DB79	日本史フィールドワーク2	2	
2	選	DB80	日本史史料論1	2	
2	選	DB81	日本史史料論2	2	
3	選	DB82	日本史史料論3	2	
3	選	DB83	日本史史料論4	2	
3	選	DB84	史料講読1	2	
3	選	DB85	史料講読2	2	
3	選	DB86	史料講読3	2	
3	選	DB87	史料講読4	2	
5	選	TC**	大学院史学専攻修士課程開講科目(日本史科目)		
▼a6：世界史コース講義科目					
2	選	DD24	中国史	2	
2	選	DD25	朝鮮史	2	
2	選	DD26	東南アジア史	2	
2	選	DD27	西アジア史(1)	2	
2	選	DD28	西アジア史(2)	2	
2	選	DD29	南アジア史	2	
2	選	DD30	古代地中海世界	2	
2	選	DF24	ヨーロッパ中世史1(1)	2	
2	選	DF25	ヨーロッパ中世史1(2)	2	
2	選	DF26	ヨーロッパ中世史2(1)	2	
2	選	DF27	ヨーロッパ中世史2(2)	2	
2	選	DF28	ヨーロッパ近代史1(1)	2	
2	選	DF29	ヨーロッパ近代史1(2)	2	
2	選	DF30	ヨーロッパ近代史2(1)	2	
2	選	DF32	ヨーロッパ近代史2(2)	2	
2	選	DF34	ヨーロッパ現代史1(1)	2	
2	選	DF35	ヨーロッパ現代史1(2)	2	
2	選	DF36	ヨーロッパ現代史2(1)	2	
2	選	DF37	ヨーロッパ現代史2(2)	2	
2	選	DF38	ロシア史	2	
2	選	DF39	アメリカ史(1)	2	
2	選	DF40	アメリカ史(2)	2	
2	選	DF45	ラテンアメリカ史	2	
3	選	DH25	世界史文献講読Ⅱ－1(1)	2	
3	選	DH26	世界史文献講読Ⅱ－1(2)	2	
3	選	DH27	世界史文献講読Ⅱ－2(1)	2	
3	選	DH28	世界史文献講読Ⅱ－2(2)	2	
3	選	DH29	世界史文献講読Ⅱ－3(1)	2	
3	選	DH30	世界史文献講読Ⅱ－3(2)	2	
3	選	DH31	世界史文献講読Ⅱ－4(1)	2	
3	選	DH32	世界史文献講読Ⅱ－4(2)	2	
3	選	DH33	世界史文献講読Ⅱ－5(1)	2	
3	選	DH34	世界史文献講読Ⅱ－5(2)	2	
4	選	DH67	世界史演習Ⅱ－1(1)	2	
4	選	DH68	世界史演習Ⅱ－1(2)	2	
4	選	DH69	世界史演習Ⅱ－2(1)	2	
4	選	DH70	世界史演習Ⅱ－2(2)	2	
4	選	DH77	世界史演習Ⅱ－3(1)	2	
4	選	DH78	世界史演習Ⅱ－3(2)	2	
4	選	DH79	世界史演習Ⅱ－4(1)	2	
4	選	DH80	世界史演習Ⅱ－4(2)	2	
4	選	DH81	世界史演習Ⅱ－5(1)	2	
4	選	DH82	世界史演習Ⅱ－5(2)	2	
4	選	DH83	世界史演習Ⅱ－6(1)	2	
4	選	DH84	世界史演習Ⅱ－6(2)	2	
5	選	TD**	大学院史学専攻修士課程開講科目(東洋史科目)	2	
5	選	TE**	大学院史学専攻修士課程開講科目(西洋史科目)	2	
▼a7：教職必修科目					
2	選	DA54	日本史概説	2	
2	選	DA64	外国史概説	2	
2	選	DA73	地誌学	2	

5-5. 年次指定科目

指定年次	年次指定科目
2年次	「演習Ⅰ」の各科目
3年次	「演習Ⅱ」の各科目
4年次	「演習Ⅲ」の各科目

5-6. 履修上の注意

(1)「日本史演習Ⅱ」の履修について

①日本史コース所属学生は、「日本史演習Ⅱ」の各科目は、「日本史演習Ⅰ」(計4単位) を修得済みでなければ履修することができません (同時履修も不可)。ただし、後期半年の留学をする学生は、「日本史演習Ⅰ(1)」を修得済みの場合に限り、「日本史演習Ⅰ(2)」と「日本史演習Ⅱ」の各科目を同一年度に履修することが可能です。

②「日本史演習Ⅱ」の科目は3年次に複数選択して履修することができます。

③世界史コース所属および史学副専攻 (日本史コース) 履修の3年次生以上の学生は、所定の手続きを経た上で履修することができます。

(2)「日本史演習Ⅲ」の履修について

①「日本史演習Ⅲ」の各科目は、「日本史演習Ⅱ」を(1)(2)ペアで修得済みでなければ履修することができません (同時履修も不可)。ただし、後期半年の留学をする学生は、「日本史演習Ⅱ」の(1)を修得済みの場合に限り、ペアとなる「日本史演習Ⅱ」の(2)と「日本史演習Ⅲ」の各科目を同一年度に履修することが可能です。なお、日本史コース所属生以外は履修できません。

②「日本史演習Ⅲ」の科目は、4年次に複数選択して履修することができます。

(3) 専攻分野の選択科目の履修について

①日本史コース講義科目のほかに史学共通科目、世界史コース講義科目も履修することを推奨します。

②日本史コース講義科目では、日本史史料論または史料講読の中から4単位程度を履修することを推奨します。

(4) 大学院開講科目について

・大学院開講科目で学部生が履修可能な科目は、開講年度ごとに指定されます。なお、大学院生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

6. 史学科：世界史コース

6-1. 学科のポリシーと卒業生像

1. ディプロマ・ポリシー

史学科では、バランスのとれた歴史観と視野の広い国際感覚を持ち、絶えず変化する社会において、歴史的視点から新たな問題への対処方法を見出すことのできる人材を育成することを目指しています。そのために、３年間の専門課程教育を通して、卒業までに以下のような力を養うことを期待します。

1．我々の社会に生起するさまざまな事象について、歴史的な背景や社会の成り立ちを理解したうえで分析・評価する力。現実の問題に適切に対処するための知識と判断力。
2．教育機関、官公庁や企業などの職場や日々の社会生活において直面するさまざまな問題に対応しうる緻密な思考力と、問題解決に向けて計画を立てる力。
3．過去から現在にいたる日本および世界の文化や社会について、資料や情報を収集する力。また、その資料や情報を自ら分析する力。
4．多様な文化や社会の歴史的成り立ちに関する理解に基づく、高度なコミュニケーション能力と、主体性を持ちつつ周囲と協働する姿勢。
5．歴史知識と十分な情報をもとに考え、その考えを口頭発表や文章の著述を通して、自らの言葉で他者にわかりやすく的確に表現する力。

2. カリキュラム・ポリシー

史学科は、日本史コースと世界史コースに分かれており、必修科目、選択必修科目に加えて、「史学共通科目」並びにそれぞれのコースで開講されている自由選択科目を幅広く履修するカリキュラムを採用しています。そのほか、「教職必修科目」や「博物館関連科目」も開講されています。

２年次生は、日本史コースは「日本史演習Ⅰ」、世界史コースは「世界史演習Ⅰ」「世界史文献講読Ⅰ」を中心に、それぞれが所属する日本史または世界史コースの教員全員から、幅広い時代や地域のテーマを通じて、大学で歴史を学ぶための基礎を学びます。

３年次生は、日本史コースは「日本史演習Ⅱ」、世界史コースは「世界史演習Ⅱ」を履修します。それにより、各自が関心を持つ研究テーマについて、専門的な歴史研究を始めます。同時に、広い歴史的視野を養う目的で、学科の様々な専門的講義も受講します。

４年次生は、自ら設定したテーマを学問的に探究し、卒業論文を執筆します。日本史コースは「日本史演習Ⅲ」、世界史コースは重ねて「世界史演習Ⅱ」を履修し、漢文史料や外国語文献を正確に理解する力を強化します。あわせて、２年次、３年次で身に着けてきた情報収集力、分析力、論理的な文章力をさらに高めます。それらの集大成として、ゼミの教員の指導のもと、卒業論文を完成させます。

3. 卒業生像

史学科では、日本や世界各地における人類の歩みを多様な授業を通じて学びます。そのうえで、学生ひとりひとりが自分の問題関心に沿って研究テーマを決定し、教員の指導の下、残された諸史料や諸研究を収集して、これらをひとつひとつ厳密に分析し、自分なりの歴史像として再構成し、卒業論文として提示することが求められます。こうして３年間の専門課程の教育を受けることで、バランスのとれた歴史観や視野の広い国際感覚が磨かれることになります。つまり、現実の社会で生起するさまざまな事象を何よりも歴史的な視点から分析・評価し、それらに適切に対処できる力を身につけた卒業生として社会に巣立っていくことを願っています。卒業後も、教育機関、官公庁、企業などの職場や日々の社会生活においてさまざまな問題に直面することになるでしょう。そうしたときに、大学で歴史を深く学ぶことで得られた緻密な分析能力をぜひ発揮してもらいたいと思います。

6-2. カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.34を参照してください。

1年次	2年次	3年次	4年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	世界史コースの教員全員と接する機会を得て、各教員から「大学での歴史の学び方」の基礎を、幅広い時代や地域について学ぶ	各自が関心を持つ研究テーマについて、ゼミに所属しながら専門的な歴史研究をスタートさせる。同時に、広い歴史的視野を養う目的で、学科のさまざまな専門的講義も受講する	卒業論文の制作に向けて、ゼミでは日本語・外国語文献を正確に理解する力を強化する
	必修 **史学－5 必修科目**		
（レベル２）	世界史文献講読Ⅰ(1)(2) 世界史演習Ⅰ(1)(2)		
		選択必修 **史学－6 3・4年演習**	
	（レベル４）	世界史演習Ⅱ-1(1)(2)～6(1)(2)	
選択 **史学－1 史学共通科目**			
（レベル２）	教養としての歴史1～14		
選択 **史学－2 日本史コース講義科目**			
（レベル２）	日本考古学、日本民俗学、日本古代史1 (1)(2)～2 (1)(2)、日本中世史1(1)(2)～2(1)(2) 日本近世史1(1)(2)～ 2(1)(2)、日本近現代史1(1)(2)～2(1)(2) 日本フィールドワーク1～2、日本文化史1～2、日本史史料論1～2		
（レベル３）	日本史史料論3～4、史料講読1～4、日本史演習Ⅱ-1(1)(2) ～ 4(1)(2)		
	（レベル５）	大学院史学専攻修士課程開講の日本史科目(開講年度ごとに指定)	
選択 **史学－3 世界史コース講義科目**			
（レベル２）	中国史、朝鮮史、東南アジア史、西アジア史(1)(2)、南アジア史、古代地中海世界、 ヨーロッパ中世史1(1)(2)～ 2(1)(2)、ヨーロッパ近代史1(1)(2)～ 2(1)(2) ヨーロッパ現代史1(1)(2)～ 2(1)(2)、ロシア史、アメリカ史(1)(2)、 ラテンアメリカ史		
（レベル３）	世界史文献講読Ⅱ－1 (1)(2)～Ⅱ－5(1)(2)	（レベル５）	大学院史学専攻修士課程開講の東洋史科目、西洋史科目 (開講年度ごとに指定)
選択			
（レベル２）	日本史概説、外国史概説、地誌学		
関連分野 **博物館関連科目（他学科の学生も資格取得可）**			
	関連分野 p.44		

6-3. 卒業に必要な単位

分野系列ごとの卒業に必要な単位は、下記のとおりです。

区分・分野系列				カリキュラムマップ	必要単位	卒業要件
● 卒業要件単位 ： 最低126単位					126	
1 全学必修分野： 28単位					28	⇒「全学必修分野」pp.36-38参照
2 専攻課程分野： 最低90単位 ※余剰①と余剰②の合計が最低12単位必要					90	
a 専攻分野： 最低56単位＋余剰①					56	
	必修	a1	文献講読Ⅰ	史学-5	4	「6-4. 専攻分野の卒業要件」を参照
		a2	演習Ⅰ	史学-5	4	
	選択必修	a3	演習Ⅱ	史学-6	8	
	選択	a4	史学共通科目	史学-1	−	
		a5	世界史コース講義科目	史学-3	−	
		a6	日本史コース講義科目	史学-2	−	
		a7	教職必修科目	史学-4	−	
b 関連分野： 最低22単位＋余剰②					22	⇒「関連分野」pp.39-45参照
3 卒業論文： 8単位					8	⇒「卒業論文」p.46参照

6-4. 専攻分野の卒業要件

以下、専攻分野の履修要項を記載しています。卒業要件を満たすように履修計画を立ててください。

※履修にあたっては、卒業要件だけでなく、以降に記載されている「履修上の注意」等をよく読むこと。

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

＜科目リストの見方＞

・レベル：授業内容のレベル

⇒「ナンバリングコード」p.16参照

・区分 ：「必修」必修科目、「選必」選択必修、「選」選択科目、「◎選」必履修科目

⇒「履修方法による分類」p.16参照

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
専攻分野の卒業要件			□下記の卒業要件①～③を満たすように修得していること □a1 ～ a7の科目から最低56単位修得していること □関連分野と合わせて最低90単位修得していること		
▼a1：文献講読Ⅰ （2年次指定科目）					
卒業要件①			□下記（a1）の科目をすべて（計4単位）修得していること		
2	必修	DH23	世界史文献講読Ⅰ（1）	2	
2	必修	DH24	世界史文献講読Ⅰ（2）	2	
▼a2：演習Ⅰ （2年次指定科目）					
卒業要件②			□下記（a2）の科目をすべて（計4単位）修得していること		
2	必修	DH53	世界史演習Ⅰ（1）	2	
2	必修	DH54	世界史演習Ⅰ（2）	2	
▼a3：演習Ⅱ （3・4年次指定科目）					
卒業要件③			□下記（a3）の科目から、（1）と（2）のペアで最低8単位を修得していること		
4	選必	DH67	世界史演習Ⅱ－1（1）	2	
4	選必	DH68	世界史演習Ⅱ－1（2）	2	
4	選必	DH69	世界史演習Ⅱ－2（1）	2	
4	選必	DH70	世界史演習Ⅱ－2（2）	2	
4	選必	DH77	世界史演習Ⅱ－3（1）	2	
4	選必	DH78	世界史演習Ⅱ－3（2）	2	
4	選必	DH79	世界史演習Ⅱ－4（1）	2	
4	選必	DH80	世界史演習Ⅱ－4（2）	2	
4	選必	DH81	世界史演習Ⅱ－5（1）	2	
4	選必	DH82	世界史演習Ⅱ－5（2）	2	
4	選必	DH83	世界史演習Ⅱ－6（1）	2	
4	選必	DH84	世界史演習Ⅱ－6（2）	2	
▼a4：史学共通科目					
2	選	DA35	教養としての歴史1	2	

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
2	選	DA36	教養としての歴史2	2	
2	選	DA37	教養としての歴史3	2	
2	選	DA38	教養としての歴史4	2	
2	選	DA39	教養としての歴史5	2	
2	選	DA40	教養としての歴史6	2	
2	選	DA41	教養としての歴史7	2	
2	選	DA42	教養としての歴史8	2	
2	選	DA43	教養としての歴史9	2	
2	選	DA44	教養としての歴史10	2	
2	選	DA45	教養としての歴史11	2	
2	選	DA46	教養としての歴史12	2	
2	選	DA47	教養としての歴史13	2	
2	選	DA48	教養としての歴史14	2	
▼a5：世界史コース講義科目					
2	選	DD24	中国史	2	
2	選	DD25	朝鮮史	2	
2	選	DD26	東南アジア史	2	
2	選	DD27	西アジア史（1）	2	
2	選	DD28	西アジア史（2）	2	
2	選	DD29	南アジア史	2	
2	選	DD30	古代地中海世界	2	
2	選	DF24	ヨーロッパ中世史1（1）	2	
2	選	DF25	ヨーロッパ中世史1（2）	2	
2	選	DF26	ヨーロッパ中世史2（1）	2	
2	選	DF27	ヨーロッパ中世史2（2）	2	
2	選	DF28	ヨーロッパ近代史1（1）	2	
2	選	DF29	ヨーロッパ近代史1（2）	2	
2	選	DF30	ヨーロッパ近代史2（1）	2	

①心理学科生以外では人間関係学科生のみ「関連分野」として履修可能な科目。人間関係学科生は履修不可

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
2	選	DF32	ヨーロッパ近代史2（2）	2	
2	選	DF34	ヨーロッパ現代史1（1）	2	
2	選	DF35	ヨーロッパ現代史1（2）	2	
2	選	DF36	ヨーロッパ現代史2（1）	2	
2	選	DF37	ヨーロッパ現代史2（2）	2	
2	選	DF38	ロシア史	2	
2	選	DF39	アメリカ史（1）	2	
2	選	DF40	アメリカ史（2）	2	
2	選	DF45	ラテンアメリカ史	2	
3	選	DH25	世界史文献講読Ⅱ－1（1）	2	
3	選	DH26	世界史文献講読Ⅱ－1（2）	2	
3	選	DH27	世界史文献講読Ⅱ－2（1）	2	
3	選	DH28	世界史文献講読Ⅱ－2（2）	2	
3	選	DH29	世界史文献講読Ⅱ－3（1）	2	
3	選	DH30	世界史文献講読Ⅱ－3（2）	2	
3	選	DH31	世界史文献講読Ⅱ－4（1）	2	
3	選	DH32	世界史文献講読Ⅱ－4（2）	2	
3	選	DH33	世界史文献講読Ⅱ－5（1）	2	
3	選	DH34	世界史文献講読Ⅱ－5（2）	2	
5	選	TD**	大学院史学専攻修士課程開講科目(東洋史科目)		
5	選	TE**	大学院史学専攻修士課程開講科目(西洋史科目)		
▼a6：日本史コース講義科目					
2	選	DB19	日本考古学	2	
2	選	DB20	日本民俗学	2	
2	選	DB23	日本文化史1	2	
2	選	DB24	日本文化史2	2	
2	選	DB35	日本古代史1（1）	2	
2	選	DB36	日本古代史1（2）	2	
2	選	DB37	日本古代史2（1）	2	
2	選	DB38	日本古代史2（2）	2	
2	選	DB44	日本中世史1（1）	2	
2	選	DB45	日本中世史1（2）	2	
2	選	DB46	日本中世史2（1）	2	
2	選	DB47	日本中世史2（2）	2	
2	選	DB67	日本近世史1（1）	2	
2	選	DB68	日本近世史1（2）	2	
2	選	DB69	日本近世史2（1）	2	
2	選	DB70	日本近世史2（2）	2	
2	選	DB74	日本近現代史1（1）	2	
2	選	DB75	日本近現代史1（2）	2	
2	選	DB76	日本近現代史2（1）	2	
2	選	DB77	日本近現代史2（2）	2	
2	選	DB78	日本史フィールドワーク1	2	
2	選	DB79	日本史フィールドワーク2	2	
2	選	DB80	日本史史料論1	2	
2	選	DB81	日本史史料論2	2	
3	選	DB82	日本史史料論3	2	
3	選	DB83	日本史史料論4	2	
3	選	DB84	史料講読1	2	
3	選	DB85	史料講読2	2	
3	選	DB86	史料講読3	2	
3	選	DB87	史料講読4	2	
3	選	DC28	日本史演習Ⅱ－1（1）	2	
3	選	DC29	日本史演習Ⅱ－1（2）	2	
3	選	DC30	日本史演習Ⅱ－2（1）	2	
3	選	DC31	日本史演習Ⅱ－2（2）	2	
3	選	DC32	日本史演習Ⅱ－3（1）	2	
3	選	DC33	日本史演習Ⅱ－3（2）	2	
3	選	DC34	日本史演習Ⅱ－4（1）	2	
3	選	DC35	日本史演習Ⅱ－4（2）	2	
5	選	TC**	大学院史学専攻修士課程開講科目(日本史科目)		
▼a7：教職必修科目					
2	選	DA54	日本史概説	2	
2	選	DA64	外国史概説	2	
2	選	DA73	地誌学	2	

6-5. 年次指定科目

指定年次	年次指定科目
2年次	「文献講読Ⅰ」の各科目、「演習Ⅰ」の各科目
3年次	「演習Ⅱ」の各科目
4年次	「演習Ⅱ」の各科目

6-6. 履修上の注意

(1)「世界史演習Ⅱ」の履修について

・世界史演習Ⅱの各科目は3年次および4年次の指定科目です。各年次最低4単位履修してください。

(2) 選択科目「日本史演習Ⅱ」の履修について

・世界史コース所属および史学副専攻（日本史コース）履修の3年次生以上の学生は、所定の手続きを経た上で履修することができます。

(3) 大学院開講科目について

・大学院開講科目で学部生が履修可能な科目は、開講年度ごとに指定されます。なお、大学院生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

7. 人間関係学科

7-1. 学科のポリシーと卒業生像

1. ディプロマ・ポリシー

人間関係学科では、社会が大きな転換点を迎える中、「現代社会とそこに生きる人間」の諸問題について、社会調査の方法論を用いて、多角的な視点から実証的に分析し、広く発信する能力を涵養し、社会に貢献できる人材の育成を目的としています。

1．現代社会の諸問題に対して、理論を適用して解明していくトップダウンと、現場から問題を上げるボトムアップの両方の視点を持ち、問題の構造を的確に理解し、判断する力。そのための知的好奇心、社会に対する関心、幅広い知識と多様な視点。
2．自らフィールドに赴き、現場でデータを収集するバイタリティと、コミュニケーション・スキル。調査自体が現場に改善をもたらすアクション・リサーチを含む。そのために必要な社会調査の基本的スキルや、対人調査に関連する倫理意識。
3．収集したデータを客観的に分析し、新しい知見を得る力。質的データと量的データをそれぞれ分析する能力。
4．自律と他者との協働に価値を置き、社会に積極的に関わっていく行動力、表現力、指導力。

2. カリキュラム・ポリシー

人間関係学科には「心理領域」「社会領域」「文化領域」の３つのアプローチがあります。これらは独立したものではなく互いに連関しており、多様な視点から「人間と社会」について探求していきます。また、探求するための「社会調査」のスキルを専門的に修得し、全員が卒業論文では社会調査を実践します。社会調査の専門家であることを示す「社会調査士」の取得カリキュラムも導入しています。

２年次では、まず「心理領域」「社会領域」「文化領域」の各アプローチの概論３科目を履修し、社会を探求していく学問的視座の基礎を習得します。社会調査についても、「社会調査入門」「社会調査の技法」「社会統計学」「質的調査法」といった基礎的な方法論を学び、３年次以降の調査の実践に備えます。また、２年次生の演習（「人間関係共通演習」）では、社会調査に関連する各授業の復習をしながら、グループワークで研究全体の流れを確認し、プレゼンテーションのスキルも身に着けます。

３年次では、「心理領域」「社会領域」「文化領域」の概論を土台として、その中で研究の主軸を置く学問分野を決めてメンターを選び、卒論に向けて個人指導が始まります。また、２年次までに座学で学んできた社会調査の方法論を踏まえて、それらを実践していく段階に入ります。「データ分析の基礎」「多変量解析法」といった量的データの処理を高度なレベルで学びつつ、「社会調査実習」では、テーマの選定、先行研究のレビュー、仮説の設定、フィールドワークや対人調査などの実査を通じたデータの収集、分析と考察、報告書の執筆まで、卒論と同じ流れをグループワークで経験します。ここで、一通り研究の実践を学ぶことで社会調査の手法や論文の執筆といった基礎的なスキルを修得し、４年次の卒論に備えます。

４年次では、これまでに学んできた専門的な知識と、社会調査のスキルを融合する形で、学科の学びの集大成として卒業論文が位置づけられています。年度末の卒論発表会では、各自が卒論の研究についてプレゼンテーションを行い、教員や学生との質疑応答を経てより成長します。なお、人間関係学科では社会調査士の認定科目を開講しており、これらを履修すれば、卒業時に社会調査士を取得することができます。

3. 卒業生像

人間関係学科では、社会調査を通じて、「現代社会とそこに生きる人間」の諸問題について、「多角的な視点」から「実証的」に分析し、広く「発信する」能力を涵養し、社会に貢献できる人材の育成を目的としている。期待される卒業生像は、学際的教育によって培われた柔軟な視点と実証研究を通して学んだ論理的な分析能力を活かしながら、幅広い分野で自らの目的・使命を自覚しつつ、自らの意見を発信し、行動できる人間である。企業や行政機関、あるいは、マスコミや教育機関、国内外の研究機関においても、多角的な視点から社会を客観的に分析し、リーダーシップを発揮することが期待される。

7-2. カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.34を参照してください。

1年次	2年次	3年次	4年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	社会心理学・社会学・文化人類学という学科の基礎となる学問領域を学び、社会と人間を学際的・総合的に理解する視点を身につける	ゼミに所属し、専門分野を深く追求すると同時に、「社会調査実習」を通じて社会調査の実践を経験し、調査研究のスキルを修得する	３年次までに修得したスキルに基づいて、各自の研究テーマで調査を行い、論文にまとめる。 １月末には卒論発表会でプレゼンを行う
演習科目			
	必履修 人関－8 ２年次演習	必修 人関－6 ３年次演習	必修 人関－7 ４年次演習
（レベル２）	人間関係共通演習		
	（レベル３）	社会心理学演習Ⅰ-1(1)(2)～3(1)(2) 社会学演習Ⅰ-1(1)(2)～3(1)(2) 文化人類学演習Ⅰ-1(1)(2)～2(1)(2)	
		（レベル４）	社会心理学演習Ⅱ-1(1)(2)～3(1)(2) 社会学演習Ⅱ-1(1)(2)～3(1)(2) 文化人類学演習Ⅱ-1(1)(2)～2(1)(2)
講義科目			
	必修 人関－1 概　論		
（レベル２）	人間関係概論1 ～ 3		
	選択 人関－2 各分野の「特講」		
（レベル２） （レベル３）	社会心理学、社会学、家族社会学、職業社会学、文化人類学、社会心理学特講3・5・6・10 ～ 12、社会学特講1 ～ 4、人間関係特講1 ～ 2,文化人類学特講1・2,4 ～ 7、ファッションの社会学、観光と文化、開発と文化 メディアと社会心理、社会心理学特講1 ～ 2・4・7 ～ 9、社会学特講5 ～ 6、文化人類学特講3・11、自然地理学、人文地理学、環境と人間		
社会調査士関連科目			
	必修/選択 人関－3 理論の学習		
（レベル２）	★社会調査入門、社会調査の技法、社会統計学　　★：必修科目		
	選択 人関－4 データ処理スキルの学習		
（レベル３）	データ分析の基礎、多変量解析法、質的調査法１～３		
		選択 人関－5 社会調査の実践	
	（レベル３） （レベル４）	情報活用の社会的実践、 社会調査実習1(1)(2)～3(1)(2)、社会心理学論文演習(1)(2)	

7-3. 卒業に必要な単位

分野系列ごとの卒業に必要な単位は、下記のとおりです。

区分・分野系列				カリキュラムマップ	必要単位	卒業要件
● 卒業要件単位　：　最低126単位					126	
1　全学必修分野：　28単位					28	⇒「全学必修分野」pp.36-38参照
2　専攻課程分野：　最低90単位　※余剰①と余剰②の合計が最低12単位必要					90	
a　専攻分野：　最低56単位＋余剰①					56	
	必修	a1	基礎科目	人関-1、3	8	「7-4.　専攻分野の卒業要件」を参照
	選択必修	a3	演習Ⅰ	人関-6	4	
		a4	演習Ⅱ	人関-7	4	
	選択 必履修	a2	2年次演習	人関-8	(2)	
	選択 選択	a5	自由選択科目	人関-2～5	−	
b　関連分野：　最低22単位＋余剰②					22	⇒「関連分野」pp.39-45参照
3　卒業論文：　8単位					8	⇒「卒業論文」p.46参照

7-4. 専攻分野の卒業要件

以下、専攻分野の履修要項を記載しています。卒業要件を満たすように履修計画を立ててください。

※履修にあたっては、卒業要件だけでなく、以降に記載されている「履修上の注意」等をよく読むこと。

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

＜科目リストの見方＞

・レベル：授業内容のレベル

⇒「ナンバリングコード」p.16参照

・区分　：「必修」必修科目、「選必」選択必修、「選」選択科目、「◎選」必履修科目

⇒「履修方法による分類」p.16参照

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
専攻分野の卒業要件			□下記の卒業要件①～③を満たすように修得していること □a1 ～ a5の科目から最低56単位修得していること □関連分野と合わせて最低90単位修得していること		
▼a1：基礎科目　（2年次指定科目）					
卒業要件①			□下記（a1）の科目をすべて（計8単位）修得していること		
2	必修	EN01	人間関係概論1	2	
2	必修	EN02	人間関係概論2	2	
2	必修	EN03	人間関係概論3	2	
2	必修	EH21	社会調査入門	2	
▼a2：2年次演習　（必履修科目：2年次）					
2	◎選	EN11	人間関係共通演習	2	
▼a3：演習Ⅰ　（3年次指定科目）					
卒業要件②			□下記（a3）の科目から、(1)(2)ペアで最低4単位を修得していること		
3	選必	ER33	社会心理学演習Ⅰ－1（1）	2	
3	選必	ER34	社会心理学演習Ⅰ－1（2）	2	
3	選必	ER35	社会心理学演習Ⅰ－2（1）	2	
3	選必	ER36	社会心理学演習Ⅰ－2（2）	2	
3	選必	ER37	社会心理学演習Ⅰ－3（1）	2	
3	選必	ER38	社会心理学演習Ⅰ－3（2）	2	
3	選必	ER45	社会学演習Ⅰ－1（1）	2	
3	選必	ER46	社会学演習Ⅰ－1（2）	2	
3	選必	ER47	社会学演習Ⅰ－2（1）	2	
3	選必	ER48	社会学演習Ⅰ－2（2）	2	
3	選必	ER49	社会学演習Ⅰ－3（1）	2	
3	選必	ER50	社会学演習Ⅰ－3（2）	2	
3	選必	ER57	文化人類学演習Ⅰ－1（1）	2	
3	選必	ER58	文化人類学演習Ⅰ－1（2）	2	
3	選必	ER59	文化人類学演習Ⅰ－2（1）	2	
3	選必	ER60	文化人類学演習Ⅰ－2（2）	2	
▼a4：演習Ⅱ　（4年次指定科目）					
卒業要件③			□下記（a4）の科目から、(1)(2)ペアで最低4単位を修得していること		
4	選必	ER39	社会心理学演習Ⅱ－1（1）	2	
4	選必	ER40	社会心理学演習Ⅱ－1（2）	2	
4	選必	ER41	社会心理学演習Ⅱ－2（1）	2	
4	選必	ER42	社会心理学演習Ⅱ－2（2）	2	
4	選必	ER43	社会心理学演習Ⅱ－3（1）	2	
4	選必	ER44	社会心理学演習Ⅱ－3（2）	2	
4	選必	ER51	社会学演習Ⅱ－1（1）	2	
4	選必	ER52	社会学演習Ⅱ－1（2）	2	
4	選必	ER53	社会学演習Ⅱ－2（1）	2	
4	選必	ER54	社会学演習Ⅱ－2（2）	2	
4	選必	ER55	社会学演習Ⅱ－3（1）	2	
4	選必	ER56	社会学演習Ⅱ－3（2）	2	
4	選必	ER61	文化人類学演習Ⅱ－1（1）	2	
4	選必	ER62	文化人類学演習Ⅱ－1（2）	2	
4	選必	ER63	文化人類学演習Ⅱ－2（1）	2	
4	選必	ER64	文化人類学演習Ⅱ－2（2）	2	
▼a5：自由選択科目					
3	選	EA08	メディアと社会心理	2	
2	選	EA10	社会心理学	2	
3	選	EB01	社会心理学特講1	2	
3	選	EB02	社会心理学特講2	2	
2	選	EB13	社会心理学特講3	2	
3	選	EB14	社会心理学特講 4	2	
2	選	EB15	社会心理学特講 5	2	
2	選	EB16	社会心理学特講 6	2	

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
3	選	EB17	社会心理学特講 7	2	
3	選	EB18	社会心理学特講 8	2	
3	選	EB19	社会心理学特講 9	2	
2	選	EB20	社会心理学特講10	2	
2	選	EB21	社会心理学特講11	2	
2	選	EB22	社会心理学特講12	2	
4	選	EH10	社会心理学論文演習（1）	2	
4	選	EH12	社会心理学論文演習（2）	2	
3	選	EB93	情報活用の社会的実践	2	
2	選	EE17	社会学	2	
2	選	EE23	家族社会学	2	
2	選	EE34	職業社会学	2	
2	選	EE77	ファッションの社会学	2	
2	選	EE91	社会学特講 1	2	
2	選	EE92	社会学特講 2	2	
2	選	EE93	社会学特講 3	2	
2	選	EE94	社会学特講 4	2	
2	選	EE95	人間関係特講 1	2	
2	選	EE96	人間関係特講 2	2	
3	選	EE97	社会学特講 5	2	
3	選	EE98	社会学特講 6	2	
2	選	EF01	文化人類学 1	2	廃止（～2023）
2	選	EF03	文化人類学	2	
2	選	EF12	文化人類学特講 1	2	
2	選	EG12	文化人類学特講 2	2	
3	選	EG13	文化人類学特講 3	2	
2	選	EF13	文化人類学特講 4	2	
2	選	EG15	文化人類学特講 5	2	
2	選	EG16	文化人類学特講 6	2	
2	選	EG17	文化人類学特講 7	2	
3	選	EG22	文化人類学特講11	2	
4	選	EH04	社会調査実習 1（1）	2	
4	選	EH05	社会調査実習 1（2）	2	
4	選	EH06	社会調査実習 2（1）	2	
4	選	EH07	社会調査実習 2（2）	2	
4	選	EH08	社会調査実習 3（1）	2	
4	選	EH09	社会調査実習 3（2）	2	
2	選	EH24	社会調査の技法	2	
2	選	EH30	社会統計学	2	
3	選	EH31	データ分析の基礎	2	
3	選	EH32	多変量解析法	2	
3	選	EH33	質的調査法 1	2	
3	選	EH34	質的調査法 2	2	
3	選	EH35	質的調査法 3	2	
3	選	EL14	自然地理学	2	
3	選	EL23	人文地理学	2	
2	選	EP19	観光と文化	2	
2	選	EP20	開発と文化	2	
3	選	EP21	環境と人間	2	
5	選	TK** TL**	大学院社会文化学専攻博士前期課程開講科目		

7-5. 年次指定科目・必履修科目

指定年次	年次指定科目	必履修科目
2年次	人間関係概論 1 ～ 3 社会調査入門	人間関係共通演習
3年次	「演習Ⅰ」の各科目	−
4年次	「演習Ⅱ」の各科目	−

7-6. 履修上の注意

①必履修科目「人間関係共通演習」は、卒業要件ではありませんが、2年次で必ず履修してください（3年次以降は履修できません）。

②大学院開講科目で学部生が履修可能な科目は、開講年度ごとに指定されます。なお、大学院生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

③本学科の学生は2年次の4月の所定期間に**社会調査実習費として3,000円**を納入しなければなりません。この費用は学科のPC室の環境整備等に充てられます。なお、一度納入された社会調査実習費は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

7-7. 社会調査士の資格

人間関係学科では社会調査士の資格を取得するために必要なカリキュラムが整っています。卒業時までにA ～ Gに対応する6つの指定科目の単位を修得し（EとFはどちらかを選択）、社会調査協会に証明書類を送付し、同協会の書類審査に合格することで資格を取得することができます（詳細は一般社団法人社会調査協会を参照のこと）。なお、社会調査士資格は、人間関係学科生のみが取得可能です。

卒業要件ではありませんが、卒業論文では全員が社会調査を実施することから、人間関係学科では社会調査士科目の履修を推奨します。

社会調査士カリキュラム

【A】社会調査の基本的事項に関する科目
【B】調査設計と実施方法に関する科目
【C】基本的な資料とデータの分析に関する科目
【D】社会調査に必要な統計学に関する科目
【E】多変量解析の方法に関する科目
【F】質的な調査と分析の方法に関する科目社会調査を実際に経験し学習する科目
【G】社会調査を実際に経験し学習する科目
※社会調査士取得においては、【E】【F】はどちらか一方で可（学科の学びとしては、【F】はすべての学生に履修を推奨）。

履修モデル（領域別）

	対象となる科目		対象学年	心理領域	社会領域	文化領域	備考
	コード	授業科目名					
【A】	EH21	社会調査入門	2~4	○	○	○	※1
【B】	EH24	社会調査の技法	2~4	○	○	○	
【C】	EH31	データ分析の基礎A データ分析の基礎B	3・4	○	 ○	 ○	※2
【D】	EH30	社会統計学	2~4	○	○	○	
【E】	EH32	多変量解析法	3・4	○			※2
【F】	EH33 EH34 EH35	質的調査法 1 質的調査法 2 質的調査法 3	2~4 2~4 2~4	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	※3
【G】	EH04 EH05	社会調査実習 1（1） 社会調査実習 1（2）	3・4	○			セットで修得
	EH06 EH07	社会調査実習 2（1） 社会調査実習 2（2）	3・4		○		セットで修得
	EH08 EH09	社会調査実習 3（1） 社会調査実習 3（2）	3・4			○	セットで修得

※1：卒業要件の必修科目
※2：「データ分析の基礎」（Aクラス）と「多変量解析法」はセットで受講することを強く推奨。
※3：【F】はいずれか1科目の履修で可。

8. 国際交流学科：グローバル社会コース

8-1. 学科のポリシーと卒業生像

1. ディプロマ・ポリシー

国際交流学科は、「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心（みこころ）に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」という建学の精神に基づいて「関わる力」を備えた卒業生を社会に送り出します。

1．国際社会が直面する課題について、専門的な知識と柔軟な思考力、的確な判断力を持って、自分の意見を発信し広い視野での国際貢献を実践しうる能力
2．世界のさまざまな社会や立場に対する深い理解に裏付けられた、異なる背景を持った人々と協働するために真に役立つ言語コミュニケーション能力
3．言語・文化・社会についての学びを通じ「自分とは異なる他者・文化・社会」を理解する力を獲得し、多様性の中で主体的に協働できる力
4．政治、経済、社会、文化などさまざまな面でグローバル化が進行する中、それらを伝えるメディアや社会のあり方について、多角的な視座から把握し正確に分析する力
5．ひとつの問題を深く追究することによって養われる探求力と最後までやり抜く課題遂行能力
6．それぞれの専門領域での研究を通して養われる批判的読解力と思考力、アクティブラーニングを通じて獲得される協働力、実践力

2. カリキュラム・ポリシー

国際交流学科では、国際社会の諸問題を研究するためには幅広い学問領域を学ぶことが重要であると考えてカリキュラムを組んでいます。国際交流学科に所属する学生は、2年次からグローバル社会コースまたは異文化コミュニケーションコースが開講する専攻分野の必修科目、その他講義科目、演習科目を通して専門性を深めます。

グローバル社会コースでは、国際貢献力を高める「INSPIREプログラム」を2年次から履修し、実践的英語、ICT活用、国内外でのアクティブラーニングを通じて、グローバルマインドとスキル、協働力を養います。また政治、経済、法、人権、文化、環境の諸分野について国際的規模での歴史・理論・制度・課題を、各自の志向に沿った自由度の高い選択方式で多角的に学び、多様性に富むグローバル社会を理解するための知識と思考力を身につけます。

異文化コミュニケーションコースでは、2年次に「異文化コミュニケーション概論」を履修し、異文化間で生じる作用、現象について考察を深めます。異文化コミュニケーションを理解するために必要な知識は、「グローバル・コミュニケーション領域」「グローバル・メディア領域」「グローバル・スタディーズ領域」の3領域の専門科目を体系的に学ぶことによって修得し、広い視野と柔軟な思考力を養います。

3年次から4年次にかけては、演習科目を履修することによって、より専門的な研究を行います。演習科目は少人数のゼミ形式で行われ、学生が中心になって行う研究や発表を通して、専門領域に関する知識や理解を深めるとともに、十分な発信力や説得力を身につけます。そして、多様な情報の整理、問題に対する論理的な考察と分析を通して、4年次にはそれまでに深めた学問の集大成として、卒業論文を執筆します。

現代人として世界を理解し積極的に社会に関わるためには、リベラル・アーツの学びを尊重し、他学科の授業科目や総合現代教養科目も関連分野、全学共通科目として履修することで専門分野との連関性を見出し、教養を深めます。

3. 卒業生像

国際交流学科グローバル社会コースは、社会変化に適切に対応できる見識と幅広い国際的視野を備え、文化間の相互理解や交流に貢献できる人間教育を目的としている。そのような観点から、当学科は、次のような卒業生の輩出を目指している。すなわち、多様な文化に関する学問的知識を深め、同時に高い言語コミュニケーション能力を持ち、広く国際問題を理解するための政治・経済・法律などの社会科学や情報処理の専門知識を有し、総合的な思考力と判断力と行動力を身に付けた者、という姿である。

8-2. カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.34を参照してください。

1年次	2年次	3年次	4年次
コースの専門科目 専門領域について深く学び、国際社会に貢献するグローバル・マインドを確立する			
	・国際的教養を学びグローバルに視野を拡大しつつ、英語で自分の意見を発信する能力やICT運用力などのスキルを高める。 ・自己実現の第一歩を、アクティブラーニングを通じて実践する（INSPIREプログラム）。 ・国際政治、国際経済、国際文化協力、国際人権論、国際環境論という、専門領域の基礎を学ぶ。 ・語学研修、フィールドプロジェクトを通じた学びが推奨される。	・国際的教養を多角的に習得して深め、所属ゼミで専門的研究に着手する。情報収集能力・論理的思考力・協働力・発信力・創造力・実践力を高める。 ・母語および英語で、国際的に対話可能な発信力を、実践レベルへと向上させる。 ・留学やインターンシップの実践を通じた学びが推奨される。	・ゼミを中心に専門分野での研究を深め、それまでの学習の集大成として学術的に質の高い卒業論文を完成させる。 ・英語運用能力は研究調査のツールとして活用可能なレベルに到達。
	必修／選択 **国際（グ）－1 INSPIREプログラム**		
必修科目（レベル２）	グローバル社会概論（1）（2） Global Communication in English（1）（2）		
選択科目（レベル２）	English for Global Communicators、リーダーシップ論、Japan in the Global Context、情報処理入門Ⅰ		
（レベル３）	Talking about Global Issues、情報処理入門Ⅱ		
（レベル４）	国際協力プロジェクト実習		
		選択必修 **国際（グ）－3 3年ゼミ**	選択必修 **国際（グ）－4 4年ゼミ**
（レベル３）		国際政治演習Ⅰ（1）（2） 国際経済演習Ⅰ（1）（2） 国際文化協力演習Ⅰ（1）（2） 国際人権論演習Ⅰ（1）（2） 国際環境論演習Ⅰ（1）（2）	（レベル４） 国際政治演習Ⅱ（1）（2） 国際経済演習Ⅱ（1）（2） 国際文化協力演習Ⅱ（1）（2） 国際人権論演習Ⅱ（1）（2） 国際環境論演習Ⅱ（1）（2）
選択 **国際（グ）－2 グローバル社会コース専門科目**			
（レベル１）	政治学１、国際法、国際協力基礎ワークショップ、NGO基礎ワークショップ		
（レベル２）	国際経済学１、ICT社会論、政治学２、国際政治学１、マクロ経済学、ミクロ経済学、経済政策論、国際文化協力論、国際文化政策論１、国際問題ワークショップ１、国際問題ワークショップ２、国際機構論、東アジア地域論、東南アジア地域論、中東地域論、ラテンアメリカ地域論、アフリカ地域論、現代人権論１、現代人権論２、国際環境論１		
（レベル４）	国際経済学２、国際政治学２、開発経済論、ソーシャルビジネス論、国際文化政策論２、難民・移民論、EU論、環境学1,環境学２、国際環境論２		
選択 **国際（グ）－5 異文化コミュニケーションコース科目**			
（レベル１）	メディアと社会１、メディアと社会２、国際メディア論１		
（レベル２）	法律学Ⅰ、法律学Ⅱ、メディアと社会４、国際メディア論２、異文化メディア論１、異文化メディア論２、比較文化論、交渉と対話、言語とアイデンティティ、フランスの社会と文化１、フランスの社会と文化２、フランス事情１、フランス事情２、東アジアの社会と文化１、東アジアの社会と文化２		
（レベル３）	国際ニュースワークショップ１、国際ニュースワークショップ２、メディアワークショップ２、グローバル社会と言語、異文化理解とコミュニケーション、現代家族法1,現代家族法２		
（レベル４）	メディアと社会３、メディアワークショップ１		
		選択 **国際（グ）－6 自由選択科目**	
（レベル５）		大学院社会文化学専攻博士前期課程開講科目（開講年度ごとに指定）	

8-3. 卒業に必要な単位

分野系列ごとの卒業に必要な単位は、下記のとおりです。

区分・分野系列				カリキュラムマップ	必要単位	卒業要件
● 卒業要件単位 ： 最低126単位					126	
1 全学必修分野： 28単位					28	⇒「全学必修分野」pp.36-38参照
2 専攻課程分野： 最低90単位 ※余剰①と余剰②の合計が最低12単位必要					90	
a 専攻分野： 最低56単位＋余剰①					56	
	必修	a1	INSPIREプログラム必修科目	国際(グ)-1	8	「8-4. 専攻分野の卒業要件」を参照
	選択必修	a2	INSPIREプログラム選択科目	国際(グ)-1	4	
		a4	演習Ⅰ	国際(グ)-3	4	
		a5	演習Ⅱ	国際(グ)-4	4	
	選択	a3	グローバル社会コース専門科目	国際(グ)-2	−	
		a6	異文化コミュニケーションコース科目	国際(グ)-5	−	
		a7	自由選択科目	国際(グ)-6	−	
b 関連分野： 最低22単位＋余剰②					22	⇒「関連分野」pp.39-45参照
3 卒業論文： 8単位					8	⇒「卒業論文」p.46参照

8-4. 専攻分野の卒業要件

以下、専攻分野の履修要項を記載しています。卒業要件を満たすように履修計画を立ててください。

※履修にあたっては、卒業要件だけでなく、以降に記載されている「履修上の注意」等をよく読むこと。

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

＜科目リストの見方＞

・レベル：授業内容のレベル

⇒「ナンバリングコード」p.16参照

・区分 ：「必修」必修科目、「選必」選択必修、「選」選択科目、「◎選」必履修科目

⇒「履修方法による分類」p.16参照

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
専攻分野の卒業要件			□下記の卒業要件①～④を満たすように修得していること □a1 ～ a7の科目から最低56単位修得していること □関連分野と合わせて最低90 単位修得していること		
▼a1：INSPIREプログラム必修科目（2年次指定科目）					
卒業要件①			□下記（a1）の科目をすべて（計8単位）修得していること		
2	必修	GK13	グローバル社会概論（1）	2	
2	必修	GK14	グローバル社会概論（2）	2	
2	必修	GK63	Global Communication in English (1)	2	
2	必修	GK64	Global Communication in English (2)	2	
▼a2：INSPIREプログラム選択科目					
卒業要件②			□下記（a2）の科目から最低4単位修得していること		
2	選必	GL15	Japan in the Global Context	2	
2	選必	GL21	情報処理入門I	2	
2	選必	GN67	English for Global Communicators	2	
2	選必	GP53	リーダーシップ論	2	
3	選必	GL12	Talking about Global Issues	2	
3	選必	GL22	情報処理入門II	2	
4	選必	GL20	国際協力プロジェクト実習	2	
▼a3：グローバル社会コース専門科目					
1	選	GM15	政治学1	2	
1	選	GM37	国際法	2	
1	選	GM50	国際協力基礎ワークショップ	2	
1	選	GM63	NGO基礎ワークショップ	2	
2	選	GD22	国際経済学1	2	
2	選	GD32	ICT社会論	2	
2	選	GM16	政治学2	2	
2	選	GM17	マクロ経済学	2	
2	選	GM18	ミクロ経済学	2	

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
2	選	GM11	国際政治学1	2	
2	選	GM19	経済政策論	2	
2	選	GM47	国際文化協力論	2	
2	選	GM48	国際文化政策論1	2	
2	選	GM59	国際問題ワークショップ1	2	
2	選	GM60	国際問題ワークショップ2	2	
2	選	GM67	国際機構論	2	
2	選	GM68	東アジア地域論	2	
2	選	GM69	東南アジア地域論	2	
2	選	GM70	中東地域論	2	
2	選	GM76	ラテンアメリカ地域論	2	
2	選	GM77	アフリカ地域論	2	
2	選	GM78	現代人権論1	2	
2	選	GM79	現代人権論2	2	
2	選	GM81	国際環境論1	2	
3	選	GD23	国際経済学2	2	
3	選	GM12	国際政治学2	2	
3	選	GM20	開発経済論	2	
3	選	GM25	ソーシャルビジネス論	2	
3	選	GM49	国際文化政策論2	2	
3	選	GM55	難民・移民論	2	
3	選	GM56	EU論	2	
3	選	GM64	環境学1	2	
3	選	GM65	環境学2	2	
3	選	GM82	国際環境論2	2	
▼a4：演習Ⅰ （3年次指定科目）					
卒業要件③			□下記（a4）の科目から、(1)(2)科目ペアで最低4単位を修得していること		
3	選必	GC81	国際政治演習Ⅰ（1）	2	

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
3	選必	GC82	国際政治演習Ⅰ（2）	2	
3	選必	GD71	国際経済演習Ⅰ（1）	2	
3	選必	GD72	国際経済演習Ⅰ（2）	2	
3	選必	GT11	国際文化協力演習Ⅰ（1）	2	
3	選必	GT12	国際文化協力演習Ⅰ（2）	2	
3	選必	GT31	国際人権論演習Ⅰ（1）	2	
3	選必	GT32	国際人権論演習Ⅰ（2）	2	
3	選必	GT41	国際環境論演習Ⅰ（1）	2	
3	選必	GT42	国際環境論演習Ⅰ（2）	2	
▼a5：演習Ⅱ （4年次指定科目）					
卒業要件④		□下記（a5）の科目から、(1)(2)科目ペアで最低4単位を修得していること			
4	選必	GC91	国際政治演習Ⅱ（1）	2	
4	選必	GC92	国際政治演習Ⅱ（2）	2	
4	選必	GD81	国際経済演習Ⅱ（1）	2	
4	選必	GD82	国際経済演習Ⅱ（2）	2	
4	選必	GT13	国際文化協力演習Ⅱ（1）	2	
4	選必	GT14	国際文化協力演習Ⅱ（2）	2	
4	選必	GT33	国際人権論演習Ⅱ（1）	2	
4	選必	GT34	国際人権論演習Ⅱ（2）	2	
4	選必	GT43	国際環境論演習Ⅱ（1）	2	
4	選必	GT44	国際環境論演習Ⅱ（2）	2	
▼a6：異文化コミュニケーションコース科目					
1	選	GP24	メディアと社会1	2	
1	選	GP25	メディアと社会2	2	
1	選	GP28	国際メディア論1	2	
2	選	GB13	法律学I	2	
2	選	GB14	法律学II	2	
2	選	GP27	メディアと社会 4	2	
2	選	GP29	国際メディア論2	2	
2	選	GP34	異文化メディア論1	2	
2	選	GP35	異文化メディア論2	2	
2	選	GP36	比較文化論	2	
2	選	GP37	交渉と対話	2	
2	選	GP38	言語とアイデンティティ	2	
2	選	GP54	フランスの社会と文化1	2	
2	選	GP55	フランスの社会と文化2	2	
2	選	GP56	フランス事情1	2	
2	選	GP57	フランス事情2	2	
2	選	GP58	東アジアの社会と文化1	2	
2	選	GP59	東アジアの社会と文化2	2	
3	選	GP30	国際ニュースワークショップ1	2	
3	選	GP31	国際ニュースワークショップ2	2	
3	選	GP33	メディアワークショップ2	2	
3	選	GP39	グローバル社会と言語	2	
3	選	GP40	異文化理解とコミュニケーション	2	
3	選	GP60	現代家族法1	2	
3	選	GP61	現代家族法2	2	
4	選	GP26	メディアと社会3	2	
4	選	GP32	メディアワークショップ1	2	
▼a7：自由選択科目					
5	選	TF** TG**	大学院社会文化学専攻博士前期課程開講科目		

8-5. 年次指定科目

指定年次	年次指定科目
2年次	グローバル社会概論（1）（2）、 Global Communication in English（1）（2）
3年次	「演習Ⅰ」の各科目
4年次	「演習Ⅱ」の各科目

8-6. 履修上の注意

(1)「グローバル社会コース専門科目」の履修について

・グローバル社会コース専門科目は、少なくとも 9 科目（18単位）は履修するようにしてください。

(2)「演習Ⅱ」の履修について

・演習Ⅱは、原則として演習Ⅰと同じものを履修しなければなりません。

(3)「自由選択科目」の履修について

・大学院開講科目で学部生が履修可能な科目は、開講年度ごとに指定されます。なお、大学院生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

9. 国際交流学科：異文化コミュニケーションコース

9-1. 学科のポリシーと卒業生像

1. ディプロマ・ポリシー

国際交流学科は、「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心（みこころ）に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」という建学の精神に基づいて「関わる力」を備えた卒業生を社会に送り出します。

1．国際社会が直面する課題について、専門的な知識と柔軟な思考力、的確な判断力を持って、自分の意見を発信し広い視野での国際貢献を実践しうる能力
2．世界のさまざまな社会や立場に対する深い理解に裏付けられた、異なる背景を持った人々と協働するために真に役立つ言語コミュニケーション能力
3．言語・文化・社会についての学びを通じ「自分とは異なる他者・文化・社会」を理解する力を獲得し、多様性の中で主体的に協働できる力
4．政治、経済、社会、文化などさまざまな面でグローバル化が進行する中、それらを伝えるメディアや社会のあり方について、多角的な視座から把握し正確に分析する力
5．ひとつの問題を深く追究することによって養われる探求力と最後までやり抜く課題遂行能力
6．それぞれの専門領域での研究を通して養われる批判的読解力と思考力、アクティブラーニングを通じて獲得される協働力、実践力

2. カリキュラム・ポリシー

国際交流学科では、国際社会の諸問題を研究するためには幅広い学問領域を学ぶことが重要であると考えてカリキュラムを組んでいます。国際交流学科に所属する学生は、2年次からグローバル社会コースまたは異文化コミュニケーションコースが開講する専攻分野の必修科目、その他講義科目、演習科目を通して専門性を深めます。

グローバル社会コースでは、国際貢献力を高める「INSPIREプログラム」を2年次から履修し、実践的英語、ICT活用、国内外でのアクティブラーニングを通じて、グローバルマインドとスキル、協働力を養います。また政治、経済、法、人権、文化、環境の諸分野について国際的規模での歴史・理論・制度・課題を、各自の志向に沿った自由度の高い選択方式で多角的に学び、多様性に富むグローバル社会を理解するための知識と思考力を身につけます。

異文化コミュニケーションコースでは、2年次に「異文化コミュニケーション概論」を履修し、異文化間で生じる作用、現象について考察を深めます。異文化コミュニケーションを理解するために必要な知識は、「グローバル・コミュニケーション領域」「グローバル・メディア領域」「グローバル・スタディーズ領域」の3領域の専門科目を体系的に学ぶことによって修得し、広い視野と柔軟な思考力を養います。

3年次から4年次にかけては、演習科目を履修することによって、より専門的な研究を行います。演習科目は少人数のゼミ形式で行われ、学生が中心になって行う研究や発表を通して、専門領域に関する知識や理解を深めるとともに、十分な発信力や説得力を身につけます。そして、多様な情報の整理、問題に対する論理的な考察と分析を通して、4年次にはそれまでに深めた学問の集大成として、卒業論文を執筆します。

現代人として世界を理解し積極的に社会に関わるためには、リベラル・アーツの学びを尊重し、他学科の授業科目や総合現代教養科目も関連分野、全学共通科目として履修することで専門分野との連関性を見出し、教養を深めます。

3. 卒業生像

国際交流学科異文化コミュニケーションコースは、幅広い国際的視野を備え、急速に変化を遂げる世界の現状に柔軟に対応できる人間、すなわち「グローバル・コミュニケーター」の育成を目的とする。本コースの学生は、海外異文化研究等を通して、異文化との接触の現場に実際に身を置く。そこで生じるさまざまな事象―理解や摩擦―を体験し、現代の世界に通じる国際的感覚を養う。このようにして育つ「グローバル・コミュニケーター」は、高いコミュニケーション能力を持ち、広く国際問題を理解するための専門知識を有する人物である。

9-2. カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.34を参照してください。

1年次	2年次	3年次	4年次
コースの専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	メディア論、異文化コミュニケーション論、地域社会文化研究というコースの3つの学問領域の基礎を学ぶと同時に、自らの意見を外国語によって発信する能力を身につける	海外異文化研究などを通して実践的かつ柔軟な異文化理解のスキル、ならびに専門的知識を身につける	演習での学びを中心に、専門分野の知識を深めると同時に、アカデミックで、かつ質の高い卒業論文の完成を目指す
	選択必修 国際(異)－7 必修科目	選択必修 国際(異)－4 3年次演習	選択必修 国際(異)－5 4年次演習
	（レベル2）異文化コミュニケーション概論(1)(2)		
		（レベル3）フランス文化演習I(1)(2) 中国社会文化演習I(1)(2) 国際比較法演習I(1)(2) 表象文化論演習I(1)(2) 言語コミュニケーション演習I(1)(2) 国際メディア論演習I(1)(2)	（レベル4）フランス文化演習Ⅱ(1)(2) 中国社会文化演習Ⅱ(1)(2) 国際比較法演習Ⅱ(1)(2) 表象文化論演習Ⅱ(1)(2) 言語コミュニケーション演習Ⅱ(1)(2) 国際メディア論演習Ⅱ(1)(2)
選択 国際(異)－1 グローバル・メディア領域			
（レベル1）メディアと社会1、メディアと社会2、国際メディア論1 （レベル2）メディアと社会4、国際メディア論2、異文化メディア論1、異文化メディア論2 （レベル3）国際ニュースワークショップ1、国際ニュースワークショップ2、メディアワークショップ2 （レベル4）メディアと社会3、メディアワークショップ1			
選択 国際(異)－2 グローバル・コミュニケーション領域			
（レベル2）English for Global Communicators、リーダーシップ論、比較文化論，交渉と対話、言語とアイデンティティ （レベル3）グローバル社会と言語、異文化理解とコミュニケーション、海外異文化研究1、海外異文化研究2、Talking about Global Issues			
選択 国際(異)－3 グローバル・スタディーズ領域			
（レベル2）法律学Ⅰ、法律学Ⅱ、フランスの社会と文化1、フランスの社会と文化2、 （レベル3）フランス事情1、フランス事情2、東アジアの社会と文化1、東アジアの社会と文化2 現代家族法1、現代家族法2			
選択 国際(異)－6 グローバル社会コース科目			
（レベル1）政治学1、国際法、国際協力基礎ワークショップ、NGO基礎ワークショップ （レベル2）政治学2、国際政治学1、国際経済学1、ICT社会論、マクロ経済学、ミクロ経済学、経済政策論、国際文化協力論、国際文化政策論1、国際問題ワークショップ1、国際問題ワークショップ2、国際機構論、東アジア地域論、東南アジア地域論、中東地域論、ラテンアメリカ地域論、アフリカ地域論、現代人権論1、現代人権論2、国際環境論1、Japan in the Global Context、情報処理入門Ⅰ （レベル3）国際政治学2、国際経済学2、開発経済論、ソーシャルビジネス論、国際文化政策論2、難民・移民論、EU論、環境学1、環境学2、国際環境論2、情報処理入門Ⅱ （レベル4）国際協力プロジェクト実習		
		選択 国際(異)－8 自由選択科目	
		（レベル5）大学院社会文化学専攻博士前期課程開講科目（開講年度ごとに指定）	

9-3. 卒業に必要な単位

分野系列ごとの卒業に必要な単位は、下記のとおりです。

区分・分野系列				カリキュラムマップ	必要単位	卒業要件
● 卒業要件単位 ： 最低126単位					126	
1 全学必修分野： 28単位					28	⇒「全学必修分野」pp.36-38参照
2 専攻課程分野： 最低90単位 ※余剰①と余剰②の合計が最低12単位必要					90	
a 専攻分野： 最低56単位＋余剰①					56	
	必修	a1	必修科目	国際（異）-7	4	「9-4. 専攻分野の卒業要件」を参照
	選択必修	a2	演習Ⅰ	国際（異）-4	4	
		a3	演習Ⅱ	国際（異）-5	4	
	選択	a4	領域科目 グローバル・メディア領域 グローバル・コミュニケーション領域 グローバル・スタディーズ領域	 国際（異）-1 国際（異）-2 国際（異）-3	－	
		a5	グローバル社会コース科目	国際（異）-6	－	
		a6	自由選択科目	国際（異）-8	－	
b 関連分野： 最低22単位＋余剰②					22	⇒「関連分野」pp.39-45参照
3 卒業論文： 8単位					8	⇒「卒業論文」p.46参照

9-4. 専攻分野の卒業要件

以下、専攻分野の履修要項を記載しています。卒業要件を満たすように履修計画を立ててください。

※履修にあたっては、卒業要件だけでなく、以降に記載されている「履修上の注意」等をよく読むこと。

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

＜科目リストの見方＞

・レベル：授業内容のレベル

⇒「ナンバリングコード」p.16参照

・区分 ：「必修」必修科目、「選必」選択必修、「選」選択科目、「◎選」必履修科目

⇒「履修方法による分類」p.16参照

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
専攻分野の卒業要件			□下記の卒業要件①～③を満たすように修得していること □a1 ～ a6の科目から最低56単位修得していること □関連分野と合わせて最低90単位修得していること		
▼a1：必修科目 （2年次指定科目）					
卒業要件①			□下記（a1）の科目をすべて（計4単位）修得していること		
2	必修	GN65	異文化コミュニケーション概論（1）	2	
2	必修	GN66	異文化コミュニケーション概論（2）	2	
▼a2：演習Ⅰ （3年次指定科目）					
卒業要件②			□下記（a2）の科目から、(1)(2)科目ペアで最低4単位を修得していること		
3	選必	GH11	フランス文化演習Ⅰ（1）	2	
3	選必	GH12	フランス文化演習Ⅰ（2）	2	
3	選必	GH45	中国社会文化演習Ⅰ（1）	2	
3	選必	GH46	中国社会文化演習Ⅰ（2）	2	
3	選必	GH85	国際比較法演習Ⅰ（1）	2	
3	選必	GH86	国際比較法演習Ⅰ（2）	2	
3	選必	GH89	表象文化論演習Ⅰ（1）	2	
3	選必	GH90	表象文化論演習Ⅰ（2）	2	
3	選必	GH93	言語コミュニケーション演習Ⅰ(1)	2	
3	選必	GH94	言語コミュニケーション演習Ⅰ(2)	2	
3	選必	GT61	国際メディア論演習Ⅰ（1）	2	
3	選必	GT62	国際メディア論演習Ⅰ（2）	2	
▼a3：演習Ⅱ （4年次指定科目）					
卒業要件③			□下記（a3）の科目から、(1)(2)科目ペアで最低4単位を修得していること		
4	選必	GH13	フランス文化演習Ⅱ（1）	2	
4	選必	GH14	フランス文化演習Ⅱ（2）	2	
4	選必	GH47	中国社会文化演習Ⅱ（1）	2	
4	選必	GH48	中国社会文化演習Ⅱ（2）	2	
4	選必	GH87	国際比較法演習Ⅱ（1）	2	
4	選必	GH88	国際比較法演習Ⅱ（2）	2	
4	選必	GH91	表象文化論演習Ⅱ（1）	2	
4	選必	GH92	表象文化論演習Ⅱ（2）	2	
4	選必	GH95	言語コミュニケーション演習Ⅱ(1)	2	
4	選必	GH96	言語コミュニケーション演習Ⅱ(2)	2	
4	選必	GT63	国際メディア論演習Ⅱ（1）	2	
4	選必	GT64	国際メディア論演習Ⅱ（2）	2	
▼a4：領域科目					
＜A：グローバル・メディア領域＞					
1	選	GP24	メディアと社会１	2	
1	選	GP25	メディアと社会２	2	
1	選	GP28	国際メディア論１	2	
2	選	GP27	メディアと社会４	2	
2	選	GP29	国際メディア論２	2	
2	選	GP34	異文化メディア論１	2	
2	選	GP35	異文化メディア論２	2	
3	選	GP30	国際ニュースワークショップ１	2	
3	選	GP31	国際ニュースワークショップ２	2	
3	選	GP33	メディアワークショップ２	2	
4	選	GP26	メディアと社会３	2	
4	選	GP32	メディアワークショップ１	2	
＜B：グローバル・コミュニケーション領域＞					
2	選	GN67	English for Global Communicators	2	
2	選	GP36	比較文化論	2	
2	選	GP37	交渉と対話	2	

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
2	選	GP38	言語とアイデンティティ	2	
2	選	GP53	リーダーシップ論	2	
3	選	GL12	Talking about Global Issues	2	
3	選	GP39	グローバル社会と言語	2	
3	選	GP40	異文化理解とコミュニケーション	2	
3	選	GP94	海外異文化研究１	2	
3	選	GP95	海外異文化研究２	2	
＜C：グローバル・スタディーズ領域＞					
2	選	GB13	法律学I	2	
2	選	GB14	法律学II	2	
2	選	GP54	フランスの社会と文化１	2	
2	選	GP55	フランスの社会と文化２	2	
2	選	GP56	フランス事情１	2	
2	選	GP57	フランス事情２	2	
2	選	GP58	東アジアの社会と文化１	2	
2	選	GP59	東アジアの社会と文化２	2	
3	選	GP60	現代家族法１	2	
3	選	GP61	現代家族法２	2	
▼a5：グローバル社会コース科目					
1	選	GM15	政治学１	2	
1	選	GM37	国際法	2	
1	選	GM50	国際協力基礎ワークショップ	2	
1	選	GM63	NGO基礎ワークショップ	2	
2	選	GD22	国際経済学１	2	
2	選	GD32	ICT社会論	2	
2	選	GL15	Japan in the Global Context	2	
2	選	GL21	情報処理入門I	2	
2	選	GM11	国際政治学１	2	
2	選	GM16	政治学２	2	
2	選	GM17	マクロ経済学	2	
2	選	GM18	ミクロ経済学	2	
2	選	GM19	経済政策論	2	
2	選	GM47	国際文化協力論	2	
2	選	GM48	国際文化政策論１	2	
2	選	GM59	国際問題ワークショップ１	2	
2	選	GM60	国際問題ワークショップ２	2	
2	選	GM67	国際機構論	2	
2	選	GM68	東アジア地域論	2	
2	選	GM69	東南アジア地域論	2	
2	選	GM70	中東地域論	2	
2	選	GM76	ラテンアメリカ地域論	2	
2	選	GM77	アフリカ地域論	2	
2	選	GM78	現代人権論１	2	
2	選	GM79	現代人権論２	2	
2	選	GM81	国際環境論１	2	
3	選	GD23	国際経済学２	2	
3	選	GL22	情報処理入門II	2	
3	選	GM12	国際政治学２	2	
3	選	GM20	開発経済論	2	
3	選	GM25	ソーシャルビジネス論	2	
3	選	GM49	国際文化政策論２	2	
3	選	GM55	難民･移民論	2	
3	選	GM56	EU論	2	
3	選	GM64	環境学１	2	
3	選	GM65	環境学２	2	
3	選	GM82	国際環境論２	2	
4	選	GL20	国際協力プロジェクト実習	2	

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
▼a6：自由選択科目					
5	選	TF** TG**	大学院社会文化学専攻博士前期課程開講科目		

9-5. 年次指定科目

指定年次	年次指定科目
2年次	異文化コミュニケーション概論（1）(2)
3年次	「演習Ⅰ」の各科目
4年次	「演習Ⅱ」の各科目

9-6. 履修上の注意

（1）「演習Ⅱ」の履修について

・演習Ⅱは、原則として演習Ⅰと同じものを履修しなければなりません。ただし、双方の授業担当者が認めた場合に限り、演習Ⅰとは異なる演習Ⅱを履修することができます。

（2）「領域科目」の履修について

・「領域科目」は、３つの領域からそれぞれ２科目（４単位）以上を履修するようにしてください。

・国際センター主催の「短期留学」に参加し、所定の成績を収め、手続を行った場合は、教授会の議を経て「海外異文化研究１」または「海外異文化研究２」（領域科目：グローバル・コミュニケーション領域）として２単位が認定されます。なお、本単位の認定にあたっては、「異文化コミュニケーション概論」を履習していることが条件となります。

（3）「自由選択科目」の履修について

・大学院開講科目で学部生が履修可能な科目は、開講年度ごとに指定されます。なお、大学院生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

10. 哲学科

10-1. 学科のポリシーと卒業生像

1. ディプロマ・ポリシー

哲学科は、常に探究心を持って自然と人間について根本から探求するとともに、世界や社会の現実にも関心を持ち、他者との対話や他者の理解を通じて、自己のあり方や生き方を主体的に追求することのできる人間を送り出すことを目的とし、以下の 6 つの力を身につけることを期待します。

1．真・善・美・聖などの根元的な価値について洞察する力。
2．古代から現代まで、また世界および日本で展開した哲学、思想、宗教等に見られる多様な世界観や人間観について理解する力。そのために必要とする古典語（日本語を含む）や外国語の運用能力。
3．社会・道徳・法などについての根本的な理解にたって、人間のあり方を考察する力。
4．理論的・自立的に思考し、論理的に自己を表現する力。
5．自己と他者を正しく理解し、他者と対話しようとする開かれた態度。
6．現代社会に対する現実的関心を持ち、公共的観点で考察し、判断する力。

2. カリキュラム・ポリシー

哲学科では、ディプロマポリシーに掲げた能力や資質を身につけるため、5つの基本領域を定めています。ただし、哲学としての全体性や総合性を重視する観点から、学生をゼミに分属させることなく、全年次を通して、どの領域の科目でも履修ができるようにしています。

①西洋哲学・倫理学
②美学・芸術学
③キリスト教学・宗教学
④日本思想史学
⑤生命・環境・社会の哲学

主な専攻分野科目は以下の 4 種類からなっています。

1．導入科目（「哲学基礎演習」）哲学を学ぶための基礎的な力を養います。基礎的知識と視点を獲得し、読解力や文章力を身につけるため、2 単位を必修としています。
2．概論科目（概論・思想史等）各基本領域の基礎的な事項を扱い、学習の土台形成を目指します。
3．特殊講義科目（特講等）諸分野についての各論の講義で、関心あるテーマについてのより深い理解を目指します。
4．演習科目（演習）テキストの読解や問題の分析を行い、発表や議論を通して、受講者同士で新たな知見を見出し、共有します。哲学的な分析力、表現力、対話力を重視する観点から、演習科目12単位以上を選択必修とし、かつすべての学年において演習科目を履修することを義務づけています。

これら以外に、ギリシア語・ラテン語などの古典語を学ぶ科目が置かれています。哲学科では、自由で主体的な学びを尊重するために、2 年次必修の導入科目以外には、年次指定などは設けず、それぞれの関心に応じて、いつでも自由に履修することができるようになっています。

2 年次では、導入科目（「哲学基礎演習」）によって、論文執筆や哲学的対話の方法を学ぶようにしています。また、全体的・総合的視野を養うために、複数の基本領域にわたって概論科目を履修するよう指導しています。

3 年次では、専門的な講義でより深い知識を身につけながら、演習では中心的な役割を担い、テキストの解釈やプレゼンテーションの力を高め、対話する力を磨きます。また、論文執筆力を高めるために、担任の指導のもと、学年レポートを執筆します。

4 年次では、「特殊演習」（卒論演習）でメンターの指導を受けながら、学問的な文章の書き方を学び、文献研究や資料調査を進め、卒業論文を執筆します。

3. 卒業生像

哲学科では、ひとりひとりの学生が、講義や演習において原典テクストを精読し、緻密な構成や表現のニュアンスにまで踏みこんで著者の意図を汲みとり、教員や他の学生との対話や質疑応答への参加をつうじて自分の頭で考え、さまざまな問題にたいして総合的に判断できる方法的思考を修得することをめざしています。そのためには、まず真・善・美・聖といった根本的な価値に深く思いをはせる訓練を積みます。というのも、人生に意味を与えるべき価値観がいちじるしく多様化・相対化した現代社会にあってこそ、自分なりの確かな指針をもつことが重要であると、わたしたちは考えるからです。

その結果、説得力のある根拠を示しながら文章を書く力、相手の知性と感性にとどく言葉を紡ぎだす力、相手の言葉に真摯に耳を傾けつつ自分の意見も述べて対話する力が身につき、世界内存在者としての自己を理解し、自己を確立すると同時に、他者へと開かれた柔軟性に支えられた協調性が養われます。

上記の特性をそなえた哲学科の卒業生は、哲学・芸術分野における研究者、博物館員・学芸員として、とりわけカトリック系の中学・高校の社会科・宗教科の教員として、またその他の分野において、社会の中で重要な役割を担うことが期待されます。

10-2. カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.34を参照してください。

1年次	2年次	3年次	4年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	哲学的な問題設定、文献理解、作文、対話などの基礎を身につけるとともに、各領域の概論等の授業によって、基礎的な知識や思考方法を獲得する	専門的な講義でより深い知識を身につけながら、演習では中心的な役割を担い、テキストの解釈やプレゼンテーションの力を高め、対話する力を磨く	学問的な文章の書き方を学び、文献研究や資料調査を進め、卒業論文制作につなげる
	必修 哲学－1 哲学基礎演習		必修 哲学－5 卒論指導
（レベル１）	哲学基礎演習	（レベル４）	哲学特殊演習1(1)(2)～7(1)(2)
選択 哲学－2 概論・思想史			
	諸分野についての基礎知識を学び、学習の土台形成を目指す		
（レベル１）	哲学概論1～2、倫理学概論1～2、日本思想史学概論1～2、美学・芸術学概論1～2、キリスト教学概論1～2、宗教学概論1～2 西洋近現代		
（レベル２）	西洋古代・中世哲学史1～2、~~西洋現代~~哲学史1～2、社会思想史1～2、日本美術史1～2、東洋美術史1～2、西洋美術史1～2、キリスト教思想史1～2、宗教思想史1～2		
選択 哲学－3 特講等			
	諸分野についての各論の講義。自由に選択し、関心あるテーマについてのより深い理解を目指す		
（レベル２）	ギリシア語Ⅰ(1)(2)、ラテン語Ⅰ(1)(2) 特講		
（レベル３）	哲学・倫理学特講1～12、美学・芸術学~~特講等~~1～6、キリスト教学特講1(1)(2)～3(1)(2)、聖書学特講1～2、宗教学特講1～4、キリスト教美術(1)(2)、キリスト教音楽(1)(2)、キリスト教文学(1)(2)、ギリシア語Ⅱ(1)(2)、ラテン語Ⅱ(1)(2)		
		（レベル５） 大学院哲学科修士課程開講科目（開講年度ごとに指定）	
	選択必修 哲学－4 演　習		
	テキストの読解、発表や議論を行い、受講者同士で新たな知見を見出し、共有する		
（レベル３）	哲学・倫理学演習1(1)(2)～9(1)(2)、日本~~思想史~~演習1(1)(2)～2(1)(2)、美学・芸術学演習1(1)(2)～4(1)(2)、キリスト教学演習1(1)(2)～4(1)(2) 思想史学		

10-3. 卒業に必要な単位

分野系列ごとの卒業に必要な単位は、下記のとおりです。

区分・分野系列				カリキュラムマップ	必要単位	卒業要件
● 卒業要件単位　：　最低126単位					126	
1　全学必修分野：　28単位					28	⇒「全学必修分野」pp.36-38参照
2　専攻課程分野：　最低90単位　※余剰①と余剰②の合計が最低12単位必要					90	
a　専攻分野：　最低56単位＋余剰①					56	
	必修	a1	必修科目	哲学－1	2	「10-4.　専攻分野の卒業要件」を参照
	選択必修	a2	演習類	哲学－4	12	
	選択	a3	自由選択科目	哲学-2、3、5	－	
b　関連分野：　最低22単位＋余剰②					22	⇒「関連分野」pp.39-45参照
3　卒業論文：　8単位					8	⇒「卒業論文」p.46参照

10-4. 専攻分野の卒業要件

以下、専攻分野の履修要項を記載しています。卒業要件を満たすように履修計画を立ててください。

※履修にあたっては、卒業要件だけでなく、以降に記載されている「履修上の注意」等をよく読むこと。

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

＜科目リストの見方＞

・レベル：授業内容のレベル

⇒「ナンバリングコード」p.16参照

・区分　：「必修」必修科目、「選必」選択必修、「選」選択科目、「◎選」必履修科目

⇒「履修方法による分類」p.16参照

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
専攻分野の卒業要件		□下記の卒業要件①～②を満たすように修得していること □a1~a3の科目から最低56単位修得していること □関連分野と合わせて最低90単位修得していること			
▼a1:必修科目　（2年次指定科目）					
卒業要件①		□下記（a1）の科目をすべて（計2単位）修得していること			
1	必修	HA14	哲学基礎演習	2	
▼a2:演習類					
卒業要件②		□下記（a2）の科目から、最低12単位を修得していること			
3	選必	HB45	哲学・倫理学演習１（１）	2	
3	選必	HB46	哲学・倫理学演習１（２）	2	
3	選必	HB47	哲学・倫理学演習２（１）	2	
3	選必	HB48	哲学・倫理学演習２（２）	2	
3	選必	HB49	哲学・倫理学演習３（１）	2	
3	選必	HB50	哲学・倫理学演習３（２）	2	
3	選必	HB51	哲学・倫理学演習４（１）	2	
3	選必	HB52	哲学・倫理学演習４（２）	2	
3	選必	HB53	哲学・倫理学演習５（１）	2	
3	選必	HB54	哲学・倫理学演習５（２）	2	
3	選必	HB55	哲学・倫理学演習６（１）	2	
3	選必	HB56	哲学・倫理学演習６（２）	2	
3	選必	HB57	哲学・倫理学演習７（１）	2	
3	選必	HB58	哲学・倫理学演習７（２）	2	
3	選必	HB59	哲学・倫理学演習８（１）	2	
3	選必	HB60	哲学・倫理学演習８（２）	2	
3	選必	HB61	哲学・倫理学演習９（１）	2	
3	選必	HB62	哲学・倫理学演習９（２）	2	
3	選必	HB71	日本思想史学演習１（１）	2	
3	選必	HB72	日本思想史学演習１（２）	2	
3	選必	HB73	日本思想史学演習２（１）	2	
3	選必	HB74	日本思想史学演習２（２）	2	
3	選必	HC53	美学・芸術学演習１（１）	2	
3	選必	HC54	美学・芸術学演習１（２）	2	
3	選必	HC55	美学・芸術学演習２（１）	2	
3	選必	HC56	美学・芸術学演習２（２）	2	
3	選必	HC57	美学・芸術学演習３（１）	2	
3	選必	HC58	美学・芸術学演習３（２）	2	
3	選必	HC59	美学・芸術学演習４（１）	2	
3	選必	HC60	美学・芸術学演習４（２）	2	
3	選必	HE01	キリスト教学演習１（１）	2	
3	選必	HE02	キリスト教学演習１（２）	2	
3	選必	HE03	キリスト教学演習２（１）	2	
3	選必	HE04	キリスト教学演習２（２）	2	
3	選必	HE05	キリスト教学演習３（１）	2	
3	選必	HE06	キリスト教学演習３（２）	2	
3	選必	HE07	キリスト教学演習４（１）	2	
3	選必	HE08	キリスト教学演習４（２）	2	
▼a3:自由選択科目					
1	選	HA15	哲学概論１	2	偶数年度開講
1	選	HA16	哲学概論２	2	奇数年度開講
1	選	HA17	倫理学概論１	2	奇数年度開講
1	選	HA18	倫理学概論２	2	偶数年度開講
1	選	HC15	美学・芸術学概論１	2	奇数年度開講
1	選	HC16	美学・芸術学概論２	2	偶数年度開講
1	選	HA19	日本思想史学概論１	2	奇数年度開講
1	選	HA20	日本思想史学概論２	2	偶数年度開講
1	選	HD41	キリスト教学概論１	2	奇数年度開講
1	選	HD42	キリスト教学概論２	2	偶数年度開講
1	選	HD43	宗教学概論１	2	偶数年度開講
1	選	HD44	宗教学概論２	2	奇数年度開講
2	選	HA94	西洋古代・中世哲学史１	2	偶数年度開講
2	選	HA95	西洋古代・中世哲学史２	2	奇数年度開講
2	選	HA96	西洋近現代哲学史1	2	偶数年度開講
2	選	HA97	西洋近現代哲学史2	2	奇数年度開講
2	選	HA98	社会思想史１	2	奇数年度開講

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
2	選	HA99	社会思想史２	2	偶数年度開講
2	選	HC17	日本美術史１	2	西暦÷3の余りが0の年は休講
2	選	HC18	日本美術史２	2	
2	選	HC19	東洋美術史１	2	西暦÷3の余りが1の年は休講
2	選	HC20	東洋美術史２	2	
2	選	HC23	西洋美術史１	2	西暦÷3の余りが2の年は休講
2	選	HC24	西洋美術史２	2	
2	選	HD55	キリスト教思想史１	2	奇数年度開講
2	選	HD56	キリスト教思想史２	2	偶数年度開講
2	選	HD57	宗教思想史１	2	偶数年度開講
2	選	HD58	宗教思想史２	2	奇数年度開講
3	選	HB27	哲学・倫理学特講１	2	
3	選	HB28	哲学・倫理学特講２	2	
3	選	HB29	哲学・倫理学特講３	2	
3	選	HB30	哲学・倫理学特講４	2	
3	選	HB31	哲学・倫理学特講５	2	奇数年度開講
3	選	HB32	哲学・倫理学特講６	2	奇数年度開講
3	選	HB33	哲学・倫理学特講７	2	偶数年度開講
3	選	HB34	哲学・倫理学特講８	2	偶数年度開講
3	選	HB35	哲学・倫理学特講９	2	
3	選	HB36	哲学・倫理学特講10	2	
3	選	HB37	哲学・倫理学特講11	2	
3	選	HB38	哲学・倫理学特講12	2	
3	選	HC35	美学・芸術学特講１	2	奇数年度開講
3	選	HC36	美学・芸術学特講２	2	偶数年度開講
3	選	HC37	美学・芸術学特講３	2	
3	選	HC38	美学・芸術学特講４	2	
3	選	HC39	美学・芸術学特講５	2	
3	選	HC40	美学・芸術学特講６	2	
3	選	HD75	キリスト教学特講１（１）	2	
3	選	HD76	キリスト教学特講１（２）	2	
3	選	HD77	キリスト教学特講２（１）	2	
3	選	HD78	キリスト教学特講２（２）	2	
3	選	HD79	キリスト教学特講３（１）	2	
3	選	HD80	キリスト教学特講３（２）	2	
3	選	HD81	聖書学特講１	2	
3	選	HD82	聖書学特講２	2	
3	選	HD83	宗教学特講１	2	
3	選	HD84	宗教学特講２	2	
3	選	HD85	宗教学特講３	2	奇数年度開講
3	選	HD86	宗教学特講４	2	偶数年度開講
3	選	HD89	キリスト教美術（１）	2	
3	選	HD90	キリスト教美術（２）	2	
3	選	HD91	キリスト教音楽（１）	2	
3	選	HD92	キリスト教音楽（２）	2	
3	選	HD93	キリスト教文学（１）	2	
3	選	HD94	キリスト教文学（２）	2	
2	選	HE28	ギリシア語Ⅰ（１）	2	
2	選	HE29	ギリシア語Ⅰ（２）	2	
2	選	HE30	ラテン語Ⅰ（１）	2	
2	選	HE31	ラテン語Ⅰ（２）	2	
3	選	HE32	ギリシア語Ⅱ（１）	2	
3	選	HE33	ギリシア語Ⅱ（２）	2	
3	選	HE34	ラテン語Ⅱ（１）	2	
3	選	HE35	ラテン語Ⅱ（２）	2	
4	選	HE51	哲学特殊演習１（１）	1	
4	選	HE52	哲学特殊演習１（２）	1	
4	選	HE53	哲学特殊演習２（１）	1	
4	選	HE54	哲学特殊演習２（２）	1	
4	選	HE55	哲学特殊演習３（１）	1	
4	選	HE56	哲学特殊演習３（２）	1	
4	選	HE57	哲学特殊演習４（１）	1	
4	選	HE58	哲学特殊演習４（２）	1	
4	選	HE59	哲学特殊演習５（１）	1	
4	選	HE60	哲学特殊演習５（２）	1	
4	選	HE61	哲学特殊演習６（１）	1	
4	選	HE62	哲学特殊演習６（２）	1	
4	選	HE63	哲学特殊演習７（１）	1	
4	選	HE64	哲学特殊演習７（２）	1	
5	選	TJ**	大学院哲学専攻修士課程開講科目		

10-5. 年次指定科目

指定年次	年次指定科目
2年次	哲学基礎演習
3年次	−
4年次	−

10-6. 履修上の注意

(1)「演習類」の履修について

①各科目の(1)(2)はペアで修得する必要があります。

②各年次において、演習科目（自由選択科目の「哲学特殊演習」を除く）を必ず4単位以上登録するようにしてください。

(2)「自由選択科目」の履修について

①各科目の(1)(2)はペアで修得する必要があります。

②大学院開講科目で学部生が履修可能な科目は、開講年度ごとに指定されます。なお、大学院生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

11．教育学科：教育学専攻

11-1．学科のポリシーと卒業生像

1．ディプロマ・ポリシー

人々が学び、育ち、共に社会を築く、その営みをグローバルな視点から実践的に解き明かす人の育成を目指し、地域社会、企業、各種の学校、政府機関等、現代社会の多様な教育現場で活躍する人材を養成します。

教育学専攻の所定の課程を修了し、次のような資質・能力を備えた者に学士（教育学）の学位を認め、社会に送り出します。

1．教育学に関する幅広い専門的知識と基本的な研究・調査能力、及び卒業論文を完遂することができる能力。
2．教育への本質的理解にもとづいて現代の教育課題に真摯にかつしなやかに取り組み、課題の解決に向けて論理的・創造的・批判的に思考し、行動する能力。
3．自己の関心を追求し、適切な方法をもって問題の解決に取り組む姿勢。
4．他者との協働を通して根本的な問題等に対応する姿勢。
5．学校教育現場および企業、地域社会、政府機関や国際機関など、国内外の幅広く多様な現場で活躍する資質。
6．柔軟性と創造性をもって社会貢献し、より公正な社会の構築に寄与できる力。
7．さまざまな教育現場で求められる豊かな感性及び自己表現力と他者とのコミュニケーション能力。
8．一人ひとりのかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切にする社会の実現に貢献しようとする姿勢と意欲。
9．生涯にわたり、学ぶ姿勢と意欲。

2．カリキュラム・ポリシー

教育学専攻では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、学生のニーズに応じて焦点化された学習が可能となるように「子どもと学びの基礎研究」、「情報教育とメディア開発」、「グローバル教育と生涯学習」の３分野を設けてカリキュラムを構成しています。

教育学専攻では、以下のような方針で２年次（編入学生含む）から４年次への教育課程を編成しています。

1．教育学のいずれかの分野を幅広く、体系的に理解した上で教育学全般を理解していくために、各分野に選択必修科目を設ける。
2．開設科目は教育学の幅広い領域を覆い、最新のテーマに対応できるよう多様な展開に努めるが、学生自身の関心に基づく選択履修の機会を最大限に保証するために、必修科目を最小限にとどめる。
3．国内外のスタディツアーを通して現代社会の実践的課題やその解決に従事する専門家に直接に触れ、創造的思考や批判的思考を養う機会を設ける。
4．研究方法を身に付け、問題関心を発展させるための少人数の演習科目を全学年に置く。多様な関心に応えるとともに、次第に教育学の専門的な研究方法へと導く。３年次には自己の問題関心を追求することのできるプロジェクト型の科目を置き、研究能力を高め自己の力に挑戦する機会とする。これらの過程を通して専門的な追求力を深めた上で、各自の課題設定により卒業論文を作成する。
5．教育学科の特色ある科目群である「人間学習」を置き、協働的、体験的な授業を通して、自己を開き、表現して他者と交流する学びの在り方を追求する。
6．２年次（編入学生含む）から４年次への具体的な展開方針は次のようである。

２年次：教育学の基礎を学び、教育学的な問題のとらえ方を理解する。現代的な教育の課題への関心を深め、視野を広げる。

３年次：教育学について発展的に学び、その実証的な研究方法を理解する。現代的な教育の課題に実践的に取り組むための知識と技能を身につける。

４年次：教育学の深い理解に基づき、柔軟性と創造性をもって教育の諸問題を探究する。身に付けた力を生かし社会貢献の道を切り拓く。

3．卒業生像

教育学および関連諸科学の研究蓄積に基づき、社会の中での人間の成長発達とこれを援助する仕組みについて、幅広くかつ体系的な理解を深め、また各自の関心ある角度から対象を掘り下げ、実証的に探究を進める能力を養います。さらに、他者との交流の中で自他を尊重しつつ人間性を深め、生涯にわたる豊かな学びの基盤を築き、地球時代において、一人一人のかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切にする社会づくりに貢献する意欲を高め、社会の広い分野において諸課題の発見とその解決に積極的に関わり、活躍することができる人材を養成します。

教育への本質的理解にもとづく柔軟で創造的な思考力と判断力、広範で多様な現代社会における教育の問題に対応する資質と能力、多様なメディアを介した自己表現力と豊かな感性、社会に貢献する意欲と使命感を身につけることによって、国内外の幅広く多様なフィールドにおいて教育のさまざまな課題を理解し、解決に向けて実践的に行動できること、学校教育現場および企業、地域社会、政府機関や国際機関など、生涯にわたる「学び」にかかわる国内外の幅広く多様な現場での活躍が期待されます。

4．教育学専攻の３つの分野

カリキュラム・ポリシーにあるように、教育学専攻では、以下のような３つの分野を設けてカリキュラムを構成しています。詳細は学科の説明会資料や学科のホームページに掲載していますので、それを参照してください。

（1）子どもと学びの基礎研究分野

この分野では、「人間の成長や学び」を中心に、原理的分野（教育哲学、教育史、教育原理など）と関係科目によって、教育学を体系的に履修します。

（2）情報教育とメディア開発分野

この分野では、コンピュータの教育的活用、メディアによる表現、授業設計、学習環境の設計、メディア教材の開発や情報表現等に関する科目を中心に履修します。

（3）グローバル教育と生涯学習分野

この分野では、教育社会学や比較教育学、生涯学習に関する科目を中心に履修します。

11-2. カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.34を参照してください。

1年次	2年次	3年次	4年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	・教育学の基礎を学び、教育学的な問題のとらえ方を理解する ・現代的な教育の課題への関心を深め、多様なフィールドに視野を広げる ・多様なメディアを介した自己表現の方法を体験し、感性を磨く	・教育学の実証的な研究方法について理解する ・現代的課題に実践的に取り組むための知識と技能を身につける ・情報活用力、表現力を高める	・柔軟性と創造性をもって教育の諸問題を探究する ・自ら課題を設定し、実際に調査・研究を行い卒論にまとめる ・身につけた力を生かす社会貢献の道を切り拓く
	必履修 教育－1 2年ゼミ	必修 教育－2 学年ゼミ	
	＜教育学演習Ⅰ＞	＜教育学演習Ⅱ＞	＜教育学演習Ⅲ＞
		必履修 教育－3 自主研究	
（レベル3）		Myプロジェクト	
	選択／選択必修 教育－4 子どもと学びの基礎研究		
（レベル2）	★教育哲学、★西洋社会思想、★教育原理2、教育原理1、カリキュラム論、外国教育史、日本教育史		
（レベル3）	教育経営と学校制度		★:指定科目（選択必修）
	選択／選択必修 教育－5 情報教育とメディア開発		
（レベル2）	教育方法［含ICT活用］		
（レベル3）	★教育メディア論、★メディア教材開発、★教育情報と学習デザイン		★:指定科目（選択必修）
	選択／選択必修 教育－6 グローバル教育と生涯学習		
（レベル2）	★生涯学習概論、★社会学概論1、★社会学概論2、★比較教育学1		
（レベル3）	比較教育学2、発展途上国における教育問題（1）、発展途上国における教育問題（2）		★:指定科目（選択必修）
	選択 教育－7 人間学習 標準履修年次：3・4年次		
（レベル4）	人間学習1 ～人間学習9		
	選択 教育－8 教職関連		
（レベル2）	教育心理学、特別支援教育概論、発達心理学2		
（レベル3）	道徳教育の理論と実践、教育相談、特別活動、生徒指導［含進路指導］、総合的な学習の時間の指導法		
		選択 教育－9 自由選択科目	
（レベル5）		大学院人間科学専攻博士前期課程開講科目（開講年度ごとに指定）	

11-3. 卒業に必要な単位

分野系列ごとの卒業に必要な単位は、下記のとおりです。

区分・分野系列				カリキュラムマップ	必要単位	卒業要件
● 卒業要件単位 ： 最低126単位					126	
1 全学必修分野： 28単位					28	⇒「全学必修分野」pp.36-38参照
2 専攻課程分野： 最低90単位 ※余剰①と余剰②の合計が最低12単位必要					90	
a 専攻分野： 最低56単位＋余剰①					56	
必修		a1	学年ゼミ	教育－2	8	「11-4. 専攻分野の卒業要件」を参照
選択必修			指定科目		2	
		a4a	子どもと学びの基礎研究(指定)	教育－4		
		a5a	情報教育とメディア開発(指定)	教育－5		
		a6a	グローバル教育と生涯学習（指定）	教育－6		
選択		a7	人間学習	教育－7	2	
	必履修	a2	2年ゼミ	教育－1	(4)	
	必履修	a3	自主研究	教育－3	(2)	
	選択	a4b	子どもと学びの基礎研究(選択)	教育－4	－	
	選択	a5b	情報教育とメディア開発(選択)	教育－5		
	選択	a6b	グローバル教育と生涯学習(選択)	教育－6		
	選択	a8	教職関連	教育－8	－	
	選択	a9	自由選択科目	教育－9	－	
b 関連分野： 最低22単位＋余剰②					22	⇒「関連分野」pp.39-45参照
3 卒業論文： 8単位					8	⇒「卒業論文」p.46参照

11-4. 専攻分野の卒業要件

以下、専攻分野の履修要項を記載しています。卒業要件を満たすように履修計画を立ててください。

※履修にあたっては、卒業要件だけでなく、以降に記載されている「履修上の注意」等をよく読むこと。

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

＜科目リストの見方＞

・レベル：授業内容のレベル

⇒「ナンバリングコード」p.16参照

・区分 ：「必修」必修科目、「選必」選択必修、「選」選択科目、「◎選」必履修科目

⇒「履修方法による分類」p.16参照

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
専攻分野の卒業要件			□下記の卒業要件①～④を満たすように修得していること □a1 ～ a9の科目から最低56単位修得していること □関連分野と合わせて最低90単位修得していること		
▼a1：学年ゼミ （3・4年次指定科目）					
卒業要件①			□下記（a1）の科目をすべて（計8単位）修得していること		
3	必修	JH25	教育学演習Ⅱ（1）	2	3年次指定科目
3	必修	JH26	教育学演習Ⅱ（2）	2	3年次指定科目
4	必修	JH27	教育学演習Ⅲ（1）	2	4年次指定科目
4	必修	JH28	教育学演習Ⅲ（2）	2	4年次指定科目
▼a2：2年ゼミ （必履修科目：2年次）					
2	◎選	JH23	教育学演習Ⅰ（1）	2	
2	◎選	JH24	教育学演習Ⅰ（2）	2	
▼a3：自主研究 （必履修科目：3年次）					
3	◎選	JH19	Myプロジェクト	2	
▼a4a ～ a6a：指定科目					
卒業要件②			□下記（a4a～a6a）の科目から、最低2単位を修得していること		
＜a4a 子どもと学びの基礎研究（指定）＞					
2	選必	JC13	西洋社会思想	2	~~隔年予定~~ 奇数年度開講
2	選必	JC23	教育哲学	2	~~隔年予定~~ 偶数年度開講

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
2	選必	RA22	教育原理2	2	
＜a5a 情報教育とメディア開発（指定）＞					
3	選必	JC34	教育メディア論	2	偶数年度開講
3	選必	JE13	メディア教材開発	2	奇数年度開講
3	選必	JE14	教育情報と学習デザイン	2	
＜a6a グローバル教育と生涯学習（指定）＞					
2	選必	JC47	生涯学習概論	2	
2	選必	JC48	社会学概論 1	2	奇数年度開講
2	選必	JC49	社会学概論 2	2	偶数年度開講
2	選必	JC55	比較教育学 1	2	
▼a4b：子どもと学びの基礎研究（選択）					
2	選	JA13	教育原理 1	2	
2	選	KH15	カリキュラム論	2	
2	選	KH16	外国教育史	2	
2	選	KH17	日本教育史	2	
3	選	KH18	教育経営と学校制度	2	
▼a5b：情報教育とメディア開発（選択）					
2	選	JC30	教育方法[含ICT活用]	2	
▼a6b：グローバル教育と生涯学習（選択）					
3	選	JC56	比較教育学2	2	

ﾚﾍﾞﾙ	区分	コード	授業科目名	単位	備考
3	選	JC93	発展途上国における教育問題（1）	2	
3	選	JC94	発展途上国における教育問題（2）	2	
▼a7：人間学習（標準履修：3・4年次）					
卒業要件③		□下記（a7）の科目から、最低2単位を修得していること			
4	選必	JD46	人間学習 1	2	
4	選必	JD47	人間学習 2	2	
4	選必	JD48	人間学習 3	2	
4	選必	JD49	人間学習 4	2	
4	選必	JD50	人間学習 5	2	
4	選必	JD51	人間学習 6	2	
4	選必	JD52	人間学習 7	2	
4	選必	JD53	人間学習 8	2	
4	選必	JD54	人間学習 9	2	
▼a8：教職関連（標準履修：2・3年次）					
2	選	JH83	教育心理学	2	中・高
2	選	JH86	特別支援教育概論	2	中・高
2	選	LH12	発達心理学 2	2	中・高
3	選	JH81	道徳教育の理論と実践	2	中
3	選	JH82	教育相談	2	中・高
3	選	JH84	特別活動	2	中・高
3	選	JH85	生徒指導［含進路指導］	2	中・高
3	選	JH87	総合的な学習の時間の指導法	2	中・高
▼a9：自由選択科目					
5	選	WA** WF**	大学院人間科学専攻博士前期課程開講科目		

11-5. 年次指定科目・必履修科目

指定年次	年次指定科目	必履修科目
2年次	−	教育学演習Ⅰ(1)(2)
3年次	教育学演習Ⅱ(1)(2)	Myプロジェクト
4年次	教育学演習Ⅲ(1)(2)	−

11-6. 履修上の注意

(1)「a4a ～ a6a：指定科目」の履修について

3分野それぞれから最低1科目履修することが望ましい。

(2)「a8：教職関連」の履修について

卒業のためには、必ずしもこの分野から履修する必要はありませんが、教職課程履修者にとって必修となる科目があります。

(3)「a9：自由選択科目」の履修について

大学院開講科目で学部生が履修可能な科目は、開講年度ごとに指定されます。なお、大学院生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

(4) その他

中学「社会」、高校「地理歴史」、高校「公民」の教員免許状取得希望者、または、小学校・幼稚園教員免許状取得希望者の履修については、教職課程ガイダンスにて説明します。

12. 教育学科：初等教育学専攻（初等教育コース）

12-1. 学科のポリシーと卒業生像

1. ディプロマ・ポリシー

教育学科初等教育学専攻は、豊かな心、確かな力量、強い責任感を持ち、子どもの「いのち」と「こころ」の成長を支える力を持った幼稚園教員、保育士、小学校教員を社会に送り出します。

初等教育学専攻の所定の課程を修了し、次のような資質・能力を備えた者に学士（初等教育学）の学位を認めます。

1．公正な社会の実現に向けて高い志をもち、教育・保育への本質的理解にもとづいて初等教育・保育に貢献できる資質。
2．実践現場に必要な教育・養護・福祉等の幅広い視野と深い洞察力、および柔軟性と創造性。
3．教育学に関する高度な専門的知識と基本的な研究・調査能力を持ち、卒業論文を完遂することができる能力。
4．論理的かつ批判的な思考力および柔軟で的確な判断力。
5．実践現場で必要な豊かな感性と自己表現力並びに倫理性。
6．人格の基礎を培う時期である初等教育・保育に貢献しようとする情熱。
7．教育・保育に携わる専門家としての深い人間理解力と実践力。
8．現代社会の教育・保育問題に対して真摯にかつしなやかに対応し、他者と協働して問題解決に取り組む姿勢と意欲。
9．自らの知的関心を発展させ、生涯学びつづける姿勢と意欲。
10．一人ひとりのかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切にする社会の実現に貢献しようとする姿勢。

2. カリキュラム・ポリシー

初等教育学専攻では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、学生のニーズに応じた免許・資格取得が可能となるように、教育職員免許法の規定する初等教員一種免許課程の枠組みを踏まえた「初等教育コース」と就学前の教育・保育にかかる免許・資格課程を踏まえた「幼児教育コース」を置いています。

初等教育学専攻では、以下のような方針で 2 年次から 4 年次への教育課程を編成しています。

1．教育学全般を幅広く、また体系的に理解し、教育への関心を深めるための「教育原理１」「教育学演習Ⅰ（1）」を全体の基盤として、さらに多様な教育学関係科目を置く。
2．以上を基礎として、教育職員免許法の規定する初等教員一種免許課程の枠組みを踏まえた初等教育コースと就学前の教育・保育にかかる免許・資格課程を踏まえた幼児教育コースを置く。各コースを修了することでそれぞれの学校種の一種教員免許状及び保育士資格を取得できるよう科目を開設する。
3．聖心の初等教育学として豊かな人間性の育成を重視し、高度な教員・保育者養成を目指して特色あるカリキュラムを展開する。
4．研究方法を身に付け、問題関心を発展させるための少人数の演習科目を全学年に置く。多様な関心に応えるとともに、次第に初等教育学の専門的な研究方法へと導く。専門的な追求力を深めた上で、各自の課題設定により卒業論文を作成する。
5．教育学科の特色ある科目群として「人間学習」を多数展開し、協力して行う体験的な授業を通して、自己を開き、表現して他者と交流する学びの在り方を追求する。
6．２年次から４年次への具体的な展開方針は次のようである。
２年次：教育全般や初等教育・保育に関する基礎を学ぶ。教員・保育者に求められる基本的な資質や能力を身に付け、将来の自己像・教員・保育者像を描く。また、保育実習を通して乳幼児の発達や子育てをめぐる諸問題に関心を高めていく。
３年次：広い視点から教育全般や初等教育・保育をとらえる。知識を豊かにし教育の具体的方法について学ぶ。教員・保育者に求められる資質の理解を深め、表現力や感性、豊かな心を磨く。
４年次：幅広い視野、柔軟な思考力、的確な判断力など、教員・保育者に必要な資質・能力を確かなものとし、教育の諸問題を探究する。教職・保育職に対する情熱と使命感を高める。教育実習を実施し、学校と児童・幼児に対する理解を深め、実践的な指導力を身につける。

3. 卒業生像

教育学および関連諸科学の研究蓄積に基づき、社会の中での人間の成長発達とこれを援助する仕組みについて、幅広くかつ体系的な理解を深め、また各自の関心に基づき実証的に探究を進める能力を養います。さらに、他者との交流の中で自他を尊重しつつ人間性を深め、生涯にわたる豊かな学びの基盤を築き、地球時代において、一人一人のかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切にする社会づくりに貢献する意欲を高め、責任感と使命感を持って活躍することのできる、実践的指導力のある小学校・幼稚園教諭を養成します。

人間愛に支えられ深く他者を理解する力、教職に対する情熱と使命感、教育の基礎理論、初等教育教員として必要な理論と方法や実践する力を身につけ、幅広い教養と思考力そして的確な判断力を備え、自ら困難な問題に立ち向かい、理解者・支援者としての役割を果たすことができる人材、自らの人間力を高め社会に貢献する精神を磨き続ける人材を育てます。初等教育に情熱をもち、幼稚園、あるいは小学校の教員として深い人間理解力と実践力を兼ね備えた、貢献できる教員となることが期待されます。

12-2. カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.34を参照してください。

1年次	2年次	3年次	4年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	・教育全般や初等教育に関する基礎的理論など教養を深める ・教師に求められる基本的な知識の獲得と子ども理解の重要性を学ぶ ・自己表現の方法を体験し、感性を磨く ・様々な実践を知り、将来の自己像・教師像を描く	・多様な実践を知り、広い視点から教育を考える ・子どもの発達を理解し、教育の具体的方法について学ぶ ・教育内容の理解を深める ・フィールド学習を通して、教師に必要な資質への理解を深める ・教師にとって必要な表現力や感性、豊かな心を育む	・教職への専門的理解を深め、指導力を確立する ・教職に対する情熱と使命感を高める ・人間力を高め、理想の教師像に向けた自己課題を明確にする
	必履修 初教(小)−1 2年ゼミ	必修 初教(小)−2 学年ゼミ	
	＜教育学演習Ⅰ＞	＜教育学演習Ⅱ＞	＜教育学演習Ⅲ＞
	必修 初教(小)−3 基礎理論		
（レベル2）	教育原理 1		
	必修／選択必修 初教(小)−5 教育理念・教育史、発達と学習の過程、教育の方法		
（レベル3）	教職入門、 国語科教育法（小学校）、社会科教育法（小学校）、算数科教育法、 理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、 家庭科教育法、体育科教育法、 外国語教育法（小学校）、 教育経営と学校制度、 カリキュラム論		
	必修／選択必修 初教(小)−5 教育理念・教育史、発達と学習の過程、教育の方法		
（レベル2）	外国教育史、日本教育史、教育心理学、★発達心理学1 教育方法[含ICT活用]		
（レベル3）	国語概論［含書写］、社会科概論、算数概論、理科概論、生活科概論、 音楽概論、図画工作概論、家庭科概論、体育概論、外国語概論 ★:心理学科開講科目		
		必修 初教(小)−6 特別活動・生徒指導等、教育実習 教職実践演習	
（レベル2）		特別支援教育概論	
（レベル3）		道徳教育の理論と実践、教育相談、特別活動、生徒指導［含進路指導］、 総合的な学習の時間の指導法、教育実習指導 2	
（レベル4）		教育実習指導 5 、教育実習 3 、教育実習 4 教職実践演習	
	選択必修 初教(小)−7 人間学習 ＜標準履修年次：3・4年次＞		
（レベル4）	人間学習 1 ～人間学習 9		
		選択 初教(小)−8 自由選択科目	
（レベル5）		大学院人間科学専攻博士前期課程開講科目（開講年度ごとに指定）	
（レベル2）		西洋社会思想、教育哲学、生涯学習概論、社会学概論 1 ・ 2 保育原理	
（レベル3）		発展途上国における教育問題（1）（2）	

12-3. 卒業に必要な単位

分野系列ごとの卒業に必要な単位は、下記のとおりです。

区分・分野系列				カリキュラムマップ	必要単位	卒業要件
● 卒業要件単位 ： 最低126単位					126	
1 全学必修分野： 28単位					28	⇒「全学必修分野」pp.36-38参照
2 専攻課程分野： 最低90単位					90	
a 専攻分野： 最低82単位					82	
	必修	a1	基礎理論と学年ゼミ	初教（小）-2，3	10	「12-4. 専攻分野の卒業要件」を参照
	必修	a2	特別活動・生徒指導等	初教（小）-6	12	
	必修	a3	教職の意義等	初教（小）-4	2	
	必修	a4	教育実習	初教（小）-6	6	
	必修	a5	教職実践演習	初教（小）-6	2	
	必修	a6	教科の指導法	初教（小）-4	20	
	必修	a9	教育の社会的事項	初教（小）-4	2	
	必修	a10	教育の課程	初教（小）-4	2	
	必修	a12	教育の方法	初教（小）-4	2	
	選択必修	a7	教科内容の概論	初教（小）-5	10	
	選択必修	a8	教育理念・教育史	初教（小）-5	2	
	選択必修	a11	発達と学習の過程	初教（小）-5	2	
	選択必修	a13	人間学習	初教（小）-7	2	
	選択 必履修	a14	2年ゼミ	初教（小）-1	(4)	
	選択 選択	a15	自由選択科目	初教（小）-8	−	
b 関連分野：最低８単位 ※「憲法１」「憲法２」のいずれか（２単位）を含む					8	⇒「関連分野」pp.39-45参照
3 卒業論文： ８単位					8	⇒「卒業論文」p.46参照

12-4. 専攻分野の卒業要件

以下、専攻分野の履修要項を記載しています。卒業要件を満たすように履修計画を立ててください。

※履修にあたっては、卒業要件だけでなく、以降に記載されている「履修上の注意」等をよく読むこと。

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

<科目リストの見方>

・レベル：授業内容のレベル

⇒「ナンバリングコード」p.16参照

・区分 ：「必修」必修科目、「選必」選択必修、「選」選択科目、「◎選」必履修科目

⇒「履修方法による分類」p.16参照

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
専攻分野の卒業要件			□下記の卒業要件①～⑬を満たすように修得していること □a1 ～ a15の科目から最低82単位修得していること		
▼a1：基礎理論と学年ゼミ （2・3・4年次指定科目）					
卒業要件①			□下記（a1）の科目をすべて（計10単位）修得していること		
2	必修	JA13	教育原理 1	2	2年次指定科目
3	必修	JH25	教育学演習Ⅱ（１）	2	3年次指定科目
3	必修	JH26	教育学演習Ⅱ（２）	2	3年次指定科目
4	必修	JH27	教育学演習Ⅲ（１）	2	4年次指定科目
4	必修	JH28	教育学演習Ⅲ（２）	2	4年次指定科目
▼a2：特別活動・生徒指導等 （標準履修：3・4年次）					
卒業要件②			□下記（a2）の科目をすべて（計12単位）修得していること		
3	必修	JH81	道徳教育の理論と実践	2	
3	必修	JH82	教育相談	2	
3	必修	JH84	特別活動	2	
3	必修	JH85	生徒指導[含進路指導]	2	
2	必修	JH86	特別支援教育概論	2	
3	必修	JH87	総合的な学習の時間の指導法	2	
▼a3：教職の意義等 （標準履修：2・3年次）					
卒業要件③			□下記（a3）の科目をすべて（計２単位）修得していること		
3	必修	KH19	教職入門	2	

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
▼a4：教育実習 （3・4年次指定科目）					
卒業要件④			□下記（a4）の科目をすべて（計６単位）修得していること		
3	必修	KG15	教育実習指導２	1	3年次指定科目
4	必修	KG16	教育実習指導５	1	4年次指定科目
4	必修	KH09	教育実習３	2	4年次指定科目
4	必修	KH10	教育実習４	2	4年次指定科目
▼a5：教職実践演習 （4年次指定科目）					
卒業要件⑤			□下記（a5）の科目をすべて（計２単位）修得していること		
4	必修	KG44	教職実践演習	2	
▼a6：教科の指導法 （標準履修：2・3年次）					
卒業要件⑥			□下記（a6）の科目をすべて（計20単位）修得していること		
3	必修	KB12	国語科教育法(小学校)	2	
3	必修	KB22	社会科教育法(小学校)	2	
3	必修	KB31	生活科教育法	2	
3	必修	KB41	算数科教育法	2	
3	必修	KB51	理科教育法	2	
3	必修	KB61	音楽科教育法	2	
3	必修	KB72	図画工作科教育法	2	
3	必修	KB81	家庭科教育法	2	

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
3	必修	KB91	体育科教育法	2	
3	必修	KB93	外国語教育法（小学校）	2	
▼a7：教科内容の概論　（標準履修：2・3年次）					
卒業要件⑦		□下記（a7）の科目から最低10単位修得していること			
3	選必	KA13	国語概論[含書写]	2	
3	選必	KA21	社会科概論	2	
3	選必	KA31	生活科概論	2	
3	選必	KA42	算数概論	2	
3	選必	KA51	理科概論	2	
3	選必	KA65	音楽概論	2	
3	選必	KA73	図画工作概論	2	
3	選必	KA82	家庭科概論	2	
3	選必	KA92	体育概論	2	
3	選必	KA94	外国語概論	2	
▼a8：教科理念・教育史　（標準履修：2・3年次）					
卒業要件⑧		□下記（a8）の科目から最低2単位修得していること			
2	選必	KH16	外国教育史	2	
2	選必	KH17	日本教育史	2	
▼a9：教育の社会的事項　（標準履修：2・3年次）					
卒業要件⑨		□下記（a9）の科目をすべて（計2単位）修得していること			
3	必修	KH18	教育経営と学校制度	2	
▼a10：教育の課程　（標準履修：2・3年次）					
卒業要件⑩		□下記（a10）の科目をすべて（計2単位）修得していること			
2	必修	KH15	カリキュラム論	2	
▼a11：発達と学習の過程　（標準履修：2・3年次）					
卒業要件⑪		□下記（a11）の科目から最低2単位修得していること			
2	選必	JH83	教育心理学	2	
2	選必	LH11	発達心理学1	2	心理学科開講科目
▼a12：教育の方法　（標準履修：2・3年次）					
卒業要件⑫		□下記（a12）の科目をすべて（計2単位）修得していること			
2	必修	JC30	教育方法[含ICT活用]	2	
▼a13：人間学習　（標準履修：3・4年次）					
卒業要件⑬		□下記（a13）の科目から最低2単位修得していること			
4	選必	JD46	人間学習1	2	
4	選必	JD47	人間学習2	2	
4	選必	JD48	人間学習3	2	
4	選必	JD49	人間学習4	2	
4	選必	JD50	人間学習5	2	
4	選必	JD51	人間学習6	2	
4	選必	JD52	人間学習7	2	
4	選必	JD53	人間学習8	2	
4	選必	JD54	人間学習9	2	
▼a14：2年ゼミ　（必履修科目：2年次）					
2	◎選	JH23	教育学演習Ⅰ(1)	2	
2	◎選	JH24	教育学演習Ⅰ(2)	2	
▼a15：自由選択科目					
2	選	JC13	西洋社会思想	2	隔年予定
2	選	JC23	教育哲学	2	隔年予定
2	選	JC47	生涯学習概論	2	
2	選	JC48	社会学概論1	2	奇数年度開講
2	選	JC49	社会学概論2	2	偶数年度開講
3	選	JC93	発展途上国における教育問題(1)	2	
3	選	JC94	発展途上国における教育問題(2)	2	
2	選	KH12	保育原理	2	履修上の注意(3)①
5	選	WA** WF**	大学院人間科学専攻博士前期課程開講科目		

12-5. 年次指定科目・必履修科目

指定年次	年次指定科目	必履修科目
2年次	教育原理1	教育学演習Ⅰ(1)(2)
3年次	教育学演習Ⅱ(1)(2) 教育実習指導2	−
4年次	教育学演習Ⅲ(1)(2) 教育実習指導5 教育実習3，教育実習4 教職実践演習	−

12-6. 履修上の注意

(1)「a4：教育実習」の履修について

①「a4：教育実習」の各科目は、自動登録科目です。履修予定なのに登録されていない、あるいは履修しないのに登録されているなど、登録内容に不明な点がある場合は、履修登録確認時に必ず申し出てください。

②教育実習は、履修資格に関する条件があります。

(2)「a11：発達と学習の過程」の履修について

「発達心理学1」は心理学科開講科目ですが、初等教育学コース所属学生の修得単位は、「a11：発達と学習の過程」に算入され、専攻分野の単位となります。

(3)「a15：自由選択科目」の履修について

①「保育原理」は、幼稚園教員免許課程登録者のみ履修可能です。

②大学院開講科目で学部生が履修可能な科目は、開講年度ごとに指定されます。なお、大学院生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

(4)「憲法」の履修について

初等教育学専攻生は、免許法施行規則第六十六条の六に定める「日本国憲法」の科目として、総合現代教養科目の「憲法1」、「憲法2」のいずれかを必ず修得しなければなりません。修得単位は、関連分野の必要単位8単位に含まれます。

(5) 専攻分野の単位とならない教育学科開講科目について

①「12-4．専攻分野の卒業要件」に掲載の科目リストに記載されていない教育学科開講科目は、所属学科の開講科目であっても、初等教育学専攻（初等教育コース）所属の学生にとって、関連分野または資格関係分野の科目となります。詳細は、「関連分野」、「資格関係分野」のページに掲載の科目リストで確認してください。

⇒「関連分野」pp.39-45、「資格関係分野」p.47参照

②初等教育学専攻（初等教育コース）所属の学生が、1年次生のときに「社会福祉」（PA02）を履修していた場合、その修得単位は資格関係分野に算入され、卒業要件外となります。なお、「社会福祉」は、保育士養成課程履修者対象科目のため、2年次生以上は初等教育学専攻（幼児教育コース）所属学生以外は履修できません。

12-7. 教育実習の履修資格要件（小学校）

教育実習を履修するためには、次の「教育実習の資格要件」を満たしていなければなりません。すなわち、４年次で教育実習を履修するためには、３年次終了時点で要件を満たすことが必要となります。

また、教育実習の履修資格要件ではありませんが、音楽・図画工作・体育関係の必修科目を修得しておくことが望まれます。

授業科目	教育実習履修資格要件
教育原理１	修得済であること
カリキュラム論	修得済であること
教育実習指導２	修得済であること
道徳教育の理論と実践、特別活動、生徒指導［含進路指導］、教育相談、総合的な学習の時間の指導法、特別支援教育概論	左の4つの区分の中から3区分についてそれぞれ1科目ずつ修得済であること
教育経営と学校制度	
発達心理学１、教育心理学	
教育方法［含 ICT活用］	
国語科教育法（小学校）、社会科教育法（小学校）、算数科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法、外国語教育法（小学校）	左の10科目の中から3科目以上修得済であること

12-8. 幼稚園教員免許状の取得について

初等教育学（初等教育）専攻生が、幼稚園の免許をあわせて取得する場合、教職課程小学校・幼稚園教員特別プログラムのＹ１コースに登録しなければなりません。Ｙ１コースの履修方法については、教職課程ガイダンスにて説明します。なお、初等教育学（初等教育）専攻生がＹ１コースを履修する場合、以下の点に注意してください。

（1）履修免除の科目について

①「教育実習指導２」および「教育実習指導５」を修得することで、「教育実習指導３」および「教育実習指導６」の履修が免除されます。

②「教職実践演習」を修得することで、「保育・教職実践演習」の履修が免除されます。

（2）卒業要件外の科目について

Ｙ１コース履修者は、幼稚園免許取得に必要な以下の科目を履修することができます。ただし、分野系列は資格関係分野となり、修得単位は卒業要件外となります。

コード	授業科目名	単位	備考
KH14	保育者論	2	
KC12	保育・幼児教育課程論	2	
KE17	保育方法論	2	
KA96	特別支援教育・保育総論	2	
PB09	子ども理解と援助	2	
KD01	保育内容総論	2	
KD13	保育内容［健康]	2	
KD33	保育内容［人間関係］	2	
KD43	保育内容［環境］	2	
KD53	保育内容［言葉］	2	
KD74	保育内容［表現］	2	
KA66	子どもと音楽表現	2	
KD83	保育内容の理解と方法１	2	
KD84	保育内容の理解と方法２	2	
KJ01	子どもと健康	2	
KJ02	子どもと人間関係	2	
KJ03	子どもと環境	2	
KJ04	子どもと言葉	2	
KJ05	子どもと造形表現	2	

13. 教育学科：初等教育学専攻（幼児教育コース）

13-1. 学科のポリシーと卒業生像

1. ディプロマ・ポリシー

教育学科初等教育学専攻は、豊かな心、確かな力量、強い責任感を持ち、子どもの「いのち」と「こころ」の成長を支える力を持った幼稚園教員、保育士、小学校教員を社会に送り出します。

初等教育学専攻の所定の課程を修了し、次のような資質・能力を備えた者に学士（初等教育学）の学位を認めます。

1．公正な社会の実現に向けて高い志をもち、教育・保育への本質的理解にもとづいて初等教育・保育に貢献できる資質。
2．実践現場に必要な教育・養護・福祉等の幅広い視野と深い洞察力、および柔軟性と創造性。
3．教育学に関する高度な専門的知識と基本的な研究・調査能力を持ち、卒業論文を完遂することができる能力。
4．論理的かつ批判的な思考力および柔軟で的確な判断力。
5．実践現場で必要な豊かな感性と自己表現力並びに倫理性。
6．人格の基礎を培う時期である初等教育・保育に貢献しようとする情熱。
7．教育・保育に携わる専門家としての深い人間理解力と実践力。
8．現代社会の教育・保育問題に対して真摯にかつしなやかに対応し、他者と協働して問題解決に取り組む姿勢と意欲。
9．自らの知的関心を発展させ、生涯学びつづける姿勢と意欲。
10．一人ひとりのかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切にする社会の実現に貢献しようとする姿勢。

2. カリキュラム・ポリシー

初等教育学専攻では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、学生のニーズに応じた免許・資格取得が可能となるように、教育職員免許法の規定する初等教員一種免許課程の枠組みを踏まえた「初等教育コース」と就学前の教育・保育にかかる免許・資格課程を踏まえた「幼児教育コース」を置いています。

初等教育学専攻では、以下のような方針で２年次から４年次への教育課程を編成しています。

1．教育学全般を幅広く、また体系的に理解し、教育への関心を深めるための「教育原理１」「教育学演習Ⅰ(1)」を全体の基盤として、さらに多様な教育学関係科目を置く。
2．以上を基礎として、教育職員免許法の規定する初等教員一種免許課程の枠組みを踏まえた初等教育コースと就学前の教育・保育にかかる免許・資格課程を踏まえた幼児教育コースを置く。各コースを修了することでそれぞれの学校種の一種教員免許状及び保育士資格を取得できるよう科目を開設する。
3．聖心の初等教育学として豊かな人間性の育成を重視し、高度な教員・保育者養成を目指して特色あるカリキュラムを展開する。
4．研究方法を身に付け、問題関心を発展させるための少人数の演習科目を全学年に置く。多様な関心に応えるとともに、次第に初等教育学の専門的な研究方法へと導く。専門的な追求力を深めた上で、各自の課題設定により卒業論文を作成する。
5．教育学科の特色ある科目群として「人間学習」を多数展開し、協力して行う体験的な授業を通して、自己を開き、表現して他者と交流する学びの在り方を追求する。
6．２年次から４年次への具体的な展開方針は次のようである。
２年次：教育全般や初等教育・保育に関する基礎を学ぶ。教員・保育者に求められる基本的な資質や能力を身に付け、将来の自己像・教員・保育者像を描く。また、保育実習を通して乳幼児の発達や子育てをめぐる諸問題に関心を高めていく。
３年次：広い視点から教育全般や初等教育・保育をとらえる。知識を豊かにし教育の具体的方法について学ぶ。教員・保育者に求められる資質の理解を深め、表現力や感性、豊かな心を磨く。
４年次：幅広い視野、柔軟な思考力、的確な判断力など、教員・保育者に必要な資質・能力を確かなものとし、教育の諸問題を探究する。教職・保育職に対する情熱と使命感を高める。教育実習を実施し、学校と児童・幼児に対する理解を深め、実践的な指導力を身につける。

3. 卒業生像

教育学および関連諸科学の研究蓄積に基づき、社会の中での人間の成長発達とこれを援助する仕組みについて、幅広くかつ体系的な理解を深め、また各自の関心に基づき実証的に探究を進める能力を養います。さらに、他者との交流の中で自他を尊重しつつ人間性を深め、生涯にわたる豊かな学びの基盤を築き、地球時代において、一人一人のかけがえのない「いのち」と「こころ」を大切にする社会づくりに貢献する意欲を高め、責任感と使命感を持って活躍することのできる、実践的指導力のある小学校・幼稚園教諭を養成します。

人間愛に支えられ深く他者を理解する力、乳幼児期の子どもの教育・保育に対する情熱と使命感、教育の基礎理論、初等教育・保育の専門家として必要な理論と方法や実践する力を身につけ、幅広い教養と思考力そして的確な判断力を備え、自ら困難な問題に立ち向かい、理解者・援助者としての役割を果たすことができる人材、自らの人間力を高め社会に貢献する精神を磨き続ける人材を育てます。初等教育及び保育に情熱をもち、幼稚園、保育所、子ども園の保育者、あるいは小学校の教員として深い人間理解力と実践力を兼ね備え、社会に貢献することが期待されます。

13-2. カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.34を参照してください。

1年次	2年次	3年次	4年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	・教育全般や幼児教育・保育に関する基礎的理論など教養を深める ・教師・保育士に求められる基本的な知識の獲得と子ども理解の重要性を学ぶ ・自己表現の方法を体験し、感性を磨く ・様々な実践を知り、将来の自己像・教師・保育士像を描く	・多様な実践を知り、広い視点から教育・保育を考える ・子どもの発達を理解し、教育・保育の具体的方法について学ぶ ・教育・保育内容の理解を深める ・フィールド学習を通して、教師・保育士に必要な資質への理解を深める ・教師・保育士にとって必要な表現力や感性、豊かな心を育む	・教職・保育職への専門的理解を深め、指導力を確立する ・教職・保育職に対する情熱と使命感を高める ・人間力を高め、理想の教師・保育士像に向けた自己課題を明確にする
	必履修 初教(幼)－1 ２年ゼミ	必修 初教(幼)－2 学年ゼミ	
	＜教育学演習 I ＞	＜教育学演習Ⅱ＞	＜教育学演習Ⅲ＞
	必修 初教(幼)－3 基礎理論		
（レベル２）	教育原理 1 、保育原理		
	必修／選択必修 初教(幼)－4 教職の意義等、幼児の教育課程、幼児教育の方法、幼児理解の理論、保育内容・保育の表現技術、教科内容の概論、教育の社会的事項		
（レベル２） （レベル３）	保育者論、保育・幼児教育課程論、特別支援教育・保育総論 保育方法論、子ども理解と援助、保育内容総論、保育内容[健康]、保育内容[人間関係]、保育内容[環境]、保育内容[言葉]、保育内容[表現]、子どもと音楽表現、保育内容の理解と方法1 ～ 2、子どもと健康、子どもと人間関係、子どもと環境、子どもと言葉、子どもと造形表現、教育経営と学校制度		
	選択必修 初教(幼)－5 教育理念・教育史、発達と学習の過程		
（レベル２）	外国教育史、日本教育史、教育心理学、★発達心理学1 ★：心理学科開講科目		
		選択必修 初教(幼)－6 教育実習、教職実践演習	
		（レベル３） （レベル４）	教育実習指導３ 教育実習指導６、教育実習３、教育実習４、保育・教職実践演習
	選択必修 初教(幼)－7 人間学習 ＜標準履修年次：３・４年次＞		
（レベル４）	人間学習 1 ～人間学習 9		
	選択 初教(幼)－8 自由選択科目		
	（レベル２） ~~（レベル３）~~ ~~（レベル４）~~ （レベル ３） （レベル４） （レベル５）	教育哲学、西洋社会思想、教育方法［含ICT活用］、社会学概論1～2、 カリキュラム論、生涯学習概論、子ども家庭福祉、社会福祉、 子ども家庭支援論、社会的養護Ⅰ 教育相談、道徳教育の理論と実践、特別活動、生徒指導［含進路指導］、 発展途上国における教育問題（1）（2）、保育の心理学、 子ども家庭支援の心理学、子どもの保健、子どもの食と栄養、 乳児保育Ⅰ～Ⅱ、子どもの健康と安全、社会的養護Ⅱ、子育て支援、 子どもと遊び、子育て支援実習、子どもと自然、 乳幼児の身体・表現、多文化共生保育、児童文化論 保育実習指導Ⅰ（保育所）、保育実習指導Ⅰ（施設）、保育実習指導Ⅱ、 保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習（施設）、保育実習Ⅱ 大学院人間科学専攻博士前期課程開講科目（開講年度ごとに指定）	

13-3. 卒業に必要な単位

分野系列ごとの卒業に必要な単位は、下記のとおりです。

区分・分野系列				カリキュラムマップ	必要単位	卒業要件
● 卒業要件単位 ： 最低126単位					126	
1 全学必修分野： 28単位					28	⇒「全学必修分野」pp.36-38参照
2 専攻課程分野： 最低90単位					90	
a 専攻分野： 最低82単位					82	
	必修	a1	基礎理論と学年ゼミ	初教（幼）-2, 3	12	「13-4. 専攻分野の卒業要件」を参照
	必修	a2	教職の意義等	初教（幼）-4	2	
	必修	a3	教育実習	初教（幼）-6	6	
	必修	a4	教職実践演習	初教（幼）-6	2	
	必修	a5	幼児の教育課程	初教（幼）-4	2	
	必修	a6	幼児教育の方法	初教（幼）-4	2	
	必修	a7	幼児理解の理論	初教（幼）-4	4	
	必修	a8	保育内容・保育の表現技術	初教（幼）-4	12	
	必修	a11	教育の社会的事項	初教（幼）-4	2	
	選択必修	a9	教科内容の概論	初教（幼）-4	12	
	選択必修	a10	教育理念・教育史	初教（幼）-5	2	
	選択必修	a12	発達と学習の過程	初教（幼）-5	2	
	選択必修	a13	人間学習	初教（幼）-7	2	
	選択 必履修	a14	2年ゼミ	初教（幼）-1	（4）	
	選択 選択	a15	自由選択科目	初教（幼）-8	−	
b 関連分野：最低8単位 ※「憲法1」「憲法2」のいずれか（2単位）を含む					8	⇒「関連分野」pp.39-45参照
3 卒業論文： 8単位					8	⇒「卒業論文」p.46参照

13-4. 専攻分野の卒業要件

以下、専攻分野の履修要項を記載しています。卒業要件を満たすように履修計画を立ててください。

※履修にあたっては、卒業要件だけでなく、以降に記載されている「履修上の注意」等をよく読むこと。

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

＜科目リストの見方＞

・レベル：授業内容のレベル

⇒「ナンバリングコード」p.16参照

・区分 ：「必修」必修科目、「選必」選択必修、「選」選択科目、「◎選」必履修科目

⇒「履修方法による分類」p.16参照

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
専攻分野の卒業要件		□下記の卒業要件①～⑬を満たすように修得していること □a1 ～ a15の科目から最低82単位修得していること			
▼a1：基礎理論と学年ゼミ （2・3・4年次指定科目）					
卒業要件①		□下記（a1）の科目をすべて（計12単位）修得していること			
2	必修	JA13	教育原理 1	2	2年次指定科目
2	必修	KH12	保育原理	2	標準履修：1年次
3	必修	JH25	教育学演習Ⅱ（1）	2	3年次指定科目
3	必修	JH26	教育学演習Ⅱ（2）	2	3年次指定科目
4	必修	JH27	教育学演習Ⅲ（1）	2	4年次指定科目
4	必修	JH28	教育学演習Ⅲ（2）	2	4年次指定科目
▼a2：教職の意義等 （標準履修：2・3年次）					
卒業要件②		□下記（a2）の科目をすべて（計2単位）修得していること			
2	必修	KH14	保育者論	2	
▼a3：教育実習 （3・4年次指定科目）					
卒業要件③		□下記（a3）の科目をすべて（計6単位）修得していること			
3	必修	KG25	教育実習指導 3	1	3年次指定科目
4	必修	KG26	教育実習指導 6	1	4年次指定科目
4	必修	KH09	教育実習 3	2	4年次指定科目
4	必修	KH10	教育実習 4	2	4年次指定科目
▼a4：教職実践演習 （標準履修：4年次）					
卒業要件④		□下記（a4）の科目をすべて（計2単位）修得していること			
4	必修	KG43	保育・教職実践演習	2	
▼a5：幼児の教育課程 （標準履修：2・3年次）					
卒業要件⑤		□下記（a5）の科目をすべて（計2単位）修得していること			
2	必修	KC12	保育・幼児教育課程論	2	
▼a6：幼児教育の方法 （標準履修：2・3年次）					
卒業要件⑥		□下記（a6）の科目をすべて（計2単位）修得していること			
3	必修	KE17	保育方法論	2	
▼a7：幼児理解の理論 （標準履修：2・3年次）					
卒業要件⑦		□下記（a7）の科目をすべて（計4単位）修得していること			
2	必修	KA96	特別支援教育・保育総論	2	
3	必修	PB09	子ども理解と援助	2	
▼a8：保育内容・保育の表現技術 （標準履修：2・3年次）					
卒業要件⑧		□下記（a8）の科目をすべて（計12単位）修得していること			
3	必修	KD01	保育内容総論	2	
3	必修	KD13	保育内容［健康］	2	

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
3	必修	KD33	保育内容［人間関係］	2	
3	必修	KD43	保育内容［環境］	2	
3	必修	KD53	保育内容［言葉］	2	
3	必修	KD74	保育内容［表現］	2	
▼a9：教科内容の概論　（標準履修：2・3年次）					
卒業要件⑨		□下記（a9）の科目から最低12単位修得していること			
3	選必	KA66	子どもと音楽表現	2	標準履修：1年次
3	選必	KD83	保育内容の理解と方法1	2	標準履修：3年次
3	選必	KD84	保育内容の理解と方法2	2	標準履修：3年次
3	選必	KJ01	子どもと健康	2	
3	選必	KJ02	子どもと人間関係	2	
3	選必	KJ03	子どもと環境	2	
3	選必	KJ04	子どもと言葉	2	
3	選必	KJ05	子どもと造形表現	2	
▼a10：教育理念・教育史　（標準履修：2・3年次）					
卒業要件⑩		□下記（a10）の科目から最低2単位修得していること			
2	選必	KH16	外国教育史	2	
2	選必	KH17	日本教育史	2	
▼a11：教育の社会的事項　（標準履修：2・3年次）					
卒業要件⑪		□下記（a11）の科目をすべて（計2単位）修得していること			
3	必修	KH18	教育経営と学校制度	2	
▼a12：発達と学習の過程　（標準履修：2・3年次）					
卒業要件⑫		□下記（a12）の科目から最低2単位修得していること			
2	選必	JH83	教育心理学	2	
2	選必	LH11	発達心理学1	2	心理学科開講科目
▼a13：人間学習　（標準履修：3・4年次）					
卒業要件⑬		□下記（a13）の科目から最低2単位修得していること			
4	選必	JD46	人間学習1	2	
4	選必	JD47	人間学習2	2	
4	選必	JD48	人間学習3	2	
4	選必	JD49	人間学習4	2	
4	選必	JD50	人間学習5	2	
4	選必	JD51	人間学習6	2	
4	選必	JD52	人間学習7	2	
4	選必	JD53	人間学習8	2	
4	選必	JD54	人間学習9	2	
▼a14：2年ゼミ　（必履修科目：2年次）					
2	◎選	JH23	教育学演習Ⅰ（1）	2	
2	◎選	JH24	教育学演習Ⅰ（2）	2	
▼a15：自由選択科目					
＜教育学科開講科目＞					
2	選	JC13	西洋社会思想	2	隔年予定
2	選	JC23	教育哲学	2	隔年予定
2	選	JC30	教育方法[含ICT活用]	2	
2	選	JC47	生涯学習概論	2	
2	選	JC48	社会学概論1	2	奇数年度開講
2	選	JC49	社会学概論2	2	偶数年度開講
2	選	KH15	カリキュラム論	2	
3	選	JC93	発展途上国における教育問題(1)	2	
3	選	JC94	発展途上国における教育問題(2)	2	
3	選	JH81	道徳教育の理論と実践	2	
3	選	JH82	教育相談	2	
3	選	JH84	特別活動	2	
3	選	JH85	生徒指導[含進路指導]	2	
＜保育士養成課程関係科目＞					
2	選	PA02	社会福祉	2	標準履修：1年次
2	選	PA04	子ども家庭福祉	2	
2	選	PA05	子ども家庭支援論	2	
2	選	PA06	社会的養護Ⅰ	2	
3	選	PB05	子どもの食と栄養	2	
3	選	PB07	保育の心理学	2	
3	選	PB08	子ども家庭支援の心理学	2	
3	選	PB10	子どもの保健	2	
3	選	PC05	乳児保育Ⅰ	2	
3	選	PC06	乳児保育Ⅱ	2	
3	選	PC07	子どもの健康と安全	2	
3	選	PC08	社会的養護Ⅱ	2	
3	選	PC09	子育て支援	2	
3	選	PD01	子どもと遊び	2	※
3	選	PD02	子どもと自然	2	※
3	選	PJ04	乳幼児の身体･表現	2	隔年／※
3	選	PJ05	多文化共生保育	2	隔年／※
3	選	PJ06	児童文化論	2	隔年／※
3	選	PJ09	子育て支援実習	2	※
4	選	PE03	保育実習Ⅰ（保育所）	2	
4	選	PE04	保育実習Ⅰ（施設）	2	
4	選	PE05	保育実習指導Ⅰ（保育所）	1	
4	選	PE06	保育実習指導Ⅰ（施設）	1	
4	選	PJ07	保育実習指導Ⅱ	1	
4	選	PJ08	保育実習Ⅱ	2	
5	選	WA** WF**	大学院人間科学専攻博士前期課程開講科目		

※保育士養成課程における選択必修科目。4単位（2科目）以上の履修が必要

13-5. 年次指定科目・必履修科目

指定年次	年次指定科目	必履修科目
2年次	教育原理1	教育学演習Ⅰ(1)(2)
3年次	教育学演習Ⅱ(1)(2)、教育実習指導3	−
4年次	教育学演習Ⅲ(1)(2)、教育実習指導6、教育実習3、教育実習4	−

13-6. 履修上の注意

(1)「a3：教育実習」の履修について

①「a3：教育実習」の各科目は、自動登録科目です。履修予定なのに登録されていない、あるいは履修しないのに登録されているなど、登録内容に不明な点がある場合は、履修登録確認時に必ず申し出てください。

②教育実習は、履修資格に関する条件があります。

(2)「a9：教科内容の概論」の履修について

①「子どもと音楽表現」の標準履修年次は1年次です。

②保育士資格希望者は、「保育内容の理解と方法1」「保育内容の理解と方法2」が必修です。

(3)「a12：発達と学習の過程」の履修について

①「発達心理学1」は心理学科開講科目ですが、初等教育学コース所属学生の修得単位は、「a12：発達と学習の過程」に算入されます。

（4）「a15：自由選択科目」の履修について

①「保育士養成課程関係科目」は、保育士資格取得希望者に限り履修できます。履修については保育士養成課程に関わるガイダンスにて説明します。

②大学院開講科目で学部生が履修可能な科目は、開講年度ごとに指定されます。なお、大学院生の履修者数によっては、開講取止めとなる場合があります。

（5）「憲法」の履修について

初等教育学専攻生は、免許法施行規則第六十六条の六に定める「日本国憲法」の科目として、総合現代教養科目の「憲法１」、「憲法２」のいずれかを必ず修得しなければなりません。

修得単位は、「関連分野」の必要単位８単位に含まれます。

（6）専攻分野の単位とならない教育学科開講科目について

①「13-4. 専攻分野の卒業要件」に掲載の科目リストに記載されていない教育学科開講科目は、初等教育学専攻（幼児教育コース）所属の学生にとって、関連分野または資格関係分野の科目となります。詳細は、「関連分野」、「資格関係分野」のページに掲載の科目リストで確認してください。

⇒「関連分野」pp.39-45、「資格関係分野」p.47参照

13-7. 教育実習の履修資格要件（幼稚園）

教育実習を履修するためには、次の「教育実習の履修資格要件」を満たしていなければなりません。すなわち、４年次で教育実習を履修するためには、３年次終了時点で要件を満たすことが必要となります。

また、教育実習の履修資格要件ではありませんが、音楽・造形関係の選択必修科目を修得しておくことが望まれます。

授業科目		教育実習履修資格要件
保育原理		修得済であること
保育・幼児教育課程論		修得済であること
教育実習指導３		修得済であること
保育方法論		修得済であること
保育内容総論		修得済であること
教育原理１		左の４つの区分の中から３区分についてそれぞれ１科目ずつ修得済であること
教育経営と学校制度		
教育心理学、発達心理学１		
子ども理解と援助		
子どもと健康、子どもと人間関係、子どもと環境、子どもと言葉、子どもと音楽環境、子どもと造形表現、保育内容の理解と方法１、保育内容の理解と方法２		左の８科目の中から２科目以上修得済であること
領域：健康	保育内容［健康］	左の５つの領域の中から２科目以上修得済であること
領域：人間関係	保育内容［人間関係］	
領域：環境	保育内容［環境］	
領域：言葉	保育内容［言葉］	
領域：表現	保育内容［表現］	

13-8. 小学校教員免許状の取得について

初等教育学（幼児教育）専攻生が、小学校の免許をあわせて取得する場合、教職課程小学校・幼稚園教員特別プログラムのＳ１コースに登録しなければなりません。Ｓ１コースの履修方法については、教職課程ガイダンスにて説明します。なお、初等教育学（幼児教育）専攻生がＳ１コースを履修する場合、以下の点に注意してください。

（1）履修免除の科目について

①「教育実習指導３」および「教育実習指導６」を修得することで、「教育実習指導２」および「教育実習指導５」の履修が免除されます。

②「保育・教職実践演習」を修得することで、「教職実践演習」の履修が免除されます。

（2）卒業要件外の科目について

Ｓ１コース履修者は、小学校免許取得に必要な以下の科目を履修することができます。ただし、分野系列は資格関係分野となり、修得単位は卒業要件外となります。

コード	授業科目名	単位	備考
KB12	国語科教育法（小学校）	2	
KB22	社会科教育法（小学校）	2	
KB31	生活科教育法	2	
KB41	算数科教育法	2	
KB51	理科教育法	2	
KB61	音楽科教育法	2	
KB72	図画工作科教育法	2	
KB81	家庭科教育法	2	
KB91	体育科教育法	2	
KB93	外国語教育法（小学校）	2	
KA13	国語概論［含書写］	2	
KA21	社会科概論	2	
KA31	生活科概論	2	
KA42	算数概論	2	
KA51	理科概論	2	
KA65	音楽概論	2	
KA73	図画工作概論	2	
KA82	家庭科概論	2	
KA92	体育概論	2	
KA94	外国語概論	2	

13-9. 保育士養成課程の履修について

本学教育学科初等教育学専攻幼児教育コースに所属している学生は、所定の手続きにより保育士養成課程を履修することができます。

保育士養成課程のカリキュラムについては、次頁の表を参照してください。詳細は、保育士養成課程に関わるガイダンスにて説明します。

⇒ 保育士養成課程カリキュラム pp.98-99参照

（1）保育実習について

①保育実習を履修するためには、次の「保育実習の履修資格要件」を満たしていなければなりません。

実習種別	授業科目	保育実習履修資格要件
保育実習Ⅰ（保育所）	保育原理	修得済であること ※
	社会福祉	修得済であること ※
保育実習Ⅰ（施設）	子ども家庭福祉	修得済であること
	子ども家庭支援論	修得済であること ※
保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰ（保育所）	両方の実習を終了していること
	保育実習Ⅰ（施設）	
	保育内容総論	修得済であること
	保育・幼児教育課程論	修得済であること ※
	保育内容［健康］	2科目以上修得済であること
	保育内容［人間関係］	
	保育内容［環境］	
	保育内容［言葉］	
	保育内容［表現］	
	乳児保育Ⅰ	修得済であること
	乳児保育Ⅱ	修得済であること ※

※修得見込を含む

②次の場合には保育士養成課程委員会に諮られ、保育実習が許可されないことがあるため、十分注意してください。
・履修している授業全般への出席状況や課題提出状況に著しく問題がある場合
・実習予定者として、大学及び実習先の施設から示される遵守すべき事項を守らない等の問題が認められた場合

③保育実習を行う者は、2年次、3年次の所定期間に**保育実習諸費**を納入しなければなりません。納入金額は次のとおりです。

2年次：40,000円

3年次：50,000円

なお、一度納入された保育実習諸費は、理由のいかんにかかわらず返還いたしません。

●保育士養成課程カリキュラム

＜別表第一＞

厚労省告示別表第一による教科目				本学の該当教科目				
系列	教科目	授業形態	設置単位数	コード	教科目	授業形態	単位数	区分
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	KH12	保育原理	講義	2	必修
	教育原理	講義	2	JA13	教育原理 1	講義	2	必修
	子ども家庭福祉	講義	2	PA04	子ども家庭福祉	講義	2	必修
	社会福祉	講義	2	PA02	社会福祉	講義	2	必修
	子ども家庭支援論	講義	2	PA05	子ども家庭支援論	講義	2	必修
	社会的養護Ⅰ	講義	2	PA06	社会的養護Ⅰ	講義	2	必修
	保育者論	講義	2	KH14	保育者論	講義	2	必修
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	PB07	保育の心理学	講義	2	必修
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	PB08	子ども家庭支援の心理学	講義	2	必修
	子どもの理解と援助	演習	1	PB09	子ども理解と援助	演習	2	必修
	子どもの保健	講義	2	PB10	子どもの保健	講義	2	必修
	子どもの食と栄養	演習	2	PB05	子どもの食と栄養	演習	2	必修
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	KC12	保育・幼児教育課程論	講義	2	必修
	保育内容総論	演習	1	KD01	保育内容総論	演習	2	必修
	保育内容演習	演習	5	KD13	保育内容［健康］	演習	2	必修
				KD33	保育内容［人間関係］	演習	2	必修
				KD43	保育内容［環境］	演習	2	必修
				KD53	保育内容［言葉］	演習	2	必修
				KD74	保育内容［表現］	演習	2	必修
	保育内容の理解と方法	演習	4	KD83	保育内容の理解と方法1	演習	2	必修
				KD84	保育内容の理解と方法2	演習	2	必修
	乳児保育Ⅰ	講義	2	PC05	乳児保育Ⅰ	講義	2	必修
	乳児保育Ⅱ	演習	1	PC06	乳児保育Ⅱ	演習	2	必修
	子どもの健康と安全	演習	1	PC07	子どもの健康と安全	演習	2	必修
	障害児保育	演習	2	KA96	特別支援教育・保育総論	演習	2	必修
	社会的養護Ⅱ	演習	1	PC08	社会的養護Ⅱ	演習	2	必修
	子育て支援	演習	1	PC09	子育て支援	演習	2	必修
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	PE03	保育実習Ⅰ（保育所）	実習	2	必修
				PE04	保育実習Ⅰ（施設）	実習	2	必修
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	PE05	保育実習指導Ⅰ（保育所）	演習	1	必修
				PE06	保育実習指導Ⅰ（施設）	演習	1	必修

厚労省告示別表第一による教科目				本学の該当教科目				
系列	教科目	授業形態	設置単位数	コード	教科目	授業形態	単位数	区分
総合演習	保育実践演習	演習	2	KG43	保育・教職実践演習	演習	2	必修
設置単位数			51単位以上	本学における設置単位数			62単位	
履修単位数			51単位以上	本学における最低履修単位数			62単位	

＜別表第二＞

厚労省告示別表第一による教科目				本学の該当教科目				
系列	教科目		設置単位数	コード	教科目	授業形態	単位数	区分
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15	RA22	教育原理 2	講義	2	選択必修（4単位以上）
				PD01	子どもと遊び	講義	2	
保育の対象の理解に関する科目				PJ09	子育て支援実習	演習	2	
保育の内容・方法に関する科目				PD02	子どもと自然	演習	2	
				PJ04	乳幼児の身体・表現	講義	2	
				PJ05	多文化共生保育	講義	2	
				PJ06	児童文化論	講義	2	
				KE17	保育方法論	講義	2	必修
保育実習	保育実習Ⅱもしくは保育実習Ⅲ	実習	2	PJ08	保育実習Ⅱ	実習	2	必修
	保育実習指導Ⅱもしくは保育実習指導Ⅲ	演習	1	PJ07	保育実習指導Ⅱ	演習	1	必修
設置単位数			18単位以上	本学における設置単位数			19単位	
履修単位数			9単位以上	本学における最低履修単位数			9単位	

＜別表第三＞

厚労省告示別表第一による教科目				本学の該当教科目			
系列	教科目	授業形態	設置単位数	コード	教科目	単位数	区分
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	AR21	憲法1	2	選択必修（2単位以上）
				AS95	憲法2	2	
				BA01	AI・データサイエンス基礎	2	必修
	外国語	演習	2	AE21	1年英語1	2	必修
				AE22	1年英語2	2	必修
	体育（講義）	講義	1	AA01	ウェルネス・身体活動（講義）	1	必修
	体育（実技）	実技	1	AA02	ウェルネス・身体活動（実技）	1	必修
設置単位数			10単位以上	本学における設置単位数		12単位	
履修単位数			8単位以上	本学における最低履修単位数		10単位	

14. 心理学科

14-1. 学科のポリシーと卒業生像

1. ディプロマ・ポリシー

心理学は、人間の心理や行動をめぐる様々ななぞについて、科学的に理解することを目指す学問であり、人間を援助することにつながる実践的な学問でもあります。心理学および関連領域の幅広い知識と分析的かつ柔軟な思考力を身につけ、多様化と情報化の進む社会のなかで、主体的に自らの能力を発揮できる卒業生を社会に送り出します。さらに、心理学の専門的な知識をいかす職業に就くことを希望する学生のためには、そのような知識や技能を身につけることも目標としています。

具体的には、次のような能力と資質を身につけて卒業させています。

1．人間の心の働きやその仕組み、胎児から高齢者までの生涯発達の知識、こころの問題と支援方法に関する基礎的な知識など、幅広い心理学の知識と専門的知識、さらに物事を分析する技能。
2．それぞれの問題意識を実証的に解明しようとする態度・思考力・表現力。客観的科学的な方法で心理学研究をおこなおうとする態度。
3．主体的に、かつ、他者と協働して物事を行えるコミュニケーション能力。他人の意見に耳を傾ける謙虚な態度。
4．心理学の知識をいかす職業に就くための基礎的な能力および資質。

2. カリキュラム・ポリシー

心理学の幅広い基本的な知見を学ぶとともに、認知、発達、臨床の各領域についての心理学の専門的な知見を身につけるために、さらに、心理学の専門的な知識をいかす職業に就くことを希望する学生のためには、そのような知識や技能を身につけるためのカリキュラムも用意しています。同時に、実証的な研究手法を学びながら、各自の関心のある専門性を深めることのできるカリキュラムを編成しています。

・2年次においては、心理学概論で認知、発達、臨床の3領域の基本的な知見を習得するとともに、心理学実験や心理学統計法の授業で実証的な研究の手法を身につけます。心理学実験では、クラスの全員が実験を行う実験者と実験を受ける実験参加者の両方を体験します。この授業では、学年を3クラスに分けて、教員の指導のもと、本学科を卒業した院生たちがインストラクターとして入り、きめの細かい指導が行われます。
また、心理的アセスメントの目的や技法を学ぶ授業もあり、自分自身を知る手がかりになりますし、人間にはいろいろな特徴があり、個人個人の特徴はそれぞれ異なることを知ることにもなります。

・3年次以降においては、各自が関心のある領域の教員のゼミナールに入り、その領域を核として、他の領域の科目や様々な関連科目を選択しながら、心理学の専門性を深めていきます。

・4年次においては、ゼミナールの教員の指導のもとで、各自の問題意識のもとに仮説を立て、実験や調査、観察によってデータを集め、その結果に基づいて卒業論文を作成します。自ら計画・実施し、今まで学んできた知識や手法を生かすことができます

3. 卒業生像

心理学科が目標とする卒業生像は、刻々と変化する世界の中で、現状を分析するクールさと、恐れず道を切り開いていくタフさを併せ持つ女性です。具体的には、心理学および関連領域の幅広い知識に加え、分析的かつ柔軟な思考力を身につけることにより、多様化と情報化が進む社会のなかで自らの能力を発揮できる女性の育成を目指します。

14-2. カリキュラムマップ

・全学共通カリキュラムマップについては、p.34を参照してください。

1年次	2年次	3年次	4年次
学科の専門科目 専門領域について深く学び、物事の考え方を身につける			
	〈認知〉〈発達〉〈臨床〉の3領域の基本的な知見を学習し、実証的な研究手法を習得する	関心領域の専門性を深化させると同時に、他領域や関連する最新の心理学的知見を学習する	学んできた知識と手法を生かして卒業論文を完成する
	必修 心理－1 概論・研究手法		
（レベル2）	★心理学概論、★臨床心理学概論、★心理学統計法、★心理学実験、基礎情報処理技法		
		選択 心理－3 学年ゼミ	
（レベル3）		3年心理学演習(1)(2)	
（レベル4）			4年心理学演習(1)(2)
	選択 心理－2 自由選択科目		
（レベル1）	発達・認知心理学特講義1・7、臨床心理学特講1～2		
（レベル2）	心理学史、心理学演習1、心理学観察・調査実習、心理学データ解析実習2、★発達心理学1、★発達心理学2、★感情・人格心理学、★社会・集団・家族心理学、★障害者・障害児心理学、★健康・医療心理学、★教育・学校心理学、★知覚・認知心理学、★学習・言語心理学、★神経・生理心理学、★心理学的支援法、★福祉心理学、★産業・組織心理学 発達・認知心理学特講義4～6・8～10、臨床心理学特講3～7		
（レベル3）	心理学演習2、心理学データ解析実習1、 ★公認心理師の職責、★心理学研究法、★心理的アセスメント、 ★司法・犯罪心理学、★人体の構造と機能及疾病、★精神疾患とその治療、★関係行政論、★心理演習※ ★心理実習1※、★心理実習2※ 発達・認知心理学特講義2～3		
（レベル5）		大学院人間科学専攻博士前期課程開講科目(開講年度ごとに指定)	

★：公認心理師の受験資格を得るために必要な科目
※：公認心理師プログラム・カリキュラム履修者のみ履修可

14-3. 卒業に必要な単位

分野系列ごとの卒業に必要な単位は、下記のとおりです。

区分・分野系列				カリキュラムマップ	必要単位	卒業要件
● 卒業要件単位　：　最低126単位					126	
1　全学必修分野：　28単位					28	⇒「全学必修分野」pp.36-38参照
2　専攻課程分野：　最低90単位　※余剰①と余剰②の合計が最低12単位必要					90	
a　専攻分野：　最低56単位＋余剰①					56	
	必修	a1	必修科目	心理－1、3	20	「14-4.　専攻分野の卒業要件」を参照
	選択	a2	自由選択科目	心理－2	－	
b　関連分野：　最低22単位＋余剰②					22	⇒「関連分野」pp.39-45参照
3　卒業論文：　8単位					8	⇒「卒業論文」p.46参照

ç

14-4. 専攻分野の卒業要件

以下、専攻分野の履修要項を記載しています。卒業要件を満たすように履修計画を立ててください。

※履修にあたっては、卒業要件だけでなく、以降に記載されている「履修上の注意」等をよく読むこと。

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

＜科目リストの見方＞

・レベル：授業内容のレベル

⇒「ナンバリングコード」p.16参照

・区分　：「必修」必修科目、「選必」選択必修、「選」選択科目、「◎選」必履修科目

⇒「履修方法による分類」p.16参照

レベル	区分	コード	授業科目名	単位	備考
専攻分野の卒業要件		□下記の卒業要件①を満たすように修得していること □a1 ～ a2の科目から最低56単位修得していること □関連分野と合わせて最低90単位修得していること			
▼a1：必修科目　（年次指定科目）					
卒業要件①		□下記（a1）の科目をすべて（計20単位）修得していること			
2	必修	LK11	基礎情報処理技法	2	2年次指定科目
2	必修	LK23	心理学実験	4	2年次指定科目
2	必修	LK33	心理学統計法	2	2年次指定科目
2	必修	LK44	心理学概論	2	2年次指定科目
2	必修	LK45	臨床心理学概論	2	2年次指定科目
3	必修	LK12	3年心理学演習（1）	2	3年次指定科目
3	必修	LK13	3年心理学演習（2）	2	3年次指定科目
4	必修	LK14	4年心理学演習（1）	2	4年次指定科目
4	必修	LK15	4年心理学演習（2）	2	4年次指定科目
▼a2：自由選択科目					
1	選	LN11	発達・認知心理学特講1	2	
1	選	LN17	発達・認知心理学特講7	2	
1	選	LP11	臨床心理学特講1	2	
1	選	LP12	臨床心理学特講2	2	
2	選	LB31	心理学史	2	
2	選	LC13	心理学演習1	2	
2	選	LC15	心理学観察・調査実習	2	
2	選	LC17	心理学データ解析実習2	2	
2	選	LH11	発達心理学1	2	
2	選	LH12	発達心理学2	2	
2	選	LM13	感情・人格心理学	2	
2	選	LM14	社会・集団・家族心理学	2	
2	選	LM15	障害者・障害児心理学	2	
2	選	LM17	健康・医療心理学	2	
2	選	LM18	教育・学校心理学	2	
2	選	LM25	知覚・認知心理学	2	
2	選	LM26	学習・言語心理学	2	
2	選	LM27	神経・生理心理学	2	
2	選	LM28	心理学的支援法	2	
2	選	LM29	福祉心理学	2	
2	選	LM30	産業・組織心理学	2	
2	選	LN14	発達・認知心理学特講4	2	
2	選	LN15	発達・認知心理学特講5	2	
2	選	LN16	発達・認知心理学特講6	2	
2	選	LN18	発達・認知心理学特講8	2	
2	選	LN19	発達・認知心理学特講9	2	
2	選	LN20	発達・認知心理学特講10	2	
2	選	LP13	臨床心理学特講3	2	
2	選	LP14	臨床心理学特講4	2	
2	選	LP15	臨床心理学特講5	2	
2	選	LP16	臨床心理学特講6	2	
2	選	LP17	臨床心理学特講7	2	
3	選	LC14	心理学演習2	2	
3	選	LC16	心理学データ解析実習1	2	
3	選	LM11	公認心理師の職責	2	
3	選	LM12	心理学研究法	2	
3	選	LM16	心理的アセスメント	2	
3	選	LM19	司法・犯罪心理学	2	
3	選	LM20	人体の構造と機能及び疾病	2	
3	選	LM21	精神疾患とその治療	2	
3	選	LM22	関係行政論	2	
3	選	LM23	心理演習	2	
3	選	LM31	心理実習1	1	
3	選	LM32	心理実習2	1	
3	選	LN12	発達・認知心理学特講2	2	
3	選	LN13	発達・認知心理学特講3	2	

14-5. 年次指定科目

指定年次	年次指定科目
2年次	基礎情報処理技法、心理学実験、心理学統計法、心理学概論、臨床心理学概論
3年次	3年心理学演習（1）（2）
4年次	4年心理学演習（1）（2）

14-6. 履修上の注意

（1）「a1：必修科目」の履修について

①後期科目の3年心理学演習(2)を履修するためには、前期科目の3年心理学演習(1)を修得していなければなりません。

②4年心理学演習(1)(2)を履修するためには、必修科目のうち3年心理学演習(1)(2)を修得していなければなりません。

（2）実験実習費について

心理学科生は、実験実習費として2年次に25,000円が必要です。

14-7. 資格取得について

（1）認定心理士の資格について

認定心理士の資格を申請するためには、「心理学統計法」などの必修科目に加えて、「心理学データ解析実習1」「心理学データ解析実習2」「心理学研究法」などの基礎科目を合計12単位以上、選択科目から合計16単位以上、その他の科目で4単位以上を修得する必要があります。申請方法等、詳細は、https://psych.or.jp/qualification/を参照下さい。

（2）公認心理師の受験資格について

心理学科では、国家資格である「公認心理師」の受験資格を得るためのカリキュラムを設けていますが、履修可能な定員は10名程度であり、3年次前期に実施される選抜試験（GPA、試験、面接等）に合格しなければなりません（出願には一定の条件があり、説明会等にて周知します）。

当カリキュラムでは、25科目の指定科目（いずれも学科の必修・選択科目、計27科目）のすべてを履修する必要があり、

①2年次より計画的に履修を進めること、

②選抜試験に合格後、3年次後期に「心理演習」を履修すること

③4年次に「公認心理師実習諸費」70,000円を納入の上、学内外での実習を行う「心理実習1」「心理実習2」を履修すること

等が求められます。なお、本学では、学部3年間+大学院博士前期課程2年間の5年間での受験資格取得を基本と考えています（学部でのカリキュラム卒業後2年間の実務経験で受験資格取得も可能ですが、対象となる実務経験を積める施設は現時点では少ないため、大学院への進学を推奨します）。

＜公認心理師受験資格を得るための指定科目＞

公認心理師法施行規則が定める大学（学部）における必要科目		本学の該当科目			
科目名		コード	授業科目	単位	履修年次
①	公認心理師の職責	LM11	公認心理師の職責	2	3・4
②	心理学概論	LK44	心理学概論	2	2
③	臨床心理学概論	LK45	臨床心理学概論	2	2
④	心理学研究法	LM12	心理学研究法	2	3・4
⑤	心理学統計法	LK33	心理学統計法	2	2
⑥	心理学実験	LK23	心理学実験	4	2
⑦	知覚・認知心理学	LM25	知覚・認知心理学	2	2～4
⑧	学習・言語心理学	LM26	学習・言語心理学	2	2～4
⑨	感情・人格心理学	LM13	感情・人格心理学	2	2～4
⑩	神経・生理心理学	LM27	神経・生理心理学	2	2～4
⑪	社会・集団・家族心理学	LM14	社会・集団・家族心理学	2	2～4
⑫	発達心理学	LH11 LH12	発達心理学1 発達心理学2	計4	2～4
⑬	障害者・障害児心理学	LM15	障害者・障害児心理学	2	2～4
⑭	心理的アセスメント	LM16	心理的アセスメント	2	3・4
⑮	心理学的支援法	LM28	心理学的支援法	2	2～4
⑯	健康・医療心理学	LM17	健康・医療心理学	2	2～4
⑰	福祉心理学	LM29	福祉心理学	2	2～4
⑱	教育・学校心理学	LM18	教育・学校心理学	2	2～4
⑲	司法・犯罪心理学	LM19	司法・犯罪心理学	2	3・4
⑳	産業・組織心理学	LM30	産業・組織心理学	2	2～4
㉑	人体の構造と機能及び疾病	LM20	人体の構造と機能及び疾病	2	3・4
㉒	精神疾患とその治療	LM21	精神疾患とその治療	2	3・4
㉓	関係行政論	LM22	関係行政論	2	3
㉔	心理演習	LM23	心理演習	2	3
㉕	心理実習	LM31 LM32	心理実習 1 心理実習 2	計2	4

⑫：両科目履修

㉕：前後期セット履修

副専攻（学科開設型、学科横断型）
特別プログラム（グローバルリーダーシップ・プログラム）

1．副専攻

1-1．副専攻手続き

1．登録手続き

副専攻の履修を希望する場合は、Sophie掲示の日程に従い、4月オリエンテーション期間中に開催のガイダンスへ出席し、手続きを行ってください。副専攻の登録手続き完了後、副専攻別ガイダンスがあります。

すでに副専攻を履修している場合、他の副専攻を履修したり、副専攻を変更することはできません。

2．履修中止手続き

副専攻の履修を取りやめる場合は、届出が必要です。期日までに教務課に申し出て、履修中止の手続きを行ってください。手続きの日程は別途Sophieでお知らせします。履修中止の手続き後に履修を再開したり、新たな副専攻を登録することはできません。

1-2．副専攻の種類

種類	副専攻	副専攻コード	履修開始学年
学科開設型	▼英語文化コミュニケーション副専攻		
	英語学・英語教育学分野	M1	2年次
	英米文学分野	M2	
	メディアと社会分野	M3	
	日本語日本文学副専攻	C1	2年次または3年次
	▼史学副専攻		
	日本史コース	D1	2年次または3年次
	世界史コース	D4	
	人間関係副専攻	E1	2年次
	国際交流副専攻	G1	2年次または3年次
	哲学副専攻	H1	2年次または3年次
	教育学副専攻	J1	2年次または3年次
	心理学副専攻	L1	2年次
学科横断型	グローバル共生副専攻	A5	2年次または3年次

1-3．副専攻指定科目

各副専攻の分野ごとの指定科目は、シラバスおよび開講科目一覧の副専攻欄に該当する副専攻コード（参照：「副専攻の種類」）が記載されています。

1-4．履修上の注意

(1) 修了要件は各副専攻によって異なります。各副専攻のカリキュラム等、詳細は『副専攻の手引き』を参照してください。
(2) 副専攻履修開始前に履修した各副専攻の指定科目の修得単位は、副専攻の単位に算入することができます。
(3) 副専攻の修了要件に含めることができる単位は、「関連分野」の科目に限ります。ただし、学科横断型副専攻については、「専攻分野」の科目（所属学科開講科目）の内、4単位まで副専攻修了要件単位に算入することができます。
(4) 学科開設型副専攻について、開設学科以外の開講科目で副専攻分野の指定科目として認定できるものがある場合は、開講年度の初頭に公示します。
(5) 各科目の履修条件や人数制限については、シラバス、開講科目一覧、Sophieの掲示等でよく確認をしてください。
(6) 各学科のカリキュラム改正等に伴う科目の新設・廃止により、副専攻指定科目について代替科目の設定、選択必修科目、選択科目の追加等の変更があった場合、変更内容は、別途Sophieでお知らせします。
(7) 履修中の副専攻は、成績通知書および和文の成績証明書に記載されます。副専攻を修了した場合、卒業時に副専攻修了証が授与され、卒業後は和文の成績証明書に修了した副専攻が記載されます。
(8) 副専攻の修了は、卒業することが前提となります。

2. グローバルリーダーシップ・プログラム
Program in Global Leadership Development

2-1. 履修の目的

本プログラムは、グローバル化の時代に世界が直面する難民問題や気候変動をはじめとした地球規模の課題に対応できるリーダーシップの資質や能力、スキルの習得を目指すものです。将来、教育機関、政府機関、NGO、各種法人など、さまざまな組織の中で、そのリーダーシップを発揮することが期待されます。本プログラムは、複数の学科の授業科目、総合現代教養科目、インターンシップ、プロジェクト型授業などにより、学際的に展開されます。学術的かつ実践的な学びにより、リーダーシップに関連する知識、スキル、実践能力をホリスティックに高め、社会貢献ができるグローバルでアクティブなリーダーシップを考え身につけるプログラムです。

2-2. プログラムの特徴

・本プログラムは、2 年間の特別プログラムです。
・本プログラムは、基本的に英語で実施されます。
　英語で授業に参加できることが、本プログラム履修の条件です。
・本プログラムを修了した場合、ディプロマ（修了証）が授与されます。

※本プログラムは、副専攻と同時履修可能です。ただし、負担が大きくなりすぎないように熟考のうえ履修してください。

2-3. プログラムの手続き

1．登録手続き

本プログラムの履修を希望する場合は、Sophie掲示の日程に従い、ガイダンスへ出席し、手続きを行ってください。本プログラムには、履修定員があります（20名）。2 年次の前期途中に行われる選抜試験により、プログラム履修者が確定します。

なお、本プログラムの履修開始学年は 2 年次のみです。

本プログラム履修者は、プログラム履修確定後に、所定期間にプログラム費を納入する必要があります。納入金額は以下の通りです。

納入期間（予定）	納入金額（予定）
2 年次 前期中	51,000円（アジア学院等でのプログラム参加費含む）
3 年次 4 月	5,500円

授業協力団体の都合、為替等により金額に変更が生じる場合があります。その際は変更が生じ次第お知らせします。

なお、一度納入されたプログラム費は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

2．履修中止手続き

本プログラムの履修を取りやめる場合は、届出が必要です。所定の期間に教務課へ申し出て、履修中止の手続きを行ってください。手続きの日程は別途Sophieでお知らせします。

2-4. プログラムの修了

プログラムの修了可否については、卒業年次の後期の成績発表後に判定が行われ、掲示板にて修了者のみに通知されます。また、学位授与式にてティプロマ（修了証）が授与されます。

本プログラムを修了した場合であっても、卒業証明書や成績証明書には、その旨は記載されません。本プログラムを修了したことを証明できるものは、学位授与式にて渡されるティプロマ（修了証）のみとなり、紛失した場合でも再発行されませんので、取扱いに注意してください。

●プログラム修了までの基本的な流れ（予定）

<table>
<tr><th></th><th>4 月</th><th>5 － 6 月</th><th>8 － 9 月</th><th>11月</th><th>3 月</th></tr>
<tr><td>1 年次生</td><td></td><td></td><td></td><td>ガイダンス
（ジェネラル
レクチャー）</td><td></td></tr>
<tr><td>2 年次生</td><td>ガイダンス
履修手続き
選抜試験
履修者確定</td><td>ワークショップ</td><td>体験型
セミナー</td><td colspan="2">インターンシップA</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3 年次生</td><td colspan="3">インターンシップB</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="5">リーダーシップ1、2、評価</td></tr>
<tr><td>4 年次生</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>修了証授与</td></tr>
</table>

2-5. 履修開始前の単位

本プログラム履修開始前に履修した修得単位は、本プログラムの単位に参入できます。

2-6. 修了要件

グローバルリーダーシップ・プログラムの修了要件は、次のとおりです。

履修にあたっては、以降に記載されている「履修上の注意」等をよく読んでください。開講状況、履修条件は当該年度のシラバス、開講科目一覧等を確認してください。

＜グローバルリーダーシップ・プログラム 修了要件＞　2024年度以降登録者

開講学科	履修年次	期	コード	授業科目名	授業科目名（英）	単位	備考
プログラムの修了要件			●下記の指定科目から、必修・選択必修の要件を満たした上で、12科目22単位を修得していること				
▼必修科目							
修了要件			●下記の必修科目をすべて（計14単位）修得していること				
総現	2	前期	AS97	Introduction to Leadership	Introduction to Leadership	2	
総現	2	前期	AS61	リーダーシップとチームづくりワークショップ	Leadership and Teambuilding	1	定員20名
総現	2	前期	AS63	サーバントリーダー体験型セミナー	Servant Leadership Seminar at Asian Rural Institute（ARI）	1	定員20名
総現	2	後期	AS62	グローバルリーダーシップ演習	Seminar for Global Leadership	2	
総現	2～3	－	AS64	インターンシップ	Internship	2	自動登録科目 履修上の注意(7)(8)
総現	3	前期	AS65	リーダーシップ1	Leadership 1	2	履修上の注意(3)
総現	3	後期	AS66	リーダーシップ2	Leadership 2	2	履修上の注意(3)
総現	3	後期	AS67	リーダーシップ評価	Leadership Evaluation	2	履修上の注意(3)
▼選択必修A群							
修了要件			●下記A群の科目から1科目（2単位）を修得すること				
英文	2	前期	MB23	メディア・コミュニケーション入門1	Introduction to Media and Communication 1	2	
英文	2	後期	MB25	メディア・コミュニケーション入門2	Introduction to Media and Communication 2	2	
▼選択必修B群							
修了要件			●下記B群の科目から最低2単位を修得すること				
総現	2	前期または後期	AS69	グローバル共生基礎Ⅰ	Basic Studies in Sustainable Futures Ⅰ	2	
総現	2		AS70	グローバル共生基礎Ⅱ	Basic Studies in Sustainable Futures Ⅱ	2	
総現	2		AU01	グローバル時代の国際協力概論	Introduction to International Cooperation in the Global Age	2	
総現	2		AU02	赤十字によるグローバルな人道支援の状況	Status of Global Humanitarian Assistance by the Red Cross	2	
総現	2		AU03	人新世時代の環境問題	Environmental Issues in the Anthropocene Era	2	
総現	2		AU04	災害と人間	Natural Disasters and Human Society	2	
総現	2		AU05	持続的開発目標（SDGs）を捉え直す	Rethinking the Sustainable Development Goals（SDGs）	2	
総現	2		AU07	現代社会における食料問題とオルタナティブ	Food Problems and Alternatives in Modern Society	2	
総現	2		AU08	平和構築と非暴力の諸課題	Peacebuilding and Non-Violence Issues	2	
総現	2		AU09	多文化共生社会論	Social Theories for Multiculturalism	2	
総現	2		AU10	グローバル・シチズンシップ育成論	Theories for Fostering Global Citizenship	2	
総現	2		AU11	地球規模課題を探究する	Exploring Global Issues	2	
総現	2		AU12	グローバル・ヘルス	Global Health	2	
▼選択必修C群							
修了要件			●下記C群の科目から1科目（2単位）を修得すること				
英文	3	前期	MJ19	メディア・コミュニケーション特講1	Special Sturies in Media and Communication 1	2	
英文	3	後期	MJ27	メディア・コミュニケーション特講7－1	Special Sturies in Media and Communication 7-1	2	
英文	3	後期	MJ28	メディア・コミュニケーション特講7－2	Special Sturies in Media and Communication 7-2	2	
▼選択必修D群							
修了要件			●下記D群の科目から1科目（2単位）を修得すること				
国際	2	後期	GL12	Talking about Global Issues		2	
国際	2	前期	GN67	English for Global Communicators		2	

2-7. 履修上の注意

(1) 本プログラムの履修年次は２、３年次あるいは２、４年次（３年次で留学の場合）とします。
(2) 履修年次が３年次の科目については、３年次で留学、または諸事情で履修ができない場合について、事情を精査した上で、特別に４年次での履修も認める場合があります。
(3) ３年次前期に「リーダーシップ１」を修得することが、３年次後期に「リーダーシップ２」及び「リーダーシップ評価」履修登録の前提条件になります。
(4) ３年次前期までにグローバルリーダーシップ・プログラムの修了要件科目を全て修得済の場合でも、３年次後期の「リーダーシップ２」、「リーダーシップ評価」、「インターンシップ」のいずれかが修得できない場合には、本プログラムの修了はできません。
(5) グローバルリーダーシップ・プログラムの修了要件科目は、原則として再履修できません。２年次終了時点で２年次の指定科目に未修得の単位があった場合は、本プログラムの履修を原則継続することはできません。
(6) 履修計画の作成のほか、本プログラムに関する相談は、グローバルリーダーシップ・プログラム担当教員に随時申し出てください。担当教員名はSophieに掲示します。
(7) ２・３年次に履修する「インターンシップ」は、自動登録科目です。２年次には「インターンシップA」、３年次には「インターンシップB」として自動登録されます。履修予定なのに登録されていない、あるいは履修しないのに登録されているなど、登録内容に不明な点がある場合は、履修登録期間中に必ず教務課に申し出てください。
(8) インターンシップの期間は、２年次後期から３年次前期まで、年度をまたがって行われます。そのため、継続履修制度に準ずる扱いとして、「インターンシップA」の２年次終了時の成績は「継続履修」と成績通知書に記載され、単位は修得できません。３年次に「インターンシップB」を履修することで成績評価が３年次に通知され、合格の評価が得られれば、３年次終了時に２単位修得することができます。

2-8. プログラム履修中止後の科目の取り扱い

①２年次の本プログラムの履修を開始する手続き後に行われる選抜試験の不合格者、②本プログラムの履修取りやめを希望し手続きを行った者は、本プログラムの履修を継続することができません。プログラムの履修中止後の履修登録済の科目については、以下の通りの取り扱いとなります。

(1) 下記は、本プログラムを履修していないと履修を続けられない科目のため、プログラム履修中止後は、履修登録が削除されます。

リーダーシップとチーム作りワークショップ
サーバントリーダー体験型セミナー
グローバルリーダーシップ演習
インターンシップ
リーダーシップ 1
リーダーシップ 2
リーダーシップ評価

(2) 下記は、本プログラムを履修していなくても履修を続けられる科目のため、プログラムの履修を中止しても、継続して履修することが可能です。
ただし履修を取りやめたい場合は、履修取消期間中に、各自で履修取消を行ってください。なお、取消対象外科目に指定されている場合、履修取消はできません。

Introduction to Leadership
グローバル共生基礎Ⅰ～Ⅱ
グローバル時代の国際協力概論
赤十字によるグローバルな人道支援の状況
人新世時代の環境問題
災害と人間
持続的開発目標（SDGs）を捉え直す
現代社会における食料問題とオルタナティブ
平和構築と非暴力の諸課題
多文化共生社会論
グローバル・シチズンシップ育成論
地球規模課題を探究する
グローバル・ヘルス
メディア・コミュニケーション特講 1
Talking about Global Issues
English for Global Communicators

(3) 下記は、本プログラムを履修していなくても各学科の必修科目等になっており、所属の学科によっては履修を続けられる科目のため、プログラム履修中止後は、履修対象所属外の科目は削除されます。
履修対象所属の学生については、履修を取りやめたい場合、履修取消期間中に各自で履修取消を行ってください。なお、取消対象外科目に指定されている場合、履修取消はできません。

メディア・コミュニケーション入門 1
メディア・コミュニケーション入門 2
メディア・コミュニケーション特講 7－1
メディア・コミュニケーション特講 7－2

資格課程

1．教職課程履修要項　共通事項　2023年度以降入学者

1-1．本学で取得可能な教員免許状

本学で取得できる免許状は、各学科・専攻ごとに次のように文部科学省から課程認定を受けています。

大学院文学研究科（修士／博士前期課程）	学校種別	免許教科
大学院　英語英文学専攻	高等学校教諭　専修免許状	英語
	中学校教諭　専修免許状	
大学院　日本語日本文学専攻	高等学校教諭　専修免許状	国語
	中学校教諭　専修免許状	
大学院　史学専攻	高等学校教諭　専修免許状	地理歴史
	中学校教諭　専修免許状	社会
大学院　社会文化学専攻	高等学校教諭　専修免許状	公民
	中学校教諭　専修免許状	社会
大学院　哲学専攻	高等学校教諭　専修免許状	公民
	中学校教諭　専修免許状	社会
	高等学校教諭　専修免許状	宗教
	中学校教諭　専修免許状	
大学院　人間科学専攻	高等学校教諭　専修免許状	地理歴史
	高等学校教諭　専修免許状	公民
	中学校教諭　専修免許状	社会
	小学校教諭　専修免許状	
	幼稚園教諭　専修免許状	

現代教養学部	学校種別	免許教科
英語文化コミュニケーション学科	高等学校教諭　一種免許状	英語
	中学校教諭　一種免許状	
日本語日本文学科	高等学校教諭　一種免許状	国語
	中学校教諭　一種免許状	
史学科	高等学校教諭　一種免許状	地理歴史
哲学科	高等学校教諭　一種免許状	地理歴史
	高等学校教諭　一種免許状	公民
	中学校教諭　一種免許状	社会
	高等学校教諭　一種免許状	宗教
	中学校教諭　一種免許状	
教育学科（教育学専攻）	高等学校教諭　一種免許状	公民
	中学校教諭　一種免許状	社会
教育学科（初等教育学専攻）	小学校教諭　一種免許状	
	幼稚園教諭　一種免許状	

1-2．教員免許状の取得要件

教員免許状を取得するためには、以下の基礎資格及び所定の単位を修得する必要があります。更に、小学校及び中学校の教員免許状を取得するためには、介護等体験が必要です。

●基礎資格等（教育職員免許法第５条別表第１より抜粋）

第一欄		第二欄	第三欄
所要資格／免許状の種類		基礎資格	大学において修得することを必要とする最低単位数／教科及び教職に関する科目
幼稚園教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。　※A	75
	一種免許状	学士の学位を有すること。	51
	二種免許状	短期大学士の学位を有すること。※B	31
小学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。　※A	83
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59
	二種免許状	短期大学士の学位を有すること。※B	37
中学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。　※A	83
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59
	二種免許状	短期大学士の学位を有すること。※B	35
高等学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。　※A	83
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59

※A　大学院に１年以上在学し、30単位以上修得した場合を含む（同表備考第２号）

※B　大学に２年以上在学し、62単位以上修得した場合を含む（同表備考第２号及び免許法施行規則第66条の５）

●教科及び教職に関する科目の単位の修得方法

【幼稚園】（免許法施行規則第２条より抜粋）

第一欄		教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状
最低修得単位数	第二欄	領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項　※	16	16	12
			保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）			
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	10	6
			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			
			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			

第一欄		教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状
最低修得単位数	第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	4	4
			幼児理解の理論及び方法			
			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			
	第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	5	5	5
			教職実践演習	2	2	2
	第六欄	大学が独自に設定する科目		38	14	2

※「領域に関する専門的事項」の単位の修得方法は、健康、人間関係、環境、言葉及び表現の領域に関する専門的事項を含む科目のうち一以上の科目について修得するものとする。

【小学校】（免許法施行規則第３条より抜粋）

第一欄		教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状
最低修得単位数	第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項　※A	30	30	16
			各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）　※B			
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	10	6
			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			
			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			
	第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	10	6
			総合的な学習の時間の指導法			
			特別活動の指導法			
			教育の方法及び技術			
			情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			
			生徒指導の理論及び方法			
			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			
			進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
	第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	5	5	5
			教職実践演習	2	2	2
	第六欄	大学が独自に設定する科目		26	2	2

※A　「教科に関する専門的事項」に関する科目の単位の修得方法は、国語（書写を含む。）、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育及び英語の教科に関する専門的事項を含む科目のうち一以上の科目について修得するものとする。

※B　「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」の単位の修得方法は、専修免許状又は一種免許状の授与を受ける場合にあっては、国語等の教科の指導法に関する科目についてそれぞれ一単位以上を、二種免許状の授与を受ける場合にあっては、六以上の教科の指導法に関する科目（音楽、図画工作又は体育の教科の指導法に関する科目のうち二以上を含む。）についてそれぞれ一単位以上を修得するものとする。

【中学校】（免許法施行規則第４条より抜粋）

第一欄		教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状
最低修得単位数	第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項　※A	28	28	12
			各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）　※B			
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	10	6
			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			
			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			
	第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	10	6
			総合的な学習の時間の指導法			
			特別活動の指導法			
			教育の方法及び技術			
			情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			
			生徒指導の理論及び方法			
			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			
			進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
	第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	5	5	5
			教職実践演習	2	2	2
	第六欄	大学が独自に設定する科目		28	4	4

※A　「教科に関する専門的事項」に関する科目の単位の修得方法は、次に掲げる免許教科の種類に応じ、それぞれ定める教科に関する専門的事項に関する科目についてそれぞれ一単位以上修得するものとする。これらは、一般的包括的な内容を含むものでなければならない。なお、以下「　」内に示された事項は当該事項の一以上にわたって行うものとする。

・国語　国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）、国文学（国文学史を含む。）、漢文学、書道（書写を中心とする。）
・社会　日本史・外国史、地理学（地誌を含む。）、「法律学、政治学」、「社会学、経済学」、「哲学、倫理学、宗教学」
・英語　英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解
・宗教　宗教学、宗教史、「教理学、哲学」

※B　「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」に関する科目の単位の修得方法は、専修免許状又は一種免許状の授与を受ける場合にあっては八単位以上を、二種免許状の授与を受ける場合にあっては二単位以上を修得するものとする。

【高等学校】（免許法施行規則第５条より抜粋）

第一欄		教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状
最低修得単位数	第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項　※A	24	24
			各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）　※B		
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	10
			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
	第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	8	8
			特別活動の指導法		
			教育の方法及び技術		
			情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
			生徒指導の理論及び方法		
			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
			進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
	第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	3	3
			教職実践演習	2	2
	第六欄	大学が独自に設定する科目		36	12

※A 「教科に関する専門的事項」に関する科目の単位の修得方法は、免許教科の種類に応じ、それぞれ定める教科に関する専門的事項に関する科目についてそれぞれ一単位以上修得するものとする。これらは、一般的包括的な内容を含むものでなければならない。なお、以下「　」内に示された事項は当該事項の一以上にわたって行うものとする。
・国語　国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）、国文学（国文学史を含む。）、漢文学
・地理歴史　日本史、外国史、人文地理学・自然地理学、地誌
・公民　「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」、「社会学、経済学（国際経済を含む。）」、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」
・英語　英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解
・宗教　宗教学、宗教史、「教理学、哲学」

※B 「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」に関する科目の単位の修得方法は、専修免許状又は一種免許状の授与を受ける場合にあっては四単位以上を修得するものとする。

●免許法施行規則第六十六条の六に定める科目の単位の修得方法

【各免許状共通】

「日本国憲法２単位」、「体育２単位」、「外国語コミュニケーション２単位」、「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作２単位」

●介護等体験

◆根拠法令

小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律および施行規則
（平成10年４月１日施行）

◆介護等の体験の期間（施行規則第１条より）

小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律第二条第一項の文部科学省令で定める期間は７日間とする。（特別支援学校で２日間、社会福祉施設で５日間、計７日間）

◆介護等の体験を行う施設（施行規則第２条より）

児童福祉法に規定する施設、生活保護法に規定する施設、社会福祉法に規定する施設、老人福祉法に規定する施設、介護保険法に規定する施設、障害者総合支援法に規定する施設、文部科学大臣が認める施設等

1-3. 履修上の注意

●全般

1．個別に相談すべき事項の生じたときは、教務課または直接その任に当たっている各学科・専攻の教職課程委員に連絡してください。
2．教職課程一般に関する連絡事項は、Sophie上に掲示するので、毎日必ず確認してください。
3．「教職課程履修カルテ」について
2010年度以降入学者から、教職課程履修の際に「教職課程履修カルテ」の作成が義務付けられています。この「教職課程履修カルテ」は、各自学生が、各年次終了時に様式をSophieからダウンロード、記入して情報を蓄積した後、４年次に履修する科目「教職実践演習」で使用します。詳細は、別途説明会、Sophie掲示で確認してください。「教職課程履修カルテ」の提出がない場合、４年次後期に開講される「教職実践演習」の履修はできません。

●履修の手続き

1．教職課程の履修を希望する者は、毎年３月末から４月上旬に行われる学年別ガイダンスに必ず出席してください。ガイダンスの日程等は、別に掲示します。
2．教職課程の履修を希望する者は、登録初年度に所属学科・専攻にて承認を受けた「教職課程履修希望調査フォーム」を教務課に送信して、登録をしなければなりません。詳細については、３月末から４月上旬に行われる学年別ガイダンスにて説明します。
3．上記登録は２年次に開始することを原則としますが、３年次以降に登録を希望する場合は、所属学科・専攻に相談の上、教務課にて所定の手続きをしてください。

●教職課程年間スケジュール

主な年間スケジュールは次のとおりです。

	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
3月末～4月		教職課程ガイダンス（履修概要）	教職課程ガイダンス（学校種別）	教育実習ガイダンス 教育実習諸費納入
				教育実習録配布一括申請フォーム送信
5月～		介護等体験ガイダンス（前年度申込者対象） 介護等体験費納入		教育実習開始
6月			教職課程履修カルテの提出	
7月			次年度都内公立校教育実習希望調査	
9月				教職課程履修カルテの記入
				教職課程履修カルテの提出の予定
10月	教職課程ガイダンス			免許状申請料納入
11月				一括申請ガイダンス
12月	次年度介護等体験希望者対象ガイダンス（申込）			
1月		教育実習手続きガイダンス 教育実習手続き	教育実習学生調書提出	教職課程履修カルテの記入
				教職課程履修カルテの提出の予定
3月	教職課程履修カルテの記入	教職課程履修カルテの記入	教職課程履修カルテの記入	免許状授与（卒業日）

<注1>　介護等体験については、1年次か2年次のどちらかの学年で申込みをし、申込年度の翌年度に合計7日間の介護等体験をする。
<注2>　この他、介護等体験学生のための講演会等が複数回開催予定である。

1-4. 介護等体験

●介護等体験とは

小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律により、小学校や中学校教諭免許状取得を希望する者は、1998年度以降入学者から、特別支援学校ならびに社会福祉施設等での「介護等体験」が義務づけられました。本学では介護等体験を授業科目扱いとしていないため単位になりませんが、体験先から「介護等体験証明書」が発行されます。当該証明書は教員免許状申請に必要です。

●体験の期間

教員免許状の種類に応じて必要とされる介護等体験は次のとおりです。

取得希望免許状	介護等体験の要・不要および体験期間
高等学校教諭一種免許状	不要
中学校教諭一種、二種免許状	要7日間（社会福祉施設5日、特別支援学校2日）
小学校教諭一種、二種免許状	要7日間（社会福祉施設5日、特別支援学校2日）
幼稚園教諭一種、二種免許状	不要

●申込み手続き

介護等体験の学内申込みは、1年次後期または2年次後期のいずれか一方の所定期間に行います。期間内に所定の手続きをしない者は、翌年度の介護等体験を行うことができません。必ず1年次もしくは2年次後期に介護等体験申込みの手続きを行ってください。本学では、原則として4年次に介護等体験と教育実習の両方を行うことを認めません。

●体験先の決定方式

具体的な体験先の決定については、大学に一任する方式（大学交渉）のみです。大学は希望学生を取りまとめ、特別支援学校の体験申込みは教育委員会へ、社会福祉施設の体験申込みは社会福祉協議会へ申請し決定されます。

●介護等体験に関する注意事項

1．介護等体験関係ガイダンスの取り扱い
介護等体験申込者は、介護等体験ガイダンス、事前指導および講演会等の出席が義務づけられています。

2．体験期間中の大学の授業欠席の取り扱い
介護等体験に伴うやむを得ない大学の授業欠席は、所定の期間に公欠届の手続きをすることにより公欠扱いとなり、出席回数に算入します。

3．体験期間中の体験欠席についての取り扱い
病気その他のやむを得ない理由で介護等体験を欠席する場合は、速やかに体験先及び教務課に届け出て指示に従ってください。無断欠席は絶対にしてはなりません。

4．介護等体験費
① 介護等体験を行う者は、介護等体験年度5月の所定期間に介護等体験費を納入しなければなりません。
② 一度納入された介護等体験費は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

1-5. 教育実習

●教育実習とは

本学で教員免許状取得を希望する者は、学部最終学年の4年次に取得を希望する免許に応じて高等学校、中学校、小学校、幼稚園のいずれかの教育現場で実習をします。教育実習は、授業科目として単位になります。

●実習校(園)と実習期間

1．本学では取得希望免許状の種類と実習校(園)の種類を一致させることを原則としています。教員免許状の種類に応じて必要とされる実習校(園)と実習期間は次のとおりです。

取得希望免許状	実習校（園）	実習期間（単位）
高等学校教諭一種免許状のみ	高等学校	10日間（2単位）
中学校教諭一種免許状と高等学校教諭一種免許状	中学校または高等学校	15日間（4単位）
小学校教諭一種、二種免許状	小学校	20日間（4単位）
幼稚園教諭一種、二種免許状	幼稚園	20日間（4単位）

2．初等教育学専攻初等教育コース生が幼稚園の免許を取得する場合は、小学校で20日間の教育実習をすることで、幼稚園の教育実習は免除されます。
初等教育学専攻幼児教育コース生が小学校の免許を取得する場合は、幼稚園で20日間の教育実習をすることで、小学校の教育実習は免除されます。

●教育実習手続き（教育実習要件）

1．教育実習は４年次前期に履修登録しますが、そのための手続き（教育実習手続依頼フォームの送信）は２年次１月～３年次前期初めの所定の期間に行われます。期間内に所定の手続きを完了しない者は、４年次での教育実習を行うことはできません。

2．教育実習は教職に就く意志のある者に限られます。希望者は、３年次の手続き（教育実習手続依頼フォームの送信）に先立って、各学科・専攻教職課程委員による、その意志の確認を受けなければなりません。

3．４年次で教育実習を履修するためには、３年次の終わりまでに教育実習履修資格要件を修得しておかなければなりません。教育実習履修資格要件を満たさない場合は、実習取り消しとなります。

教育実習履修資格要件は、中学校・高等学校（教科別）、小学校（学生所属別）、幼稚園（学生所属別）に次のとおり設定されています。

実習先	教育実習履修資格要件掲載ページ
中学校・高等学校	中学校・高等学校（履修要覧 p.117参照）
小学校	初等教育学専攻初等教育コース（履修要覧 p.117）
幼稚園	初等教育学専攻幼児教育コース（履修要覧 p.117）

※協定校科目等履修生は別途、教育学科の指導に従ってください。

4．教育実習履修資格要件に規定された科目のうち、時間割上他の専攻必修科目との重なりから当該年次中の履修が不可能な科目のある場合は、当該年次履修登録期間中に、所定の方法でその事情を教務課に届け出て指示に従ってください。

5．教員免許状取得希望者で、留学を志望する者は速やかにその旨を教務課に届け出て指示に従ってください。

●実習校の決定方式

1．具体的な実習校の決定については、それを大学に一任する方式（大学交渉）と、実習登録者が個人的に当該学校（園）と交渉のうえ決定する方式（個人交渉）とがあります。

2．大学交渉の場合には、都内公立校に希望できますが、実習校が決定する保証はありません。また、実習は指定された期間に行わなければなりません。

3．個人交渉の場合には、出身母校（園）やボランティア先等を希望し、各自で交渉します。また、実習は指定された期間に行わなければなりません。

※地方公立校の場合は、県外実習の受入れが可能か、別途所定手続きが必要かどうかを確かめてから交渉してください。

●教育実習に関する注意事項

１．教職関係ガイダンスの取り扱い

教職課程を履修する者は、各学年次に指定された教職課程関係ガイダンスや教育実習ガイダンス等への出席が義務づけられています。

２．実習期間中の大学の授業欠席の取り扱い

教育実習および教育実習事前打ち合わせに伴うやむを得ない大学の授業欠席は、所定の期間に公欠届の手続きをすることにより公欠扱いとなり、出席回数に算入されます。

３．実習期間中の実習欠席についての取り扱い

①　病気その他のやむを得ない理由で教育実習を欠席する場合は、速やかに実習先及び指導教員、教務課に届け出て指示に従ってください。無断欠席は絶対にしてはなりません。

②　教育実習期間中に教員採用試験以外の一般企業等の就職活動は認められません。

４．教育実習諸費

①　教育実習を行う者は、教育実習年度４月の所定期間に教育実習諸費を納入しなければなりません。納入金額は以下のとおりです。

取得希望免許状	納入金額
高等学校教諭免許状のみ	10日間合計 23,000円
中学校と高等学校教諭免許状	15日間合計 28,000円
幼稚園／小学校教諭免許状	20日間合計 32,000円

②　一度納入された教育実習諸費は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

●科目等履修生

科目等履修生として教育実習を希望する者は「聖心女子大学科目等履修生規程」および教育実習履修資格要件に規定された要件に従うほか、次の条件を満たさなければなりません。

①　実習校は個人交渉校とする。

②　教育実習予定年度の前々年度１月に行われる教育実習手続きガイダンスに出席していること。

2. 教職課程履修要項　各学科別　2023年度以降入学者

2-1. はじめに

教員免許状取得のためには、以下のとおり、３年次の終わりまでに「教育実習の履修要件」を、卒業までに「教員免許状の取得要件」を満たす必要があります。

小学校及び中学校の教員免許状取得のためには、上記に加え、前述の介護等体験が必要です。

2-2. 教育実習の履修要件について

教育実習を行うにあたり、３年次の終わりまでに次の要件を満たしていることが必要です。

	教育実習の履修要件	チェック欄	該当頁
（1）	教育実習は教職に就く意志のある者に限られます。希望者は、２年次１月以降の手続き（「教育実習先報告フォーム」の送信）に先立って、各学科・専攻教職課程委員による、その意志の確認を受けていること。	□	—
（2）	教育実習は４年次に履修しますが、そのための手続き（「教育実習先報告フォーム」の送信）は２年次１月以降の所定の期間に行われます。期間内に所定の手続きを完了していること（完了しない者は、４年次での教育実習を行うことはできません）。	□	—
（3）	原則として全学必修分野の外国語科目（第一外国語及び第二外国語）を標準履修年次に修得していること。	□	—
（4）	３年次の終わりまでに該当頁記載の教育実習履修要件の科目を修得していること（教育実習履修要件を満たさない場合は、実習取り消しとなります）。	□	本頁 右表
（5）	上記の条件に加えて、実習教科が英語又は国語の者は次の要件を満たしていることが必要です。 ≪国語の場合≫ ・３年次の終わりまでに「文章表現法（1）」を修得済みであること。 ≪英語の場合≫ ・１年次の後期に行われる１年英語のGeneral Testにおいて、定められた点数を取得済みであること（Listening&Structure/Vocabulary Testの合計点が650点以上であること。）。ただし、２年次終了時までに実用英語技能検定２級以上又はTOEIC500点以上のいずれかを取得していればこの条件を満たしているとみなす場合がある。 ・１、２年次の第一外国語必修科目全てを、原則として履修初年度に修得済みであること。	□	—

※教育実習履修要件のうち、時間割上所属学科・専攻必修科目との重複により当該年次中の履修が不可能な科目のある場合は、当該年次履修登録期間までに、その事情を教務課に申し出て指示に従ってください。

◆中学校・高等学校における教育実習の履修要件について

科目名	教育実習履修要件	チェック欄
カリキュラム論	修得済であること	□
教育実習指導１	修得済であること	□
教育原理２ 教育経営と学校制度 教育心理学、発達心理学２ 教育方法［含ICT活用］ 特別支援教育概論、道徳教育の理論と実践、総合的な学習の時間の指導法、特別活動、生徒指導［含進路指導］、教育相談	左の５つの区分の中から４区分についてそれぞれ１科目ずつ修得済であること	□
実習予定教科の指導法（○○科教育法）：必修８単位 （高校免許のみ希望する者は必修４単位）	修得済であること	□

※実習教科が英語科または国語科の者は、前述の要件も満たしていることが必要です。

◆小学校における教育実習の履修要件について

科目名	教育実習履修要件	チェック欄
教育原理１	修得済であること	□
カリキュラム論	修得済であること	□
教育実習指導２	修得済であること	□
教育経営と学校制度 教育心理学、発達心理学１ 教育方法［含ICT活用］ 特別支援教育概論、道徳教育の理論と実践、総合的な学習の時間の指導法、特別活動、生徒指導［含進路指導］、教育相談	左の４つの区分の中から３区分についてそれぞれ１科目ずつ修得済であること	□
各教科の指導法　（○○科教育法）	３科目以上修得済であること	□

※また、要件ではありませんが、音楽、図画工作、体育関係の科目を修得しておくことが望まれます。

◆幼稚園における教育実習の履修要件について

科目名		教育実習履修要件	チェック欄
保育原理		修得済であること	□
保育・幼児教育課程論		修得済であること	□
教育実習指導３		修得済であること	□
保育方法論		修得済であること	□
保育内容総論		修得済であること	□
教育原理１ 教育経営と学校制度 教育心理学、発達心理学１ 子ども理解と援助		左の４つの区分の中から３区分についてそれぞれ１科目ずつ修得済であること	□
子どもと健康、子どもと人間関係、子どもと環境、子どもと言葉、子どもと音楽表現、子どもと造形表現、保育内容の理解と方法１、保育内容の理解と方法２		左の８科目の中から２科目以上修得済であること	□
領域：健康	保育内容［健康］	左の５つの領域の中から２領域以上修得済であること	□
領域：人間関係	保育内容［人間関係］		
領域：環境	保育内容［環境］		
領域：言葉	保育内容［言葉］		
領域：表現	保育内容［表現］		

※また、要件ではありませんが、音楽や造形関係の科目を修得しておくことが望まれます。

2-3. 教員免許状の取得要件について

教員免許状の取得にあたり、４年次の終わりまでに次の要件を満たしていることが必要です。

表１～表３については、入学年度、所属学科・専攻並びに希望する免許種・教科によって参照すべき頁が異なりますので、注意してください。

	履修単位を計算する上でのチェックリスト	チェック欄	該当頁
（1）	「各免許状共通科目（免許法施行規則第六十六条の六に定める科目）」の４項目を満たした。	□	本頁 下表
（2）	表１を満たした。 ・「単位数」欄で、「必」に単位数が記入されている科目全てを修得した。 ・「履修方法等」欄で、「○○単位／科目選択必修」等記入されている科目についてそのとおり修得した。 ・「大学が定める単位数（合計）」を満たした。	□ □ □	p.120 ～ p.132 のうち 該当頁
（3）	表２を満たした。 ・「単位数」欄で、「必」に単位数が記入されている科目全てを修得した。 ・「履修方法等」欄で、「○○単位／科目選択必修」等記入されている科目についてそのとおり修得した。 ・「大学が定める単位数（合計）」を満たした。	□ □ □	中高： p.119、 小： p.129、 幼： p.131
（4）	表３「大学が独自に設定する科目」に数えられる単位数を計算し、法定単位数を満たした。	□	p.120 ～ p.132 のうち 該当頁

◆各免許状共通科目（免許法施行規則第六十六条の六に定める科目）◆

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における課程認定内容			
科目区分	法定単位数	授業科目	単位数		履修方法等
			必	選	
日本国憲法	2	憲法１ 憲法２		2 2	これらより２単位選択必修
体育	2	ウェルネス・身体活動（講義） ウェルネス・身体活動（実技）	1 1		
外国語コミュニケーション	2	１年英語１ １年英語２		2 2	これらより２単位選択必修
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	基礎情報処理技法 情報活用演習 AI・データサイエンス基礎		2 2 2	これらより２単位選択必修

【中学校一種免許状・高等学校一種免許状　共通】　カリキュラムマップ

◆表２◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容				履修年次
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等	
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理２	2			１ ～ ４
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職入門	2			１ ～ ４
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育経営と学校制度	2			２ ～ ４
				比較教育学１		2		１ ～ ４
				比較教育学２		2		２ ～ ４
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 発達心理学２		2 2	］これらより１科目 ］選択必修	２ ～ ４
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論	2			２ ～ ４
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		カリキュラム論	2			２ ～ ４
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中学：10 高校：８	道徳教育の理論と実践	2		中免のみ「大学が定める単位数」として数えられる。	２ ～ ４
		総合的な学習の時間の指導法　※１		総合的な学習の時間の指導法	2			２ ～ ４
		特別活動の指導法		特別活動	2			１ ～ ４
		教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		教育方法［含ICT活用］	2			１ ～ ４
		生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒指導［含進路指導］	2			１ ～ ４
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2			２ ～ ４
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	中学：５ 高校：３	教育実習指導１ 教育実習指導４ 教育実習１ 教育実習２	1 1 2	 2	 中免のみ必修	3 4 4 4
		学校体験活動						
		教職実践演習	2	教職実践演習	2			4
	法定最低修得単位数（合計）		中：27 高：23	**大学が定める単位数（合計）**	**中学：32単位以上**（法定最低＋５単位） **高校：28単位以上**（法定最低＋５単位）			

※１　高等学校一種免許状においては「総合的な探究の時間の指導法」

※２　次頁以降「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」は、下記の履修年次に修得することとする。

・２ ～ ３年次に修得する科目：英語科教育法２・３、国語科教育法２・３、宗教科教育法２・３、社会科教育法１・２

・３年次に修得する科目：英語科教育法１(1)・(2)、国語科教育法１(1)・(2)、宗教科教育法１(1)・(2)、社会・地理歴史科教育法１・２、社会・公民科教育法１・２

【中学校一種免許状・高等学校一種免許状　英語】 英語文化コミュニケーション学科

◆表１◆

免許法施行規則に定める科目区分等					本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目		各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	中学：28 高校：24	英語学概論１	2		
					英語学概論２	2		
					英語史１		2	
					英語史２		2	
					英文法		2	
					英語学特講１－１		2	
					英語学特講１－２		2	
					英語学特講２－１		2	
					英語学特講３－１		2	
					英語学特講３－２		2	
					英語学特講４－１		2	
					英語学特講４－２		2	
					英語学特講５－１		2	
					英語学特講６－１		2	
					英語学特講６－２		2	
			英語文学		英文学史概説１		2	これらより１科目選択必修
					英文学史概説２		2	
					米文学史概説１		2	これらより１科目選択必修
					米文学史概説２		2	
					英米文学特講２－１		2	
					英米文学特講３－１		2	
					英米文学特講３－２		2	
					英米文学特講４－１		2	
					英米文学特講４－２		2	
					英米文学特講５－１		2	
					英米文学特講５－２		2	
					英米文学特講６－１		2	
					英米文学特講６－２		2	
					英米文学特講７－１		2	
					英米文学特講７－２		2	
					英米文学特講８－１		2	
					英米文学特講８－２		2	
			英語コミュニケーション		英作文１	2		
					英作文２	2		
					英会話１		2	英会話１及び２、又は、オラルコミュニケーション１及び２、のいずれかをペアで４単位選択必修
					英会話２		2	
					オラルコミュニケーション１		2	
					オラルコミュニケーション２		2	
					メディア・コミュニケーション特講１		2	
					メディア・コミュニケーション特講４－１		2	
					メディア・コミュニケーション特講４－２		2	
					メディア・コミュニケーション特講５－１		2	
					メディア・コミュニケーション特講５－２		2	
					メディア・コミュニケーション特講６－１		2	
					メディア・コミュニケーション特講６－２		2	
					メディア・コミュニケーション特講７－１		2	
					メディア・コミュニケーション特講７－２		2	
					メディア・コミュニケーション特講８－２		2	
			異文化理解		異文化理解	2		
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			英語科教育法１(1)	2		
					英語科教育法１(2)	2		
					英語科教育法２	2		※高免のみの場合は選択科目
					英語科教育法３	2		※高免のみの場合は選択科目
	法定最低修得単位数（合計）			中：28 高：24	**大学が定める単位数（合計）**			**中学：28単位以上 高校：24単位以上**

◆表３◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第六欄	大学が独自に設定する科目	－	中学：４ 高校：12	道徳教育の理論と実践 （**高免のみ単位として数えられる**）		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表１または表２について、 中学：併せて４単位以上を修得 高校：併せて12単位以上を修得

※表３を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	（表１で修得した単位数 ＋ 表２で修得した単位数）	－	（表１の法定最低修得単位数 ＋ 表２の法定最低修得単位数）	＋	（※表３で修得した単位数）	≧	中：４ 高：12
中学	（ A ＋ ※B ）	－	（ 28 ＋ 27 ）	＋	（ 0 ）	≧	4
高校	（ C ＋ D ）	－	（ 24 ＋ 23 ）	＋	（ ※E（０又は２） ）	≧	12

※「道徳教育の理論と実践」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、２単位分を計上する。

【中学校一種免許状・高等学校一種免許状　国語】　日本語日本文学科

◆表１◆

免許法施行規則に定める科目区分等					本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目		各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	中学：28 高校：24	日本語学概説１ 日本語学概説２ 文章表現法（1）	2 2 2		
					日本語史概説１ 日本語史概説２ 日本語の文法 日本語学研究１ 日本語学研究２		2 2 2 2 2	
			国文学（国文学史を含む。）		日本文学史１ 日本文学史２ 日本文学史３ 日本文学史４ 日本文学史５ 日本文学史６		2 2 2 2 2 2	これらより２科目選択必修
					近代文学研究１ 近代文学研究２ 近代文学研究３ 近代文学研究４ 児童文学研究 古典文学研究１ 古典文学研究２ 古典文学研究３ 古典文学研究４		2 2 2 2 2 2 2 2 2	
			漢文学		中国文学概論１ 中国文学概論２	2 2		
			書道（書写を中心とする。）		書道		2	中学のみ必修 ※中免のみ単位として数えられる。高免では表３の単位数への算入も不可
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			国語科教育法１（1） 国語科教育法１（2） 国語科教育法２ 国語科教育法３	2 2 2 2		 ※高免のみの場合は選択科目 ※高免のみの場合は選択科目
	法定最低修得単位数（合計）			中：28 高：24	**大学が定める単位数（合計）**			**中学：28単位以上 高校：24単位以上**

◆表３◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第六欄	大学が独自に設定する科目	－	中学：４ 高校：12	道徳教育の理論と実践 （**高免のみ単位として数えられる**）		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表１または表２について、 中学：併せて４単位以上を修得 高校：併せて12単位以上を修得

※表３を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	（表１で修得した単位数 ＋ 表２で修得した単位数） － （表１の法定最低修得単位数 ＋ 表２の法定最低修得単位数） ＋ （※表３で修得した単位数）	≧	中：４ 高：12
中学	（ A ＋ ※B ） － （ 28 ＋ 27 ） ＋ （ 0 ）	≧	4
高校	（ C ＋ D ） － （ 24 ＋ 23 ） ＋ （ ※E（０又は２） ）	≧	12

※「道徳教育の理論と実践」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、２単位分を計上する。

【中学校一種免許状　社会】　哲学科

◆表１◆

免許法施行規則に定める科目区分等					本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目		各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	日本史・外国史	28	日本史概説	2		
					外国史概説	2		
					西洋古代・中世哲学史１		2	
					西洋古代・中世哲学史２		2	
					西洋近現代哲学史１		2	
					西洋近現代哲学史２		2	
					日本思想史学概論１		2	
					日本思想史学概論２		2	
					社会思想史１		2	
					社会思想史２		2	
					西洋美術史１		2	
					西洋美術史２		2	
					東洋美術史１		2	
					東洋美術史２		2	
					日本美術史１		2	
					日本美術史２		2	
					日本近現代史２(1)		2	
					日本文化史１		2	
					中国史		2	
					西アジア史 (2)		2	
					ヨーロッパ中世史１(1)		2	
					ヨーロッパ近代史１(1)		2	
					ヨーロッパ現代史１(1)		2	
			地理学（地誌を含む。）		人文地理学	2		
					地誌学	2		
					自然地理学	2		
			「法律学、政治学」		法律学Ⅰ		2	これらより１科目選択必修
					政治学１		2	
			「社会学、経済学」		社会学		2	①「社会学」、②「マクロ経済学」及び「経済政策論」、の①②いずれか一方選択必修
					マクロ経済学		2	
					経済政策論		2	
			「哲学、倫理学、宗教学」		哲学概論１		2	これらより１科目選択必修
					哲学概論２		2	
					倫理学概論１		2	
					倫理学概論２		2	
					キリスト教学概論１		2	
					キリスト教学概論２		2	
					宗教思想史１		2	
					宗教思想史２		2	
					キリスト教思想史１		2	
					キリスト教思想史２		2	
					宗教学概論１		2	
					宗教学概論２		2	
					宗教学特講１		2	
					宗教学特講２		2	
					宗教学特講３		2	
					聖書学特講１		2	
					聖書学特講２		2	
					キリスト教学特講１(1)		2	
					キリスト教学特講１(2)		2	
					美学・芸術学概論１		2	
					美学・芸術学概論２		2	
					哲学・倫理学特講１		2	
					哲学・倫理学特講２		2	
					哲学・倫理学特講３		2	
					哲学・倫理学特講４		2	
					哲学・倫理学特講５		2	
					哲学・倫理学特講６		2	
					哲学・倫理学特講７		2	
					哲学・倫理学特講８		2	
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
			各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		社会科教育法１	2		
					社会科教育法２	2		
					社会・地理歴史科教育法１		2	「社会・地理歴史科教育法１」「社会・地理歴史科教育法２」、「社会・公民科教育法１」「社会・公民科教育法２」の組合せで４単位選択必修
					社会・地理歴史科教育法２		2	
					社会・公民科教育法１		2	
					社会・公民科教育法２		2	
	法定最低修得単位数（合計）			中：28	**大学が定める単位数（合計）**			**中学：28単位以上**

◆表３◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第六欄	大学が独自に設定する科目	－	4	－			法定最低修得単位数を超えて履修した表１または表２について、 中学：併せて４単位以上を修得

※表３を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	（表１で修得した単位数 ＋ 表２で修得した単位数） − （表１の法定最低修得単位数 ＋ 表２の法定最低修得単位数） ＋ （※表３で修得した単位数）	≧	
中学	（ A ＋ ※B ） − （ 28 ＋ 27 ） ＋ （ 0 ）	≧	中：4
高校	（ C ＋ D ） − （ 24 ＋ 23 ） ＋ （ ※E（０又は２） ）	≧	高：12

※「道徳教育の理論と実践」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、２単位分を計上する。

【高等学校一種免許状　地理歴史】　哲学科

◆表１◆

免許法施行規則に定める科目区分等					本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目		各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	日本史	24	日本史概説	2		
					日本近現代史２(1)		2	
					日本文化史１		2	
					日本美術史１		2	
					日本美術史２		2	
					日本思想史学概論１		2	
					日本思想史学概論２		2	
			外国史		外国史概説	2		
					中国史		2	
					西アジア史（2）		2	
					ヨーロッパ中世史１(1)		2	
					ヨーロッパ近代史１(1)		2	
					ヨーロッパ現代史１(1)		2	
					西洋古代・中世哲学史１		2	
					西洋古代・中世哲学史２		2	
					西洋近現代哲学史１		2	
					西洋近現代哲学史２		2	
					西洋美術史１		2	
					西洋美術史２		2	
					東洋美術史１		2	
					東洋美術史２		2	
					社会思想史１		2	
					社会思想史２		2	
			人文地理学・自然地理学		人文地理学	2		
					自然地理学	2		
			地誌		地誌学	2		
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			社会科教育法１		2	
					社会・地理歴史科教育法１	2		
					社会・地理歴史科教育法２	2		
	法定最低修得単位数（合計）			高：24	**大学が定める単位数（合計）**			**高校：24単位以上**

◆表３◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第六欄	大学が独自に設定する科目	－	12	道徳教育の理論と実践		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表１または表２について、 **高校：併せて12単位以上を修得**

※表３を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	（表１で修得した単位数 ＋ 表２で修得した単位数）	－	（表１の法定最低修得単位数 ＋ 表２の法定最低修得単位数）	＋	（※表３で修得した単位数）	≧	中：4 高：12
中学	（ A ＋ ※B ）	－	（ 28 ＋ 27 ）	＋	（ 0 ）	≧	4
高校	（ C ＋ D ）	－	（ 24 ＋ 23 ）	＋	（ ※E（０又は２） ）	≧	12

※「道徳教育の理論と実践」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、２単位分を計上する。

【高等学校一種免許状　公民】　哲学科

◆表１◆

免許法施行規則に定める科目区分等					本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目		各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	24	法律学Ⅰ 政治学１		2 2	これらより１科目選択必修
			「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		社会学 マクロ経済学 経済政策論		2 2 2	①「社会学」、②「マクロ経済学」及び「経済政策論」、の①②いずれか一方選択必修
			「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		哲学概論１ 哲学概論２ 倫理学概論１ 倫理学概論２ キリスト教学概論１ キリスト教学概論２ 宗教思想史１ 宗教思想史２ 宗教学概論１ 宗教学概論２ 宗教学特講１ 宗教学特講２ 宗教学特講３ 聖書学特講１ 聖書学特講２ キリスト教学特講１(1) キリスト教学特講１(2) 美学・芸術学概論１ 美学・芸術学概論２ 哲学・倫理学特講１ 哲学・倫理学特講２ 哲学・倫理学特講３ 哲学・倫理学特講４ 哲学・倫理学特講５ 哲学・倫理学特講６ 哲学・倫理学特講７ 哲学・倫理学特講８		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	これらより１科目選択必修
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			社会科教育法２ 社会・公民科教育法１ 社会・公民科教育法２	 2 2	2	
	法定最低修得単位数（合計）			高：24	**大学が定める単位数（合計）**			**高校：24単位以上**

◆表３◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第六欄	大学が独自に設定する科目	－	12	道徳教育の理論と実践		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表１または表２について、 高校：併せて12単位以上を修得

※表３を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	（表１で修得した単位数 ＋ 表２で修得した単位数） － （表１の法定最低修得単位数 ＋ 表２の法定最低修得単位数） ＋ （※表３で修得した単位数） ≧	
中学	（ A ＋ ※B ） － （ 28 ＋ 27 ） ＋ （ 0 ） ≧	中：4
高校	（ C ＋ D ） － （ 24 ＋ 23 ） ＋ （ ※E（０又は２） ） ≧	高：12

※「道徳教育の理論と実践」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、２単位分を計上する。

【中学校一種免許状・高等学校一種免許状　宗教】　哲学科

◆表１◆

免許法施行規則に定める科目区分等					本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目		各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	宗教学	中学：28 高校：24	キリスト教学概論１ キリスト教学概論２ 宗教学概論１ 宗教学概論２ 宗教学特講１ 宗教学特講２ 聖書学特講１ 聖書学特講２		2 2 2 2 2 2 2 2	これらより ２科目選択必修
			宗教史		宗教思想史１ 宗教思想史２ キリスト教思想史１ キリスト教思想史２ キリスト教美術(1) キリスト教美術(2) キリスト教音楽(1) キリスト教音楽(2) キリスト教文学(1) キリスト教文学(2)		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	これらより １科目選択必修
			「教理学、哲学」		哲学概論１ 哲学概論２ 倫理学概論１ 倫理学概論２ 宗教学特講３ キリスト教学特講１(1) キリスト教学特講１(2) キリスト教学特講２(1) キリスト教学特講２(2) キリスト教学特講３(1) キリスト教学特講３(2) 美学・芸術学概論１ 美学・芸術学概論２ 哲学・倫理学特講１ 哲学・倫理学特講２ 哲学・倫理学特講３ 哲学・倫理学特講４ 哲学・倫理学特講５ 哲学・倫理学特講６ 哲学・倫理学特講７ 哲学・倫理学特講８		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	これらより １科目選択必修
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			宗教科教育法１(1) 宗教科教育法１(2) 宗教科教育法２ 宗教科教育法３	2 2 2 2		※高免のみの場合は選択科目 ※高免のみの場合は選択科目
	法定最低修得単位数（合計）			中：28 高：24	**大学が定める単位数（合計）**			**中学：28単位以上 高校：24単位以上**

◆表３◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第六欄	大学が独自に設定する科目	－	中学：４ 高校：12	道徳教育の理論と実践 （**高免のみ単位として数えられる**）		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表１または表２について、 中学：併せて４単位以上を修得 高校：併せて12単位以上を修得

※表３を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	（表１で修得した単位数 ＋ 表２で修得した単位数） − （表１の法定最低修得単位数 ＋ 表２の法定最低修得単位数） ＋ （※表３で修得した単位数）	≧	中：4 高：12
中学	（ A ＋ ※B ） − （ 28 ＋ 27 ） ＋ （ 0 ）	≧	4
高校	（ C ＋ D ） − （ 24 ＋ 23 ） ＋ （ ※E（０又は２） ）	≧	12

※「道徳教育の理論と実践」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、２単位分を計上する。

【高等学校一種免許状　地理歴史】　史学科

◆表１◆

免許法施行規則に定める科目区分等					本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目		各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	日本史	24	日本史概説	2		
					日本考古学		2	
					日本民俗学		2	
					日本文化史１		2	
					日本文化史２		2	
					日本古代史１（1）		2	
					日本古代史１（2）		2	
					日本中世史１（1）		2	
					日本中世史１（2）		2	
					日本近世史１（1）		2	
					日本近世史１（2）		2	
					日本近現代史１（1）		2	
					日本近現代史１（2）		2	
					日本近現代史２（1）		2	
			外国史		外国史概説	2		
					中国史		2	
					朝鮮史		2	
					西アジア史（1）		2	
					西アジア史（2）		2	
					南アジア史		2	
					古代地中海世界		2	
					ヨーロッパ中世史１（1）		2	
					ヨーロッパ中世史１（2）		2	
					ヨーロッパ近代史１（1）		2	
					ヨーロッパ近代史１（2）		2	
					ヨーロッパ現代史１（1）		2	
					ヨーロッパ現代史１（2）		2	
					ロシア史		2	
					アメリカ史（1）		2	
			人文地理学・自然地理学		人文地理学	2		
					自然地理学	2		
			地誌		地誌学	2		
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			社会科教育法１		2	
					社会・地理歴史科教育法１	2		
					社会・地理歴史科教育法２	2		
	法定最低修得単位数（合計）			高：24	**大学が定める単位数（合計）**			**高校：24単位以上**

◆表３◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第六欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第六欄	大学が独自に設定する科目	－	12	道徳教育の理論と実践		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表１または表２について、 高校：併せて12単位以上を修得

※表３を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	（表１で修得した単位数	＋	表２で修得した単位数）	－	（表１の法定最低修得単位数	＋	表２の法定最低修得単位数）	＋	（※表３で修得した単位数）	≧	中：4 高：12
中学	（ A	＋	※B ）	－	（ 28	＋	27 ）	＋	（ 0 ）	≧	4
高校	（ C	＋	D ）	－	（ 24	＋	23 ）	＋	（ ※E（０又は２） ）	≧	12

※「道徳教育の理論と実践」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、２単位分を計上する。

【中学校一種免許状　社会】　教育学科 教育学専攻

◆表１◆

免許法施行規則に定める科目区分等					本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目		各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	日本史・外国史	28	日本史概説＜3＞ 外国史概説	2 2		
			地理学（地誌を含む。）		人文地理学 地誌学 自然地理学	2 2 2		
			「法律学、政治学」		法律学Ⅰ 政治学１＜3＞		2 2	これらより１科目選択必修
			「社会学、経済学」		社会学 マクロ経済学＜3＞ 経済政策論＜3＞ 社会学概論１ 社会学概論２		2 2 2 2 2	①「社会学」、②「マクロ経済学<3>」及び「経済政策論<3>」、の①②いずれか一方選択必修
			「哲学、倫理学、宗教学」		哲学概論Ⅰ＜3＞ 哲学概論Ⅱ＜3＞ 教育哲学２ 西洋社会思想 キリスト教学特講１（1） キリスト教学特講１（2）	2 2	 2 2 2 2	
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			社会科教育法１ 社会科教育法２ 社会・地理歴史科教育法１ 社会・地理歴史科教育法２ 社会・公民科教育法１ 社会・公民科教育法２	2 2	 2 2 2 2	「社会・地理歴史科教育法１」 「社会・地理歴史科教育法２」、 「社会・公民科教育法１」 「社会・公民科教育法２」 の組合せで４単位選択必修
	法定最低修得単位数（合計）　中：28				**大学が定める単位数（合計）**			**中学：28単位以上**

◆表３◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第六欄	大学が独自に設定する科目	－	4	－			法定最低修得単位数を超えて履修した表１または表２について、 中学：併せて４単位以上を修得

※表３を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	（表１で修得した単位数 ＋ 表２で修得した単位数）	－	（表１の法定最低修得単位数 ＋ 表２の法定最低修得単位数）	＋	（※表３で修得した単位数）	≧	中：4 高：12
中学	（ A ＋ ※B ）	－	（ 28 ＋ 27 ）	＋	（ 0 ）	≧	4
高校	（ C ＋ D ）	－	（ 24 ＋ 23 ）	＋	（ ※E（０又は２） ）	≧	12

※「道徳教育の理論と実践」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、２単位分を計上する。

【高等学校一種免許状　公民】　教育学科 教育学専攻

◆表１◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項 「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	24	法律学Ⅰ		2	これらより１科目選択必修
				政治学１＜３＞		2	
		教科に関する専門的事項 「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		社会学		2	①「社会学」、②「マクロ経済学<3>」及び「経済政策論<3>」、の①②いずれか一方選択必修
				マクロ経済学＜３＞		2	
				経済政策論＜３＞		2	
				社会学概論１		2	
				社会学概論２		2	
		教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		哲学概論Ⅰ＜３＞	2		
				哲学概論Ⅱ＜３＞	2		
				教育哲学２		2	
				西洋社会思想		2	
				キリスト教学特講１（1）		2	
				キリスト教学特講１（2）		2	
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		社会科教育法２		2	
				社会・公民科教育法１	2		
				社会・公民科教育法２	2		
	法定最低修得単位数（合計）		高：24	**大学が定める単位数（合計）**			**高校：24単位以上**

◆表３◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第六欄	大学が独自に設定する科目	－	12	道徳教育の理論と実践		2	法定最低修得単位数を超えて履修した表１または表２について、 高校：併せて12単位以上を修得

※表３を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	（表１で修得した単位数	＋	表２で修得した単位数）	－	（表１の法定最低修得単位数	＋	表２の法定最低修得単位数）	＋	（※表３で修得した単位数）	≧	中：4 高：12
中学	（ A	＋	※B ）	－	（ 28	＋	27 ）	＋	（ 0 ）	≧	4
高校	（ C	＋	D ）	－	（ 24	＋	23 ）	＋	（ ※E（０又は２） ）	≧	12

※「道徳教育の理論と実践」を修得した者は、中学については※Bにて、高校については※Eにて、２単位分を計上する。

【小学校一種免許状　教育学科 初等教育学専攻】

◆表２◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容				
第一欄	科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	共通開設 幼小	履修方法等
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	小一種 10 小二種 6	教育原理１ 日本教育史 外国教育史	2	 2 2	幼 幼 幼	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職入門	2			
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育経営と学校制度	2		幼	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 発達心理学１		2 2	幼 幼	これらより１科目選択必修
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論	2			
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		カリキュラム論	2		幼	
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	小一種 10 小二種 6	道徳教育の理論と実践	2			
		総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法	2			
		特別活動の指導法		特別活動	2			
		教育の方法及び技術		教育方法［含ICT活用］	2			
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法						
		生徒指導の理論及び方法		生徒指導［含進路指導］	2			
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2			
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習指導２ 教育実習指導３ 教育実習指導５ 教育実習指導６ 教育実習３ 教育実習４	 2 2	1 1 1 1 	幼 幼 幼 幼 幼 幼	「教育実習指導２」 「教育実習指導５」、 「教育実習指導３」 「教育実習指導６」 の組合せで２科目選択必修
		学校体験活動						
		教職実践演習	2	教職実践演習	2			
	法定最低修得単位数（合計）		小一：27 小二：19	**大学が定める単位数（合計）**			**小一：32単位以上**（法定最低＋５単位）	

【小学校一種免許状　教育学科 初等教育学専攻】

◆表１◆

免許法施行規則に定める科目区分等					本学における課程認定内容			
第一欄	科目区分		各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国　語（書写を含む。）	小一種 30 小二種 16	国語概論［含書写］		2	これらより５科目選択必修
			社　会		社会科概論		2	
			算　数		算数概論		2	
			理　科		理科概論		2	
			生　活		生活科概論		2	
			音　楽		音楽概論		2	
			図画工作		図画工作概論		2	
			家　庭		家庭科概論		2	
			体　育		体育概論		2	
			外国語		外国語概論		2	
		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	国　語（書写を含む。）		国語科教育法（小学校）	2		
			社　会		社会科教育法（小学校）	2		
			算　数		算数科教育法	2		
			理　科		理科教育法	2		
			生　活		生活科教育法	2		
			音　楽		音楽科教育法	2		
			図画工作		図画工作科教育法	2		
			家　庭		家庭科教育法	2		
			体　育		体育科教育法	2		
			外国語		外国語教育法（小学校）	2		
	法定最低修得単位数（合計）			小一：30 小二：16	**大学が定める単位数（合計）**			**小一：30単位以上**

◆表３◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第六欄	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
	大学が独自に設定する科目	－	2	－			最低修得単位数を超えて履修した表１または表２について、 併せて２単位以上を修得

※表３を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。
　なお、本学では、「大学が定める単位数」を満たせば、下記数式は成立するカリキュラムとなっている。

	（表１で修得した単位数	＋	表２で修得した単位数）	－	（表１の法定最低修得単位数	＋	表２の法定最低修得単位数）	＋	（※表３で修得した単位数）	≧	小一種：２ 小二種：２
小一種	（ A	＋	B ）	－	（ 30	＋	27 ）	＋	（ 0 ）	≧	2
小二種	（ C	＋	D ）	－	（ 16	＋	19 ）	＋	（ 0 ）	≧	2

【幼稚園一種免許状　教育学科 初等教育学専攻】

◆表２◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容				
第一欄	科目	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	共通開設 幼 小	履修方法等
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	幼一種 10 幼二種 6	教育原理１ 保育原理 日本教育史 外国教育史	2 2	 2 2	小 小 小	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		保育者論	2			
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育経営と学校制度	2		小	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 発達心理学１		2 2	小 小	┐これらより１科目 ┘選択必修
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育・保育総論	2			
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		カリキュラム論 保育・幼児教育課程論		2 2	小	┐これらより ┘１科目選択必修
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	保育方法論	2			
		幼児理解の理論及び方法		子ども理解と援助	2			
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法						
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習指導２ 教育実習指導３ 教育実習指導５ 教育実習指導６ 教育実習３ 教育実習４	 2 2	1 1 1 1 	小 小 小 小 小 小	┐「教育実習指導２」 「教育実習指導５」、 「教育実習指導３」 ┘「教育実習指導６」の 組合せで２科目選択必修
		学校体験活動						
		教職実践演習	2	保育・教職実践演習	2			
	法定最低修得単位数（合計）		幼一：21 幼二：17	**大学が定める単位数（合計）**			**幼一：26単位以上**（法定最低＋５単位）	

【幼稚園一種免許状　教育学科 初等教育学専攻】

◆表１◆

免許法施行規則に定める科目区分等					本学における課程認定内容			
第一欄	科目区分		各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第二欄	領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健　康	幼一種 16 幼二種 12	子どもと健康		2	これらより３科目選択必修
			人間関係		子どもと人間関係		2	
			環　境		子どもと環境		2	
			言　葉		子どもと言葉		2	
			表　現		子どもと音楽表現 子どもと造形表現		2 2	
		領域及び保育内容の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目			保育内容の理解と方法１ 保育内容の理解と方法２		2 2	
		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）			保育内容総論 保育内容［健康］ 保育内容［人間関係］ 保育内容［言葉］ 保育内容［環境］ 保育内容［表現］	2 2 2 2 2 2		
	法定最低修得単位数（合計）			幼一：16 幼二：12	**大学が定める単位数（合計）**		**幼一：18単位以上**（法定最低＋２単位）	

◆表３◆

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における課程認定内容			
第一欄	科目区分	各科目に含めることが必要な事項	法定単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
第六欄	大学が独自に設定する科目	－	幼一：14 幼二：２	－			最低修得単位数を超えて履修した表１または表２について、 幼一：併せて14単位以上を修得

※表３を満たすために、各自、□内に単位数を記入の上、下記数式が成立することを確認すること。

	（表１で修得した単位数	＋	表２で修得した単位数）	－	（表１の法定最低修得単位数	＋	表２の法定最低修得単位数）	＋	（※表３で修得した単位数）	≧	幼一種：14 幼二種：２
幼一種	（ A	＋	B ）	－	（ 16	＋	21 ）	＋	（ 0 ）	≧	14
幼二種	（ C	＋	D ）	－	（ 12	＋	17 ）	＋	（ 0 ）	≧	2

3. 博物館学芸員課程　履修要項

3-1. 博物館学芸員課程について

博物館法第４条に基づく博物館の専門的職員を学芸員といいます。この課程は学芸員（博物館、美術館、資料館、宝物館、動物園、植物園、水族館等の専門的職員）の資格を得るための課程を履修するコースです。

3-2. 資格取得の条件

学芸員となる資格を得るための条件は、博物館法第５条の規程によれば次のとおりです。

(1) 学士の学位を有すること

(2) 本学の基準に従い、下記の科目を履修すること *開講状況はシラバス等で確認

▼必修科目

以下の科目をすべて修得すること（計19単位）

法定基準		本学基準				備考
科目	単位	コード	授業科目	単位	開講学科	
生涯学習概論	2	JC47	生涯学習概論	2	教育	
博物館概論	2	DJ21	博物館概論	2	史学	※1
博物館実習	3	DJ41	博物館実習	3	史学	※2
博物館教育論	2	DJ27	博物館教育論	2	史学	※1
博物館経営論	2	DJ28	博物館経営論	2	史学	※1
博物館展示論	2	DJ29	博物館展示論	2	史学	※1
博物館資料論	2	DJ30	博物館資料論	2	史学	※1
博物館資料保存論	2	DJ32	博物館資料保存論	2	史学	※1
博物館情報･ﾒﾃﾞｨｱ論	2	DJ26	博物館情報･ﾒﾃﾞｨｱ論	2	史学	※1
単位合計	19	単位合計		19		

●所属学科に関わらず、史学科開講科目の分野系列は次のとおりとなる。
※1：関連分野　※2：資格関係分野（卒業要件外単位）

▼選択必修科目

・以下の科目系列のうち、２つ以上の科目系列にわたって８単位以上を修得すること

系列	コード	授業科目	単位	開講学科	備考
文化史	DB23	日本文化史1	2	史学	
	DB24	日本文化史2	2	史学	
美術史	DB80	日本史史料論1	2	史学	
	DB81	日本史史料論2	2	史学	
	DB82	日本史史料論3	2	史学	
	DB83	日本史史料論4	2	史学	
	HC17	日本美術史1	2	哲学	
	HC18	日本美術史2	2	哲学	
	HC19	東洋美術史1	2	哲学	
	HC20	東洋美術史2	2	哲学	
	HC23	西洋美術史1	2	哲学	
	HC24	西洋美術史2	2	哲学	
	HD89	キリスト教美術（1）	2	哲学	※1
	HD90	キリスト教美術（2）	2	哲学	※1
考古学	DB19	日本考古学	2	史学	
民俗学	DB20	日本民俗学	2	史学	
自然科学史	AS07	科学史1	2	総現	
	AS08	科学史2	2	総現	

※(1)と(2)はペアで修得することを推奨

3-3. 履修上の注意

(1) 博物館学芸員課程の履修を希望する者は、年度はじめに行われる履修ガイダンスに必ず出席してください。

(2)「博物館実習」を除くその他の必修科目については、３年次の終わりまでに修得しておくことが望まれます。

(3) 選択科目系列を「２つ以上の科目系列にわたって８単位以上修得」とあるのは、資格を取得するための最低限を示したものです。

(4)「博物館実習」（３単位）は、卒業要件としての所定単位には数えられません。

(5)「博物館実習」の学内実習は、各クラス定員12名を上限として、学内実習クラス分け調査を実施し、履修人数の調整を行います。

(6) 博物館学芸員課程一般に関する連絡事項は、Sophieの掲示板に掲示します。

3-4. 博物館実習の履修

(1)「博物館実習」の履修を希望する者は、前年度11月に博物館実習ガイダンス、前年度３月に学内実習クラス分け調査が行われるので、必ず出席・回答してください。博物館実習ガイダンス出席及び学内実習のクラス分け調査回答は、ともに「博物館実習」履修登録の条件となるので、注意してください。

(2) ３年次の終わりまでに「博物館概論」「博物館経営論」「博物館展示論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」をすべて修得した者が、４年次に「博物館実習」を履修できるというのが原則ですが、諸事情により修得できなかった場合は、３年次の終わりまでに上記５科目のうちいずれか３科目を修得し、かつ、４年次に他の２科目を修得する見込みであれば、実習を履修することができます。

(3)「博物館実習」３単位は、学内・学外の実習を同一年度に修得するものとします。

(4)「博物館実習」履修者は、学外の実習受け入れ先が決まったとき、博物館実習諸費20,000円を納入しなければなりません。また、納入された博物館実習諸費は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

(5) 博物館実習に伴う授業の欠席は、公欠届の手続きをすることにより公欠扱いとなり、出席回数に算入されます。

3-5. 博物館学芸員課程年間スケジュール

	１年次生	２年次生	３年次生	４年次生
４月	博物館学芸員課程履修ガイダンス（履修概要）	博物館学芸員課程履修ガイダンス（履修概要）	博物館学芸員課程履修ガイダンス（履修概要）	博物館学芸員課程履修ガイダンス（履修概要）
６月頃				博物館実習開始（学外） 博物館実習諸費納入
11月			博物館実習ガイダンス	
12月			学外博物館実習依頼手続き開始（～３月頃）	
3月			博物館実習クラス分け調査（３月末）	

4. 日本語教員課程　履修要項

4-1. 日本語教員課程について

日本語教員とは、外国人に対して日本語を教える教員のことです。日本と諸外国との交流が活発化するにつれて、日本語を学習しようとする外国人が増加し、それに対応する教員を質・量ともに確保することが必要とされるようになりました。このような社会的要請を背景として、本学では、日本語教員養成のための課程を置いています。（昭和62（1987）年４月開設）

●日本語教員の資格

課程修了者には、大学卒業時に、本学において修了証が授与されます。（学士の学位が要件となります。）

●開設の形態

課程修了に必要な科目は、多く日本語日本文学科内に置かれていますが、日本語日本文学科の学生だけを対象とするものではなく、いずれの学科生でも履修可能です。

4-2. 履修の手続き

(1) 日本語教員課程の履修を希望する者は、登録をしなければなりません。登録については、年度初めに行われるガイダンスで説明します。ガイダンスの日時等は、別に掲示します。ガイダンス後に、日本語教員課程履修登録フォームを送信してください。
(2) 履修を取りやめる場合は、届出が必要です。教務課に申し出て、履修取止めの手続きを行ってください。
(3) 日本語教員課程一般についての連絡事項は、Sophieの掲示板に掲示します。

4-3. 履修の方法

日本語教員課程を修了するために必要な科目は、下の表のとおりです。開講状況や履修条件はシラバス等で確認してください。

所要単位		区分	開講学科	コード	授業科目	単位	標準年次	備考
▼分野：全体の概説								
		必修	日文	CD18	日本語教育の世界	2	2	★
▼分野：日本語の構造に関する科目								
12	4	必修	日文	CD19	日本語学概説１	2	2	★
		必修	日文	CD20	日本語学概説２	2	2	★
	4	選必	日文	CE16	日本語学演習１（1）	2	3	左の科目から、同じ演習の番号の(1)(2)、計４単位修得すること ※１
			日文	CE17	日本語学演習１（2）	2		
			日文	CE18	日本語学演習２（1）	2		
			日文	CE19	日本語学演習２（2）	2		
			日文	CE20	日本語学演習３（1）	2		
			日文	CE21	日本語学演習３（2）	2		
			日文	CE22	日本語学演習４（1）	2		
			日文	CE23	日本語学演習４（2）	2		
	2	必修	日文	CD29	日本語の文法	2	2	
	2	必修	日文	CD30	日本語の音声	2	3	
▼分野：日本人の言語生活等に関する科目								
4		必修	日文	CD27	日本語史概説１	2		
		必修	日文	CD28	日本語史概説２	2		
▼分野：日本事情に関する科目 ※2								
4		選必	英文	MF31	英語学特講６－１	2		
				MM54	異文化理解	2		
			日文	CA71	日本文学史１	2		
				CA72	日本文学史２	2		
				CA73	日本文学史３	2		
				CA74	日本文学史４	2		
				CA75	日本文学史５	2		
				CA76	日本文学史６	2		
				CG16	日本文化研究１	2		
				CG17	日本文化研究２	2		
			史学	DA54	日本史概説	2		
				DB23	日本文化史１	2		
				DB24	日本文化史２	2		
			人関	EF03	文化人類学	2		
				EP19	観光と文化	2		※３
				EE17	社会学	2		
				EF01	文化人類学１	2		廃止
				EP01	比較文化学１	2		廃止
			国際	GM16	政治学２	2		
				GP34	異文化メディア論１	2		
				GL15	Japan in the Global Context	2		
			哲学	HA19	日本思想史学概論１	2		
				HA20	日本思想史学概論２	2		
			教育	JD46	人間学習１	2		
				JD47	人間学習２	2		
				JD48	人間学習３	2		
				JD49	人間学習４	2		
				JD50	人間学習５	2		
				JD51	人間学習６	2		
				JD52	人間学習７	2		
				JD53	人間学習８	2		
				JD54	人間学習９	2		
				KH17	日本教育史	2		
			心理	LN12	発達・認知心理学特講２	2		※３
				LP11	臨床心理学特講１	2		
▼分野:言語学に関する科目								
4		必修	日文	CG12	言語学概論１	2	2	
		必修	日文	CG13	言語学概論２	2	2	
▼分野：日本語教授法に関する科目								
10	4	必修	日文	CF12	日本語教授法Ⅰ（1）	2	2	★
		必修	日文	CF13	日本語教授法Ⅰ（2）	2	2	★
	4	必修	日文	CF22	日本語教授法Ⅱ（1）	2	3	★
		必修	日文	CF23	日本語教授法Ⅱ（2）	2	3	★
	2	必修	日文	CF32	日本語教育実習（1）	1	4	
		必修	日文	CF33	日本語教育実習（2）	1	4	
▼分野：外国語科目								
6		必修			第二外国語（卒業要件上の必修科目）		1	
計42単位								

★：日本語教育実習を行う前に必ず修得すべき科目
※1：教職課程履修者は、日本語教員課程修了時に教員免許状を取得することを条件として、合計４単位の修得を免除する。詳細は、「４－５ 教職課程履修者への単位免除制度」を参照
※2：外国人留学生は、「日本事情１」2単位、「日本事情２」２単位をこれに充てることができる。
※3：2024年度以降に修得した科目に限る

4-4. 履修上の注意

1．日本語の構造に関する科目

①「日本語学概説１、２」は、「日本語教育実習」を履修する前年度までに修得しておかなければなりません。なお、できるだけ２年次において修得するようにしてください。

②「日本語学演習」は、定員があります。定員を超えた場合は調整を行いますので、履修希望者はあらかじめ日文研究室所定の手続き（年度初めのガイダンスで説明）を済ませてください。

2．日本語教授法に関する科目

●履修順序

「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」「日本語教育実習」は、この順に修得するものとします。ただし、「日本語教授法Ⅰ」と「日本語教授法Ⅱ」は、同一年次に履修することができます。

●日本語教育実習

(1)「日本語教育実習」は３・４年次生を対象に行われます。「日本語教育実習」を履修するためには、日本語教員課程に登録し、以下の要件を満たして、実習仮登録を行わなければなりません。

①「日本語教育実習」履修希望年度の前年度以前に「日本語教育実習履修資格試験」に合格していること（合格は３年間有効とする）

②履修希望年度の前年度までに「日本語教育の世界」「日本語学概説１」「日本語学概説２」「日本語教授法Ⅰ(1)(2)」「日本語教授法Ⅱ (1)(2)」を修得していること

※①及び②の要件は、日本国際教育支援協会による日本語教育能力検定試験に日本語教育実習履修前年度末までに合格した場合、免除されます。①及び②の要件が免除となる場合も、本学の日本語教育課程修了には、②に定められた要件の科目を含め本学の日本語教員課程に必要なすべての科目を履修している必要があります。

(2)「日本語教育実習履修資格試験」は、毎年12月に行われます。受験を希望する者は、11月の所定期間中に申し込みを済ませなければなりません。

(3)「日本語教育実習」の一環として行われる見学等のために本学の授業を欠席する場合は、公欠扱いとなります。教務課で所定の手続を行ってください。公欠届の提出された欠席は、出席回数に算入されます。

4-5. 教職課程履修者への単位免除制度

日本語教員課程と並行して教職課程を履修する学生※は、日本語教員課程修了時に教員免許状を取得することを条件として、「日本語学演習」選択必修４単位の修得を免除し、要件単位を合計38単位とします。

※日本語教員課程を修了する年度に教員免許状の取得が見込まれる学生を単位免除制度の適用対象とします。

4-6. 科目等履修

(1) 卒業生等の科目等履修は、課程全体の履修を前提として許可されます。

(2) 日本語教員課程の科目等履修生は、大学（４年制）の卒業生または在学生でなければなりません。

(3) その他の点については「聖心女子大学科目等履修生規程」によります。

4-7. 履修年間スケージュール

２年次から履修を開始し、４年次に教育実習を履修する標準的なスケジュールは、下表のとおりです。

	年度初め	10月	11月	12月	3月
1年次生	ガイダンス	ガイダンス			
2年次生	ガイダンス 登録フォーム送信				
3年次生	ガイダンス		実習履修 資格試験 申込	実習履修 資格試験 実習手続き	
4年次生	ガイダンス 実習履修 （～11月）				修了証授与

5. 司書教諭課程・司書課程・学校司書課程　履修要項

5-1. 司書教諭課程について

●司書教諭

司書教諭とは、小学校・中学校・高等学校の学校図書館の専門的職務を掌る資格をもつ教員のことで、学校図書館法第５条で定められています。

履修資格として、「教育職員免許状を有する者又は卒業時に教育職員免許状取得見込みのある者」であることが必要です。

●司書教諭課程科目

法令による司書教諭課程科目は下の表のとおりです。

法令にある科目		
区分	科目名	単位
必修	学校経営と学校図書館	2
	学校図書館メディアの構成	2
	読書と豊かな人間性	2
	学習指導と学校図書館	2
	情報メディアの活用	2
合計		10

●協定校において履修する場合

(1) **本学学生は、清泉女子大学と聖心女子大学との協定により、清泉女子大学で開講される司書教諭課程科目を、科目等履修生の身分で履修できます。清泉女子大学の履修カリキュラムの指導に従ってください。司書教諭課程履修費、科目等履修料、単位認定料、修了証書交付費等は、清泉女子大学の規定に従います。司書教諭課程の履修を希望する者は、ガイダンスに必ず出席してください**。ガイダンスの日時場所等は掲示します。

(2) 司書教諭課程関係科目の申込みは、学部２～４年次生が対象となります。

(3) **司書教諭課程修了証書**は、文部科学省初等中等教育局から交付されますが、清泉女子大学等を経由して申請するので、交付時期は申請手続き後１年間かかる予定です。手続き方法、手数料等についてはガイダンスで説明します。

(4) 本制度により修得した単位は、本学の所要単位として認定されません。また、本学で定めた各年次の年間登録単位数の上限には含みません。

●その他

司書教諭課程一般に関する連絡事項は、Sophieに掲示します。

5-2. 司書課程について

●司書

司書とは、図書館で専門的職務に従事する職員のことで、図書館法第４条で定められています。

●司書課程科目

法令による司書課程科目は下の表のとおりです。

法令にある科目					
区分	科目名	単位	区分	科目名	単位
甲群必修	図書館概論	2	乙群選択	図書館基礎特論	1
	情報資源組織論	2		図書・図書館史	1
	情報資源組織演習	2		図書館サービス特論	1
	生涯学習概論	2		図書館情報資源特論	1
	図書館サービス概論	2		図書館施設論	1
	児童サービス論	2		図書館総合演習	1
	図書館情報資源概論	2		図書館実習	1
	図書館制度・経営論	2	乙群で修得すべき単位数の合計		2以上
	情報サービス論	2			
	情報サービス演習	2			
	図書館情報技術論	2			
甲群必修科目の単位数合計		22			
合計		24単位以上			

●協定校において履修する場合

(1) **本学学生は、清泉女子大学と聖心女子大学との協定により、清泉女子大学で開講される司書課程科目を、科目等履修生の身分で履修できます。清泉女子大学の履修カリキュラムの指導に従ってください。司書課程履修費、科目等履修料、単位認定料、修了証書交付費等は、清泉女子大学の規定に従います。司書課程の履修を希望する者は、ガイダンスに必ず出席してください**。ガイダンスの日時場所等は掲示します。

(2) 司書課程関係科目の申込みは、学部２～４年次生が対象となります。

(3) 司書課程に定める所定の単位を修得した者には、図書館法施行規則第５条第１項第２号により清泉女子大学長から卒業時に修了証書が交付されます。

(4) 本制度により修得した単位は、本学の所要単位として認定されません。また、本学で定めた各年次の年間登録単位数の上限には含みません。

●その他

司書課程一般に関する連絡事項は、Sophieに掲示します。

5-3. 学校司書課程について

●学校司書

学校司書とは、小学校・中学校・高等学校で専ら学校図書館の職務に従事する職員のことで、学校図書館法第 6 条で定められています。

●学校司書課程科目

文部科学省が定めた「学校司書のモデルカリキュラム」は下の表のとおりです。

学校司書のモデルカリキュラムにある科目		
区分	科目名	単位
必修	学校図書館概論	2
	情報資源組織論	2
	情報資源組織演習	2
	学校教育概論	2
	図書館情報資源概論	2
	読書と豊かな人間性	2
	学校図書館サービス論	2
	学習指導と学校図書館	2
	図書館情報技術論	2
	学校図書館情報サービス論	2
合計		20

●協定校において履修する場合

(1) **本学学生は、清泉女子大学と聖心女子大学との協定により、清泉女子大学で開講される学校司書課程科目を、科目等履修生の身分で履修できます。清泉女子大学の履修カリキュラムの指導に従ってください。学校司書課程履修費、科目等履修料、単位認定料、修了証書交付費等は、清泉女子大学の規定に従います。学校司書課程の履修を希望する者は、ガイダンスに必ず出席してください。ガイダンスの日時場所等は掲示します。**

(2) 学校司書課程関係科目の申込みは、学部 2 ～ 4 年次生が対象となります。

(3) 学校司書課程に定める所定の単位を取得した者には、清泉女子大学長から卒業時に修了証書が交付されます。

(4) 本制度により修得した単位は、本学の所要単位として認定されません。また、本学で定めた各年次の年間登録単位数の上限には含みません。

●その他

学校司書課程一般に関する連絡事項は、Sophieに掲示します。

5-4. 標準年間スケジュール

（司書教諭課程・司書課程・学校司書課程 共通）

▼2 年次から履修を開始する標準的なスケジュール（前年度例）
詳細は清泉女子大学の指導に従ってください。ここでは参考までに前年度の例を記載します。

	4 月	3 月
1 年次生		「司書教諭・司書・学校司書課程履修の手引き」掲示（本学Sophie掲示） （3 月末）司書教諭・司書・学校司書課程ガイダンス（於清泉女子大学）
2 年次生	履修登録・履修料納入 （於本学）	
3 年次生	履修登録・履修料納入 （於本学）	
4 年次生	履修登録・履修料納入 （於本学）	修了書授与 （司書教諭課程については別途規定あり）

〈注 1〉本制度では、前期（4 月）に当該年度の前期・後期科目を全て履修登録します。

大学院　履修全般

1．履修の基本

1-1．大学院での履修

1．修業年限と在学年限

① 修士課程・博士前期課程にあっては、標準修業年限は２年とし、４年を超えて在学することはできません。
② 博士後期課程にあっては、標準修業年限は３年とし、６年を超えて在学することはできません。
③ 長期履修学生制度が適用されている者については、標準修業年限は３年とし、４年を超えて在学することはできません。

2．課程修了の要件

▼修士課程・博士前期課程

修了要件	修士課程・博士前期課程にあっては、学生は２年以上在学し、講義・演習を含め合計30単位以上を修得し、かつ修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格しなければならない。なお、30単位以上を修得するに当たっては、次に従わなければならない。 ①少なくとも20単位は本学当該専攻において修得する ②残りの10単位以上については、各専攻において定める修得方法に従う（各専攻のカリキュラムページ参照）
修士論文提出要件	修士論文を提出する者は、本学大学院修士課程・博士前期課程に１年以上在学し、各専攻が課程修了要件として認める科目を提出前年度までに16単位以上修得していなければならない。また修士論文を提出しようとするときは、論文テーマおよび指導教員についてあらかじめ大学院委員会の了承を得なければならない。

▼修士課程・博士前期課程：早期修了学生候補者

修了要件	修士課程・博士前期課程に所属する早期修了学生候補者にあっては、１年以上在学し、講義・演習を含め合計30単位以上を修得し、かつ修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格しなければならない。なお、30単位以上を修得するに当たっては、次に従わなければならない。 ①少なくとも20単位は本学当該専攻において修得する ②残りの10単位以上については、各専攻において定める修得方法に従う（各専攻のカリキュラムページ参照）
修士論文提出要件	早期修了学生候補者として修士論文を提出する者は、各専攻が課程修了要件として認める科目を提出前年度までに10単位以上修得していなければならない。また修士論文を提出しようとするときは、論文テーマおよび指導教員についてあらかじめ大学院委員会の了承を得なければならない。

▼博士後期課程

修了要件	博士後期課程にあっては、学生は３年以上在学し、講義・演習を含め合計10単位以上を修得し、かつ博士論文を提出して、その審査および最終試験に合格しなければならない。なお、10単位以上を修得するに当たっては、次に従わなければならない。 ①少なくとも６単位は本学当該専攻において修得する ②残りの４単位以上については、各専攻において定める修得方法に従う（各専攻のカリキュラムページ参照）
博士論文提出要件	博士論文を提出する者は、本学大学院博士後期課程に２年以上在学していなければならない。また博士論文を提出しようとするときは、論文題目および指導教員についてあらかじめ大学院委員会の了承を得なければならない。 ※各専攻の提出要件の詳細は、各専攻のカリキュラムのページを参照してください。

3．単位の修得要件

各授業科目の単位を修得するためには、次の要件を満たさなければなりません。

① 授業科目の履修登録がなされていること
② 授業回数の３分の２以上出席していること
③ 授業担当者から合格の評価（AA・A・B・Cのいずれか）が与えられること
④ 授業料等納付金を所定の期日までに納入していること（事情がある場合は、所定の期日までに学生担当副学長に申し出ること）
⑤ 所定の健康診断を原則として受診していること

4．長期履修学生の履修登録単位数

長期履修学生が登録できる１学年当たりの履修登録単位数は、16単位を限度とします。ただし、修了要件に含まれない単位については、この限りでありません。

5．本学大学院以外で修得した単位について

以下について、所定の審査を経て、単位の修得を認める場合があります。

① 入学前に在籍した他大学院で修得した単位
⇒『聖心女子大学大学院学則』参照

修士課程または博士前期課程に在籍する学生は、本大学院入学前に在籍した他大学院において修得した単位について、大学院委員会の議を経て了承された場合、修得した単位を本学大学院の修了単位として参入することができます。

② 委託聴講生制度で修得した単位（⇒p.143）

修士課程または博士前期課程に在籍する学生は、委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院で委託聴講生として所属専攻の承認を得た上で授業科目を履修し、単位を修得した場合、修得した単位を本学大学院の修了単位に算入することができます。この場合、本学の開講科目とともに履修登録届に記入し、本学の前期履修登録期間に履修登録することが必要です。

③ 留学により海外の大学院で修得した単位（⇒p.150）

大学院学生留学規程に基づき、大学院委員会の了承を得て海外の大学院に留学し、修得した単位は、本学の修了要件単位として認定されます。認定単位数の上限は、修士課程および博士前期課程においては10単位、博士後期課程においては４単位です。単位認定を希望する場合は、帰国後速やかに単位認定のための手続きを行ってください。この場合の認定科目の成績評価は「Tr.」と表記されます。

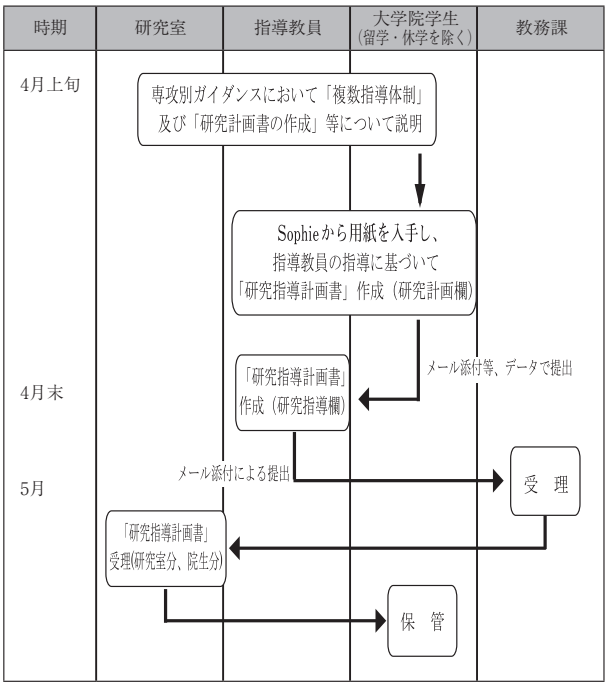
なお、①~③で認められる単位数は、本学の学部授業科目のうち特に認定された科目を履修して修得した単位と合算して10単位までです。

6．研究指導計画書

毎年度始めに、大学院学生は、論文執筆に向けての計画をより具体化するとともに、その内容について指導教員と確認を行うために研究指導計画書を作成します。手続きの概要は以下のとおりです。日時などの詳細は別途掲示を参照してください。

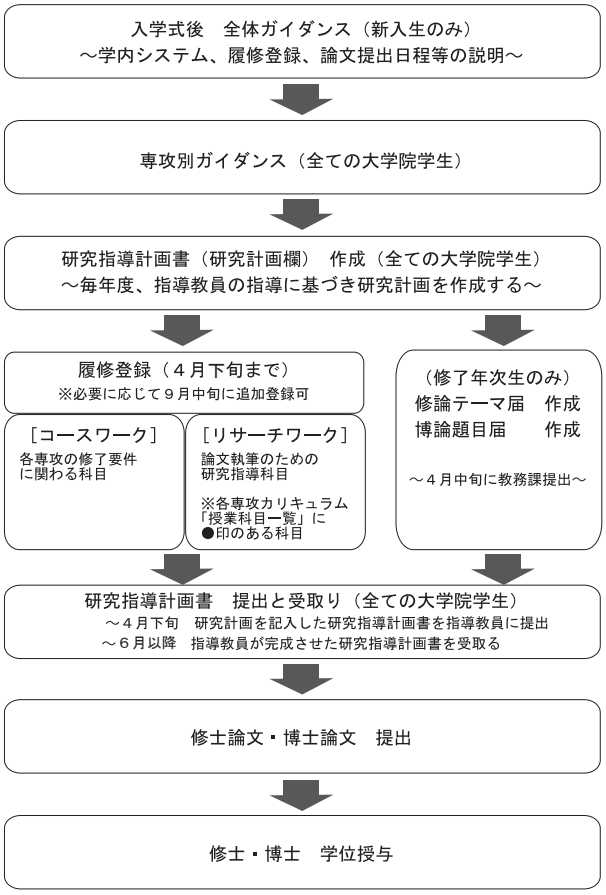
４月上旬：大学院学生は、研究計画について指導教員と面談を行う
４月下旬：面談内容を踏まえ、大学院学生は研究指導計画書の研究計画について作成し、指導教員に提出する

▼手続きの概要



※指導教員については、下記の規程が適用される。
　修士課程・博士前期課程：聖心女子大学学位規程第10条
　博士後期課程　　：聖心女子大学学位規程第15条
　なお、専攻と相談の上で指導教員及び副指導教員を変更することも可能である。
※副指導教員については、専任教員とする。

7．修了までの流れ



8．その他

(1) 研究倫理教育

本学では、研究倫理教育の一環として、本学大学院学生を対象に独立行政法人日本学術振興会が提供する「研究倫理eラーニング」の受講を義務付けています。受講方法等については、別途通知します。そのほか、研究倫理研修会の開催や研究倫理リーフレットの配付等も行っています。

照会先:企画部企画課

(2) ティーチング・アシスタント（TA）

本学大学院に在学する優秀な学生について、教育的配慮に基づき、本学の学部学生等に対する教育補助業務に従事させるとともに、当該学生が将来教員・研究者になるためのトレーニングの機会を提供する制度です。

照会先:企画部企画課

(3) リサーチ・アシスタント（RA）

本学における学術研究の一層の推進に資する研究支援体制の充実・強化並びに若手研究者の養成・確保を促進するため、本学の専任教員が行う研究プロジェクト等に大学院博士後期課程に在学する優秀な学生を研究補助者として参画させ、研究活動の効果的促進、研究体制の充実及び若手研究者としての研究遂行能力を育成する制度です。

照会先:企画部企画課

(4) 大学院学生の学会参加費等補助制度

本学大学院学生に学会発表を奨励し、学会で活躍できるよう、学会等参加費や学会発表の際の費用等を支援する制度です。

照会先:企画部企画課

1-2　修士論文の提出

1．修士論文の提出の流れ

●「修士論文テーマ・指導教員届」の提出（４月中旬）

日時などの詳細は４月上旬にSophie全学掲示板に掲載します。年度内に修士論文を提出見込みの者は、教務課に提出してください。なお、提出後にテーマが変更になった場合、改めて提出の必要はありません。

●論文の提出（１月中旬）

日時などの詳細は12月上旬にSophie全学掲示板に掲載します。

年度内に修士論文を提出見込みの者は、掲示の指示にしたがって提出物を準備し、教務課に提出してください。論文の体裁については各専攻で定められたルールにしたがってください。

●合否の発表（２月中旬）

日時などの詳細は12月上旬にSophie全学掲示板に掲載します。

2．修士論文の評価基準

修士論文として合格が認められるためには、所属専攻の指定する方法により研究指導を受け、専攻分野にふさわしいテーマを設定し、先行研究を適切に踏まえ、論文内容、研究方法、表現形式その他について各専攻が定める評価基準に適合する水準のものであることが求められます。また、資料・情報の入手、研究に引用等に関する研究倫理に問題があってはなりません。提出された修士論文は、本学学位規程に則り、当該専攻に設置される審査委員による評価および最終試験の結果に基づき、修士論文審査会議で合否を決します。

なお、各専攻が定める評価基準については各専攻のカリキュラムのページを参照してください。

1-3　博士論文の提出

1．博士学位の種類について

博士の学位は２種類あり、本大学院を修了する者は「課程博士（甲）」を申請します。

（1）課程博士

① 博士の学位は、大学院学則第16条及び第17条により、本大学院博士後期課程に３年以上在学し、所定の授業科目について10単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与する（学位規程第５条第１項、第15条、第18条）。

② 在学年限を１年以上残して退学した場合、再入学することで課程博士（甲）学位を申請することができる。再入学に関する規程は別に定める。

③ 平成26年度までに本大学院博士後期課程に入学した者については、満期退学後３年以内であれば特別研究員として在籍することにより課程博士（甲）学位を申請することができる。

（2）論文博士

博士の学位は大学院学則第18条により、論文を提出し、本大学院の行う博士論文の審査に合格し、かつ、博士課程修了者と同等以上の学力を有することを確認された者に授与することができる（学位規程第５条第２項、第16条、第19条）。

2．申請の流れ（課程博士の場合）

●「博士論文題目・指導教員届」の提出（４月中旬）

日時などの詳細は４月上旬にSophie全学掲示板に掲載します。

年度内に博士論文を提出見込みの者は、教務課に提出してください。

●論文の提出（10月末日）

日時などの詳細は９月上旬にSophie全学掲示板に掲載します。

博士論文を提出見込みの者は、掲示や当該専攻の指示にしたがって提出物を準備し、教務課に提出してください。なお、論文の体裁については各専攻で定められたルールにしたがうこと。

●最終試験

日時等の詳細は個別に通知します。学位論文に関する最終試験を口頭により行います。

●修了内定者の発表（２月中旬）

日時などの詳細は12月上旬にSophie全学掲示板に掲載します。

3．申請の流れ（論文博士の場合）

●論文の提出

博士論文を提出する者は、当該専攻の指示にしたがって提出物を準備し、審査料を添えて当該専攻研究室に提出してください。提出にあたっては事前に教務課へ照会してください。

●論文審査料

審査料は次のとおりです

・学位規程第16条第２項に該当する者：　50,000円
・本学専任教職員　：　50,000円
・その他の者　：150,000円

⇒ 聖心女子大学博士論文審査料等の徴収に関する規程

●学力の確認

学位論文に関連のある専攻分野の科目及び外国語について、口頭又は筆答の試問の方法によって行います。但し、学位規程第16条第２項に規定する者が退学後５年以内に学位論文の審査を申請する場合は、この試問を免除することができます。（学位規程第19条）

●合否の発表

博士論文提出後、原則として１年以内に論文の審査及び学力の確認を経て合否を判定します。合否発表の日時などの詳細は別途通知します。合格の場合、３月中旬の学位記授与式において博士学位記を授与します。

4．博士論文の評価基準

博士論文として合格が認められるためには、所属専攻の指定する方法により研究指導を受け、専攻分野にふさわしく価値の高いテーマを設定し、学界の研究水準を十分に踏まえつつ独創性を有し、論文内容、研究方法、表現形式その他について各専攻が定める評価基準に適合する水準であって、自立して研究活動を行うに足る研究能力の証左となり得ることが求められます。また、資料・情報の入手、研究の引用等に関する研究倫理に問題があってはなりません。提出された博士論文は、本学学位規程に則り、当該専攻に設置される審査委員による評価および最終試験の結果に基づき、博士論文審査会議で合否を決します。

なお、各専攻が定める評価基準については各専攻のカリキュラムのページを参照してください。

2. 履修登録

2-1. 科目履修のルールと諸注意

1. 履修登録の時期

		前期履修登録	後期履修登録
大学院開講科目	修士・博士前期課程１年次生 博士後期課程１・２年次生	通年科目 前期科目 後期科目	後期科目
	修士・博士前期課程２年次生 博士後期課程３年次生		なし※
学部開講科目			後期科目
委託聴講科目			

※修士・博士前期課程2年次生および博士後期課程3年次生の履修登録

前期の単位修得状況により、修了、資格取得のために後期科目をさらに履修登録する必要が生じた場合は、本人の責任において後期履修登録が可能です。

2. 特殊な登録の方法

（1）他専攻授業科目の履修登録

他専攻の授業科目を履修することを希望する学生は、所属専攻代表委員または指導教員に相談の上、教務課で所定の登録手続きを行ってください。

（2）委託聴講科目の履修登録

委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院で委託聴講生として授業科目を履修し、単位を修得した場合、本学の修了要件に算入することができます。「委託聴講生制度一覧表」（表１）ならびに各専攻の「授業科目履修要領」参照。この場合、本学の教務課での手続きが必要です。委託聴講を希望する学生は、所属専攻の承認を得た上で、本学の教務課での登録手続き後、協定校において手続きをし、委託聴講料（各大学の規定による）を納付してください。協定校の登録締切りは協定校により異なるので、掲示等で確認してください。なお、委託聴講先の大学院学生の履修登録が無い場合、当該科目は開講取止めとなります。

⇒各委託聴講制度の協定書　pp.156-159

【表１】委託聴講生制度一覧表

種　別	専　攻	協定大学大学院　専攻	
大学院英文学専攻委託聴講制度	英語英文学	＊1	英米文学他
大学院史学専攻委託聴講制度	史学	東京女子大学大学院人間科学研究科 日本女子大学大学院文学研究科	史学
首都圏宗教単位互換制度	哲学	＊2	神道学 宗教学他
大学院人間科学専攻委託聴講制度	人間科学（教育学分野）	青山学院大学大学院教育人間科学研究科 東洋大学大学院文学研究科	教育学
	人間科学（心理学分野）	青山学院大学大学院教育人間科学研究科	心理学
カトリック女子大学大学院委託聴講制度	全専攻	清泉女子大学大学院人文科学研究科	＊3
		白百合女子大学大学院文学研究科	＊4
渋谷４大学連携単位互換制度	英語英文学専攻	実践女子大学大学院文学研究科	英文学
	日本語日本文学専攻	青山学院大学大学院文学研究科 國學院大學大学院文学研究科 実践女子大学大学院文学研究科	日本文学・日本語文学 国文学
	史学専攻	青山学院大学大学院文学研究科 國學院大學大学院文学研究科	史学
	哲学専攻	青山学院大学大学院文学研究科 実践女子大学大学院文学研究科	比較芸術学 美術史学

＊1　青山学院大学、東北学院大学、法政大学、上智大学、東洋大学、明治大学、東京女子大学、立教大学、日本女子大学、明治学院大学、津田塾大学
＊2　國學院大學、創価大学、大正大学、東洋英和女学院大学、駒澤大学、立教大学
＊3　言語文化、思想文化、地球市民学
＊4　発達心理学、児童文学、国語国文学、フランス語フランス文学、英語英文学

（3）科目等履修生制度による履修登録について

大学院修了単位に算入しない授業科目を履修登録する場合（教職課程、博物館学芸員課程、日本語教員課程、社会調査士等）、教務課で所定の登録手続きを行ってください。自動登録科目についても、この手続きが必要となるので注意してください。また、別途事前登録の手続きが必要となる科目もあるため、手続き方法等に注意してください。

⇒履修登録のながれ　p.145

大学院入学後、通算して10単位までの学部開講科目の履修登録については、科目等履修料（１単位あたり10,000円）の全額を免除します。ただし、10単位を超える履修については、科目等履修料の半額（１単位あたり5,000円）の納付が必要となります。

3. 自動登録科目

以下の科目は履修登録を希望する場合でも、履修登録期間前までにあらかじめ履修画面に登録されている科目です。ただし、学部開講科目を大学院修了単位とは別に履修する場合、上記のとおり科目等履修生制度による履修登録の手続きが必要です。

（1）大学院開講科目

コード	授業科目	自動登録対象者
TH52	社会文化学共同演習Ⅰ	社会文化学専攻(博士前期) 1 年次生のみ
XC13	人文学共同演習	人文学専攻 2 年次生のみ
ZC13	社会文化学共同演習	社会文化学専攻(博士前期) 2 年次生のみ

（2）学部開講科目（科目等履修生制度による履修者）

コード	授業科目	自動登録対象者
CF32	日本語教育実習（1）	日本語教員課程履修者
CF33	日本語教育実習（2）	日本語教員課程履修者
DJ41	博物館実習	博物館学芸員課程履修者
RC16	教育実習指導 1	教職課程履修者（中・高）
KG15	教育実習指導 2	教職課程履修者（小）
KG25	教育実習指導 3	教職課程履修者（幼）
RC17	教育実習指導 4	教職課程履修者（中・高）
KG16	教育実習指導 5	教職課程履修者（小）
KG26	教育実習指導 6	教職課程履修者（幼）
RC31	教育実習 1	教職課程履修者（中・高）
RC32	教育実習 2	教職課程履修者（中）
KH09	教育実習 3	教職課程履修者（幼・小）
KH10	教育実習 4	教職課程履修者（幼・小）
KG43	保育・教職実践演習	教職課程履修者（幼）
KG44	教職実践演習	教職課程履修者（小・中・高）

4．人数制限科目

人数制限科目とは、授業内容等により授業開始前に選抜等を行い、受講人数を制限する科目です。あらかじめ人数を制限する科目については、シラバスに記載されているので、Sophieの事前登録画面または研究室指定の手続きを経て申請してください。

また、人数制限の欄に記載がない場合でも、教室等の利用施設の定員数を超えた場合に選抜等が行われることがあります。

履修を希望する科目については以下を徹底してください。

① 選抜等が行なわれるかどうかをシラバスおよびSophieで確認する

② 人数制限科目抽選にエントリーする

人数制限は、以下の２つの方法で実施します。

	削除不可科目 （Sophie）抽選	研究室抽選
応募方法	Sophie事前登録にて申込	研究室指定の方法による （Google Form等）~~Sophieの履修登録掲示板参照~~ 開講科目一覧参照
申請期間	削除不可(Sophie)抽選 受付期間	研究室抽選 受付期間
結果発表	Sophieの 事前登録照会	Sophieの 履修登録掲示板
履修登録	自動登録 （当選者のみ）	自動登録 （当選者のみ）
登録削除	不可	不可

<後期科目について>

・後期科目であっても前期の事前登録期間に人数制限のための選抜等が行われることがあります。選抜等が行われるかどうかをシラバスおよびSophieで確認してください。

5．開講取止め

大学院開講科目は大学院学生の履修登録が無い場合、開講取止めとなります。

6．授業科目の聴講

修士論文執筆等の特別な理由で授業科目の聴講を希望する場合、教務課に相談してください。

2-2　履修登録のながれ

履修登録の大まかなながれを示します。履修登録の詳細については「履修登録ガイド」を確認してください。

成績を確認

Sophie［成績］メニューから成績を確認

【前期前】後期分の成績発表　２月上旬	【後期前】前期分の成績発表　９月上旬

履修計画を考える

前期に１年間の履修登録をおこないます（一部後期の履修登録期間にも修正できます）。

- 履修要覧 ……学びに関するルール、学科専攻カリキュラム、科目リスト等を確認。
- 履修登録ガイド ……履修登録に関するスケジュールや詳細情報を確認。
- シラバス ……科目の概要を確認（３月下旬公開）。
- 開講科目一覧 ……科目の履修条件を確認（３月下旬公開）
- 各種ガイダンス ……学科専攻や資格・教職課程等における説明を確認。

履修登録

- 自動登録
  手続不要で、自動で登録されます。（「自動登録科目」pp.143-144参照）
- 削除不可科目抽選
  「削除不可抽選科目」をSophie事前登録画面より各自で申し込んでください。
  抽選後、結果はSophieの事前登録照会で確認できます。
  当選科目は自動時に履修登録され、Sophie履修登録画面に表示されます。
- 研究室抽選
  「研究室抽選科目」を各学科が指定した登録方法（開講科目一覧に掲載）に沿って各自で申し込んでください。
  当選科目は自動的に履修登録され、Sophie履修登録画面に表示されます。
- 科目コード登録
  抽選科目以外の科目をSophie履修登録画面から各自で申し込みます。
  教室収容定員を超える履修者数となった場合のみ、登録期間終了後に履修調整を行います。
  履修調整対象者はSophieを通じてお知らせします。

授業開始

オンライン授業のURLや初回授業について先生方からお知らせがある場合は、授業の開始前にSophie掲示「授業掲示板」から連絡があるので、必ず授業前に確認してください。

登録確認

Sophie履修登録画面で、計画通り授業が履修できているか確認してください。
一部の科目（科目コード登録科目のうち履修調整が行われなかった科目）はこの期間内に登録内容を変更することができます。

登録確定

履修登録内容が正式に確定となりますので、履修登録状況を確認してください。

3. 授業

3-1. 授業期間・授業時間

1. 授業期間

半期科目は14週、通年科目は28週が通常の授業期間となります。初回授業では授業に関するオリエンテーションが行われますので必ず出席してください。

2. 授業時間

授業時間は、以下のとおりです。土曜日は、集中講義等を除き２時限まで授業が行われます。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9：00～ 10：40	10：50～ 12：30	13：30～ 15：10	15：20～ 17：00	17：10～ 18：50

3. 祝日授業実施

授業日数を確保するため、特定の祝日にも授業を行うことがあります。当該年度の祝日授業実施日程については、学年暦で確認してください。

4. 土曜開講科目授業実施（みなし土曜日）

土曜日の授業日数を確保するために設けられた日程で、特定の土曜日に２回分の授業を行います。通常の授業時間とは異なりますので、実施日１週間前頃に掲示される内容を必ず確認してください。なお、当該年度の土曜開講科目授業実施（みなし土曜日）日程については、学年暦で確認してください。

【参考】過年度に実施されたみなし土曜日の時間割

■通常［土1］開講科目 ⇒1限・2限に授業実施

■通常［土2］開講科目 ⇒3限・4限に授業実施

5. 集中講義

授業科目によっては、一定の時期に集中して授業を行う「集中講義」として開講される科目があります。各集中講義の日程は、Sophieの掲示で確認してください。

※授業形式が対面、対面（一部オンライン）、オンライン（リアルタイム型）で実施される集中講義科目において、曜時が他の授業科目と重なっている場合や、集中講義科目同士の日程が一部でも重複している場合、出席できる授業はいずれか一科目のみです。日時の重複等により出席できなかった集中講義は欠席扱いとなりますのでご注意ください。

3-2 出欠席・公欠

1. 出欠席

① 出欠席の確認は授業開始日より行なわれ、その方法は授業担当者が決定し学生に伝えます。

「遅刻または早退３回で１回欠席」といったルールは、Sophie［授業担当者からのお知らせ］に掲示、またはシラバス［その他、履修上の注意事項や特記事項］に示します。

② 授業担当者が入力した出欠席情報が、Sophieにより学生にも開示されます。ただし、出欠席情報の更新頻度は、授業担当者・授業の履修人数等により異なりますので、ご承知おきください。

③ 交通機関による遅延、病気などによってやむを得ず欠席する（した）場合は、各自で授業担当者に事情を説明してください。教務課で欠席の連絡を取りつぐことはできません。

④ 大学を長期（２週間以上）にわたって欠席する（した）場合、および忌引きの場合は学生生活課に連絡してください。

⇒『学生生活』参照

⑤ 単位を修得するためには、授業回数の３分の２以上出席していることが必要です。

⇒単位の修得要件 p.14

⑥ 他の授業科目との日時の重複等により出席できなかった集中講義は欠席扱いとなりますのでご注意ください。

2. 公欠

「公欠」とは、(1) に掲げるものについて、教務課へ公欠届を提出することにより、所定期間内の履修科目の欠席を認めることを意味します。公欠届が提出された場合の欠席は、授業出席回数に算入されます。

公欠届の申請方法、様式はSophieのダウンロードセンターに掲載されています。忌引公欠の場合を除き、必ず事前に公欠の手続きを教務課で行ってください。

(1) 公欠の対象となるもの

① 教育実習、介護等体験、日本語教育実習、博物館実習（学外）、心理実習（学外）等

② 「災害救援ボランティア講座」に大学から派遣される場合

③ 忌引公欠

④ その他特別な事情（災害等）により、大学が認めたもの

※就職活動による授業欠席については「公欠」の扱いは認められません

※①~④に関して、保育士養成課程における授業欠席については「公欠」の扱いは認められません。

(2) 忌引公欠の手続き

公欠期間の最終日の翌日から起算して５日以内（土・日・休校日を除く）に、忌引公欠届（保証人の署名・捺印を要する指定用紙。Sophieに掲載）およびこれを証明する書類（会葬御礼・死亡診断書の写し等）を提出してください。

最長公欠認定日数は次のとおりです。

・配偶者の場合

死亡した日から起算して連続７日（休日を含む）の範囲内の期間

・１親等（父母、義父母、子）の場合

死亡した日から起算して連続７日（休日を含む）の範囲内の期間

・２親等（祖父母・兄弟姉妹、孫）の場合

死亡した日から起算して連続３日（休日を含む）の範囲内の期間

3. 出席停止

「学校保健安全法」により定められた感染症（インフルエンザ、麻疹、百日咳等。本学ホームページから確認ができます）に罹患した場合、その旨大学保健センターに速やかに連絡をし、医師の指導に基づき大学への通学を控えてください。その間は「出席停止」の扱いとなり、出席停止期間中の欠席回数は、出席すべき回数から除外されます。病院で医師の診断書を取得し、速やかに大学保健センターに提出してください。

※集中講義期間中に出席停止になった場合、教務課への申請により、登録している集中講義科目の履修を取り消すことができます。集中講義最終日から２週間以内に教務課に手続きを行ってください。

3-3　休講・休校・補講

1．休講

授業担当者の公務、学会出席、病気等によりやむを得ず授業を休講することがあります。大学からの休講連絡はSophieで配信します。電話やメール等での照会には応じません。休講の情報がなく授業時間を20分経過しても授業担当者が入室しない場合は、教務課に連絡して指示を受けてください。

2．補講

休講となった授業は、補講が行なわれます。補講日時等は、Sophieで通知します。

オンデマンド配信で行われる補講について、Sophieで通知される補講日時は配信日時の目安です。詳細は各授業担当者の指示に従ってください。

補講日については学年暦に定めているとおりですが、その他の日程で行われる場合もあります。

3．交通機関の大幅な乱れを伴う災害・交通ストライキや、感染症などの場合の休講・休校について

①~④に関する大学からの連絡事項は、
大学公式WEBサイトのトップページの
「重要なお知らせ」に本学の対応を掲載します。
（また、代替手段として大学公式SNSで告知する場合があります。）

① 台風の接近や暴風雨雪などが予想される場合は、前日の午後6時を目途に措置内容を掲載します。
休講・休校を解除し授業・諸活動を再開する又は対応を延長するなど、前日の午後6時に告知した対応内容に変更・追加がある場合は当日の午前6時を目途に掲載します。
午前6時掲載の対応内容に変更・追加がある場合には当日の午前11時を目途に掲載します。

② 本学への主たる交通機関であるJR山手線、東京メトロ日比谷線の運行状況により判断して、措置内容を告知します。

③ 学校保健安全法の「学校において予防すべき感染症」による患者が一定数を超えた場合の休校措置について、措置内容を告知します。

④ 予測ができない災害（大地震等）の場合など、緊急の対応を要する場合や、そのほか広く本学の対応・措置を告知する必要がある事柄についても、随時掲載します。

※大学が休講・休校になった場合には、学外からご来学の一般の方の活動や課外活動も同時に中止とします。在校中の場合は諸活動を取りやめ、身の安全を図ってください。

※登校中または帰宅途中の場合は、原則として帰宅することとし、在校中は大学の指示に従ってください。

4. 試験・レポート

4-1　試験・レポートについて

学期末、学年末の成績評価の方法は授業科目によって異なります。評価方法はシラバスに記載されていますので必ず確認するようにしてください。

「定期試験」として実施される場合には、学年暦の「授業および試験」期間に行われます。「教務課提出のレポート」として実施される場合には、所定の期日に教務課に提出します。提出日・提出方法は別途Sophie上に掲示します。それ以外の場合は授業担当者の指示に従ってください。

1．試験時間

定期試験の場合の試験時間割は、以下のとおりです。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9：00～10：40	10：55～12：35	13：30～15：10	15：25～17：05	17：20～19：00

2．試験受験上の注意

次の各項を確認の上、試験時間中は試験監督者の指示にすべて従ってください。

① 学生証は常に携帯し、試験時間中は必ず机の上に置く。学生証を忘れた場合は、試験開始までに証明書自動発行機にて「在学証明書」発行の手続きを行う。

② 座席が指定されている場合は、試験監督者の指示に従い、定められた席に着く。

③ 学生証、筆記用具（鉛筆・シャープペンシル・万年筆・ボールペン・消しゴム・その他特別に指示があるもの）以外のものは、机の上に置かない。

④ 携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末等の電子機器は、アラームの設定を切り電源も切ってカバンの中にしまう。これらは時計としても使用できない。持ち物は各自の椅子の脇に置く。

⑤ 時計のアラームの設定を切り、時刻表示以外の他の機能がついた時計は使用しない。

⑥ 試験開始後50分までは、試験場から退出しない。

⑦ 遅刻者は試験場に入ることが許されず、受験することができない。ただし試験開始後30分以内の遅刻で、公共交通機関の事故など不可抗力による遅刻であれば、試験監督者の指示に従い、受験することができる。

3．レポート作成上の注意

提出するすべてのレポートについて、本学の研究倫理ガイドおよび研究倫理指針を熟読し、不正に相当する行為を行わないよう注意してください。

⇒「研究倫理ガイド」pp. 9-10、『聖心女子大学研究倫理指針』参照

4．レポート提出上の注意

教務課にレポートを提出する際は、次のことに注意してください。

① 授業担当者に直接届ける、郵送する等しても受理されない。指定された期日に提出すること。

② 教務課指定の「レポート提出票」に必要事項を記入し、掲示の見本どおりの体裁に整えて提出すること。

③ 学生証を提示し、本人が提出すること。

4-2 追試験・追審査について

1．受験が認められる理由と必要な証明書類

次の①~⑥の理由で定期試験が受験できなかった、または教務課提出のレポートを提出できなかった場合、指定期間に必要書類を教務課に提出し、授業担当教員の許可が得られれば、所定の手数料を納付し、追試験・追審査の受験が認められます。詳細についてはSophieの掲示を確認してください。

① 病気・怪我（手数料：有料※１）
- ・医師の診断書（試験当日に通院・療養中であったことを証明するもの：他の書類は不可）

※１：学校保健安全法施行規則第18条に定められた感染症（インフルエンザ等）の場合は手数料免除

② 両親、兄弟、姉妹、祖父母の死亡による忌引（手数料：有料）
- ・死亡に関する公的証明書（会葬礼状でも可）

③ 台風、水害、火災等の災害（手数料：免除）
- ・官公庁による被災証明書

④ 交通関係の事故や遅延（手数料：有料）
- ・（自宅からの通常の通学路における）交通機関が発行した証明書（インターネット上の遅延証明書は不可）

⑤ 単位互換科目との試験日程重複（手数料：有料）
- ・受入れの大学の試験日程を証明するもの（交流学生制度、渋谷４大学間単位互換制度のみ対象）

⑥ その他学務部長が正当な理由として認めた場合
- ・手数料、証明書類については指示に従うこと

2．対象となる科目

定期試験、教務課提出のレポート

3．受験手続等（詳細はSophieの掲示参照）

（1）受付期間

追試験　試験日翌日から試験期間最終日まで
※最終日の科目についてはその翌日まで

追審査　レポート提出期限翌日と翌々日
※実施時期　前期８月上旬　後期１月下旬

（2）申請に必要な書類等

① 追試験願、または追審査願
② 理由に応じた証明書類(1.を参照、予め取得しておくこと)

（3）申請結果の通知と手数料の納入

① 追試験願、または追審査願が承認されたか否かについては、Sophieで通知します。
② 受験が認められた場合は、Sophieでの通知にしたがい、追試験料/追審査料3,000円分の証紙を購入してください（出席停止の場合は免除）。何らかの理由で追試験を受験しなかった場合、または追審査レポートを提出しなかった場合でも返還しません。

4．受験上の諸注意

① 追試験を受験する際には、学生証と追試験受験票（証紙帖付）を必ず持参してください。受験票は試験開始前に教務課にて交付します。受験上の注意は、定期試験に準じます。
② 追審査レポートを提出する際には、所定の提出票に必要事項を記入した上、追審査受験票（証紙帖付）とともに、学生証を提示して教務課に提出してください。受験票はレポート提出前に教務課にて交付します。提出上の注意は、教務課提出のレポートに準じます。
③ 追試験/追審査による成績評価は定期試験に準じて各授業担当者が行います。

4-3 不正行為について

1．試験における不正行為

次の各項の行為は不正行為とします。また、この各項以外でも試験監督者が不正行為と認めた場合は、不正行為とみなす場合があります。

① 試験監督者の指示・注意等に従わない、所定の答案を提出しない、偽名または故意により無記名答案を提出する、不要なことを答案に書くこと。
② 代人受験するまたは代人受験させる、他人の学生証を使用したり受験資格のない者が受験すること。
③ 答案・解答を他人と交換する、他人の答案・解答を写すまたは写させる、あるいは盗み見る、答案・解答について声・動作等で伝達を受ける又は伝達すること。
④ 試験監督者により使用が許された文献類・辞書類以外の物を使用する、または借りたり貸したりすること。
⑤ 試験監督者により使用が許された文献類・辞書類以外の物を机上に置いたり見たりすること（身体や衣服、机等への書き込み等も含む）。
⑥ 通信機能を有する機器または通信機能を有しないことが不明確な機器（音楽プレーヤー等）を、かばん等にしまわず身につけているまたは触れていた場合。
⑦ その他、上記の各項に類すると試験監督者が認めた場合。

2．レポートにおける不正行為

提出されたすべてのレポートについて、研究倫理ガイドおよび研究倫理指針に反する行為があったと認められた場合は、これを不正行為とします。

⇒「研究倫理ガイド」pp.9-10、『聖心女子大学研究倫理指針』参照

3．不正行為を行なったと認められた場合の処置

試験およびレポートにおいて不正行為を行ったと認められた場合は、次の処置が科されます。

① その学期の履修科目（後期の場合は通年科目も含む）の評価はすべて不合格とする
② 教授会での報告
③ 保証人（保護者）への通知
④ 誓約書（再度不正行為を行なわない旨が記されたもの）の提出

なお、不正行為の内容によっては、学則第54条に則り退学・停学または訓告の懲戒とします。また、これらの処置は、事後（卒業後を含む）に不正行為が発覚した場合も、遡って適用されます。

5. 成績評価

5-1. 成績評価について

各授業科目の評価は、その科目の授業担当者が行います。成績は、AA・A・B・C・F・出席回数不足・評価不能および認定の評価が与えられます。AA・A・B・Cおよび認定が合格、F・出席回数不足および評価不能が不合格です。

<中間評価>

通年科目によっては、前期終了時点での評価を行うことがあります。これを「中間評価」と呼んでいます。中間評価には、成績評価の後ろに「*」（アスタリスク）が記載されています。

中間評価が出席回数不足以外の場合は、その中間評価にかかわらず、最終的に単位修得できるか否かは後期終了時点での評価によって決まります。

1. 成績評価の達成基準等

	評点	評価	表記	達成基準等
合格	100 ～ 90	AA	AA	学習目標を十分満たし、秀でている
	89 ～ 80	A	A	学習目標を満たしている
	79 ～ 70	B	B	学習目標をほぼ満たしている
	69 ～ 60	C	C	合格と認められる最低水準を満たしている
	－	認定	Tr.	（留学等、他大学大学院で修得した単位を本学の単位として認定可）
不合格	59 ～ 0	F	F	合格と求められる最低水準を満たしていない
	－	出席回数不足	F（OC）	下記参照
	－	評価不能	F（UG）	

（1）出席回数不足/F（OC）

欠席が授業回数の３分の１を超えたと授業担当者が判断した場合、評価は「出席回数不足」となり、単位修得はできません。

⇒「単位の修得要件」p.140

通年科目については、前期終了時点での欠席が通年の授業回数の３分の１を超えると授業担当者が判断した場合、出席回数不足となり中間評価の時点で評価が確定するので単位修得はできません。この場合、その授業の履修資格は失われないので、履修を継続することは許可されます。

（2）評価不能/F（UG）

履修科目について、授業担当者が成績評価を与えることができない場合、評価は「評価不能」となり、単位修得はできません。

通年科目で中間評価が「評価不能/F（UG）*」の場合、最終的に単位修得できるか否かは後期終了時点での評価によって決まります。

評価不能となるのは、次の場合です。

① 卒業論文について、提出しなかった場合
② 成績評価時の在籍状態が、休学・退学・留学のいずれかで特別な申し出があった場合
③ 試験および提出したレポート、出席確認等において不正行為を行ったと認められた場合

また、次の場合も評価不能となることがあります。

④ 試験を受けなかった場合
⑤ レポートを提出しなかった場合
⑥ 追試験・追審査を許可されたにもかかわらず受けなかった場合
⑦ まわりの学生に迷惑をかける等、受講態度に問題があり、教職員等から指導を受けても改善が見られない場合

2. 評価における特記事項

追試験および追審査の成績評価は、定期試験に準じて各授業担当者が行います。

5-2 成績通知について

1. 成績通知日

（1）学生本人への通知

成績通知は、下記の日程にてSophieで通知します。

	通知対象者	成績通知日
前期成績	学部生、大学院学生、交換留学生、科目等履修生、委託聴講生	９月上旬
後期成績		２月上旬

※９月に開講される集中講義や、留学などにより他大学で修得した単位の認定は、上記とは異なる日程で通知することがあります。

（2）保証人への通知

学部生、大学院学生（博士後期課程は除く）の保証人に対する成績通知は、学生本人への通知と同時期に行います。保証人への成績通知を希望しない場合は、学期ごとに授業終了日までを期限とし、教務課での手続きが必要です。手続きが完了したら、補修人宛に成績は通知しませんが、【学生本人の希望があったので成績は通知しない】旨を通知します。

2. 成績通知書の見方

・AA・A・B・CおよびTr.が合格、F・F（OC）およびF（UG）が不合格
・「*」（アスタリスク）が記載されている評価は通年科目の中間評価で、確定評価ではありません
・履修登録済みの科目のうち、前期終了時に成績評価が与えられていない科目の評価欄は［履修中］と表示

<成績通知書の右側の欄>

修了要件とこれまでに修得した単位の集計を記載

<成績通知書の評価欄>

	最終評価	中間評価	備　考
合格	AA	AA*	
	A	A*	
	B	B*	
	C	C*	
	Tr.		認定科目
不合格	F	F*	成績証明書には記載されない
	F（UG）	F（UG）*	成績証明書には記載されない（評価不能）
	F（OC）		成績証明書には記載されない（出席回数不足）

5-3 成績評価確認願

成績評価について、シラバスの評価方法欄に記載された評価基準と照らし合わせ、具体的な根拠に基づく確認事項がある場合には、定められた期間内に「成績評価確認願」を教務課に提出することができます。

受付期間等、詳細はSophieに掲示します。なお、期間外の申し出は一切認められません。

2．注意事項

この申し出は、成績評価の確認を求めるものであり、成績評価への異議や再考を求めるものではありません。したがって、以下のような理由による「成績評価確認願」の提出は受け付けません。

① 再考を求めるもの。
② 担当教員に情状を求めるもの。
③ 他の学生との対比のうえ不満を訴えるもの。（「友人はA評価だが、なぜ自分はC評価なのか」など）
④ 具体的な内容の記載がないもの。（「自分なりの努力はした」など）

6．留学

外国の大学院に留学を希望する場合、本人にとって教育上有益であると認められるときは、大学院委員会に諮り、学長が許可します。留学を希望する者は所属する専攻代表委員の許可を受けた後、副学長（学務、大学院担当）に留学願を提出してください。

なお、留学期間中は本学に在籍料の納付が必要となります。

1．留学の期間

留学の期間は原則として１年間とします。ただし、特に必要と認める場合は、大学院委員会の議を得て、引き続き１年に限り、留学期間を延長することができます。留学を許可された者については、１年を限度として、留学期間を大学院学則第２条に定める在学年限に算入することができます。

2．単位認定

留学先の大学院において修得した単位の認定は次のとおりとなります。

① 留学先の大学院において修得した単位数のうち、認定される単位数は修士課程・博士前期課程においては10単位、博士後期課程においては 4 単位を限度とする。
② 学生の所属する専攻の議を経たのち、当該科目の修得単位を本学大学院の修了に必要な単位として認定する。
③ 留学先の大学院で修得した単位の認定を希望する場合は、留学前にあらかじめその授業科目の履修につき、所属する専攻において指導を受けておく。
④ 留学により修得した単位と委託聴講制度により修得した単位との合計は10単位を超えないものとする。

7．資格課程

1990年度以降大学院入学者で一種免許状取得者は、当該免許校種・教科に係る専修免許状取得の基礎資格（大学院において教職課程の指定科目24単位以上を修得し、修士の学位を取得する、または大学院に１年以上在学し、大学院において教職課程の指定科目30単位以上修得する）を得たうえで、都道府県教育委員会へ申請することにより専修免許状が授与されます。なお、専修免許状取得のための教職課程の指定科目は、「5　教職課程の指定科目」に記載のあるものに限ります。委託聴講・留学で修得した単位や大学院修了単位に算入を認められた学部開講科目の単位は、専修免許状取得のための単位に含めることはできません。

申請方法は毎年４月上旬にSophieの掲示板に掲示します。なお、一括申請希望者のうち他大学出身者は事前に本学教務課へ必ず申し出てください。

⇒教職課程の指定科目 pp.151-155

1．取得可能な教員免許状の種類

大学院　文学研究科（修士／博士前期課程）	学校種別		免許教科
英語英文学専攻	高等学校教諭	専修免許状	英　語
	中学校教諭	専修免許状	
日本語日本文学専攻	高等学校教諭	専修免許状	国　語
	中学校教諭	専修免許状	
史学専攻	高等学校教諭	専修免許状	地理歴史
	中学校教諭	専修免許状	社　会
社会文化学専攻	高等学校教諭	専修免許状	公　民
	中学校教諭	専修免許状	社　会
哲学専攻	高等学校教諭	専修免許状	公　民
	中学校教諭	専修免許状	社　会
	高等学校教諭	専修免許状	宗　教※
	中学校教諭	専修免許状	
人間科学専攻	高等学校教諭	専修免許状	地理歴史
	高等学校教諭	専修免許状	公　民
	中学校教諭	専修免許状	社　会
	小学校教諭	専修免許状	
	幼稚園教諭	専修免許状	

※中学校・高等学校専修宗教科免許状については、2004年度以降に修得した単位に限り、申請に使用することができる

2．教職課程年間スケジュール

詳細は、Sophieの掲示板で通知します。

	1年次生	2年次生
4月	教職課程ガイダンス	免許状一括申請フォーム送信
10月		免許状申請料納入
11月		免許状一括申請ガイダンス
3月		免許状授与

※この年間スケジュールは、一種免許状取得済で専修免許状に格上げする場合のものです。
※免許状取得の際の適用法令等状況により、一括申請ができない場合もあります。

3．履修の方法

「5　教職科目の指定科目」に示された科目より、取得を希望する免許校種・教科の教職課程の指定科目を24単位以上（修士の学位を取得する場合）または30単位以上（大学院に1年以上在学する場合）修得してください。

4．その他の注意事項

大学院に在籍しながら新たに一種・二種免許（幼稚園・小学校・中学高校）の教職課程を履修する場合、教務課に相談してください。教職課程に関する科目の履修標準単位数は「2年間で42単位」とします。標準を超える履修を希望する場合は、その旨を別途教務課に相談してください。また、教育実習あるいは介護等体験を必要とする教職課程履修の場合は、教育実習要件や介護等体験の実施年度等の条件があるため、しっかりと確認し、大学院在籍期間内の履修計画を立ててください。

なお、新たに一種免許・二種免許の教職課程を履修する場合は、長期履修学生制度を利用することができます。

⇒『聖心女子大学大学院長期履修学生取扱い規程』参照

5．教職課程の指定科目（2019年度以降入学者）

専修免許状取得のための指定科目は以下のとおりです。

（1）英語英文学専攻

・中学校教諭専修免許状（英語）
・高等学校教諭専修免許状（英語）

施行規則に定める科目区分等		コード	本学における課程認定内容		備考
科目区分			授業科目	単位数	
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	WL17	英語学研究Ⅰ－1	2	
		WL18	英語学研究Ⅰ－2	2	
		WL19	英語学研究Ⅱ－1	2	
		WL20	英語学研究Ⅱ－2	2	
		WL98	英語学研究Ⅲ－1	2	
		WL99	英語学研究Ⅲ－2	2	
		WM02	英語学研究Ⅳ－1	2	
		WL36	言語学研究Ⅰ－1	2	
		WL37	言語学研究Ⅰ－2	2	
		WL34	言語学研究Ⅱ－1	2	
		WL35	言語学研究Ⅱ－2	2	
		WL29	英文学研究法Ⅰ－1	2	
		WL30	英文学研究法Ⅰ－2	2	
		WL40	17世紀英米文学研究Ⅰ－1	2	
		WL41	17世紀英米文学研究Ⅰ－2	2	
		WL79	19世紀英米文学研究Ⅰ－1	2	
		WL80	19世紀英米文学研究Ⅰ－2	2	
		WL42	20世紀英米文学研究Ⅰ－1	2	
		WL43	20世紀英米文学研究Ⅰ－2	2	
		WL44	20世紀英米文学研究Ⅱ－1	2	
		WL45	20世紀英米文学研究Ⅱ－2	2	
		WL85	現代作品研究Ⅰ－1	2	
		WL86	現代作品研究Ⅰ－2	2	
		WL87	現代作品研究Ⅱ－1	2	
		WL88	現代作品研究Ⅱ－2	2	
		WL89	現代作品研究Ⅲ－1	2	
		WL90	現代作品研究Ⅲ－2	2	
		WL96	近現代文芸論Ⅰ－1	2	
		WL97	近現代文芸論Ⅰ－2	2	
		▼2021年度以降に修得した場合のみ適用			
		WM03	英語学研究Ⅳ－2	2	
		WM04	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅰ－1	2	
		WM05	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅰ－2	2	
		WM06	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅱ－1	2	
		WM07	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅱ－2	2	
		WM08	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅲ－1	2	
		WM09	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅲ－2	2	

（2）日本語日本学専攻

・中学校教諭専修免許状（国語）

・高等学校教諭専修免許状（国語）

施行規則に定める科目区分等		コード	本学における課程認定内容		備考
科目区分			授業科目	単位数	
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	TA12	上代文学研究（1）	2	
		TA13	上代文学研究（2）	2	
		TA22	中古文学研究（1）	2	
		TA23	中古文学研究（2）	2	
		TA32	中世文学研究（1）	2	
		TA33	中世文学研究（2）	2	
		TA42	近世文学研究（1）	2	
		TA43	近世文学研究（2）	2	
		TA57	近現代文学研究1（1）	2	
		TA58	近現代文学研究1（2）	2	
		TA59	近現代文学研究2（1）	2	
		TA60	近現代文学研究2（2）	2	
		TA65	日本語学研究（1）	2	
		TA66	日本語学研究（2）	2	
		TA67	日本語史研究（1）	2	
		TA68	日本語史研究（2）	2	
		TA73	現代日本語研究（1）	2	
		TA74	現代日本語研究（2）	2	
		TA75	日本語教育学研究1（1）	2	
		TA76	日本語教育学研究1（2）	2	
		TA77	日本語教育学研究2（1）	2	
		TA78	日本語教育学研究2（2）	2	
		TA11	上代文学研究	4	廃止
		TA21	中古文学研究	4	廃止
		TA31	中世文学研究	4	廃止
		TA41	近世文学研究	4	廃止
		TA54	近現代文学研究Ⅰ	4	廃止
		TA55	近現代文学研究Ⅱ	4	廃止
		TA63	日本語史研究	4	廃止
		TA64	現代日本語研究	4	廃止
		TA71	日本語教育学研究Ⅰ	4	廃止
		TA72	日本語教育学研究Ⅱ	4	廃止

（3）史学専攻

・中学校教諭専修免許状（社会）

・高等学校教諭専修免許状（地理歴史）

施行規則に定める科目区分等		コード	本学における課程認定内容		備考
科目区分			授業科目	単位数	
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	TC23	日本史特講1（1）	2	
		TC24	日本史特講1（2）	2	
		TC25	日本史特講2（1）	2	
		TC26	日本史特講2（2）	2	
		TC27	日本史特講3（1）	2	
		TC28	日本史特講3（2）	2	
		TC29	日本史特講4（1）	2	
		TC30	日本史特講4（2）	2	
		TC13	日本史研究1（1）	2	
		TC14	日本史研究1（2）	2	
		TC15	日本史研究2（1）	2	
		TC16	日本史研究2（2）	2	
		TC17	日本史研究3（1）	2	
		TC18	日本史研究3（2）	2	
		TC19	日本史研究4（1）	2	
		TC20	日本史研究4（2）	2	
		TD22	東洋史特講1（1）	2	
		TD23	東洋史特講1（2）	2	
		TD24	東洋史特講2（1）	2	
		TD25	東洋史特講2（2）	2	
		TD13	東洋史研究1（1）	2	
		TD14	東洋史研究1（2）	2	
		TD15	東洋史研究2（1）	2	
		TD16	東洋史研究2（2）	2	
		TE13	西洋史研究1（1）	2	
		TE14	西洋史研究1（2）	2	
		TE15	西洋史研究2（1）	2	
		TE16	西洋史研究2（2）	2	
		TE17	西洋史研究3（1）	2	
		TE18	西洋史研究3（2）	2	
		TC11	日本古代史特講	4	廃止
		TC12	日本古代史研究	4	廃止
		TC22	日本中世史研究	4	廃止
		TC31	日本近世史特講	4	廃止
		TC62	日本近現代史研究	4	廃止
		TC61	日本近現代史特講	4	廃止
		TC32	日本近世史研究	4	廃止
		TD12	東洋古代史特講	4	廃止
		TD32	東洋近世史研究	4	廃止
		TD41	東洋近代史特講	4	廃止
		TD42	東洋近代史研究	4	廃止
		TE22	西洋中世史研究	4	廃止
		TE35	西洋近代史研究	4	廃止
		TE45	西洋現代史研究	4	廃止
		▼2021年度以降に修得した場合のみ適用			
		TC21	日本中世史特講	4	廃止
		TC51	日本文化史研究	4	廃止
		TD21	東洋中世史特講	4	廃止
		TD31	東洋近世史特講	4	廃止
		TD43	東洋現代史特講	4	廃止

（4）社会文化学専攻

・中学校教諭専修免許状（社会）
・高等学校教諭専修免許状（公民）

施行規則に定める科目区分等		コード	本学における課程認定内容		備考
科目区分			授業科目	単位数	
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	TF41	社会心理学研究特論Ⅰ－1	2	
		TF42	社会心理学研究特論Ⅰ－2	2	
		TF43	社会心理学研究特論Ⅱ－1	2	
		TF44	社会心理学研究特論Ⅱ－2	2	
		TF33	社会学研究特論Ⅱ－1	2	
		TF34	社会学研究特論Ⅱ－2	2	
		TG23	比較文化研究特論Ⅰ－1	2	
		TG24	比較文化研究特論Ⅰ－2	2	
		TG25	文化人類学研究特論Ⅰ－1	2	
		TG26	文化人類学研究特論Ⅰ－2	2	
		TH06	社会文化学研究特論1	2	
		TH08	社会文化学研究特論3	2	
		TH09	社会文化学研究特論4	2	
		TG27	中国思想文化研究特論Ⅰ－1	2	
		TG28	中国思想文化研究特論Ⅰ－2	2	
		TF55	法学研究特論Ⅰ－1	2	
		TF56	法学研究特論Ⅰ－2	2	
		TL01	比較文化研究特論1-1	2	
		TL02	比較文化研究特論1-2	2	
		TL03	比較文化研究特論2-1	2	
		TL04	比較文化研究特論2-2	2	
		TL05	比較文化研究特論3-1	2	
		TL06	比較文化研究特論3-2	2	
		TL07	比較文化研究特論4-1	2	
		TL08	比較文化研究特論4-2	2	
		TL09	比較文化研究特論5-1	2	
		TL10	比較文化研究特論5-2	2	
		TL11	比較文化研究特論6-1	2	
		TL12	比較文化研究特論6-2	2	
		TK01	社会心理学研究特論1-1	2	
		TK02	社会心理学研究特論1-2	2	
		TK03	社会心理学研究特論2-1	2	
		TK04	社会心理学研究特論2-2	2	
		TK05	社会心理学研究特論3-1	2	
		TK06	社会心理学研究特論3-2	2	
		TK07	社会学研究特論1-1	2	
		TK08	社会学研究特論1-2	2	
		TK09	社会学研究特論2-1	2	
		TK10	社会学研究特論2-2	2	
		TK11	社会学研究特論3-1	2	
		TK12	社会学研究特論3-2	2	
		TK13	文化人類学研究特論1-1	2	
		TK14	文化人類学研究特論1-2	2	
		TK15	文化人類学研究特論2-1	2	
		TK16	文化人類学研究特論2-2	2	
		▼2020年度以前に修得した場合のみ適用			
		TF51	人格心理学研究特論Ⅰ－1	2	廃止,※1
		TF52	人格心理学研究特論Ⅰ－2	2	
		TG21	ドイツ文学研究特論Ⅰ－1	2	廃止
		TG22	ドイツ文学研究特論Ⅰ－2	2	廃止

※1　高等学校教諭専修免許状（公民）のみ

（5）哲学専攻

・中学校教諭専修免許状（社会）
・高等学校教諭専修免許状（公民）
・中学校教諭専修免許状（宗教）
・高等学校教諭専修免許状（宗教）

施行規則に定める科目区分等		コード	本学における課程認定内容		備考
科目区分			授業科目	単位数	
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	TJ11	哲学特論Ⅰ	4	
		TJ12	哲学特論Ⅱ	4	
		TJ13	哲学特論Ⅲ	4	
		TJ14	哲学特論Ⅳ	4	
		TJ15	哲学特論Ⅴ	4	
		TJ17	哲学特論Ⅵ－1	2	
		TJ18	哲学特論Ⅵ－2	2	
		TJ21	キリスト教学特論Ⅰ	4	
		TJ22	キリスト教学特論Ⅱ	4	
		TJ23	キリスト教学特論Ⅲ	4	
		TJ24	キリスト教学特論Ⅳ	4	
		TJ33	美学・芸術学特論Ⅰ	4	
		TJ34	美学・芸術学特論Ⅱ	4	
		TJ43	美学・芸術学特論Ⅲ	4	
		TJ44	美学・芸術学特論Ⅳ	4	
		TJ53	現代思想特論Ⅰ－1	2	
		TJ54	現代思想特論Ⅰ－2	2	
		TJ55	現代思想特論Ⅱ－1	2	
		TJ56	現代思想特論Ⅱ－2	2	

（6a）人間科学専攻

・中学校教諭専修免許状（社会）

・高等学校教諭専修免許状（地理歴史）

施行規則に定める科目区分等		コード	本学における課程認定内容		備考
科目区分			授業科目	単位数	
大学が独自に設定する科目	教育の基礎的理解に関する科目	WA16	基礎心理学特論１	2	
		WA17	基礎心理学特論２	2	
		WA43	人間科学特論１	2	
		WA72	基礎教育学特論２	2	
		WA74	基礎教育学特論４	2	
		WB51	生涯発達心理学特論１	2	
		WB52	生涯発達心理学特論２	2	
		WB42	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	
		WB46	障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	
		WF51	教育実践研究特論１	2	
		WF52	教育実践研究特論２	2	
		WF53	教育実践研究特論３	2	
		WF54	教育実践研究特論４	2	
		WF61	国際教育研究特論１	2	
		WF62	国際教育研究特論２	2	
		WF63	国際教育研究特論３	2	
		WA12	基礎心理学特論Ⅰ	2	廃止
		WA13	基礎心理学特論Ⅱ	2	廃止
		WA41	人間科学特論Ⅰ	2	廃止
		WA42	人間科学特論Ⅱ	2	廃止
		WB06	生涯発達心理学特論Ⅰ	2	廃止
		WB07	生涯発達心理学特論Ⅱ	2	廃止
		▼2021年度以降に修得した場合のみ適用			
		WD81	発達認知心理学特論Ⅰ	2	廃止
		WD82	発達認知心理学特論Ⅱ	2	廃止
		▼2024年度以降に修得した場合のみ適用			
		WA44	人間科学特論２	2	

（6b）人間科学専攻

・高等学校教諭専修免許状（公民）

施行令等		コード	本学における課程認定内容		備考
科目区分			授業科目	単位数	
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	WA18	基礎心理学特論３	2	
		WA22	大脳生理心理学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
		WA31	心理統計法特論	2	
		WB41	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
		WB45	比較行動学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
		WC71	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
		WC72	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
		WC73	社会病理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	
		WC74	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	
		WD14	視聴覚情報処理特論	2	
		WD41	感性情報処理特論	2	
		WD93	認知心理学特論１	2	
		WD94	認知心理学特論２	2	
		WD91	学習心理学特論Ⅰ（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	廃止
		WD92	学習心理学特論Ⅱ（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	廃止
		WB43	家族臨床心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
		WB33	社会心理学特論１	2	
		WA14	基礎心理学特論Ⅲ	2	廃止
		WB44	社会心理学特論Ⅰ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	廃止
		WD51	認知心理学特論Ⅰ	2	廃止
		WD52	認知心理学特論Ⅱ	2	廃止
		WB32	社会心理学特論Ⅰ	2	廃止
	教育の基礎的理解に関する科目	WA16	基礎心理学特論１	2	
		WA17	基礎心理学特論２	2	
		WA43	人間科学特論１	2	
		WA72	基礎教育学特論２	2	
		WA74	基礎教育学特論４	2	
		WB51	生涯発達心理学特論１	2	
		WB52	生涯発達心理学特論２	2	
		WB42	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	
		WB46	障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	
		WF51	教育実践研究特論１	2	
		WF52	教育実践研究特論２	2	
		WF53	教育実践研究特論３	2	
		WF54	教育実践研究特論４	2	
		WF61	国際教育研究特論１	2	
		WF62	国際教育研究特論２	2	
		WF63	国際教育研究特論３	2	
		WA12	基礎心理学特論Ⅰ	2	廃止
		WA13	基礎心理学特論Ⅱ	2	廃止
		WA41	人間科学特論Ⅰ	2	廃止
		WA42	人間科学特論Ⅱ	2	廃止
		WB06	生涯発達心理学特論Ⅰ	2	廃止
		WB07	生涯発達心理学特論Ⅱ	2	廃止
		▼2021年度以降に修得した場合のみ適用			
		WD81	発達認知心理学特論Ⅰ	2	廃止
		WD82	発達認知心理学特論Ⅱ	2	廃止
		▼2024年度以降に修得した場合のみ適用			
		WA44	人間科学特論２	2	

（6c）人間科学専攻

・幼稚園教諭専修免許状

施行規則に定める科目区分等		コード	本学における課程認定内容		備考
科目区分			授業科目	単位数	
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	WF55	教育実践研究特論５	2	
		WF45	生涯学習研究特論３	2	
		▼以下の２科目は2021年度以前入学者のみ適用			
		WF57	教育実践研究特論７	2	
		WF44	生涯学習研究特論２	2	
	教育の基礎的理解に関する科目	WA16	基礎心理学特論１	2	
		WA17	基礎心理学特論２	2	
		WA43	人間科学特論１	2	
		WA71	基礎教育学特論１	2	
		WA72	基礎教育学特論２	2	
		WA73	基礎教育学特論３	2	
		WA74	基礎教育学特論４	2	
		WB51	生涯発達心理学特論１	2	
		WB52	生涯発達心理学特論２	2	
		WB42	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	
		WB46	障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	
		WF51	教育実践研究特論１	2	
		WF52	教育実践研究特論２	2	
		WF53	教育実践研究特論３	2	
		WF54	教育実践研究特論４	2	
		WF56	教育実践研究特論６	2	
		WF58	教育実践研究特論８	2	
		WF59	教育実践研究特論９	2	
		WF46	生涯学習研究特論４	2	
		WF61	国際教育研究特論１	2	
		WF62	国際教育研究特論２	2	
		WF63	国際教育研究特論３	2	
		WA12	基礎心理学特論Ⅰ	2	廃止
		WA13	基礎心理学特論Ⅱ	2	廃止
		WA41	人間科学特論Ⅰ	2	廃止
		WA42	人間科学特論Ⅱ	2	廃止
		WB06	生涯発達心理学特論Ⅰ	2	廃止
		WB07	生涯発達心理学特論Ⅱ	2	廃止
		▼2021年度以降に修得した場合のみ適用			
		WD81	発達認知心理学特論Ⅰ	2	廃止
		WD82	発達認知心理学特論Ⅱ	2	廃止
		▼2024年度以降に修得した場合のみ適用			
		WA44	人間科学特論２	2	

（6d）人間科学専攻

・小学校教諭専修免許状

施行規則に定める科目区分等		コード	本学における課程認定内容		備考
科目区分			授業科目	単位数	
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	WF57	教育実践研究特論７	2	
		WF43	生涯学習研究特論１	2	
		WF44	生涯学習研究特論２	2	
		▼以下の２科目は2021年度以前入学者のみ適用			
		WF55	教育実践研究特論５	2	
		WF45	生涯学習研究特論３	2	
	教育の基礎的理解に関する科目	WA16	基礎心理学特論１	2	
		WA17	基礎心理学特論２	2	
		WA43	人間科学特論１	2	
		WA71	基礎教育学特論１	2	
		WA72	基礎教育学特論２	2	
		WA73	基礎教育学特論３	2	
		WA74	基礎教育学特論４	2	
		WB51	生涯発達心理学特論１	2	
		WB52	生涯発達心理学特論２	2	
		WB42	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	
		WB46	障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	
		WF51	教育実践研究特論１	2	
		WF52	教育実践研究特論２	2	
		WF53	教育実践研究特論３	2	
		WF54	教育実践研究特論４	2	
		WF56	教育実践研究特論６	2	
		WF58	教育実践研究特論８	2	
		WF61	国際教育研究特論１	2	
		WF62	国際教育研究特論２	2	
		WF63	国際教育研究特論３	2	
		WA12	基礎心理学特論Ⅰ	2	廃止
		WA13	基礎心理学特論Ⅱ	2	廃止
		WA41	人間科学特論Ⅰ	2	廃止
		WA42	人間科学特論Ⅱ	2	廃止
		WB06	生涯発達心理学特論Ⅰ	2	廃止
		WB07	生涯発達心理学特論Ⅱ	2	廃止
		▼2021年度以降に修得した場合のみ適用			
		WD81	発達認知心理学特論Ⅰ	2	廃止
		WD82	発達認知心理学特論Ⅱ	2	廃止
		▼2024年度以降に修得した場合のみ適用			
		WA44	人間科学特論２	2	

7-2　博物館学芸員課程

博物館法第４条に基づく博物館等の専門職員を学芸員といいます。この学芸員（博物館、美術館、資料館、宝物館、動物園、植物園、水族館等などの専門職員）の資格を得るための課程が本学学部におかれています。

博物館学芸員課程の履修希望者は、オリエンテーション期間中のガイダンス前までに教務課に相談してください。

7-3　日本語教員課程

日本語教員とは、外国人に対して日本語を教授する教員です。日本と諸外国との交流が活発化するにつれて、日本語を学習しようとする外国人が増加し、それに対応する教員を質量ともに確保することが必要とされるようになりました。このような社会的要素を背景として、日本語教員養成のための課程が本学学部におかれています（昭和62（1987）年４月開設）。

日本語教員課程の履修希望者は、４月初めに教務課に相談してください。

なお、聖心女子大学在学時から継続して日本語教員課程を履修する場合で、かつ、日本語教員課程修了時以前に教員免許状を取得する場合には、教職課程履修者への単位免除制度の適用が認められます。教職課程履修者への単位免除制度詳細は学部日本語教員課程履修要項を確認してください。

参考：委託聴講生制度協定書

大学院英文学専攻委託聴講制度

●大学院委託聴講生（英語英文学専攻）に関する協定書（抄）

大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。その目的を果たすには単独で履行するよりも、大学間の提携によって協力しあう方がより能率的であることは言うまでもない。最も望ましいのはこの協定が国の内外と国公私立の区分なく、学部と大学院の研究と教育との両面におよぶことであろう。このような状態に近づく第一歩として、下記の大学は大学院英文学専攻に委託聴講生の制度（委託聴講による単位互換制度）を設けることに一致した。委託聴講生とは、原則として学生が所属する大学院以外の大学院の授業科目を聴講し、単位を修得することを希望する場合、所属校の専攻主任または指導教員が教育研究上有益であると認めるときに、両大学院間の了解により所属大学院から受入大学院に委託される聴講生のことである。

委託聴講生の取扱いについては次のとおりこれを定める。

(1) 大学院に在学する学生が教育研究上の必要により、他大学大学院の授業科目を聴講しようとするときは、所属大学院の指導教員の了解を得たうえで所属大学院を通じ、希望する大学院にその旨、申し出るものとする。

(2) 定められた手続きを経て他大学大学院学生の聴講申し込みを受けたときは、当該大学院は正規の授業に差し支えない限り聴講を許可する。

(3) 委託聴講生の聴講料については協定校間の協議により、それぞれの大学においてこれを定める。

▼委託聴講に関する細則（抄）

第１条　加盟大学大学院の英文学、英語学に関連する専攻課程に在学する学生は、必要単位の一部を他の加盟大学の大学院において修得することができる。

２　他大学の大学院において修得できる単位の数は、所属大学院の定めるところによる。

第２条　第１条により単位修得の目的で他大学大学院の授業を聴講しようとする学生は、所定の用紙により願い出て、所属大学院の承認と、聴講を希望する他大学院の許可を得なければならない。

２　単位修得を目的としない聴講も右に準ずる。

第３条　委託聴講の願いが受理されたならば、学生は聴講先の大学院に対し、聴講料を納入しなければならない。

２　聴講料は１科目（通年）金2,000円（１学期のみの場合は金1,000円）とする。

第４条　委託聴講生の出願期間は原則として４月30日までとする。

第５条　委託聴講生を受入れた大学院は、学年末に、委託聴講生の所属大学院に、「委託聴講生成績通知書」を送付するものとする。

大学院史学専攻委託聴講制度

●大学院委託聴講生（史学専攻）に関する協定書（抄）

（趣旨）

第１条　聖心女子大学大学院文学研究科史学専攻と東京女子大学大学院人間科学研究科人間文化科学専攻歴史文化分野は、大学院相互の交流を促進し、学生の教育研究上の必要のため、単位互換に関する協定を締結し、委託聴講生（聖心女子大学大学院）・特別聴講学生（東京女子大学大学院）（以下「委託聴講生等」という。）の制度を設ける。

（授業科目の履修）

第２条　聖心女子大学大学院文学研究科史学専攻（修士課程）及び東京女子大学大学院人間科学研究科人間文化科学専攻歴史文化分野（博士前期課程）に在籍する学生は、協定先大学院の研究科（以下「協定先大学院」という。）が提供する授業科目を履修し、単位を修得することができる。

２　学生が履修することのできる授業科目の範囲及び修得することのできる単位の上限は、当該学生の所属する大学院（以下「所属大学院」という。）の学則その他諸規則の定めるところによる。

（履修の申請）

第３条　この協定に基づき、協定先大学院の授業科目を履修しようとする学生は、所定の願書にあらかじめ所属大学院の専攻主任又は指導教員の承認を得て、協定先大学院の担当部署に所定期日までに願い出るものとする。

２　履修には、当該授業科目の担当者の許可を必要とするが、協定先大学院において別に定める場合は、この限りではない。

（許可）

第４条　協定先大学院は、前条による願い出を受けたときは、当該大学院の定めるところにより受入れを許可するものとする。ただし、受入れに当たりやむを得ない事情がある場合には、許可しないことがある。

（委託聴講生等）

第５条　前条により受入れを許可した学生を「委託聴講生」（聖心女子大学）、「特別聴講学生」（東京女子大学）とし、当該学生証を交付する。

２　委託聴講生等は、協定先大学院の定める学則その他諸規則を遵守しなければならない。

（成績評価及び単位の認定）

第６条　委託聴講生等の成績評価は、協定先大学院において100点法による表記で行う。ただし、所属大学院での成績評価及び単位認定は、その定めるところによる。

（成績の通知）

第７条　委託聴講生等の成績は、所定の成績通知書により、協定先大学院の教務担当部署から所属大学院の教務担当部署に通知しなければならない。

（聴講料等）

第８条　委託聴講生等の履修に係る聴講料は、通年授業科目2,000円、半期授業科目1,000円とし、一旦納入された聴講料は返還しない。

２　前項に定めるもののほか、教材費等を徴収する必要が生じた場合は、協定先大学院の定めるところにより徴収することができる。

（施設・設備の利用）

第９条　委託聴講生等は、協定先大学院の認める範囲で、図書館等の施設及び設備を利用することができる。

（運営）

第10条　当該年度に提供する授業科目の種類、内容、時間割等の資料は、前年度末までに協定先大学院に送付するものとする。

第11条　本協定の運営に関する費用は、必要に応じて各校が負担するものとする

（協議）

第12条　この協定書に定めるもののほか、単位互換の実施に関し必要な事項は、その都度協議し、文書により合意するものとする。

2　前項の文書は、同一正文各１通を双方で保有する。
（改廃）
第13条　本協定の改廃は、双方の協議により行うものとする。

首都圏大学における大学院委託科目等履修制度

●宗教学専攻および宗教学専門科目を開講する専攻に関する協定書（抄）

古今東西における宗教の多種多様性は言を俟たない。その多様性に着目し、諸宗教間の比較研究を行い、そこから共通性と独自性を抽出する学的営みとして、近代の宗教学は始まった。

この近代宗教学の目的は、さまざまな宗教のパワーが顕在化しつつある現代においても、十分意義を有するものである。そして諸宗教の多様性と宗教が人類文化や個人の人格形成に果たしてきた役割を総合的かつ多角的に研究することは、宗教学の発展に寄与するのみならず、人類の平和、福祉に貢献するものと確信する。そのため宗教学専攻および宗教学専門科目を開講する大学院間で提携し協定を結び、それぞれの専門性と学的背景をいかしつつ、大学院学生の教育を行うことは、きわめて効率がよく、かつ大学院学生の研究上の教育的効果も増すものと考えられる。

もっとも望ましいのは、この協定が日本内外の国公私立の区別なく、大学院学生が可能な限り自由に研究を遂行するための運営期間を設立することであろう。このような状態に近づく第一歩として、下記の大学は、大学院宗教学専攻および宗教学関係専門科目を開講している専攻間に委託科目等履修生制度を設けることに一致した。

大学院委託科目等履修生（以下「委託履修生」という。）とは、大学院学生が研究上の必要から自己の所属する大学院以外の科目を履修希望する際に、両大学院間の諒解により所属大学院から相手大学院に委託される委託履修生のことであり、その取り扱いについては次のとおりである。

（1）大学院に在籍する大学院学生が研究上の必要により、他大学大学院の科目を履修しようとするときは、所属大学院の諒解を得たうえで、所属大学院を通して希望する大学院にその旨を申し出るものとする。
（2）定められた手続きを経て、履修申し込みを受けたときは、当該大学院は正規の科目にさしつかえない限り履修を許可する。
（3）委託履修生の履修料については、協定校間の協議により別に定める。

▼宗教学専攻および宗教学専門科目を開講する専攻に関する細則（抄）

第１条　この細則は「首都圏大学における大学院委託科目等履修生制度（宗教学専攻および宗教学専門科目を開講する専攻）に関する協定書」に基づき、大学院委託科目等履修生制度の運用について定めるものとする。
第２条　本協定書に合意した大学の大学院宗教学専攻および宗教学専門科目を開講する専攻に在籍する大学院学生は、単位の一部を、本協定書に合意した他の大学の大学院（以下「他の大学院」という。）において修得することができる。
2　他の大学院において修得できる単位の上限は各大学院の規定に従う。
第３条　第１条により委託科目等履修生（以下「委託履修生」という。）が他の大学院の科目を履修しようとするときには、所定の用紙により所属大学院の指導教員の承認と、履修を希望する他の大学院の研究科長の許可を得なければならない。
2　申請期間は原則として４月中旬とする。
第４条　委託履修生は、履修を希望する他の大学院より履修の許可が得られた場合、すみやかに当該大学院に履修料を納入しなければならない。
2　履修料は各大学院で別途定める。
3　納入した履修料は、いかなる理由があっても返還しない。
第５条　履修が許可され受け入れた履修生の大学院での身分は、各大学の定める規定に準拠するものとし、当該受け入れ大学は、図書館等その他研究に必要な施設の利用にできるかぎりの便宜を図るものとする。
第６条　本協定書に合意した大学は、学年末または学期末に委託履修生の所属する大学に「成績通知書」を送付するものとする。
第７条　この細則の改廃は連絡会議の議を経て行う。

大学院人間科学専攻委託聴講制度

●大学院委託聴講生（人間科学専攻－教育学分野）に関する協定書（抄）

（履修科目）
第１条　履修できる授業科目は、当該大学において開講される科目とする。
（修得単位）
第２条　履修した授業科目のうち認定する単位数は一学生あたり10単位を限度とする。
（履修手続）
第３条　履修を希望する者は、所属大学の指導教員の許可を受けた上、所属大学を通じ、相手大学へ履修許可願書を提出するものとする。
（履修許可）
第４条　履修許可願書を受理した大学は、当該大学の正規授業に支障のない範囲で履修を許可するものとする。
２）　履修を許可した大学は、履修許可証を発行する。
（履修料）
第５条　履修を許可された者は、所定の期日までに、履修料を納入するものとする。
２）　履修料は１単位500円とする。
（単位認定）
第６条　履修した授業科目の成績評価、および単位認定については、それぞれの受け入れる大学が定める方法による。
２）　前項について、協定大学は、毎学期末に報告をするものとする。
（施設の利用）
第７条　協定大学は、学生が授業を受ける上で必要な施設・設備の利用について、便宜を図るものとする。
（協議の見直し）
第８条　協定の運用については、必要に応じて協議するものとする。
（協定の改正）
第９条　協定の改正については、大学間の協議によるものとする。

●大学院委託聴講生（人間科学専攻－心理学分野）に関する協定書（抄）

第１条　標記の大学院文学研究科各専攻に在学する学生は、標記の各専攻に設置される科目を履修し、単位を修得することができる（委託聴講による単位互換）。（以下「委託聴講制度」という。）
第２条　委託聴講制度で在学中に修得できる単位数は、所属大学院学則の認める範囲内とする。ただし、10単位を限度とする。
第３条　聴講を希望する学生は、所属する大学院の指導教員および専攻主任の承認をえて、所定の願書を受入校に提出する。

第４条　願書を受理した大学院は、当該大学院の正規授業に支障のない範囲で履修を許可するものとする。
第５条　受入校は学生が履修した科目の成績および単位について、学生が所属する大学院に報告するものとする。
２　学生が所属する大学院は受入校からの報告に基づき単位を認定することができる。
第６条　本協定の運用については、必要に応じて協議する。
第７条　本協定の内規は別に定める。
第８条　本協定の改正については、協定大学間の協議による。

カトリック女子大学大学院委託聴講制度

●カトリック女子大学大学院委託生又は委託聴講生に関する協定書（抄）

カトリック女子大学大学院学生が研究上の必要から自己の在籍する大学院以外の大学院の開講する授業科目を履修することを希望するとき、在籍する大学院から相手大学院へ委託生又は委託聴講生として受け入れるために、下記のカトリック女子大学間で協定書を取り交わす。

協定大学名　白百合女子大学　聖心女子大学　清泉女子大学

（受　入）
第１条　この協定に参加する大学の大学院に在籍する学生が、他の大学の大学院が開講する授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、科目を開設する大学の学長は当該学生を受け入れることができる。
（委託生又は委託聴講生）
第２条　各大学は、前条により受け入れた学生を「大学院委託生又は委託聴講生」として取り扱う。
（履修期間）
第３条　委託生又は委託聴講生の履修期間は、原則として１年間とする。
（授業科目の範囲及び単位数）
第４条　履修できる授業科目の範囲及び修得できる単位数は、10単位の範囲内で科目開設大学の決定による。
（学生数）
第５条　各大学の受け入れる学生数は、科目開設大学の決定による。
（受入手続き）
第６条　委託生又は委託聴講生の受入れ手続きは、次のとおりとする。
１　他の大学の大学院に委託生又は委託聴講生として出願を希望する学生は、定められた期日までに出願書類を学生の在籍する大学を通じて、受講を希望する科目開設大学に提出するものとする。
２　科目開設大学は、必要に応じて選考を行い、受入れ学生を決定する。
３　科目開設大学は、選考の結果を受講を希望する学生の在籍する大学を通じて当該学生に通知する。
（単位認定の方法）
第７条　委託生又は委託聴講生が科目開設大学において履修した授業科目の成績の評価及び単位の認定については、科目開設大学の定めるところによるものとする。
（出願期間）
第８条　委託生又は委託聴講生の出願期間は、原則として４月30日までとする。
（学生納付金の扱い）
第９条　委託生又は委託聴講生の学生納付金は、聴講料のみ徴収することとし、１科目（通年）2,000円とする。ただし、前期又は後期のみの履修の場合は1,000円とする。
（委託生又は委託聴講生への便宜供与）
第10条　委託生又は委託聴講生が履修上必要な施設、設備の利用等については、便宜を供与する。
（以下略）

渋谷4大学連携単位互換制度

●渋谷４大学連携単位互換制度に関する協定書（抄）

青山学院大学、國學院大學、実践女子大学・実践女子大学短期大学部、聖心女子大学（以下、「渋谷 4 大学」という。）は、渋谷４ 大学の連携・協力に関する基本協定書第 2 条の規定に基づき、各大学の学部及び大学院において単位互換を実施することに合意し、次の通り協定を締結する。
（趣旨）
第１条　渋谷４大学は、相互に科目を提供することにより、渋谷で学ぶ意義を高めると共に、大学間の交流を深め、学生に対して、所属大学における学びにとどまらない多様な価値観に基づく学修機会を提供することを目的とする。
（名称）
第２条　本協定に基づく単位互換は「渋谷４大学連携単位互換制度」と称する。
（内容）
第３条　渋谷４大学は、他の大学に所属する学生に提供する授業科目を定め、相互に告知するものとする。
２　渋谷４大学に在学する学生は、前項の授業科目を履修し、単位を修得することができる。ただし、各年度において履修できる単位数に上限を設ける。
（資格）
第４条　本協定に基づき、他の大学の授業科目を履修できる学生は、所属大学の定める基準を満たし、その承認を受けた者とする。
（出願）
第５条　本協定に基づき、他の大学の授業科目を履修しようとする学生は、定められた期日までに、受講を希望する授業科目の履修を願出なければならない。
（許可）
第６条　受入れ大学は、前条の出願に基づき、受講の可否を決定し、すみやかに学生の所属大学へ通知する。
（学生の身分及び学籍）
第７条　前条により受入れを許可した学生を渋谷４大学特別聴講学生（以下、「特別聴講学生」という。）と称し、その者の学籍は、所属大学に置く。
２　各大学は、受け入れた学生に対し、その身分を明らかにする学生証を交付する。
３　特別聴講学生は、受入れ先の大学が定める学則その他諸規則を遵守しなければならない。
（成績評価及び単位の認定）
第８条　特別聴講学生の成績評価は、受入れ先の大学が定める成績評価基準に基づいて行う。
２　特別聴講学生の成績評価に基づく単位の認定および認定できる単位数の上限は、所属大学が定める学則その他諸規則により行う。
（成績の通知）
第９条　特別聴講学生の成績は、所定の成績通知書により、受け入れた大学の学長から所属大学の学長宛に通知しなければならない。
２　前項の成績の表記には、素点を用いる。

（聴講料等）
第10条　特別聴講学生の聴講料は徴収しない。ただし、別に定める手数料を徴収するものとする。
2　前項に定めるもののほか、受講に必要な教材費等の経費は、特別聴講学生の負担とする。
（施設・設備の利用）
第11条　特別聴講学生は、受入れ先の大学が認める範囲で、図書館等の施設及び設備を利用することができる。
（費用の負担）
第12条　本協定の運営に関する費用は、必要に応じて各校が負担するものとする。
（その他必要な事項）
第13条　この協定書に定めるもののほか、単位互換の運用に関し必要な事項は、別に定める運用規程による。
（改廃）
第14条　本協定の改廃は、渋谷４大学連携単位互換専門部会の協議により行い、連携協議会の承認を得るものとする。

大学院　カリキュラム

1．英語英文学専攻（修士課程）

1-1．専攻のポリシーと修了生像

1．アドミッション・ポリシー

英語英文学専攻は、英語学・英文学・現代社会とジャーナリズムとそれらの関連分野についての深い学識と幅広い知見、高度な研究遂行能力、および英語の優れた運用能力を大学院学生に身につけさせることが目標です。本専攻では入学希望者に対して以下の１～４の事柄を期待し、５に示す方法で入学希望者に求める水準等を判定します。

1．修士課程での研究遂行に必要な基礎知識、論理的思考力、分析力、批判力、創意あふれる洞察力を備えていること。
2．抽象度の高い内容を英語で理解し、発信する能力を備えていること。
3．英語で開かれていく世界の多様な文化・社会について、的確に理解し、積極的かつ創造的に発信しようとする探究心に富み、そのために必要な思考力・判断力・表現力を養おうとする、前向きな姿勢をもっていること。
4．グローバル化する世界の一員として、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ意欲があり、修了後には本専攻で身につけた学識や能力、培われた豊かな人間性をもとに、社会への貢献を目指していること。
5．入学希望者が専攻の求める水準に達しているか否かは、専門科目の筆記試験と口述試験によって判定します。筆記試験では、論理的な英語の文章を正確に理解する能力、やや複雑な内容を英語で表現する能力、および専門領域の基本的概念を論述する能力が問われます。口述試験では、主に提出された研究計画と卒業論文要旨等に基づいてなされる質問に対して、学生本人が論理的な回答を明確に示せるかどうかが問われます。英語による質問に対し英語で的確に答える能力も問われます。

2．ディプロマ・ポリシー

英語英文学専攻は、建学の精神に基づき、英語学・英文学・現代社会とジャーナリズムの各分野における専門的研究を通して、幅広い知識と高い理解力、思考力、判断力、研究遂行能力を有し、かつ高度な英語運用能力を持って国際社会に貢献できる人材の育成を目指します。次のような能力と資質を身につけた修了生を社会に送り出します。

1．英語学・英文学・現代社会とジャーナリズムとそれらの関連分野についての深い学識と幅広い知見、および高度な研究遂行能力。英語学分野では、理論・実証両面からの研究を行うための方法論と知識、さらに研究を通じて得られる、人間の存在の基盤としての言語に対する深い理解、英文学分野では、個々の作家・作品についての的確な洞察力と想像力、およびそれらの背景をなす社会や時代思潮に対する知見と学識を涵養することを重視しています。現代社会とジャーナリズム分野では現代社会の諸問題や現象を社会科学的見地から学際的に探求する姿勢。他分野の研究者との協働や自身の研究成果を通して、国際社会へ働きかけができる人材を育成します。
2．英語の高度な運用能力と英語英文学の専門的知識をもとに、世界の多様な声に耳を傾け、柔軟に受けとめ、自らの意見を自らの言葉で発信する力。それにより対立や無関心を乗り越えて、グローバル化する世界の一員として他者とつながり協働する態度。生涯にわたり、英語の世界への知的、学問的関心を抱き、主体的に探究し続ける姿勢を身につけることを目指します。
3．本専攻の修了生は、研究者・大学教員、小学校・中学校・高等学校の教員、翻訳・通訳・メディア関係の専門家として、あるいはその他の社会的・職業的活動において広く社会に貢献を果たすことが期待されます。

3．カリキュラム・ポリシー

英語英文学専攻は、英語学・英文学・現代社会とジャーナリズムについて高度な研究を行います。英語学分野は統語論・形態論・音声学・音韻論・意味論・語用論・英語教育学・第二言語習得など多岐にわたります。英文学分野は英語圏の文学を広く対象とし、デジタルメディアと文学、翻訳、エコクリティシズム、韻文と映像などの領域も扱います。現代社会とジャーナリズム分野は社会言語学、談話分析、マスコミュニケーションの政治経済、メディア社会論などを研究します。以下のような形で教育課程を編成し実施します。

1．体系的で幅広い学識を培うコースワークと、研究活動の遂行を通して研究能力を育成するリサーチワークとの順次性とバランスに配慮して教育課程を編成しています。コースワークは、英語学・英文学・現代社会とジャーナリズムの各専門領域を過不足なくカバーするように計画されています。リサーチワークとしては「英語英文学論文演習」を設置し、大学院学生(以下「学生」) が定期的に指導教員の指導を受けつつ、修士論文作成に向けて個別研究を進めることができるようにしており、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育課程となっています。
2．修了要件（30単位以上）のうち、20単位以上を英語英文学専攻において修得します。また10単位を上限として、英語英文学専攻が承認した本学大学院他専攻の授業科目、ならびに本専攻が承認した、委託聴講制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目を修得することができます。委託聴講制度等の活用により、学生が多角的な視点を身につけるとともに、個別研究の充実を図ることが可能となります。
3．学生の研究テーマに合わせて、きめ細やかな授業と個別指導を行うのが本専攻の特徴です。授業は論文作成に必要な知識と英語表現力を培い、かつ学生の主体的な参加を促す少人数の演習形式を中心としています。授業においては、学生の発表と全体での討論を重視しています。

4．教育研究の目的と目指す修了生像

英語英文学専攻は、英語学、英文学とそれらの関連分野の高度な研究を目的とし、英語の高度な運用能力および英語英文学の専門的知識と技能をもって現代の国際社会に貢献する人材の育成を目的としている。本専攻を修了した者は、国内外の高等教育機関に進学して研究者・大学教員の道を歩むほか、小学校・中学校・高等学校の教員、翻訳・通訳・メディア関係などの専門職業人として活躍することが期待される。

1-2. 研究指導スケジュール

時期	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
	指導体制及び研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名を決定する。指導教員と相談のうえ研究計画を確定する。
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
10月	修士論文中間発表会への参加	2年次生が行う発表を通じて研究や修士論文作成の方法について修得する。
11月	修士論文資格試験	修士論文提出予定者は、あらかじめ専攻の定める資格試験（Comprehensive Examination）を受ける。
12～3月	修士論文の執筆指導	指導教員から論文執筆指導を受ける。また必要に応じて、適宜、副指導教員からも指導を受けることができる。
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
	修士論文題目の提出	
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
10～11月	修士論文中間発表会	英語英文学専攻の全専任教員および大学院学生の前で発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
4～12月	修士論文の推敲指導	指導教員から論文草稿の推敲指導を受ける。また必要に応じて、適宜、副指導教員からも指導を受けることができる。
1月	修士論文の提出	
2月	修士論文審査及び最終試験	
3月	学位授与式	

早期修了学生候補者対象

時期	内容	研究指導概要
学部4年次（早期履修学生）		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
4～5月	指導体制の確定及び研究計画書の提出	指導教員1名を決定する。指導教員と相談のうえ研究計画を確定する。
	研究指導の開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
4～12月	卒業論文の執筆	指導教員から論文執筆の指導を受ける。
10～11月	修士論文中間発表会への参加	大学院生が行う発表を通じて研究や修士論文作成の方法について修得する。
1月	大学院（2月期）入学試験の出願締切	指導教員と適宜相談の上、出願書類を整える。
	※大学院（2月期）入学試験が早期履修学生候補者の判定を兼ねる。大学院（2月期）入学試験に合格し早期修了学生候補者として可になった学生が、早期修了学生候補者となる。	
2月中旬	大学院（2月期）入学試験(口述試験)を受験	
2月下旬	大学院の合否判定、判定結果の通知 早期修了学生候補者の可否判定、判定結果の通知	
3月	学部卒業	
	※以下の場合は早期修了学生候補者の資格は取り消しとなる。 ・学部4年次生で卒業できずに留年した場合 ・大学院授業科目を10単位修得できなかった場合	

時期	内容	研究指導概要
1年次（早期修了学生候補者）		
4月	早期修了学生候補者として大学院入学 入学前（学部4年次生・早期履修学生の間）の既修得単位(10単位）の認定	
	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定	指指導教員1名・副指導教員1名を決定する。 指導教員と相談の上、研究計画・修士論文テーマを確定する。
	修士論文題目の提出	
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
5～6月	修士論文資格試験	修士論文提出予定者は、あらかじめ専攻の定める資格試験（Comprehensive Examination）を受ける。
10～11月	修士論文中間発表会	英語英文学専攻の全専任教員および大学院学生の前で発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
4～12月	修士論文の推敲指導	指導教員から論文草稿の推敲指導を受ける。また必要に応じて、適宜、副指導教員からも指導を受けることができる。
1月	修士論文の提出	
2月	修士論文審査及び最終試験	
3月	学位授与式	

1-3. 履修要項

1. 単位の修得方法

修了要件単位（30単位以上）は次のように修得する。

(1) 修了要件単位のうち、20単位以上を本学大学院の英語英文学専攻の授業科目から修得する。

(2) 残りの10単位以上については、次の科目から修得する（ただし、1科目の単位の一部を分けて算入することはできない）。

①本学大学院の英語英文学専攻の授業科目、ならびに英語英文学専攻が承認した本学大学院他専攻修士課程および博士前期課程の授業科目

②本学大学院の英語英文学専攻が承認した、委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目

(3) 早期修了学生制度を利用する学生は、学部4年次に10単位を修得し、大学院入学後の1年次において20単位以上を修得するものとする。

2. 履修方法

英語英文学論文演習Ⅰ－1～Ⅶ－2は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位に算入することが認められるのは、4単位までとする。

3. 研究指導体制

(1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。

(2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。

(3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。

(4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
(5) ２年次に各学生の修士論文指導教員を決定する（早期修了学生候補者については、１年次に決定する）。大学院学生は定期的に論文演習等を通して修士論文指導教員の論文執筆指導を受け、修士論文を執筆する。
(6) 修士論文指導教員は、大学院学生の希望と研究領域に応じて、本専攻の専任教員以外にも依頼することができる。

4．修了所要単位修得済みの者の在学について

課程修了の所定単位を修得済みの者は、原則として英語英文学論文演習のみ履修することができる。

1-4. 修士論文

1．修士論文資格試験

修士論文を提出するための条件として、提出予定者は、あらかじめ専攻の定める資格試験（Comprehensive Examination）に合格していなければならない。

2．修士論文の評価基準

英語英文学専攻では、修士論文の審査において、以下の諸観点（内容・表現・形式）から総合的に判断し評価することとする。

1．英語英文学専攻の修士論文として適切な主題を扱っているか。
2．先行研究をよく把握しているか。
3．客観的で正確な記述がなされているか。
4．論理的に明快な主張がなされているか。
5．執筆者独自の視点・考え方が表れているか。
6．文章は文法的に正確で、使われている語彙は適切か。
7．章・節などの構成は適切か。
8．定められたフォーマット・分量を守っているか。
9．参照文献の選択・数は適切か。
10．文献引用の形式は適切か。

1-5. 授業科目一覧

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

「区分」●：リサーチワーク科目、無印:コースワーク科目

区分	コード	授業科目	単位	備考
	WL17	英語学研究Ⅰ－１	2	
	WL18	英語学研究Ⅰ－２	2	
	WL19	英語学研究Ⅱ－１	2	
	WL20	英語学研究Ⅱ－２	2	
	WL17	英語学研究Ⅰ－１	2	
	WL98	英語学研究Ⅲ－１	2	
	WL99	英語学研究Ⅲ－２	2	
	WM02	英語学研究Ⅳ－１	2	
	WM03	英語学研究Ⅳ－２	2	
	WL36	言語学研究Ⅰ－１	2	
	WL37	言語学研究Ⅰ－２	2	
	WL34	言語学研究Ⅱ－１	2	
	WL35	言語学研究Ⅱ－２	2	
	WL29	英文学研究法Ⅰ－１	2	
	WL30	英文学研究法Ⅰ－２	2	
	WL40	１７世紀英米文学研究Ⅰ－１	2	
	WL41	１７世紀英米文学研究Ⅰ－２	2	
	WL79	１９世紀英米文学研究Ⅰ－１	2	
	WL80	１９世紀英米文学研究Ⅰ－２	2	
	WL42	２０世紀英米文学研究Ⅰ－１	2	
	WL43	２０世紀英米文学研究Ⅰ－２	2	
	WL44	２０世紀英米文学研究Ⅱ－１	2	
	WL45	２０世紀英米文学研究Ⅱ－２	2	
	WL85	現代作品研究Ⅰ－１	2	
	WL86	現代作品研究Ⅰ－２	2	
	WL87	現代作品研究Ⅱ－１	2	
	WL88	現代作品研究Ⅱ－２	2	
	WL89	現代作品研究Ⅲ－１	2	
	WL90	現代作品研究Ⅲ－２	2	
	WL96	近現代文芸論Ⅰ－１	2	
	WL97	近現代文芸論Ⅰ－２	2	
	WL92	英米文学批評Ⅰ－１	2	
	WL93	英米文学批評Ⅰ－２	2	
	WL94	翻訳理論と実践Ⅰ－１	2	
	WL95	翻訳理論と実践Ⅰ－２	2	
	WM04	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅰ－１	2	
	WM05	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅰ－２	2	
	WM06	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅱ－１	2	
	WM07	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅱ－２	2	
	WM08	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅲ－１	2	
	WM09	現代社会・ジャーナリズム研究Ⅲ－２	2	
●	WL01	英語英文学論文演習Ⅰ－１	2	
●	WL02	英語英文学論文演習Ⅰ－２	2	
●	WL03	英語英文学論文演習Ⅱ－１	2	
●	WL04	英語英文学論文演習Ⅱ－２	2	
●	WL05	英語英文学論文演習Ⅲ－１	2	
●	WL06	英語英文学論文演習Ⅲ－２	2	
●	WL07	英語英文学論文演習Ⅳ－１	2	
●	WL08	英語英文学論文演習Ⅳ－２	2	
●	WL09	英語英文学論文演習Ⅴ－１	2	
●	WL10	英語英文学論文演習Ⅴ－２	2	
●	WL11	英語英文学論文演習Ⅵ－１	2	
●	WL12	英語英文学論文演習Ⅵ－２	2	
●	WL38	英語英文学論文演習Ⅶ－１	2	
●	WL39	英語英文学論文演習Ⅶ－２	2	

2．日本語日本文学専攻（修士課程）

2-1．専攻のポリシーと修了生像

1．アドミッション・ポリシー

日本語日本文学専攻では、カリキュラム・ポリシー（大学院教育課程の編成・実施方針）に基づく科目を受講し、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示す学識・態度・能力を身につける素地があることを求め、入学者の受入れにあたって、次のことを実施します。

1．専門科目の記述試験を実施し、日本の言語・文学・言語教育に関して学士課程修了程度の専門知識を有していることを確認します。試験では、古典文学・近代文学・日本語学・日本語教育学の各分野の重要な事項・人物・概念などに関する問題の中から、二分野以上にわたって選択し、論述することを求めます。知識の正確さと豊かさ、複数の知識を結びつける応用力と判断力、思考の整合性と発展性、文章の的確さと読みやすさを評価します。

2．英語の記述試験を実施し、英語の基本的な読解力と、日本語の表現力を確認します。日本の言語・文学・言語教育の研究分野でもグローバル化が進み、英語文献を読む機会が増えてきました。試験では、一般的なレベルの英語の長文を読解して、内容を正確に把握すること、また部分的に日本語訳することなどを求めます。基礎的な英語力と、日本語訳の正確さと自然さを評価します。

3．口述試験を実施し、これまでの学修状況、今後の研究に対する計画性と意欲、社会に対する関心の持ち方を確認します。大学院修士課程入学後の研究計画書を提出してもらい、試験ではそれに基づいて、研究テーマを設定した動機と背景、研究の進め方、その過程で予想される問題点と対策案、期待される成果とその意義などについて説明を求めます。研究テーマの学術的・社会的価値、計画の現実性、研究に向き合う姿勢、回答の的確さを評価します。

2．ディプロマ・ポリシー

日本語日本文学専攻では、専攻の設ける、日本の言語・文学・言語教育に関する授業科目（ただし、外国の言語・文学・言語教育との対照に関する授業科目を含む）、および修士論文作成のための授業科目を履修し、授業内外の活動を通して自身の知見と体験を豊かにし、修了時に次のような学識・態度・能力を身につけることを期待します。

1．日本の言語・文学・言語教育に深く関連する時代背景や、社会・文化の特性も含めた、それぞれの分野の体系的な専門知識。さらに分野間を横断することで得られる発展的な知見。また、そのような知識・知見を有した上で、生涯にわたり、理知的に社会と向き合い、主体的に問題を探求し続ける姿勢。

2．専門的に研究を遂行するために必要な態度、能力および技術。すなわち、人権に配慮し、先行研究を尊重する高い倫理観と、自身を取り巻く研究状況を踏まえて有意義な課題を発見する探究心。また、課題を適切に具体化し、先入観に拘束されない柔軟で論理的な思考によって考察を進め、推論の妥当性を判断し、独自の研究成果を的確に言語化して発信する能力。および、必要な資料を探索・収集して正確に読解し、修得した専門知識を活用して分析する高度な研究技術。

3．複雑にグローバル化する社会の中で、その一員としての自覚を強く持ち、同じ価値観を共有する人だけでなく、自身と異なる価値観や文化的背景を持つ人に対しても敬意を払い、協働する態度。また、社会の課題を他人事ではなく、自分のこととして受け止め、修得した専門知識と蓄積した経験を活かして、改善・解決に積極的に貢献する力。

3．カリキュラム・ポリシー

日本語日本文学専攻では、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づいて、日本の言語・文学・言語教育の各分野に関する高度な専門知識を修得し、当該分野における標準的な研究の方法と技術を身につけ、研究成果の集大成として修士論文を作成するために、次のような方針で教育課程を編成します。

1．日本の言語・文学・言語教育に関する高度な専門知識を修得するためのコースワーク科目（講義科目）と、当該分野の研究方法を身につけ研究能力を育成するためのリサーチワーク科目（演習科目）を、バランスに配慮しながら、１年目から平行して履修するように編成します。

2．コースワーク科目（講義科目）は、日本の言語・文学・言語教育の分野ごとに体系的に開講し、自分野に閉じこもらず分野間を横断して幅広い発展的な知識を得るために、複数の分野の授業を履修するように編成します。さらに、より多角的な視点が得られるように、本学大学院の他専攻が開講する授業科目、および委託聴講生制度の協定を結んだ他大学院の授業科目を一定の範囲内で履修することも認めます。

3．リサーチワーク科目（演習科目）は、修了年度内に修士論文を作成するために開講し、日本の言語・文学・言語教育の各分野の指導教員の論文指導が受けられるように編成します。自分の研究テーマに合った指導教員による授業を履修し、研究倫理を遵守すること、資料の探索と収集の方法、文献読解の技術、研究対象の選択と調査の方法、論文執筆の手順などが身につくように授業内容を設定します。

4．修士論文は、研究成果の集大成として作成し、２年次に提出することを課します。指導体制は、自分の研究テーマの分野の指導教員の他に、隣接分野の教員が副指導教員となり、きめ細やかな複数指導体制を敷きます。

4．教育研究の目的と目指す修了生像

日本語日本文学専攻では、日本の言語・文学についての高度な研究を目的とし、社会科学や自然科学等の関連領域にも目を向けながら、世界の言語・文学の一つとして自国のそれらを捉える、柔軟な思考力を持った人材の育成を目指している。研究者はもとより、専門的な知識を備える中学校・高等学校の国語教員や優秀な日本語教員、また編集者など高度な日本語能力を有する人材の育成をも視野に入れ、国内外で活躍する人材の養成に努めるものである。

2-2. 研究指導スケジュール

時期	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
	指導体制及び研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名を決定する。指導教員と相談のうえ研究計画を確定する。
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。なお、場合によっては、副指導教員のリサーチワーク科目も履修する。
9月	修士論文中間発表会への参加	2年次生が行う発表を通じて研究や修士論文作成の方法について修得する。
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
	修士論文題目の提出	
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。なお、場合によっては、副指導教員のリサーチワーク科目も履修する。
9月	修士論文中間発表会	日本語日本文学専攻の全専任教員の前で発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
10～12月	修士論文の推敲指導	
1月	修士論文の提出	
2月	修士論文審査及び最終試験	
3月	学位授与式	

2-3. 履修要項

1. 単位の修得方法

修了要件単位（30単位以上）は次のように修得する。

(1) 修了要件単位のうち、20単位以上を本学大学院の日本語日本文学専攻において修得する。

(2) 残りの10単位以上については、次の科目から修得する（ただし、1科目の単位の一部を分けて算入することはできない）。

① 本学大学院の修士課程および博士前期課程の授業科目（専攻を問わない）

② 本学大学院の日本語日本文学専攻が承認した、委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目

2. 履修方法

日本文学論文演習1～4、日本語学論文演習1～2、日本語教育学論文演習は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位に算入することが認められるのは、4単位までとする。

3. 研究指導体制

(1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。

(2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。

(3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。

(4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。

(5) 大学院学生は、指導教員が担当する「論文演習」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、修士論文を作成する。

(6) 修士論文提出年次の大学院学生は「修士論文中間発表会」において発表を行う。これには全専任教員が参加し、質疑応答を通じて指導する。

4. 修了所要単位修得済みの者の在学について

課程修了の所定単位を修得済みの者は、原則として日本文学論文演習、日本語学論文演習、または、日本語教育学論文演習のいずれかのみ履修することができる。

2-4. 修士論文

1. 修士論文の評価基準

日本語日本文学専攻では、修士論文の審査において、以下の諸観点から総合的に判断し、論文の合否を決定することとする。

1. テーマ設定が適切で、研究に独自性があるか。
2. 先行研究を十分に参照しているか。
3. データの信憑性を吟味し、確実な根拠に基づいて主張しているか。
4. 考察の論理的整合性を保っているか。
5. 論文全体の構成が適切で、文章表現が的確であるか。
6. 文献引用の形式が適切であるか。
7. 研究倫理に則っているか。

2-5. 授業科目一覧

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

「区分」●：リサーチワーク科目、無印：コースワーク科目

区分	コード	授業科目	単位	備考
	TA12	上代文学研究（1）	2	
	TA13	上代文学研究（2）	2	
	TA22	中古文学研究（1）	2	
	TA23	中古文学研究（2）	2	
	TA32	中世文学研究（1）	2	
	TA33	中世文学研究（2）	2	
	TA42	近世文学研究（1）	2	
	TA43	近世文学研究（2）	2	
	TA57	近現代文学研究1（1）	2	
	TA58	近現代文学研究1（2）	2	
	TA59	近現代文学研究2（1）	2	
	TA60	近現代文学研究2（2）	2	
	TA65	日本語学研究（1）	2	
	TA66	日本語学研究（2）	2	
	TA67	日本語史研究（1）	2	
	TA68	日本語史研究（2）	2	
	TA73	現代日本語研究（1）	2	
	TA74	現代日本語研究（2）	2	
	TA75	日本語教育学研究1（1）	2	
	TA76	日本語教育学研究1（2）	2	
	TA77	日本語教育学研究2（1）	2	
	TA78	日本語教育学研究2（2）	2	
●	TA90	日本文学論文演習1	4	
●	TA91	日本文学論文演習2	4	
●	TA92	日本文学論文演習3	4	
●	TA93	日本文学論文演習4	4	
●	TA94	日本語学論文演習1	4	
●	TA95	日本語学論文演習2	4	
●	TA96	日本語教育学論文演習	4	

3．史学専攻（修士課程）

3-1．専攻のポリシーと修了生像

1．アドミッション・ポリシー

大学院史学専攻では、歴史に関する幅広い知識と高い専門性を身につけ、歴史に関する研究・教育、文化財の保存・活用などに従事したり、社会に存在するさまざまな課題について、歴史的な文脈のなかで考察し、的確な評価を行い、解決に導いたりすることができる人物を養成することを目指しています。そのため、以下のような能力や姿勢を有する学生を求めます。

1．専攻を希望する日本史・東洋史・西洋史のそれぞれの分野において、専門文献や史料を読解できる基本的な能力。専門科目試験で判定します。
2．専攻を希望する日本史・東洋史・西洋史のそれぞれの分野において、研究上必要とされる外国語の読解能力。外国語試験で判定します。
3．研究課題を設定し、実現可能性のある計画を立て、研究を遂行する能力。研究計画書等で判定します。
4．学術研究に関心と意欲を持ち、教員からの指導や他の学生との交流を通じて成長しようとする姿勢。口述試験等で評価します。
5．１～４で述べたような力を総合し、学術論文を作成する能力。すなわち、先行研究を参照しながら、設定した独自の研究課題について、史料に基づき実証的に論じ、論理的かつ明解に表現する能力。卒業論文（またはそれに代わるもの）で評価します。史学専攻では、学部での卒業論文（またはそれに代わるもの）を、大学院進学後の研究能力を客観的に示す手段として最も重要なものと考えています。

2．ディプロマ・ポリシー

大学院史学専攻では、歴史に関する幅広い知識と高い専門性を身につけ、歴史に関する研究・教育、文化財の保存・活用などに従事したり、社会に存在するさまざまな課題について、歴史的な文脈のなかで考察し、的確な評価を行い、解決に導いたりすることができる人物に学位を授与します。そのために、以下のような学習成果を上げることが期待されます。

1．自身の専攻する日本史、東洋史、西洋史のいずれかの分野の専門的な学識。それに加え、その他の歴史学分野および、自身の研究課題に応じた歴史学以外の学問分野を含む幅広い学識。
2．先行研究の成果を尊重しつつ、それらを批判的に継承し、自身の研究課題を設定する能力。
3．史料を的確に読み解いて、新たな史実を発見したり、解釈を行ったりする能力。
4．課題を追究した成果について、口頭または文章、その他の表現手段によって、論理的かつ明解に説明する能力。
5．地域や国内、世界の各地に残された歴史文化資源の重要性を理解し、その価値を社会に伝え、関係する人々と協力して保存や活用につなげる能力。
6．歴史に関する学識を基礎として、職場、家庭、地域社会において、生涯にわたって知的好奇心を維持し、学び続け、貢献する姿勢。

3．カリキュラム・ポリシー

大学院史学専攻では、歴史的事象を学術的に探究します。史料を用いて歴史的事象を再構成し、そこから明らかになったことをもとに事象を評価、その成果を論理的かつ明解に説明して社会に伝え、よりよい未来を築くことに貢献します。大学院史学専攻の教育課程は、地域ごとに日本史コース、東洋史コース、西洋史コースに分かれています。各コースでは、古代史から現代史にいたるまでの各時代について学べるようになっています。自分の専攻する地域や時代を中心に、他の地域や時代も学び、高い専門性とともに、広い視野から歴史をとらえる力を養えるように設計されています。

授業は、幅広い分野と時代にわたって高度な専門的知識を授けることを目的としたコースワーク科目（研究・特講）と、修士論文の作成に直結する調査研究能力を育成するリサーチワーク科目（論文演習）とに大きく分かれています。コースワーク科目では、地域ごとに古代史から現代史にいたるまでの各時代について多彩な内容をもった授業を開講しています。これらの授業を通じて、大学院生が自らの問題関心に従い、幅広い知識と高い専門性を獲得し、さらに修士論文の執筆にむけ原史料の読解能力や先行研究を把握・整理する力を身につける機会を提供します。リサーチワーク科目では、それらの力を総合して学術論文を作成するための指導を行います。

4．教育研究の目的と目指す修了生像

史学専攻は、歴史的事象を学問的に探求するだけでなく、現代社会におけるさまざまな問題を歴史的観点から考え、解決していく能力を身につけた人材を育成することを目指している。修了後は、専門的な歴史研究者のほか、中学校や高等学校などの社会科教員、博物館・美術館の学芸員、編集者など高い専門性の要求される諸分野において自らの知識や能力を活かして活躍することが期待される。

3-2．研究指導スケジュール

時期	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
	指導体制及び研究計画の確定	指導教員１名・副指導教員１名を決定する。指導教員と相談のうえ研究計画を確定する。
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
10月	修士論文中間発表会への参加	２年次生が行う発表を通じて研究や修士論文作成の方法について修得する。
2月	修士論文発表会への参加	
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
	修士論文題目の提出	
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける
10月	修士論文中間発表会	史学専攻の全専任教員の前で発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
10～12月	修士論文の推敲指導	
1月	修士論文の提出	
2月	修士論文審査及び最終試験	
	修士論文発表会	
3月	学位授与式	

3-3. 履修要項

1. 単位の修得方法

修了要件単位（30単位以上）は次のように修得する。

(1) 修了要件単位のうち、20単位以上を左記の本学大学院の史学専攻において修得する。

(2) 残りの10単位以上については、次の科目から修得する（ただし、1科目の単位の一部を分けて算入することはできない）。

① 本学大学院の史学専攻の授業科目、ならびに史学専攻が承認した本学大学院他専攻修士課程および博士前期課程の授業科目。

② 本学大学院の史学専攻が承認した、委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目。

③ 本学の学部授業科目のうち特に認定された科目（修了単位に算入することが認められるのは、8単位までとする）。

2. 履修方法

リサーチワーク科目は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位に算入することが認められるのは、4単位までとする。

3. 研究指導体制

(1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。

(2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。

(3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。

(4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。

(5) 大学院学生は、指導教員が担当する「論文演習」を履修し、定期的に論文執筆指導を受け、修士論文を作成する。

4. 修了所要単位修得済みの者の在学について

課程修了の所定単位を修得済みの者は、原則としてリサーチワーク科目のみ履修することができる。

3-4. 修士論文

1. 修士論文の評価基準

聖心女子大学大学院人文社会科学研究科史学専攻では、修士論文の審査において、以下の諸観点から総合的に判断し、論文の合否を決定することとする。

1．修士論文題目に関する史料、先行研究を正確かつ的確に理解していること。

2．主張に独自性があり、かつ説得力があること。

3．主張に論理的な整合性があること。

4．主題を論じるに適切な分量であり、かつ全体の構成にまとまりを有すること。

5．文意が正確かつ簡潔に伝わる表現であること。

6．史料・文献等からの引用の仕方が、学問上の倫理に則り、かつ論理の構成上適切なものであること。

3-5. 授業科目一覧

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

「区分」●：リサーチワーク科目、無印：コースワーク科目

区分	コード	授業科目	単位	備考
	TC13	日本史研究1（1）	2	
	TC14	日本史研究1（2）	2	
	TC15	日本史研究2（1）	2	
	TC16	日本史研究2（2）	2	
	TC17	日本史研究3（1）	2	
	TC18	日本史研究3（2）	2	
	TC19	日本史研究4（1）	2	
	TC20	日本史研究4（2）	2	
	TC23	日本史特講1（1）	2	
	TC24	日本史特講1（2）	2	
	TC25	日本史特講2（1）	2	
	TC26	日本史特講2（2）	2	
	TC27	日本史特講3（1）	2	
	TC28	日本史特講3（2）	2	
	TC29	日本史特講4（1）	2	
	TC30	日本史特講4（2）	2	
	~~TD13~~	~~東洋史研究1（1）~~	~~2~~	
	~~TD14~~	~~東洋史研究1（2）~~	~~2~~	
	~~TD15~~	~~東洋史研究2（1）~~	~~2~~	
	~~TD16~~	~~東洋史研究2（2）~~	~~2~~	
	TD13	東洋史研究1（1）	2	
	TD14	東洋史研究1（2）	2	
	TD15	東洋史研究2（1）	2	
	TD16	東洋史研究2（2）	2	
	TD22	東洋史特講1（1）	2	
	TD23	東洋史特講1（2）	2	
	TD24	東洋史特講2（1）	2	
	TD25	東洋史特講2（2）	2	
	TE13	西洋史研究1（1）	2	
	TE14	西洋史研究1（2）	2	
	TE15	西洋史研究2（1）	2	
	TE16	西洋史研究2（2）	2	
	TE17	西洋史研究3（1）	2	
	TE18	西洋史研究3（2）	2	
●	TC80	日本史論文演習1（1）	2	
●	TC81	日本史論文演習1（2）	2	
●	TC82	日本史論文演習2（1）	2	
●	TC83	日本史論文演習2（2）	2	
●	TC84	日本史論文演習3（1）	2	
●	TC85	日本史論文演習3（2）	2	
●	TC86	日本史論文演習4（1）	2	
●	TC87	日本史論文演習4（2）	2	
●	TE70	世界史論文演習1（1）	2	
●	TE71	世界史論文演習1（2）	2	
●	TE72	世界史論文演習2（1）	2	
●	TE73	世界史論文演習2（2）	2	
●	TE74	世界史論文演習3（1）	2	
●	TE75	世界史論文演習3（2）	2	
●	TE76	世界史論文演習4（1）	2	
●	TE77	世界史論文演習4（2）	2	
	TC11	日本古代史特講	4	廃止（～2023）
	TC12	日本古代史研究	4	廃止（～2023）
	TC21	日本中世史特講	4	廃止（～2023）
	TC22	日本中世史研究	4	廃止（～2023）
	TC31	日本近世史特講	4	廃止（～2023）
	TC32	日本近世史研究	4	廃止（～2023）
	TC61	日本近現代史特講	4	廃止（～2023）
	TC62	日本近現代史研究	4	廃止（～2023）
	TC51	日本文化史研究	4	廃止（～2023）
	TD12	東洋古代史特講	4	廃止（～2023）
	TD21	東洋中世史特講	4	廃止（～2023）
	TD31	東洋近世史特講	4	廃止（～2023）
	TD32	東洋近世史研究	4	廃止（～2023）
	TD41	東洋近代史特講	4	廃止（～2023）
	TD42	東洋近代史研究	4	廃止（～2023）
	TD43	東洋現代史特講	4	廃止（～2023）
	TE22	西洋中世史研究	4	廃止（～2023）
	TE35	西洋近代史研究	4	廃止（～2023）
	TE45	西洋現代史研究	4	廃止（～2023）
●	TC75	日本史論文演習	4	廃止（～2023）
●	TE54	世界史論文演習	4	廃止（～2023）

4. 社会文化学専攻（博士前期課程）

4-1. 専攻のポリシーと修了生像

1. アドミッション・ポリシー

流動化する現代社会の様相は、特定の学問分野からだけではとらえ切ることができません。その実態と変化の方向性を理解するには、国家や地域社会といったマクロな視点と共に、家族やその構成員としての人間というミクロな視点の双方から分析することが必要です。社会文化学専攻では、社会学、心理学、文化人類学、地域文化研究（中国、フランス）、法学といった社会と思想を研究する諸領域を融合させ、今後の社会の動向を理解・予測し、あるべき姿を提言するための新しい知の体系を構築してゆくことを目指しています。

社会文化学専攻博士前期課程では、社会の動きや人間の生き方に対して深い関心をもち、深い教養と語学力、他者と協働する姿勢、柔軟な思考力、豊かな人間性と高い倫理性を備えているか、研究課題に対する明確な意識と研究を実行する具体的な計画性を有しているか、博士前期課程終了後には社会に貢献することを目指しているかのそれぞれを、学生を受入れる際の基準として審査します。

受け入れの判定については、外国語の試験では、関連分野に関する外国語文献の読解において、その外国語知識・専門知識および翻訳技能、さらには日本語の表現力を測定します。専門科目の試験では、専門知識を測定するとともに、長文の論述によって、思考力・判断力･表現力を測定します。また口述試験においては、研究に対する主体性や研究計画を具体的に構築する思考力・判断力を測定するとともに、多様な人々と協働して学ぶ態度を培っていける人材かどうかも判定します。

2. ディプロマ・ポリシー

流動化する現代社会の実態と変化の方向性を、国家や地域社会といったマクロな視点と、家族やその構成員としての人間というミクロな視点の双方から分析、研究することで、社会と思想を研究する諸領域を融合させ、今後の社会の動向を理解・予測し、あるべき姿を提言できる人材を育成したいと考えています。

社会文化学専攻の博士前期課程は、適切な研究倫理のもとで学問を追究し、専攻分野に関する研究能力または高度に専門的な職業等に必要な能力を身につけ、柔軟な思考力、的確な判断力によって意見を発信するとともに、多様な他者を尊重し能動的に協働し、地域および国際社会に貢献することのできる、生涯にわたり、学問的関心を発展させ、主体的に探究し続ける姿勢をもつ修了生に学位を授けます。

1. 適切な研究倫理のもとで学問を追究し、専攻分野に関する研究能力を身につける。
2. 高度に専門的な職業等に必要な能力を身につける。
3. 柔軟な思考力、的確な判断力を身につける。
4. 発信する力を身につける。
5. 多様な他者を尊重し能動的に協働し、地域および国際社会に貢献する力を身につける。
6. 生涯にわたり、学問的関心を発展させ、主体的に探究し続ける姿勢をもつ。

3. カリキュラム・ポリシー

流動化する現代社会の様相は、特定の学問分野からだけではとらえ切ることができません。その実態と変化の方向性を理解するには、国家や地域社会といったマクロな視点と共に、家族やその構成員としての人間というミクロな視点の双方から分析することが必要です。社会文化学専攻では、社会学、心理学、文化人類学、地域文化研究（中国、フランス）、法学といった社会と思想を研究する諸領域を融合させ、今後の社会の動向を理解・予測し、あるべき姿を提言するための新しい知の体系を構築してゆくことを目指しています。

社会文化学専攻の博士前期課程では、標準修業年限以内に確実かつ効果的に目的、目標を達成するため、幅広い学識を培うコースワークと研究能力を育成するリサーチワークのバランスに配慮して教育課程を編成します。開設する授業は、「社会システム領域」および「比較文化領域」の２領域に分けられ、そこからバランスよく履修することによって広い視点の学びを確保します。

全員が作成し提出する修士論文については、研究指導および論文作成指導の機会が十分に保証されます。社会文化学専攻の院生は、社会調査の手法に関する授業を取得し、「専門社会調査士」の資格を得ることも可能です。

幅広い学識と多角的な視点を身につけるため、他大学院との単位互換、委託聴講制度を活用することもできます。

なお、年次の始めに毎年、研究計画書を提出させ、正副指導教員との綿密な打ち合わせを行い、研究方針を共有します。

4. 教育研究の目的と目指す修了生像

社会文化学専攻は、社会、社会心理、心理、思想、宗教、言語、比較文化といった学際的研究を活かして、それぞれの専門性を高めつつ、幅広く社会に貢献できる人材の育成に努めている。博士前期課程では、グローバリズムに対応できる国際的な視野と、幅広い分野に通用する基本的スキルを修得することをめざしており、修了者は、先端技術、マス・メディア、マーケティング、教育関連の企業や国際機関などでの活躍が期待される。また、博士後期課程では、世界規模で生起している社会文化現象に対して問題発見的な研究を推進し、大学、短期大学など教育機関、もしくは、国や民間の研究機関で専門的に活躍できる人材の育成をめざす。

4-2. 研究指導スケジュール

時期	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
	指導体制及び 研究計画の確定 研究指導計画書の提出	指導教員１名を決定し、副指導教員１名を仮決定する。指導教員と相談のうえ研究計画を確定する。
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
7月	修士論文中間発表会への参加(共同演習)	修士論文執筆予定者（２年次生）が行う中間発表を通じて研究や修士論文作成の方法について修得する。
11月	修士論文の計画を発表する（共同演習）	修士論文の進捗状況について社会文化学専攻の全専任教員の前で中間発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。副指導教員を本決定する。
2月	修士論文発表会への参加（共同演習）	修士論文執筆予定者（２年次生）の修士論文発表会に参加し、研究や修士論文作成の方法についての構えを修得する。

時期	内容	研究指導概要
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定 研究指導計画書の提出	
		指導教員と相談の上、確定して、提出する。
	修士論文題目・指導教員届の提出	
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける
7月	修士論文中間発表会への参加（共同演習）	社会文化学専攻の全専任教員、大学院学生の前で中間発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
11月	1年次生の修士論文の計画発表への参加（共同演習）	1年次生の修士論文計画発表に参加し、コメントする。
	三者面談	正・副指導教員、大学院学生の三者面談を行い、構想及び論点について多角的に検討し、修士論文作成に向けての大筋の調整と主な論点整理を行う。
10～12月	修士論文の推敲指導	指導教員による研究指導を随時受ける。
1月	修士論文の提出	
2月	修士論文審査及び最終試験	
	修士論文発表会（共同演習）	
3月	学位授与式	

4-3. 履修要項

1. 単位の修得方法

修了要件単位（30単位以上）は次のように修得する。

(1) 修了要件単位のうち、20単位以上を~~左記の~~本学大学院の社会文化学専攻博士前期課程において修得する。

(2) 残りの10単位以上については、次の科目から修得する（ただし1科目の単位の一部を分けて算入することはできない）。

① 本学大学院の社会文化学専攻の授業科目、ならびに社会文化学専攻が承認した本学大学院他専攻修士課程および博士前期課程の授業科目

② 本学大学院の社会文化学専攻が承認した、委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目

2. 履修方法

(1)「社会システム研究」領域および「比較文化研究」領域のいずれからも4単位以上を修得する。「共同演習」は1年次に履修することとし、標準修業年限内のすべての年次において再履修可能である。

(2) 社会文化学論文作成演習Ⅰ－1～Ⅹ－2は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位に算入することが認められるのは、8単位までとする。

(3) 専門社会調査士を取得する大学院学生のみ「質的研究演習」「社会調査演習」「多変量解析演習」を3科目セットで受講可能とする。

なお、受講費用については以下の通りとする。

① 社会調査実習費（¥15,000）を4月の所定期間に納入しなければなりません。

② 一度納入された社会調査実習費は理由のいかんにかかわらず返還しません。

3. 研究指導体制

(1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。

(2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。

(3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。

(4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。

(5) 大学院学生は、指導教員が担当する「論文作成演習」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、修士論文を作成する。

(6)「共同演習」において、年3回発表の機会を設けて、大学院学生はいずれか最低1回は発表する場が設けられている。「共同演習」には全専任教員が参加し、質疑応答を通じて指導する。

(7) 例年11月に指導教員・副指導教員・大学院学生の三者面談を行い、構想および論点について多角的に検討し、修士論文作成に向けての大筋の調整と主な論点整理を行う。

(8) 2月に全専任教員・大学院学生参加で修士論文発表会を行い、1年次生に対しても論文作成の構えを養う。

4. 修了所要単位修得済みの者の在学について

課程修了の所定単位を修得済みの者は、原則として社会文化学論文作成演習のみ履修することができる

4-4. 修士論文

修士論文の作成については、指導教員と副指導教員の指導を受ける。

1　修士論文の評価基準

大学院社会文化学専攻では、修士論文を以下の視点から判断し、すべて5段階の評定をする。

1. 扱われている主題は社会文化学専攻の修士論文として適切か。
2. 社会文化学に寄与するものか。
3. 扱われている素材・資料は適切か。
4. 素材・資料の提示は適切か。
5. 結論の提示方法は適切か。
6. 論理展開は適切か。
7. 記述内容の正確さは充分か。
8. 記述内容の完成度は充分か。
9. 表現は適切か。
10. 文章表現は優れているか。
11. 文章は充分読みやすいか。
12. 章・節など全体構成は適切か。
13. 原稿枚数は適切か。
14. 用いられている図表等は適切か。
15. 図表等の作成や説明の仕方は適切か。
16. 引用されている参照文献は妥当なものか。
17. 文献引用の形式は適切か。
18. 要旨は論文内容の趣旨を適切に表現しているか。

4-5. 授業科目一覧

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

「区分」●：リサーチワーク科目、無印：コースワーク科目

区分	コード	授業科目	単位	備考
▼「社会システム研究」領域				
	TF31	社会学研究特論Ⅰ－1	2	
	TF32	社会学研究特論Ⅰ－2	2	
	TF33	社会学研究特論Ⅱ－1	2	
	TF34	社会学研究特論Ⅱ－2	2	
	TK11	社会学研究特論3－1	2	
	TK12	社会学研究特論3－2	2	
	TF41	社会心理学研究特論Ⅰ－1	2	
	TF42	社会心理学研究特論Ⅰ－2	2	
	TF43	社会心理学研究特論Ⅱ－1	2	
	TF44	社会心理学研究特論Ⅱ－2	2	
	TK05	社会心理学研究特論3－1	2	
	TK06	社会心理学研究特論3－2	2	
	TF55	法学研究特論Ⅰ－1	2	
	TF56	法学研究特論Ⅰ－2	2	
	TH06	社会文化学研究特論1	2	
	TH07	社会文化学研究特論2	2	
▼「比較文化研究」領域				
	TG41	フランス文化研究特論Ⅰ－1	2	
	TG42	フランス文化研究特論Ⅰ－2	2	
	TG23	比較文化研究特論Ⅰ－1	2	
	TG24	比較文化研究特論Ⅰ－2	2	
	TL09	比較文化研究特論5－1	2	
	TL10	比較文化研究特論5－2	2	
	TL11	比較文化研究特論6－1	2	
	TL12	比較文化研究特論6－2	2	
	TG25	文化人類学研究特論Ⅰ－1	2	
	TG26	文化人類学研究特論Ⅰ－2	2	
	TK15	文化人類学研究特論2－1	2	
	TK16	文化人類学研究特論2－2	2	
	TG27	中国思想文化研究特論Ⅰ－1	2	
	TG28	中国思想文化研究特論Ⅰ－2	2	
	TG31	国際開発学研究特論Ⅰ－1	2	
	TG32	国際開発学研究特論Ⅰ－2	2	
	TH08	社会文化学研究特論3	2	
	TH09	社会文化学研究特論 4	2	
▼共同演習				
	TH52	社会文化学共同演習Ⅰ	1	
▼論文作成演習				
●	TH21	社会文化学論文作成演習Ⅰ－1	2	
●	TH22	社会文化学論文作成演習Ⅰ－2	2	
●	TH23	社会文化学論文作成演習Ⅱ－1	2	
●	TH24	社会文化学論文作成演習Ⅱ－2	2	
●	TH25	社会文化学論文作成演習Ⅲ－1	2	
●	TH26	社会文化学論文作成演習Ⅲ－2	2	
●	TH27	社会文化学論文作成演習Ⅳ－1	2	
●	TH28	社会文化学論文作成演習Ⅳ－2	2	
●	TH31	社会文化学論文作成演習Ⅴ－1	2	
●	TH32	社会文化学論文作成演習Ⅴ－2	2	
●	TH33	社会文化学論文作成演習Ⅵ－1	2	
●	TH34	社会文化学論文作成演習Ⅵ－2	2	
●	TH35	社会文化学論文作成演習Ⅶ－1	2	
●	TH36	社会文化学論文作成演習Ⅶ－2	2	
●	TH37	社会文化学論文作成演習Ⅷ－1	2	
●	TH38	社会文化学論文作成演習Ⅷ－2	2	
●	TH39	社会文化学論文作成演習Ⅸ－1	2	
●	TH40	社会文化学論文作成演習Ⅸ－2	2	
●	TH41	社会文化学論文作成演習Ⅹ－1	2	
●	TH42	社会文化学論文作成演習Ⅹ－2	2	
●	TL21	比較文化論文演習5－1	2	
●	TL22	比較文化論文演習5－2	2	
●	TL23	比較文化論文演習6－1	2	
●	TL24	比較文化論文演習6－2	2	
●	TK21	社会心理学論文演習3－1	2	
●	TK22	社会心理学論文演習3－2	2	
●	TK27	社会学論文演習3－1	2	
●	TK28	社会学論文演習3－2	2	
●	TK31	文化人類学論文演習2－1	2	
●	TK32	文化人類学論文演習2－2	2	
▼領域共通				
	TH11	多変量解析演習	2	
	TH12	社会調査演習	2	
	TH13	質的研究演習	2	

5. 哲学専攻（修士課程）

5-1. 専攻のポリシーと修了生像

1. アドミッション・ポリシー

哲学専攻では、カリキュラム・ポリシーに基づく各種授業科目を履修し、ディプロマ・ポリシーに示されている学識や諸能力を身につけ、研究を遂行して修士論文を作成する上で必要とされる基礎的な知識や学力があることを入学者に求め、それを確認するため、受け入れにあたって、以下のことを実施します。

1．専門科目の試験を実施し、哲学についての学士課程修了程度の専門的知識が身についていること、また授業の履修や論文作成に必要な論理的な思考力や適切な文章力・表現力が身についていることを確認します。

2．外国語試験（英語、ドイツ語、フランス語のうち、いずれか一つを選択）を実施し、修士課程で研究を進めていくさいに必要とされる文法的な知識や読解力などの語学力が身についていることを確認します。

3．口述試験を実施し、入学前の学修状況や社会での活動、ならびに修士論文作成に関する研究計画を確認します。そのさい、主体的に研究するための動機や目的が明確であること、学問に対して真摯に向き合い、ものごとを根本から問う姿勢があること、他者との議論に必要な表現力・理解力など対話する力があることを確認します。

4．社会人特別選抜制度や長期履修制度を利用し、社会や家庭等における活動経験から導き出された哲学的な課題の探求を志す社会人も受け入れています。

2. ディプロマ・ポリシー

哲学専攻では、専攻がカリキュラムとして提供する各種の授業科目を履修すること、および修士論文作成についての研究指導を受け、適切な研究方法に基づいて修士論文を作成することによって、次のような能力・資質を身につけることを期待しています。

1．哲学・思想史、美学・芸術学、キリスト教学の三領域のいずれかを中心とした専門的な研究と、三領域にとらわれない広く学際的な学修・研究とを通じて、専門的な哲学分野に関する広く深い学識と、様々な問題に対応できる柔軟で論理的な思考力、ならびに世界の事象を的確に把握する力を身につけること。

2．各授業における教員や学生との議論、ならび修士論文に関する研究指導における対話を通じて、自らの学識に基づき、自己の考えを他者の理解可能な形で論理的に表現する力を高めるとともに、他者の発言の意図を的確に理解する力を養うことで、他者と知的に対話する力を身につけること。

3．自らの身につけた学識や諸能力ならびに世界についての把握によって、社会に主体的かつ積極的に関わる力を獲得し、専門的な研究者、教員、美術関係の専門家として、またその他の職業・活動において、自らの関わる社会とって真に有意義な貢献のできる資質を身につけること。

3. カリキュラム・ポリシー

哲学専攻では、哲学・思想史、美学・芸術学、キリスト教学の三つの領域に関して専門的な知識を獲得することを主たる目的としたコースワーク科目（各種特論）と、修士論文を作成する上で必要な指導を受けることを目的としたリサーチワーク科目（論文演習）とを開講しています。

これらの授業においては、ひとりひとりの学生に対してきめ細かい指導を行うことにより、学生が高度な専門性と思考力を獲得し、質の高い修士論文を作成できるよう配慮しています。またみずからの意見を論理的かつ適切に表現し、他者の意見を精確に理解し対話する力を養うことを重視しています。学生は、コースワーク科目ならびにリサーチワーク科目の授業を、各年次を通じてバランスよく履修することが求められます。

また、研究に必要のある場合には、他専攻の科目や哲学専攻の承認した学部開講科目、委託聴講制度の協定を結んだ他大学の大学院科目を、一定の範囲内で履修することができます。また所定の教職専修免許状取得のため修了要件外の学部開講科目を履修することも可能であり、新規に教員免許を取得する際には長期履修制度を利用できる場合もあります。

哲学専攻では、指導教員と副指導教員とによる複数指導体制をとっており、学業全般に関して複数の指導教員に相談することができるほか、指導教員以外の教員の授業も自由に履修し、指導を受けることができます。

4. 教育研究の目的と目指す修了生像

哲学専攻は、哲学・思想史、美学・芸術学、キリスト教学の三領域のいずれかにおける専門的な研究を行なうとともに、他領域の知識や方法論をも広く学ぶことを通じて、合理的思考力を有する、専門性と学際性とを兼ね備えた、深い教養を有する人材の育成を目的とする。

修了生には、研究を通じて修得した知識や教養をもって、専門的な研究者、中学校・高等学校の社会科系科目（公民、倫理、宗教など）の教員、美術・アート関係の専門家として、あるいはその他の社会的・職業的活動において広く貢献することが求められる。

5-2. 研究指導スケジュール

時期	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制と今後の研究の進め方について説明する。
	指導体制及び研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名の決定。指導教員と相談のうえ研究計画を確定させる。
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導の開始。
10月	哲学専攻研究発表会での発表	修士論文の計画についての発表。哲学専攻教員や他の学生との意見交換の実施。
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	修士論文作成と提出の手順についての確認。
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
	修士論文題目の提出	
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導の継続。
10月	哲学専攻研究発表会での発表	修士論文についての中間発表。哲学専攻教員や他の学生との意見交換の実施。
10～12月	修士論文の推敲指導	
1月	修士論文の提出	
2月	修士論文審査及び最終試験	
3月	学位授与式	

5-3. 履修要項

1．単位の修得方法

修了要件単位（30単位以上）は次のように修得する。

(1) 修了要件単位のうち、20単位以上を左記の本学大学院の哲学専攻において修得する。

(2) 残りの10単位以上については、次の科目から修得する（ただし、1科目の単位の一部を分けて算入することはできない）。

① 本学大学院の哲学専攻の授業科目、ならびに哲学専攻が承認した本学大学院他専攻修士課程および博士前期課程の授業科目

② 本学大学院の哲学専攻が承認した、委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目

③ 本学の学部授業科目のうち特に認定された科目（修了単位に算入することが認められるのは、8単位までとする）

2．履修方法

次のように履修することが望ましい。

1年次：20単位以上

2年次：10単位以上

長期履修学生は履修方法について指導教員に相談すること。

哲学論文演習Ⅰ～Ⅷは、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位に算入することが認められるのは、4単位までとする。

3．研究指導体制

(1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。

(2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。

(3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。

(4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。

(5) 大学院学生は、指導教員に定期的に論文執筆指導を受け、修士論文を作成する。

(6) 指導教員および副指導教員以外の専攻の教員も、大学院学生の求めに応じて指導・副指導教員と相談のうえ、必要な指導にあたる。

4．修了所要単位修得済みの者の在学について

課程修了の所定単位を修得済みの者は、原則として哲学論文演習のみ履修することができる。

5-4. 修士論文

修士論文の作成については、指導教員と副指導教員の指導を受ける。

1．修士論文の評価基準

聖心女子大学大学院人文社会科学研究科修士課程哲学専攻では、修士論文の審査において、以下の諸観点（内容・表現・形式）から総合的に判断し、論文の合否を決定する。

1．執筆者独自の視点や思考が、客観的に、説得力をもって表現されているか。

2．先行研究が的確に把握され、必要不可欠な情報が網羅的に述べられているか。

3．正確かつ簡潔でわかりやすい記述がなされているか。

4．正書法（文法・語彙・記号の使用等）に則った表記がなされているか。

5．主題を論じるに適切な分量であり、かつ全体の構成にまとまりを有するか。

6．作成した図表、統計資料等の信憑性が確保され、かつその扱い方が適切であるか。

7．文献・データベース等の引用、出典、註等が、学問上の倫理に則っているか。

5-5. 授業科目一覧

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

「区分」●：リサーチワーク科目、無印：コースワーク科目

区分	コード	授業科目	単位	備考
	TJ11	哲学特論Ⅰ	4	
	TJ12	哲学特論Ⅱ	4	
	TJ13	哲学特論Ⅲ	4	
	TJ14	哲学特論Ⅳ	4	
	TJ15	哲学特論Ⅴ	4	
	TJ17	哲学特論Ⅵ－1	2	
	TJ18	哲学特論Ⅵ－2	2	
	TJ21	キリスト教学特論Ⅰ	4	
	TJ22	キリスト教学特論Ⅱ	4	
	TJ23	キリスト教学特論Ⅲ	4	
	TJ24	キリスト教学特論Ⅳ	4	
	TJ68	キリスト教学特論Ⅴ－1	2	
	TJ69	キリスト教学特論Ⅴ－2	2	
	TJ26	キリスト教学特論Ⅵ	4	
	TJ27	キリスト教学特論Ⅶ－1	2	
	TJ28	キリスト教学特論Ⅶ－2	2	
	TJ33	美学・芸術学特論Ⅰ	4	
	TJ34	美学・芸術学特論Ⅱ	4	
	TJ43	美学・芸術学特論Ⅲ	4	
	TJ44	美学・芸術学特論Ⅳ	4	
	TJ53	現代思想特論Ⅰ－1	2	
	TJ54	現代思想特論Ⅰ－2	2	
	TJ55	現代思想特論Ⅱ－1	2	
	TJ56	現代思想特論Ⅱ－2	2	
●	TJ61	哲学論文演習Ⅰ	4	
●	TJ62	哲学論文演習Ⅱ	4	
●	TJ63	哲学論文演習Ⅲ	4	
●	TJ64	哲学論文演習Ⅳ	4	
●	TJ65	哲学論文演習Ⅴ	4	
●	TJ66	哲学論文演習Ⅵ	4	
●	TJ67	哲学論文演習Ⅶ	4	

6．人間科学専攻（博士前期課程）：教育研究領域

6-1．専攻のポリシーと修了生像

1．アドミッション・ポリシー

大学院人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程では、教育研究領域における多様な研究関心と背景を持つ学生を受け入れるため、外国人特別入試、社会人特別入試および長期履修学生制度を設けています。入学者受け入れにあたって、次のような点を重視します。

1．人間の成長や社会の発展を支える教育および学習の在り方に対して強い関心を持ち、学士課程修了程度の教育学の素養と英語能力があること。
2．教育および人間の成長発達の支援に関する研究の課題意識が明確であり、計画性をもって有意義な研究を進めることが期待できること。
3．修了後は専門性に基づいて、学校教育、生涯学習、国際教育協力、マスメディア、情報等の分野で社会に貢献することを目指していること。なお、特色あるカリキュラムとして「教育実践研究」「生涯学習研究」「国際教育研究」の３研究領域を設定していますが、入学者募集においては区別をしていません。また、いずれの領域においても、外国人特別入試、社会人特別入試および長期履修学生制度を設け、多様な研究関心と背景や経験を持つ学生の受け入れを積極的に行っています。現職教員の受け入れも歓迎しています。
4．受け入れの判定については、外国語の試験では、専門分野の英語文献を読みこなす力があるかを判定するために読解を課し、基礎知識を測ると同時に構文の読解力、および日本語の文章力を評価します。専門科目の試験では、学士課程修了程度の教育学に関する基礎知識を測定するとともに、データの読み取りや長文の論述を求め、教育学に関する知識と思考力・表現力を評価します。また口述試験においては、研究に対する主体性や科学的な研究計画を構築し遂行する思考力・判断力・意欲を評価するとともに、多様な人々と協働して学ぶ態度を培っていける人材かどうかも判定します。

2．ディプロマ・ポリシー

大学院人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程では、専攻の用意する様々な授業での学習や研究の経験を積み重ねた結果として、修了時に次のような力（知識、技能、態度）を身につけ、総合的な思考力と判断力を備えた人物に修士（人間科学）の学位を授与します。

1．教育学に関する幅広い視野及び精深な学識。
2．研究倫理を有し、教育学における適切な研究方法に支えられた高度な研究能力。
3．現代社会の教育学に関連する諸課題を自ら見出す力、探求心、および問題解決力。
4．教育と人間の発達・成長の支援に関する実証的な研究能力または教育の現場や国際協力活動、生涯学習などの分野で協働的に職務を遂行できる能力。
5．グローバル時代において自らの専門性に基づいて地域および国際社会に貢献することのできる柔軟な思考力と、的確で総合的な判断力。
6．独自性のある研究成果を導き出し、それを精確に発信する力。
7．多様な他者を尊重しつつ、能動的に関わり、協働する態度。
8．生涯にわたり、知的、学問的関心を発展させ、主体的に探究し続ける姿勢。

3．カリキュラム・ポリシー

大学院人間科学専攻（教育研究領域）博士前期課程では、心理学、哲学、教育学にわたる多角的な視点を踏まえて幅広く人間科学全体を鳥瞰するための「人間科学基礎論」および、その上に焦点化された教育研究領域の研究を可能とするために「教育実践研究」「生涯学習研究」「国際教育研究」３つの研究領域の柱を立ててカリキュラムを構成しています。

本専攻では、「人間科学基礎論」の科目群を置き、心理学、哲学、教育学にわたる多角的な視点を踏まえて幅広く人間科学全体を鳥瞰する教育内容を学びます。また、その上に焦点化された研究を可能とするための「教育研究」領域の科目群を、３つの研究領域の柱を立てて設置しています。

「教育実践研究」では、幼児教育および初等中等教育をめぐる諸問題等を扱います。「生涯学習研究」では、生涯学習の理論やシステムに関する研究を扱います。「国際教育研究」では、グローバルとローカルの双方向の視点から諸外国の教育制度・政策、国際教育協力等について扱います。上記の３つの研究領域が重複する研究課題の設定も可能です。

また、演習形式の科目群として、「教育研究」領域の科目群の３つの研究領域の柱に対応して、「教育実践研究演習１・２」「生涯学習研究演習１・２」「国際教育研究演習１・２」を用意し、自分の専門とする分野の演習を１年次に４単位履修することを定めています。

「人間科学特別演習」では、研究を深めて修士論文を作成します。修士論文作成に向けた研究指導、論文作成指導の機会はカリキュラム上も、研究指導体制上も十分に保障されます。

なお、本専攻では、一種免許状取得者は、当該免許校種・教科にかかわる専修免許状取得の基礎資格を得るための教職課程を設置しており、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭（社会）、高等学校教諭（地理歴史・公民）の専修免許取得が可能です。

4．教育研究の目的と目指す修了生像

人間科学専攻教育研究領域は、教育を幅広い人間科学の中に位置づけて研究、教育することを通じ、高度な教養と広い視野のもとに教育学に関する専門的な学識を身に付け、幼児教育、学校教育、社会教育等の現場や国際教育協力活動等において指導的役割を果たす人材、および幅広い分野において教育活動と生涯学習を遂行し研究する人材の育成を目標とする。博士前期および後期課程修了者は、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教員、その他教育・福祉関係の専門家として、また生涯学習、マスメディア、情報、デザイン、アート、国際協力などの分野で学習の新しい領域と方法を開発することのできる人材として活躍することが期待される。

6-2. 研究指導スケジュール

時期	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
	指導体制及び研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名を決定する。指導教員と相談のうえ研究計画を確定する。
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
7月	修士論文中間発表会への参加	2年次生が行う発表を通じて研究や修士論文作成の方法について修得する。
10月	修士論文中間発表会	研究計画と進捗状況についての中間発表を行い専攻の全専任教員による指導を受ける。
1月	修士論文発表会への参加	各研究室が実施する学位論文発表会に参加して研究や修士論文作成の方法について修得する。
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
	修士論文題目の提出	
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける
7月	修士論文中間発表会	人間科学専攻（教育研究領域）の全専任教員の前で発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
10～12月	修士論文の推敲指導	
1月	修士論文の提出	
2月	修士論文審査及び最終試験	
	修士論文発表会	
3月	学位授与式	

6-3. 履修要項

1．単位の修得方法

修了要件単位（30単位以上）は次のように修得する。

(1) 修了要件単位のうち、20単位以上を本学大学院の人間科学専攻博士前期課程の授業科目から修得する。

(2) 残りの10単位以上については、次の科目から修得する（ただし、1科目の単位の一部を分けて算入することはできない）。

① 本学大学院の人間科学専攻の授業科目、ならびに人間科学専攻が承認した本学大学院他専攻修士課程および博士前期課程の授業科目

② 本学大学院の人間科学専攻が承認した、委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目

2．履修方法

(1) 特論については、以下の領域からそれぞれ指定の単位数以上を修得すること。

「人間科学基礎論」 8単位

「教育研究」領域　4単位

(2) 演習については、教育実践研究演習1、教育実践研究演習2、生涯学習研究演習1、生涯学習研究演習2、国際教育研究演習1、国際教育研究演習2の中から、自分の専門とする分野の演習を1年次に4単位履修すること。

(3) 人間科学特別演習および人間科学特別演習(1)(2)は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位に算入することが認められるのは、8単位までとする。

3．研究指導体制

(1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。

(2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。

(3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。

(4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。

(5) 大学院学生は、指導教員が担当する「人間科学特別演習」または「人間科学特別演習（1)(2)」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、修士論文を作成する。

(6) 修士論文の中間発表では当該専攻の全専任教員が参加し、指導助言を行う。

4．修了所要単位修得済みの者の在学について

課程修了の所定単位を修得済みの者は、原則として人間科学特別演習および人間科学特別演習（1)(2）のみ履修することができる。

5．領域変更

人間科学専攻教育研究領域、発達心理学研究領域、視聴覚情報研究領域から、臨床心理学研究領域への領域の変更はできない。

6-4. 修士論文

1．修士論文の評価基準

修士論文は以下の基準をもって審査する。

1．研究テーマに対応する国内外の先行研究を十分に吟味している。

2．研究テーマに対する問題意識を明確にもち、それを適切に記述している。

3．研究課題や研究方法・内容に独自性が認められる。

4．研究テーマの分野の修士論文として適切な研究課題を設定し、必要十分な水準の結果を達成できている。

5．自ら設定した研究課題の解明のために適切な研究方法がとられている。

6．研究に用いている資料、収集したデータは適切である。

7．論文の構成、文体、図表、引用、注記、参考文献リスト等は適切である。

8．修士論文として適切な分量である。

9．論文全体の論理構成に一貫性が認められる。

6-5. 授業科目一覧

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

※人間科学専攻（博士前期課程）心理学分野の専攻生は、該当のカリキュラムページに掲載された授業科目一覧を参照すること。

「区分」●：リサーチワーク科目、無印：コースワーク科目

区分	コード	授業科目	単位	備考
▼「人間科学基礎論」				
	WA16	基礎心理学特論 1	2	
	WA17	基礎心理学特論 2	2	
	WA18	基礎心理学特論 3	2	
	WA19	基礎心理学特論 4	2	
	WA21	大脳生理心理学特論	2	
	WA22	大脳生理心理学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
	WA31	心理統計法特論	2	
	WA43	人間科学特論 1	2	
	WA44	人間科学特論 2	2	
	WA71	基礎教育学特論 1	2	
	WA72	基礎教育学特論 2	2	
	WA73	基礎教育学特論 3	2	
	WA74	基礎教育学特論 4	2	
▼「領域共通」				
●	WG14	人間科学特別演習（1）	2	
●	WG15	人間科学特別演習（2）	2	
●	WG23	心理学修士論文演習（1）	2	
●	WG24	心理学修士論文演習（2）	2	
▼「教育研究」領域				
	WF51	教育実践研究特論 1	2	
	WF52	教育実践研究特論 2	2	
	WF53	教育実践研究特論 3	2	
	WF54	教育実践研究特論 4	2	
	WF55	教育実践研究特論 5	2	
	WF56	教育実践研究特論 6	2	
	WF57	教育実践研究特論 7	2	
	WF58	教育実践研究特論 8	2	
	WF59	教育実践研究特論 9	2	
	WF43	生涯学習研究特論 1	2	
	WF44	生涯学習研究特論 2	2	
	WF45	生涯学習研究特論 3	2	
	WF46	生涯学習研究特論 4	2	
	WF61	国際教育研究特論 1	2	
	WF62	国際教育研究特論 2	2	
	WF63	国際教育研究特論 3	2	
	WF64	国際教育協力研究特論	2	
	WF72	教育実践研究演習 1	2	
	WF73	教育実践研究演習 2	2	
	WF82	生涯学習研究演習 1	2	
	WF83	生涯学習研究演習 2	2	
	WF92	国際教育研究演習 1	2	
	WF93	国際教育研究演習 2	2	
▼「発達心理学研究」領域				
	WB12	家族心理学特論	2	
	WB41	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
	WB13	発達心理学特論	2	
	WB42	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	
	WB13	発達心理学特論	2	
	WB42	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	
	WB15	比較行動学特論	2	
	WB45	比較行動学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
	WB24	生涯発達心理学演習 1（1）	2	
	WB25	生涯発達心理学演習 1（2）	2	
	WB26	生涯発達心理学演習 2（1）	2	
	WB27	生涯発達心理学演習 2（2）	2	
	WB31	老年心理学特論	2	
	WB47	老年心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	
	WB33	社会心理学特論 1	2	
	WB51	生涯発達心理学特論 1	2	
	WB52	生涯発達心理学特論 2	2	
※以下の科目は教育研究領域の専攻生は履修不可				
	WB08	家族臨床心理学特論	2	
	WB43	家族臨床心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
	WB16	障害児心理学特論	2	
	WB46	障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	
▼「視聴覚情報研究」領域				
	WD14	視聴覚情報処理特論	2	
	WD41	感性情報処理特論	2	
	WD93	認知心理学特論 1	2	
	WD94	認知心理学特論 2	2	
	WD95	認知心理学演習（1）	2	
	WD96	認知心理学演習（2）	2	
	WD97	視聴覚情報処理演習（1）	2	
	WD98	視聴覚情報処理演習（2）	2	
	WD72	学習心理学特論Ⅰ	2	
	WD91	学習心理学特論Ⅰ（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	廃止
	WD73	学習心理学特論Ⅱ	2	
	WD92	学習心理学特論Ⅱ（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	廃止
▼「臨床心理学研究」領域				
※教育研究領域の専攻生は履修不可 （科目一覧は「人間科学専攻（博士前期課程）：心理学分野」のページに掲載）				

7．人間科学専攻（博士前期課程）：心理学分野

7-1．専攻のポリシーと修了生像

1．アドミッション・ポリシー

人間科学専攻博士前期課程（心理学分野）では、「視聴覚情報研究」「発達心理学研究」「臨床心理学研究」の各領域で学ぶために十分な基礎的知識と深い学問的関心を持ち、さらに豊かな人間性と高い倫理性を備えており、修了後には大学院で培われた資質と能力をもとに、専門家として社会に貢献することを目指している方を積極的に受け入れます。心理学の特色である科学的な研究方法を理解し、心理学全般や近接領域の基礎知識に加え特に認知心理学、発達心理学、臨床心理学の基礎的な概念と理論に精通しており、大学院で専門的に学んだ内容と経験を将来の心理実践や研究活動に活かすことを目指す学生を受け入れます。したがって、進学を希望する学生には、以下のような力があることが望まれます。

1．自らの問題意識に基づく粘り強い探求心
2．主体的に学ぶ意欲と発信力
3．他者と協働するのに必要なコミュニケーション力と謙虚な態度

受け入れの判定については、英語の試験では、専門分野の英語文献を読みこなす力があるかを判定するために読解を課し、基礎知識を測ると同時に構文の読解力、および日本語の文章力を評価します。専門科目の試験では、心理学全般の基礎知識を測定するとともに、長文の論述を求め、特に専門としたい領域の知識と思考力・表現力を評価します。また口述試験においては、研究に対する主体性や科学的な研究計画を構築し遂行する思考力・判断力・意欲を評価するとともに、多様な人々と協働して学ぶために必要なコミュニケーション力を備えている人材かどうかも判定します。

2．ディプロマ・ポリシー

人間科学専攻博士前期課程心理学分野では、「視聴覚情報研究」「発達心理学研究」「臨床心理学研究」の各領域での学びを通し、専門的知識と研究能力を身につけることにより、多様化する社会のニーズに応え、心理学の専門家として多様な分野で貢献する力を備えた人材の育成を目指します。

人間科学専攻博士前期課程心理学分野での講義・演習・実習・研究活動を通し、人間のこころの働きやその仕組み、生涯発達の様相とメカニズム、こころの問題と支援方法に関する高度な専門的知識と技能を習得し、修了時には次のような３種類の力を身につけていることを期待します。

1．心理学および関連領域における幅広い知識と領域を俯瞰する広い視野に基づき、科学的、分析的思考力と的確な判断力を発揮して、変化を続ける現代社会の諸問題を見出す力。
さらに、専門的知見と技能を活かし課題の解決を図る力と成果を発信し社会に積極的に還元する力。
2．研究倫理を遵守し、高度な研究能力を保持増進し主体的に学問的探求を続ける謙虚な姿勢。職業倫理を遵守し、生涯にわたり知的、学問的関心を発展させ、継続して研鑽を積む覚悟。
3．多様な他者を尊重しつつ、近接領域の専門家と連携して課題を見出し、協働して積極的に問題解決を図る能力。

3．カリキュラム・ポリシー

人間科学専攻博士前期課程（心理学分野）では、「視聴覚情報研究」「発達心理学研究」「臨床心理学研究」の各領域において専門性を深めるとともに、他領域についても学び幅広い学識と国際的な視野を獲得するために、体系的で幅広い学識を養うための演習・実習などのコースワークと研究能力の育成を目指すリサーチワークのバランス性に配慮したカリキュラムを編成しています。

本専攻ではまず必修の「人間科学基礎論」において、人間の心的過程及び行動全般を支える感覚、学習、記憶の心理学および脳神経科学、進化生物学などに関する基礎的知識を習得し、人間性に関する哲学的・社会歴史的理解も深めます。同時に、以下の３領域のいずれかに所属し、それぞれの領域でより専門的な知識を習得します。

「視聴覚情報研究」領域では、視、聴、触知覚などの知覚的情報処理のメカニズム、あるいはその発達や発達障害、さらには、これらの応用について学びます。

「発達心理学研究」領域では、乳児から老年までのさまざまな発達の様相、発達の仕組み、また、発達を規定する生物学的、文化・社会的要因について学びます。

「臨床心理学研究」領域では、多様な心理的問題と、その問題を抱える人への援助について、背景理論や最新の知見を学ぶ講義に加え、演習や学内・学外施設での実習を通して臨床心理査定や面接の技法等の心理臨床の実践方法を学びます。

カリキュラム構成は、専門とする領域以外の履修も求められるなど、他領域についても学ぶよう設計されています。関連領域や近接領域について学ぶことにより、視野を広げ、事象を多角的、複合的にとらえる能力を養い、自身の専門領域における理解をより深めることを目指しています。

３領域のいずれにおいても、博士前期課程２年次に修士論文を執筆します。１年次より指導教員、副指導教員のもとで研究指導計画書を作成しリサーチワークを進める中で、研究計画の立案や研究方法について学びます。２年次に「心理学修士論文演習(1)(2)」を履修し、実証的なデータに基づく科学的な学術論文を作成し、人間科学専攻博士前期課程（心理学分野）での学習の集大成を目指します。

4．教育研究の目的と目指す修了生像

人間科学専攻心理学分野の「視聴覚情報研究」「発達心理学研究」「臨床心理学研究」の３領域では、いずれも多様な心理学の学習、実験・調査・面接の技法、統計的な処理などの訓練を通して分析的に物事を観察する能力と自分の考えを組み立て説得的に発表する技術を身につけることを目標としている。博士前期課程ではスクール・カウンセラーやセラピスト、公務員の心理職、一般企業の教育・人事職など、また、博士後期課程では研究所員、大学、短期大学、専門学校の教員などの仕事を通して、科学的センスと能力によって広く社会に貢献できる人材を育成する。

7-2. 研究指導スケジュール

時期	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
	1年次の指導体制及び研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名を決定する。指導教員と相談のうえ研究計画を確定する。
	「心理学修士論文演習」の履修開始(任意)	履修の有無にかかわらず、指導教員による研究指導を随時受ける。
7～10月	修士論文中間発表会への参加	2年次生が行う発表を通じて研究や修士論文作成の方法について修得する。
1月	修士論文発表会への参加	2年次における指導教員1名・副指導教員1名を決定する。
1～2月	2年次の指導体制の確定	
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
	修士論文題目の提出	
	「心理学修士論文演習」の履修開始(必須)	指導教員による研究指導を随時受ける。
随時	研究認可申請書の作成と受審	研究認可申請書を作成し、専攻内および大学の倫理審査を受審する。
7～10月	修士論文中間発表会	人間科学専攻（心理学領域）の専任教員の前で発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
10～1月	修士論文の推敲指導	
1月	修士論文の提出	
	修士論文審査及び最終試験	
	修士論文発表会	
3月	学位授与式	

7-3. 履修要項

1. 単位の修得方法

修了要件単位（30単位以上）は次のように修得する。

(1) 修了要件単位のうち、20単位以上を本学大学院の人間科学専攻博士前期課程において修得する。

(2) 残りの10単位以上については、次の科目から修得する（ただし、1科目の単位の一部を分けて算入することはできない)。

① 本学大学院の人間科学専攻の授業科目、ならびに人間科学専攻が承認した本学大学院他専攻修士課程および博士前期課程の授業科目

② 本学大学院の人間科学専攻が承認した、委託聴講生制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目

2. 履修方法

(1) 発達心理学研究領域、視聴覚情報研究領域の専攻生

①特論については、以下の領域からそれぞれ指定の単位数以上を修得すること。

・「人間科学基礎論」 8単位

・「発達心理学研究」・「臨床心理学研究」・「視聴覚情報研究」の領域のうち、自分の専門領域以外の研究領域において合計4単位

②演習については、自分の専門領域において1年次に履修すること。なお、ここには「心理学修士論文演習（1)(2)」は含まない。

③心理学修士論文演習（1)(2）は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件には数えない。

(2) 臨床心理学研究領域の専攻生

①特論については、以下の領域からそれぞれ指定の単位数以上を修得すること。

・「人間科学基礎論」 8単位

・「発達心理学研究」・「視聴覚情報研究」領域において合計4単位

②演習については、自分の専門領域において1年次に履修すること。なお、ここには「臨床心理査定演習」や「心理学修士論文演習（1)(2)」は含まない。

③心理学修士論文演習（1)(2）は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件には数えない。

④臨床心理基礎実習Ⅰ、Ⅱ（各1単位）は、1年次に履修すること。

・臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ)、臨床心理実習Ⅱは、2年次に履修すること。原則として、臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ)、臨床心理実習Ⅱを履修するためには、前年度までに臨床心理基礎実習Ⅰ、Ⅱを履修していなければならない。

3.「臨床心理士」の受験資格

本学大学院の臨床心理学研究領域は、2018年度より臨床心理士養成指定大学院第1種指定校となったため、2018年度以降入学者は大学院を修了した年に臨床心理士資格試験を受験することができる。

臨床心理学研究領域の専攻生のうち、「臨床心理士」の受験資格取得を希望する場合は、【表1】の科目が含まれるように修得すること。

【表1】「臨床心理士」の受験資格を得るために必要な科目

コード	授業科目	単位	備考
▼必修科目			
WC11	臨床心理学特論Ⅰ	2	
WC12	臨床心理学特論Ⅱ	2	
WC61	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2	
WC14	臨床心理面接特論Ⅱ	2	
WC62	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	
WC17	臨床心理査定演習Ⅱ	2	
WC96	臨床心理基礎実習Ⅰ	1	
WC97	臨床心理基礎実習Ⅱ	1	
WC81	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）	1	
WC82	臨床心理実習Ⅱ	1	
▼選択必修科目（臨床心理学またはその近接領域）			
・次のA～E群の中からそれぞれ1科目以上合計10単位以上を修得すること。			
▽A群			
WA31	心理統計法特論	2	
WC84	臨床心理学研究法	2	
▽B群			
WA21	大脳生理心理学特論	2	
WA22	大脳生理心理学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
WB13	発達心理学特論	2	
WB42	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	
WB15	比較行動学特論	2	
WB45	比較行動学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	

コード	授業科目	単位	備考
WB51	生涯発達心理学特論１	2	
WB52	生涯発達心理学特論２	2	
WD72	学習心理学特論Ⅰ	2	
WD73	学習心理学特論Ⅱ	2	
WD91	学習心理学特論Ⅰ（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	廃止（～2023）
WD92	学習心理学特論Ⅱ（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	廃止（～2023）
WD93	認知心理学特論１	2	
WD94	認知心理学特論２	2	
▽C群			
WB33	社会心理学特論１	2	
WB12	家族心理学特論	2	
WB41	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
WB08	家族臨床心理学特論	2	
WB43	家族臨床心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
WC24	社会病理学特論	2	
WC73	社会病理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	
WC28	犯罪心理学特論	2	
WC74	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	
▽D群			
WB16	障害児心理学特論	2	
WB46	障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	
WB31	老年心理学特論	2	
WB47	老年心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	
WC22	精神医学特論	2	
WC71	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
WC23	心身医学特論	2	
WC72	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
WC90	福祉分野に関する理論と支援の展開	2	
▽E群			
WB17	学校臨床心理学特論	2	
WB19	フェミニスト・カウンセリング特論	2	
WC27	投影法特論	2	
WC93	心理療法特論１	2	
WC94	心理療法特論２	2	

4.「公認心理師」の受験資格取得希望者

臨床心理学研究領域の専攻生のうち、「公認心理師」の受験資格取得を希望する場合は、以下の点に注意すること。

①学部（４年制大学）で履修済みの科目が、受験資格取得の要件を満たしているか否かについて、出身大学に確認すること。学部で履修済みの科目が要件を満たしていない場合は、受験資格を取得することはできない。

②学部で履修済みの科目が要件を満たし、かつ、本学大学院において以下に従って履修することにより、受験資格を取得することができる。

③【表２】の科目が含まれるように履修すること。

【表2】「公認心理師」の受験資格を得るために必要な科目

コード	授業科目	単位	
▼必修科目			
WC81	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）	1	
WC83	心理実践実習Ⅰ	2	
▼選択必修科目			
・下記の①～⑨の全てについて、それぞれの名称を含む科目を１科目以上ずつ履修すること			
①　保健医療分野に関する理論と支援の展開			
WA22	大脳生理心理学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
WC71	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
WC72	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
②　福祉分野に関する理論と支援の展開			
WB46	障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	
WB47	老年心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	
WC90	福祉分野に関する理論と支援の展開	2	
③　教育分野に関する理論と支援の展開			
WB42	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	
WD91	学習心理学特論Ⅰ（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	廃止（～2023）
WD92	学習心理学特論Ⅱ（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	廃止（～2023）
④　司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開			
WC73	社会病理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	
WC74	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	
⑤　産業・労働分野に関する理論と支援の展開			
WC77	産業心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2	廃止（～2023）
WC79	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2	
⑥　心理的アセスメントに関する理論と実践			
WC62	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	
⑦　心理支援に関する理論と実践			
WC61	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2	
WC95	心理支援に関する理論と実践	2	
⑧　家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践			
WB41	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
WB43	家族臨床心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
WB45	比較行動学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
WC76	フェミニスト・カウンセリング特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	廃止（～2023）
⑨心の健康教育に関する理論と実践			
WC78	健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	2	廃止（～2023）
WC80	心の健康教育に関する理論と実践	2	

3．研究指導体制

(1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
(2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
(3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
(4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
(5) 大学院学生は、指導教員が担当する「心理学修士論文演習」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、修士論文を作成する。

4．修了所要単位修得済みの者の在学について

課程修了の所定単位を修得済みの者は、原則として心理学修士論文演習 (1)(2) のみ履修することができる。

5．領域変更

人間科学専攻教育研究領域、発達心理学研究領域、視聴覚情報研究領域から、臨床心理学研究領域への領域の変更はできない。

7-4. 修士論文

1．修士論文の評価基準

聖心女子大学大学院人文社会科学研究科人間科学専攻(心理学)では、修士論文の審査において、以下の諸観点から総合的に判断し、論文の合否を決定することとする。

1．問題意識が明確であり、目的に応じた適切な課題の設定が行われていること。
2．内外の先行研究を十二分に検討した上で、当該研究を適切に位置づけていること。
3．研究目的に照らして、適切な研究方法と、それに応じた分析方法が使われていること。
4．論文の各部の論旨が明確であり、論理の展開において整合性や首尾一貫性を有していること。
5．学術的および社会的な意義が認められること。

7-5. 授業科目一覧

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。
※人間科学専攻（博士前期課程）教育研究領域の専攻生は、該当のカリキュラムページに掲載された授業科目一覧を参照すること。

「区分」●：リサーチワーク科目、無印：コースワーク科目
「備考」※：臨床心理学研究領域専攻生のみ履修可　無印：心理学分野の学生は履修可

区分	コード	授業科目	単位	備考
▼「人間科学基礎論」				
	WA16	基礎心理学特論 1	2	
	WA17	基礎心理学特論 2	2	
	WA18	基礎心理学特論 3	2	
	WA19	基礎心理学特論 4	2	
	WA21	大脳生理心理学特論	2	
	WA22	大脳生理心理学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
	WA31	心理統計法特論	2	
	WA43	人間科学特論 1	2	
	WA44	人間科学特論 2	2	
	WA71	基礎教育学特論 1	2	
	WA72	基礎教育学特論 2	2	
	WA73	基礎教育学特論 3	2	
	WA74	基礎教育学特論 4	2	
▼「領域共通」				
●	WG14	人間科学特別演習（1）	2	
●	WG15	人間科学特別演習（2）	2	
●	WG23	心理学修士論文演習（1）	2	
●	WG24	心理学修士論文演習（2）	2	
▼「教育研究」領域				
	WF51	教育実践研究特論 1	2	
	WF52	教育実践研究特論 2	2	
	WF53	教育実践研究特論 3	2	
	WF54	教育実践研究特論 4	2	
	WF55	教育実践研究特論 5	2	
	WF56	教育実践研究特論 6	2	
	WF57	教育実践研究特論 7	2	
	WF58	教育実践研究特論 8	2	
	WF59	教育実践研究特論 9	2	
	WF43	生涯学習研究特論 1	2	
	WF44	生涯学習研究特論 2	2	
	WF45	生涯学習研究特論 3	2	
	WF46	生涯学習研究特論 4	2	
	WF61	国際教育研究特論 1	2	
	WF62	国際教育研究特論 2	2	
	WF63	国際教育研究特論 3	2	
	WF64	国際教育協力研究特論	2	
	WF72	教育実践研究演習 1	2	
	WF73	教育実践研究演習 2	2	
	WF82	生涯学習研究演習 1	2	
	WF83	生涯学習研究演習 2	2	
	WF92	国際教育研究演習 1	2	
	WF93	国際教育研究演習 2	2	
▼「発達心理学研究」領域				
	WB08	家族臨床心理学特論	2	
	WB43	家族臨床心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
	WB12	家族心理学特論	2	
	WB41	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
	WB13	発達心理学特論	2	
	WB42	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	
	WB15	比較行動学特論	2	
	WB45	比較行動学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
	WB16	障害児心理学特論	2	
	WB46	障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	
	WB24	生涯発達心理学演習 1（1）	2	
	WB25	生涯発達心理学演習 1（2）	2	
	WB26	生涯発達心理学演習 2（1）	2	
	WB27	生涯発達心理学演習 2（2）	2	

区分	コード	授業科目	単位	備考
	WB31	老年心理学特論	2	
	WB47	老年心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	
	WB33	社会心理学特論１	2	
	WB51	生涯発達心理学特論１	2	
	WB52	生涯発達心理学特論２	2	
▼「視聴覚情報研究」領域				
	WD14	視聴覚情報処理特論	2	
	WD41	感性情報処理特論	2	
	WD93	認知心理学特論１	2	
	WD94	認知心理学特論２	2	
	WD95	認知心理学演習（１）	2	
	WD96	認知心理学演習（２）	2	
	WD97	視聴覚情報処理演習（１）	2	
	WD98	視聴覚情報処理演習（２）	2	
	WD72	学習心理学特論Ⅰ	2	
	WD91	学習心理学特論Ⅰ（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	廃止（～2023）
	WD73	学習心理学特論Ⅱ	2	
	WD92	学習心理学特論Ⅱ（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	廃止（～2023）
▼「臨床心理学研究」領域				
	WB17	学校臨床心理学特論	2	※
	WB19	フェミニスト・カウンセリング特論	2	※
	WC76	フェミニスト・カウンセリング特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	廃止（～2023）
	WC11	臨床心理学特論Ⅰ	2	※
	WC12	臨床心理学特論Ⅱ	2	※
	WC13	臨床心理面接特論Ⅰ	2	※
	WC61	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2	※
	WC14	臨床心理面接特論Ⅱ	2	※
	WC16	臨床心理査定演習Ⅰ	2	※
	WC62	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	※
	WC17	臨床心理査定演習Ⅱ	2	※
	WC22	精神医学特論	2	
	WC71	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
	WC23	心身医学特論	2	
	WC72	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
	WC24	社会病理学特論	2	
	WC73	社会病理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	
	WC27	投影法特論	2	※
	WC28	犯罪心理学特論	2	
	WC74	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	
	WC42	臨床心理実習	2	廃止（～2023）
	WC81	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）	1	※
	WC82	臨床心理実習Ⅱ	1	※
	WC77	産業心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2	廃止（～2023）
	WC79	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2	
	WC78	健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	2	廃止（～2023）
	WC80	心の健康教育に関する理論と実践	2	
	WC83	心理実践実習Ⅰ	2	※
	WC84	臨床心理学研究法	2	
	WC90	福祉分野に関する理論と支援の展開	2	
	WC91	臨床心理学演習（１）	2	※
	WC92	臨床心理学演習（２）	2	※
	WC93	心理療法特論１	2	※
	WC94	心理療法特論２	2	※
	WC95	心理支援に関する理論と実践	2	※
	WC96	臨床心理基礎実習Ⅰ	1	※
	WC97	臨床心理基礎実習Ⅱ	1	※

代替指定科目　　<>内は単位数

●「臨床心理学研究」領域

コード	旧科目名	コード	代替科目
WC77	産業心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）＜2＞	WC79	産業・労働分野に関する理論と支援の展開＜2＞
WC78	健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）＜2＞	WC80	心の健康教育に関する理論と実践＜2＞

8. 人文学専攻（博士後期課程）

8-1. 専攻のポリシーと修了生像

1. アドミッション・ポリシー

人文学専攻では、カリキュラム・ポリシーに基づき設置された各種授業科目を受講し、ディプロマ・ポリシーに示されている学識や諸能力を身につけ、研究を遂行して博士論文を作成するために必要とされる知識や学力が備わっていることを入学者に求め、受入れにあたって、口述試験を実施し、以下のことを確認します。

1．言語・文学・思想・芸術・歴史など人間が創り出してきたあらゆる文化、社会の諸相について、また人間の本質について知的な探究心を持ち、人文系の学問研究に必要な専門的な知識および論理的な思考力を有すること。
2．従来の発想にとらわれない独創的で明確な研究課題を持ち、博士論文を作成するにあたって主体的に遂行可能な研究計画の見通しを立てられること。
3．学際的な研究を要する授業に参加し、自らの研究成果を分かりやすく発信する力や、他領域の研究者の話を受け止め、理解する力を有していること。
4．本専攻を修了したのち、研究者や教育者などとして自立したさい、本専攻で身につけた高い学識や諸能力を、社会に積極的に還元し、社会の発展に寄与することを目指していること。
5．なお、哲学・美学研究領域においては、研究を遂行するにあたって必要とされる高度な外国語の運用能力を身につけていることを確認するため、外国語試験（英語・ドイツ語・フランス語のうち、いずれか一つを選択）を実施する。

2. ディプロマ・ポリシー

人文学専攻では、「英語・英文学」「日本語・日本文学」「哲学・美学」「史学」のいずれかの研究領域において専門的な研究を深めるとともに、四つの領域にまたがる学際的な知見を取り入れることによって、修了時に、次のような能力と資質を有する人材を養成します。

1．言語・文学・思想・芸術・歴史など、さまざまな地域や時代において人間がこれまでに創り出し、培ってきたあらゆる文化や社会の諸相に関する深い関心。また、それらを生みだした人間の本質に対する深い理解と高い学識。
2．研究倫理を強く持ちつつ、各専門領域における学問研究を追究するとともに、当該領域におけるこれまでの枠組みや方法論・問題意識にとらわれることなく、自らの課題を発見し、その課題の解決に向けて、独創的な発想と的確な手法に基づき、主体的に研究を遂行していく能力。
3．グローバル化する社会の一員として、国内のみならず国際社会においても、高度に専門的な業務に従事し、身につけた深い見識と広い視野、最新の学識をもって、その携わる分野の発展に貢献するために必要とされる能力。
4．研究者や教育者などとして、専門的な研究とともに学際的な研究によって身につけた広範な教養と対話の力に基づき、多様性を認め、関わる他者と理解し合い、協働することによって人間の文化・社会の発展に大いに寄与する能力。

3. カリキュラム・ポリシー

人文学専攻では、ディプロマ・ポリシーに基づいて、各領域での高度な専門知識ならびに学際的な教養を身につけ、研究成果として学術的な価値のある独創的な博士論文を作成するために、次のような方針で教育課程を編成し、実施しています。

1．「英語・英文学」「日本語・日本文学」「哲学・美学」「史学」の各研究領域において、それぞれの領域における専門的な知識を深めるためのカリキュラムを編成し、充実したコースワーク科目（講義科目）を設置する。
2．専門領域の枠組みにとらわれず、幅広い学際的な知識を獲得し、研究を行うために、四領域に共通するコースワーク科目として「人文学特論」を設置する。また相互の専門科目の履修を認める。
3．高度に専門的、独創的な博士論文を作成するために、十分な訓練が受けられるリサーチワーク科目（演習科目）を設置する。また、各領域において複数指導体制を実施する。
4．上記２と３に加えて、さらに多面的で柔軟な視座を獲得して博士論文の完成度を高め、また他領域の研究者への発信力を鍛えるために、四領域で合同して運営するリサーチワーク科目として「人文学共同演習」を設置する。
5．上記４の「人文学共同演習」の一環として、現代の社会における研究のあり方や貢献について学ぶ機会を提供するために、さまざまな分野で活躍している研究者（本専攻の修了者を含む）を招き、講演を実施する。

4. 教育研究の目的と目指す修了生像

人文学専攻は、言語・文学・思想・芸術・歴史などを通して人間の本質に迫ることを目標とする。本専攻では特に「英語・英文学」「日本語・日本文学」「哲学・美学」「史学」という四つの柱を立てて教育・研究を行っているが、個々の専門領域にとどまらず学際的な視点をもった人材の育成を目指している。本専攻の学生は、博士論文の作成に向けて教員の綿密な指導を受ける。修了者は本格的な学術研究の道を歩むほか、在学中に培った高度な教養と専門性をもって社会のさまざまな分野で活躍することが期待される。

8-2. 研究指導スケジュール

時期	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関する説明。
	指導体制及び研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名の決定。指導教員と相談のうえ研究計画を確定する。
	リサーチワーク科目の開始	指導教員による研究指導。
7月	大学院論集への投稿	研究指導に基づき、研究成果を投稿する。
1月	人文学共同演習レポート提出	
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関する説明。
	リサーチワーク科目の開始	指導教員による研究指導。
7月	大学院論集への投稿	研究指導に基づき、研究成果を投稿する。
1月	人文学共同演習レポート提出	
3年次		
4月	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ研究計画を確定する。
	博士論文題目の提出	
	リサーチワーク科目の開始	指導教員による研究指導。
	人文学共同演習の履修	研究発表を行い、博士論文について各領域の教員および学生との意見交換を行う。
4～9月	博士論文の推敲指導	
	博士論文の提出	
10～2月	博士論文審査及び最終試験	
3月	学位授与式	

8-3. 履修要項

1. 単位の修得方法

修了要件単位（10単位以上）すべてを、下記の本学大学院人文学専攻において修得する。履修にあたっては次の方法に従わなければならない。

(1) 専門科目および共通科目の共通講義からそれぞれ 4 単位以上修得する。
(2) 共通科目の人文学共同演習は2年次必修である。ただしこの科目による単位修得はできない（無単位）。
(3) 人文学論文演習は全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位には数えない。
(4) 人文学共同演習は、2年次生以外も履修または再履修することが望ましい。

2. 研究指導体制

(1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
(2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
(3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
(4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
(5) 大学院学生は、指導教員が担当する論文演習を履修し定期的に論文執筆指導を受け、博士論文を作成する。
(6) 人文学共同演習において、博士論文の途中経過報告としての研究発表をおこなう。

3. 在学延長の場合

在学延長を承認された者は、人文学論文演習のみ履修することができる。

8-4. 博士論文

1. 博士論文の提出要件

(1) 査読付きの学会誌（本学大学院が発行する『聖心女子大学大学院論集』等の紀要を含む）に1本以上の論文が掲載されていること、もしくは所属学会（本学も参加する大学院英文学専攻課程協議会の研究発表会を含む）で1回以上発表の実績があることを提出条件とする。
(2) 仮提出と本提出の条件
本提出に先立って仮提出する博士予備論文は、英語英文学分野においては 3 万ワード程度、日本語日本文学・哲学美学・史学分野においては400字詰め原稿用紙200枚程度とする。さらに仮提出された博士予備論文は指導教員を含む複数の当該専攻の教員により査読され、博士論文としてふさわしいと判断された場合のみ、本提出を許可される。仮提出された博士予備論文は本提出までに必要な補筆訂正を行うことができる。

2. 博士論文の評価基準

▼人文学専攻

聖心女子大学大学院人文社会科学研究科人文学専攻では、博士論文の審査において、以下の諸観点から総合的に判断し、論文の合否を決定することとする。

1. 当該の研究領域において高い学問的価値を有すること。
2. 主張に独自性があり、かつ説得力があること。
3. 主張に論理的な整合性があること。
4. 主題を論じるに適切な分量であり、かつ全体の構成にまとまりを有すること。
5. 文意が正確かつ簡潔に伝わる表現であること。
6. 作成した図表、統計資料等の信憑性が確保され、かつその扱い方が適切であること。
7. 先行研究を十分に踏まえていること。
8. 文献・データベース・各種資料等からの引用の仕方が、学問上の倫理に則り、かつ論理の構成上適切なものであること。

8-5. 授業科目一覧

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

「区分」●：リサーチワーク科目、無印：コースワーク科目

区分	コード	授業科目	単位	備考
▼「専門科目」				
	XA38	英語学特論Ⅰ－1	2	
	XA39	英語学特論Ⅰ－2	2	
	XA17	英文学特論Ⅰ－1	2	
	XA18	英文学特論Ⅰ－2	2	
	XA19	英文学特論Ⅱ－1	2	
	XA20	英文学特論Ⅱ－2	2	
	XA40	現代社会・ジャーナリズム特論Ⅰ－1	2	
	XA41	現代社会・ジャーナリズム特論Ⅰ－2	2	
	XA42	日本語学特論Ⅰ（1）	2	
	XA43	日本語学特論Ⅰ（2）	2	
	XA44	日本語学特論Ⅱ（1）	2	
	XA45	日本語学特論Ⅱ（2）	2	
	XA46	日本文学特論Ⅰ（1）	2	
	XA47	日本文学特論Ⅰ（2）	2	
	XA48	史学特論Ⅰ（1）	2	
	XA49	史学特論Ⅰ（2）	2	
	XA50	史学特論Ⅱ（1）	2	
	XA51	史学特論Ⅱ（2）	2	
	XA52	史学特論Ⅲ（1）	2	
	XA53	史学特論Ⅲ（2）	2	
	XA33	哲学・倫理学特論Ⅰ	4	
	XA34	哲学・倫理学特論Ⅱ	4	
	XA37	哲学・倫理学特論Ⅲ	4	
	XA35	美学・芸術学特論Ⅰ	4	
	XA36	美学・芸術学特論Ⅱ	4	
▼「共通科目」①共通講義				
	XB11	人文学特論Ⅰ	4	
	XB12	人文学特論Ⅱ	4	
	XB18	人文学特論Ⅱ－1	2	
	XB19	人文学特論Ⅱ－2	2	
	XB30	人文学特論Ⅲ（1）	2	
	XB31	人文学特論Ⅲ（2）	2	
	XB32	人文学特論Ⅳ（1）	2	
	XB33	人文学特論Ⅳ（2）	2	
	XB15	人文学特論Ⅴ	4	
	XB16	人文学特論Ⅵ	4	
	XB17	人文学特論Ⅶ	4	
	XB20	人文学特論Ⅶ－1	2	
	XB21	人文学特論Ⅶ－2	2	
	XB40	人文学特論Ⅷ（1）	2	
	XB41	人文学特論Ⅷ（2）	2	
	XB42	人文学特論Ⅸ（1）	2	
	XB43	人文学特論Ⅸ（2）	2	
	XB24	人文学特論Ⅹ－1	2	
	XB25	人文学特論Ⅹ－2	2	
	XB46	人文学特論ⅩⅠ（1）	2	
	XB47	人文学特論ⅩⅠ（2）	2	
	XB48	人文学特論ⅩⅡ（1）	2	
	XB49	人文学特論ⅩⅡ（2）	2	
	XB50	人文学特論ⅩⅢ（1）	2	
	XB51	人文学特論ⅩⅢ（2）	2	
▼「共通科目」②共同演習				
	XC13	人文学共同演習	0	
▼「共通科目」③論文演習				
●	XD31	人文学論文演習Ⅰ	4	
●	XD51	人文学論文演習Ⅰ－1	2	
●	XD52	人文学論文演習Ⅰ－2	2	
●	XD32	人文学論文演習Ⅱ	4	
●	XD33	人文学論文演習Ⅲ	4	
●	XD34	人文学論文演習Ⅳ	4	
●	XD35	人文学論文演習Ⅴ	4	
●	XD36	人文学論文演習Ⅵ	4	
●	XD37	人文学論文演習Ⅶ	4	
●	XD38	人文学論文演習Ⅷ	4	
●	XD39	人文学論文演習Ⅸ	4	
●	XD53	人文学論文演習Ⅸ－1	2	
●	XD54	人文学論文演習Ⅸ－2	2	
●	XD40	人文学論文演習Ⅹ	4	
●	XD41	人文学論文演習ⅩⅠ	4	
●	XD42	人文学論文演習ⅩⅡ	4	
●	XD44	人文学論文演習ⅩⅢ	4	
●	XD45	人文学論文演習ⅩⅣ	4	
●	XD55	人文学論文演習ⅩⅤ（1）	2	
●	XD56	人文学論文演習ⅩⅤ（2）	2	
●	XD57	人文学論文演習ⅩⅥ（1）	2	
●	XD58	人文学論文演習ⅩⅥ（2）	2	
●	XD59	人文学論文演習ⅩⅦ（1）	2	
●	XD60	人文学論文演習ⅩⅦ（2）	2	
●	XD61	人文学論文演習ⅩⅧ（1）	2	
●	XD62	人文学論文演習ⅩⅧ（2）	2	
●	XD63	人文学論文演習ⅩⅨ（1）	2	
●	XD64	人文学論文演習ⅩⅨ（2）	2	
●	XD65	人文学論文演習ⅩⅩ（1）	2	
●	XD66	人文学論文演習ⅩⅩ（2）	2	
●	XD67	人文学論文演習ⅩXI（1）	2	
●	XD68	人文学論文演習ⅩXI（2）	2	
●	XD69	人文学論文演習ⅩXII（1）	2	
●	XD70	人文学論文演習ⅩXII（2）	2	
●	XD71	人文学論文演習ⅩXIII（1）	2	
●	XD72	人文学論文演習ⅩXIII（2）	2	

9．社会文化学専攻（博士後期課程）

9-1．専攻のポリシーと修了生像

1．アドミッション・ポリシー

流動化する現代社会の様相は、特定の学問分野からだけではとらえ切ることができません。その実態と変化の方向性を理解するには、国家や地域社会といったマクロな視点と共に、家族やその構成員としての人間というミクロな視点の双方から分析することが必要です。社会文化学専攻では、社会学、心理学、文化人類学、地域文化研究（中国、フランス）、法学といった社会と思想を研究する諸領域を融合させ、今後の社会の動向を理解・予測し、あるべき姿を提言するための新しい知の体系を構築してゆくことを目指しています。

社会文化学専攻博士後期課程では、社会の動きや人間の生き方に対して深い関心をもち、深い教養と柔軟な思考力、旺盛な探求心と深い洞察力、豊かな人間性と高い倫理性を備えているか、研究課題に対する明確な意識 と研究を実行する具体的な計画性を有しているか、博士後期課程終了後には社会に貢献することを目指しているかのそれぞれを、学生を受入れる際の基準として審査するとともに、博士前期課 程で達成した成果を吟味したうえで、今後研究者として自立して研究を継続する能力を有しているかも審査します。

また、上記に加え、ディプロマ・ポリシー（1）に示す修士課程・博士前期課程修了程度以上の十分な学識と研究能力を備えていることが必要です。

受け入れの判定については、外国語の試験では、関連分野に関する外国語文献の読解において、その外国語知識・専門知識および翻訳技能、さらには思考力・判断力とともに日本語の表現力を測定します。また口述試験においては、研究に対するより本質的な主体性や、今後独立した研究者として、意味のある研究を遂行していくための研究計画を、具体的・効率的 に構築する思考力・判断力を測定するとともに、多様な人々と協働して学び、時には研究全体をリードしていく態度を培っていける人材かどうかも判定します。

2．ディプロマ・ポリシー

流動化する現代社会の実態と変化の方向性を、国家や地域社会といったマクロな視点と、家族やその構成員としての人間というミクロな視点の双方から分析、研究することで、社会と思想を研究する諸領域を融合させ、今後の社会の動向を理解・予測し、あるべき姿を提言できる人材を育成したいと考えています。

社会文化学専攻の博士後期課程では、上記の内容に加え、独創的な研究を実行する研究能力、または高度に専門的な業務を遂行しうる能力を身につけ、他分野の研究者や実務者等と協働して諸問題の解決に向けて尽力できる修了生に学位を授けます。

1．適切な研究倫理のもとで学問を追究し、専攻分野に関する研究能力を身につける。
2．高度に専門的な職業等に必要な能力を身につける。
3．柔軟な思考力、的確な判断力を身につける。
4．発信する力を身につける。
5．多様な他者を尊重し能動的に協働し、地域および国際社会に貢献する力を身につける。
6．生涯にわたり、学問的関心を発展させ、主体的に探究し続ける姿勢をもつ。
7．独創的な研究を実行する研究能力を身につける。
8．高度に専門的な業務を遂行しうる能力を身につける。
9．他分野の研究者や実務者等と協働して諸問題の解決に向けて尽力できる力を身につける。

3．カリキュラム・ポリシー

流動化する現代社会の様相は、特定の学問分野からだけではとらえ切ることができません。その実態と変化の方向性を理解するには、国家や地域社会といったマクロな視点と共に、家族やその構成員としての人間というミクロな視点の双方から分析することが必要です。

社会文化学専攻では、社会学、心理学、文化人類学、地域文化研究（中国、フランス）、法学といった社会と思想を研究する諸領域を融合させ、今後の社会の動向を理解・予測し、あるべき姿を提言するための新しい知の体系を構築してゆくことを目指しています。

社会文化学専攻の博士後期課程では、提供される講義や演習を通して自ら定めたテーマに必要な学識と高度な研究能力を身につけるために、コースワークとバランスに配慮して教育課程を編成しています。ここでは、思考力・判断力を伸ばすと同時に自発性・創造性を発揮することが目指され、国際的に発信する能力を養います。

博士論文の作成を研究活動の中心として重視し、学会の研究水準を十分に踏まえつつ独創性のある論文を作成するため、研究指導および論文作成指導の機会は十分に保障されます。なお、年次の始めに毎年、研究計画書を提出させ、正副指導教員との綿密な打ち合わせを行い、研究方針を共有します。社会文化学専攻の院生は、社会調査の手法に関する授業を取得し、「専門社会調査士」の資格を得ることも可能です。

幅広い学識と多角的な視点を身につけるため、他大学院との単位互換、委託聴講制度を活用することもできます。

4．教育研究の目的と目指す修了生像

社会文化学専攻は、社会、社会心理、心理、思想、宗教、言語、比較文化といった学際的研究を活かして、それぞれの専門性を高めつつ、幅広く社会に貢献できる人材の育成に努めている。博士前期課程では、グローバリズムに対応できる国際的な視野と、幅広い分野に通用する基本的スキルを修得することをめざしており、修了者は、先端技術、マス・メディア、マーケティング、教育関連の企業や国際機関などでの活躍が期待される。また、博士後期課程では、世界規模で生起している社会文化現象に対して問題発見的な研究を推進し、大学、短期大学など教育機関、もしくは、国や民間の研究機関で専門的に活躍できる人材の育成をめざす。

9-2. 研究指導スケジュール

時期	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し、説明を受ける。
	指導体制及び研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名を決定する。指導教員と相談の上、研究計画を提出する。
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
7月	博士論文中間発表会への参加(共同演習)	2年次生が行う中間発表を通じて、研究や博士論文作成の方法について修得する。
1月	博士論文の構想発表を行う（共同演習）	社会文化学専攻の全専任教員、大学院学生の前で博士論文の構想発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定 研究指導計画書の提出	指導教β員と相談の上、確定して、提出する。
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
7月	共同演習で博士論文の計画を発表。その後、計画書を提出	社会文化学専攻の全専任教員、大学院学生の前で博士論文の中間発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
11月	共同演習で博士論文の中間報告を発表。その後、博士論文の草稿を提出	
11月～	予備論文提出	博士論文の草稿審査を受けて合格後、予備論文を提出し、査読を受ける。
3年次		
4月	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定 研究指β導計画書の提出	指導教員と相談の上、確定して、提出する。
	博士論文題目・指導教員届の提出	
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
4～9月	博士論文の推敲指導	指導教員による研究指導を随時受ける。
10月	博士論文の提出	
12～1月	博士論文審査及び最終試験	
2月	博士論文発表会	
3月	学位授与式	

9-3. 履修要項

1．単位の修得方法

修了要件単位（10単位以上）すべてを、本学大学院社会文化学専攻博士後期課程において修得する。履修にあたっては次の方法に従わなければならない。

(1) 専門科目から8単位以上修得する。

(2) 社会文化学共同演習は、2年次に履修する。なお、1年次生および3年次生は、必須ではないが履修することが望ましい。

(3) 社会文化学論文演習は全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位には数えない。

2．研究指導体制

(1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。

(2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。

(3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。

(4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。

(5) 大学院学生は、指導教員が担当する「論文演習」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、博士論文を作成する。

(6)「共同演習」において、年3回発表の機会を設けて、大学院学生はいずれか最低1回は発表する場が設けられている。「共同演習」には全教員が参加し、質疑応答を通じて指導する。

（7）博士論文作成に向けて、学内発表会を行うとともに、専門学会出席を促し発表させる。

（8）社会文化学専攻のホームページにおいて、大学院学生の学会発表論文および投稿論文要旨などを掲載し、研究活動の活発化を促進する。

3．在学延長の場合

在学延長を承認された者は、社会文化学論文演習のみ履修することができる。

9-4. 博士論文

1．博士論文の提出要件

(1) 以下の中間審査の過程を経ていること。

①1年次後期以降の共同演習時に「博士論文の構想」を発表し、発表した「博士論文の構想」が専攻の合否判定を受けて合格すること。

②2年次前期以降の共同演習時に「博士論文の計画」を発表し、かつ「博士論文計画書」を指導教員に提出し、提出した「博士論文計画書」が専攻の合否判定を受けて合格すること。

③2年次後期以降の共同演習時に「博士論文の中間報告」を発表し、かつ「博士論文の草稿」を指導教員に提出し、提出した「博士論文の草稿」が専攻の合否判定を受けて合格すること。

④随時、専攻に対して博士論文の予備論文（以下「予備論文」という。）を提出し、主査および副査による査読を受けること。

なお、毎年度7月末までに提出すれば、同年度9月末までに、主査および副査の査読が終了するものとする。

⑤予備論文提出時までに、博士論文の内容に関連ある学会発表を1回以上行っていること。

⑥予備論文提出時までに、博士論文の内容に関連ある論文が2篇以上専門学術誌等に掲載されているか、もしくは掲載が決定していること。うち少なくとも1篇は、査読付論文であること。

付　上記④～⑥の確認は、予備論文提出時に行う。

2．博士論文の評価基準

大学院社会文化学専攻では、博士論文を以下の視点から判断し、すべて5段階の評定をする。

1．扱われている主題は社会文化学専攻の博士論文として適切か。

2．高い学問的価値を有しているか。
3．主張に独自性があり、かつ説得力があるか。
4．扱われている素材・資料は適切か。
5．素材・資料の提示は適切か。
6．結論の提示方法は適切か。
7．論理展開は適切か。
8．記述内容の正確さは充分か。
9．記述内容の完成度は充分か。
10. 表現は適切か。
11. 文章表現は優れているか。
12. 文章は充分読みやすいか。
13. 章・節など全体構成は適切か。
14. 主題を論じるに適切な分量であり、かつ全体の構成にまとまりを有しているか。
15. 作成した図表、統計資料等の信憑性は確保されているか。
16. 図表、統計資料等の扱い方は適切か。
17. 引用されている参照文献は妥当なものか。
18. 文献引用の形式は適切か。
19. 要旨は論文内容の趣旨を適切に表現しているか。

9-5. 授業科目一覧

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

「区分」●：リサーチワーク科目、無印：コースワーク科目

区分	コード	授業科目	単位	備考
（イ）「専門科目」				
	ZB01	社会学特論Ⅰ－1	2	
	ZB02	社会学特論Ⅰ－2	2	
	ZB03	社会学特論Ⅱ－1	2	
	ZB04	社会学特論Ⅱ－2	2	
	ZB11	社会心理学特論Ⅰ－1	2	
	ZB12	社会心理学特論Ⅰ－2	2	
	ZB13	社会心理学特論Ⅱ－1	2	
	ZB14	社会心理学特論Ⅱ－2	2	
	ZB25	法学特論Ⅰ－1	2	
	ZB26	法学特論Ⅰ－2	2	
	ZB29	比較文化特論Ⅰ－1	2	
	ZB30	比較文化特論Ⅰ－2	2	
	ZB31	文化人類学特論Ⅰ－1	2	
	ZB32	文化人類学特論Ⅰ－2	2	
	ZB33	中国思想文化特論Ⅰ－1	2	
	ZB34	中国思想文化特論Ⅰ－2	2	
	ZB35	国際開発学特論Ⅰ－1	2	
	ZB36	国際開発学特論Ⅰ－2	2	
	ZB37	フランス文化特論Ⅰ－1	2	
	ZB38	フランス文化特論Ⅰ－2	2	
	ZA31	社会文化学特論1	2	
	ZA32	社会文化学特論2	2	
（ロ）「共同演習」				
	ZC13	社会文化学共同演習	1	
（ハ）「論文演習」				
●	ZD11	社会文化学論文演習Ⅰ	4	
●	ZD12	社会文化学論文演習Ⅱ	4	
●	ZD13	社会文化学論文演習Ⅲ	4	
●	ZD14	社会文化学論文演習Ⅳ	4	
●	ZD15	社会文化学論文演習Ⅴ	4	
●	ZD16	社会文化学論文演習Ⅵ	4	
●	ZD17	社会文化学論文演習Ⅶ	4	
●	ZD18	社会文化学論文演習Ⅷ	4	
●	ZD19	社会文化学論文演習Ⅸ	4	
●	ZD20	社会文化学論文演習Ⅹ	4	
●	ZD21	社会文化学論文演習Ⅺ	4	
●	ZD22	社会文化学論文演習Ⅻ	4	
●	ZD23	社会文化学論文演習XIII	4	

10. 人間科学専攻（博士後期課程）：教育研究領域

10-1. 専攻のポリシーと修了生像

1. アドミッション・ポリシー

大学院人間科学専攻（教育研究領域）博士後期課程では、教育研究領域における多様な研究関心と背景を持つ学生を受け入れるため、外国人特別入試、社会人特別入試および長期履修学生制度を設けています。入学者受け入れにあたって、次のような点を重視します。

1．人間の成長や社会の発展を支える教育および学習の在り方に対して強い研究意欲を持ち、博士前期課程修了程度の学識と研究能力を備えていること。

2．教育学に関する独自性のある明確な研究課題を持ち、計画性をもって独創的な研究を進めることが期待でき、修了後は研究を通じ、または大学、国際機関などでの高度な業務を通じ、グローバル化する社会への貢献を目指していること。

なお、特色あるカリキュラムとして「教育実践研究」「生涯学習研究」「国際教育研究」の３研究領域を設定していますが、入学者募集においては区別をしていません。また、いずれの領域においても、外国人特別入試および社会人特別入試制度を設け、多様な研究関心と背景や経験を持つ学生の受け入れを積極的に行っています。教育分野の学問的探求を通して専門性を深めたい社会人および現職教員も歓迎します。

受け入れの判定については、外国語の試験では、専門分野の英語文献を読みこなす力があるかを判定するために読解を課し、基礎知識を測ると同時に構文の読解力、および日本語の文章力を評価します。また口述試験においては、研究に対する主体性や科学的な研究計画を構築し遂行する思考力・判断力・意欲を評価するとともに、多様な人々と協働して学ぶ態度を培っていける人材かどうかも判定します。

2. ディプロマ・ポリシー

大学院人間科学専攻（教育研究領域）博士後期課程では、専攻の用意する様々な授業での学習や研究の経験を積み重ねた結果として、修了時に次のような力（知識、技能、態度）を身につけ、独創性ある研究者として自立して研究を行い、教育実践を指導する基盤となる実力を築いた人物に、博士（人間科学）の学位を授与します。

1．教育学に関する幅広い視野及び該博にして精深な学識。

2．研究倫理を有し、教育学における適切な研究方法に支えられた高度な研究能力。

3．現代社会の教育学に関連する諸課題を自ら見出す力や探求心、多角的かつ批判的な思考力および問題解決力。

4．教育と人間の発達・成長の支援に関する実証的な研究能力または教育の現場や国際協力活動、生涯学習などの分野で協働的に職務を遂行できる能力。

5．グローバル時代において自らの専門性に基づいて地域および国際社会に貢献することのできる柔軟な思考力と、的確で総合的な判断力。

6．独自性のある研究成果を導き出し、それを精確に発信する力。

7．多様な他者を尊重しつつ能動的に関わり協働する態度、および、専攻する学問分野の発展に寄与し、他の研究者と協働できる力。

8．生涯にわたり、知的、学問的関心を発展させ、主体的に探究し続ける姿勢。

9．独創性ある研究者として自立して研究を行い、情報を発信する能力。

10．大学、国際機関など社会において高度に専門的な業務を遂行し得る能力。

3. カリキュラム・ポリシー

大学院人間科学専攻（教育研究領域）博士後期課程では、少人数制の演習を重視し、学生による研究活動とこれに対する研究指導とをカリキュラムの中心に置いています。学界の研究水準を踏まえ、かつ独創性を育てるために、複数研究指導体制の下、先行研究を精査し、多角的な観点から問題意識を深化・発展させ、主体的に取り組むことを重視しています。

本専攻では、コースワーク科目として、「教育研究」領域の科目群を、３つの研究領域の柱を立て、多彩な特殊研究科目を設置しています。「教育実践研究」では、幼児教育および初等中等教育をめぐる諸問題等を扱います。「生涯学習研究」では、生涯学習の理論やシステムに関する研究を扱います。「国際教育研究」では、グローバルとローカルの双方向の視点から諸外国の教育制度・政策、国際教育協力等について扱います。上記の３つの研究領域が重複する研究課題の設定も可能です。また、演習形式の科目群として、「教育研究」領域の科目群の３つの研究領域の柱に対応して、「教育実践研究特殊演習１・２」「生涯学習研究特殊演習１・２」「国際教育研究特殊演習１・２」を用意し、自分の専門とする分野の演習を１年次に４単位履修することを定めています。

リサーチワーク科目として、「教育研究論文作成演習」を設置し、教育研究領域が定める博士論文の提出要件を計画的に達成し、博士論文の評価基準に適合した論文の作成が可能となるよう特に留意します。この演習科目は、全年次において履修または再履修可能ですが、修了要件単位には数えません。

指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とし、研究全般について適宜指導教員および副指導教員に相談できる体制を整えています。また、博士論文の中間発表では、当該専攻の全専任教員が参加し、指導助言を行います。

4. 教育研究の目的と目指す修了生像

人間科学専攻教育研究領域は、教育を幅広い人間科学の中に位置づけて研究、教育することを通じ、高度な教養と広い視野のもとに教育学に関する専門的な学識を身に付け、幼児教育、学校教育、社会教育等の現場や国際教育協力活動等において指導的役割を果たす人材、および幅広い分野において教育活動と生涯学習を遂行し研究する人材の育成を目標とする。博士前期および後期課程修了者は、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教員、その他教育・福祉関係の専門家として、また生涯学習、マスメディア、情報、デザイン、アート、国際協力などの分野で学習の新しい領域と方法を開発することのできる人材として活躍することが期待される。

10-2. 研究指導スケジュール

時期	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
	指導体制及び研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名を決定する。指導教員と相談の上、研究計画を提出する。
	「教育研究論文作成演習」の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
7月	博士論文中間発表会への参加	2年次生が行う中間発表を通じて研究や博士論文作成の方法について修得する。
3月	博士論文中間発表会	人間科学専攻（教育研究領域）の全専任教員の前で博士論文の構想を発表し、指導を受ける。
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
	リサーチワーク科目の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
7月	博士論文中間発表会への参加	2年次生以上が行う発表会参加を通じて研究や論文作成方法の向上を図る。
3月	博士論文中間発表会	人間科学専攻（教育研究領域）の全専任教員の前で第1次中間発表を行い、指導を受ける。
3年次		
4月	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
	博士論文題目の提出	
	リサーチワーク科目の履修開始	
7月	博士論文中間発表会	人間科学専攻（教育研究領域）の全専任教員の前で第2次中間発表を行う。
4～9月	博士論文の推敲指導	指導教員による研究指導を随時受ける。
10月	博士論文の提出	
11～1月	論文審査 最終試験博士 （博士論文発表会）	
3月	学位授与式	

10-3. 履修要項

1. 単位の修得方法

修了要件単位（10単位以上）は、すべて本学大学院人間科学専攻博士後期課程において修得する。履修にあたっては次の方法に従わなければならない。

(1) 特殊研究から2単位以上修得する。
(2) 特殊演習は、教育研究領域のうち、博士論文の内容に係わる分野において2科目4単位を1年次に履修する。
(3) 教育研究論文作成演習および教育研究論文作成演習（1）（2）は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位には数えない。

2. 研究指導体制

(1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
(2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
(3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
(4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
(5) 大学院学生は、指導教員が担当する「教育研究論文作成演習」または「教育研究論文作成演習（1）(2)」を履修し定期的な論文執筆指導を受け、博士論文を作成する。
(6) 博士論文の中間発表では当該専攻の全専任教員が参加し、指導助言を行う。

3. 在学延長の場合

在学延長を承認された者は、教育研究論文作成演習および教育研究論文作成演習（1）(2) のみ履修することができる。

10-4. 博士論文

1. 博士論文の提出要件

(1) 以下の中間審査の過程を経ていること。
①1年次後期以降　博士論文の構想を「博士論文計画書」として発表すること。
②2年次前期以降　博士論文の第1次中間発表をすること。
③2年次後期以降　博士論文の第2次中間発表をすること。
④2年次末以降　博士予備論文を指導教員に提出すること。
付　上記①から③は教育研究領域の専任教員全員で構成する審査会で審査を行い、④については指導教員と副指導教員2名が審査にあたる。
（2）博士論文の提出までに、以下の二つの要件を満たしていること。
①博士論文に関係ある学術論文2本（うち1本は、査読つき論文であること）が専門学術誌等に掲載済みまたは掲載が決定されているものがあること。
②博士論文に関係ある学会発表を2回以上行っていること。

2. 博士論文の評価基準

博士論文は以下の基準をもって審査する。

1．教育と人間形成に関する価値の高いテーマを扱っている。
2．研究テーマが絞り込まれている。
3．研究テーマについての先行研究の調査を十分に行っている。
4．論文の方法論が明確である。
5．研究の素材となる基本文献、資料、調査データを十分に吟味している。
6．結論を裏付けるための、必要にして十分な議論と実証が展開されている。
7．教育研究の領域から見て評価に値する独創性を有する論文である。
8．資料・情報の入手、研究成果の引用等に関する倫理を遵守している。

10-5. 授業科目一覧

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

「区分」●：リサーチワーク科目、無印：コースワーク科目

区分	コード	授業科目	単位	備考
▼「心理学基礎研究」領域				
	YA15	知覚心理学特殊研究	2	
	YA25	認知心理学特殊研究	2	
	YA31	神経心理学特殊研究	2	
	YA32	学習心理学特殊研究	2	
	YA91	知覚心理学特殊演習（1）	2	
	YA92	知覚心理学特殊演習（2）	2	
	YA93	認知心理学特殊演習（1）	2	
	YA94	認知心理学特殊演習（2）	2	
●	YC14	心理学博士論文演習（1）	2	
●	YC15	心理学博士論文演習（2）	2	
▼「発達臨床研究」領域				
	YB21	比較行動学特殊研究	2	
	YB24	発達心理学特殊研究 1	2	
	YB25	発達心理学特殊研究 2	2	
	YB62	家族臨床心理学特殊研究	2	
	YB63	フェミニスト・カウンセリング特殊研究	2	
	YB94	発達心理学特殊演習 1（1）	2	
	YB95	発達心理学特殊演習 1（2）	2	
	YB96	発達心理学特殊演習 2（1）	2	
	YB97	発達心理学特殊演習 2（2）	2	
	YB98	臨床心理学特殊演習 1（1）	2	
	YB99	臨床心理学特殊演習 1（2）	2	
●	YC14	心理学博士論文演習（1）	2	
●	YC15	心理学博士論文演習（2）	2	
▼「教育研究」領域				
	YD11	教育実践特殊研究 1	2	
	YD12	教育実践特殊研究 2	2	
	YD13	教育実践特殊研究 3	2	
	YD14	教育実践特殊研究 4	2	
	YD15	教育実践特殊研究 5	2	
	YD16	教育実践特殊研究 6	2	
	YD17	教育実践特殊研究 7	2	
	YD18	教育実践特殊研究 8	2	
	YD19	教育実践特殊研究 9	2	
	YD21	生涯学習特殊研究 1	2	
	YD22	生涯学習特殊研究 2	2	
	YD23	生涯学習特殊研究 3	2	
	YD24	生涯学習特殊研究 4	2	
	YD31	国際教育特殊研究 1	2	
	YD32	国際教育特殊研究 2	2	
	YD33	国際教育特殊研究 3	2	
	YD34	国際教育協力特殊研究	2	
	YD42	教育実践研究特殊演習 1	2	
	YD43	教育実践研究特殊演習 2	2	
	YD52	生涯学習研究特殊演習 1	2	
	YD53	生涯学習研究特殊演習 2	2	
	YD62	国際教育研究特殊演習 1	2	
	YD63	国際教育研究特殊演習 2	2	
●	YD72	教育研究論文作成演習（1）	2	
●	YD73	教育研究論文作成演習（2）	2	

11．人間科学専攻（博士後期課程）：心理学分野

11-1．専攻のポリシーと修了生像

1．アドミッション・ポリシー

人間科学専攻博士後期課程（心理学分野）では、高いレベルの学識と能力を持ち、豊かな人間性と高い倫理性を備えていることを前提とし、国際化された社会の中で、専門的な職業において活躍し貢献することを、意欲的に目指している方を受け入れます。

人間科学専攻博士後期課程心理学分野では、専門的に学んだ内容と経験を将来の心理実践や研究活動に活かすことを目指し、自らの問題意識を学問的、社会的に意義深い実証的研究に昇華させる力のある学生を受け入れます。進学を希望する学生には、科学的な研究方法を深く理解し、心理学全般と近接領域の知識に加え、特に認知心理学、発達心理学、臨床心理学の幅広い概念と理論に精通しており、博士前期または修士課程で学んだ内容に基づき学位論文研究を発展的に組み立てていく見通しを明確にもっていることが望まれます。

受け入れの判定については、外国語（英語）の試験では、専門分野の英語文献を精確に読みこなす力があるかを判定するために読解を課し、基礎知識、研究計画や分析方法も含めた専門的知識を測ると同時に、構文の読解力および日本語の文章力を評価します。口述試験においては、研究に対する主体性や科学的な研究を構築し遂行する思考力・判断力・意欲を評価するとともに、多様な人々と協働して学ぶために必要なコミュニケーション力を備えている人材かどうかも判定します。

2．ディプロマ・ポリシー

人間科学専攻博士後期課程（心理学分野）では、「心理学基礎研究」領域と「発達臨床研究」領域での学習と研究を通して、人間を特定の限られた観点からではなく、幅広く統合的・学際的観点から把捉しようとする研究姿勢と、時代の要求に答え得る知識・技術を習得した心理学および心理学的基礎を有するエキスパートの育成を目的としています。

人間科学専攻博士後期課程での講義・演習・研究を通し、人間のこころの働きやその仕組み、生涯発達の様相とメカニズム、こころの問題と支援方法に関する高度な専門的知識と研究能力を習得し、広い視野に立ち柔軟な思考と的確な判断力を持ち、多様化が進む現代社会に積極的に貢献することができる人材の育成を目指しています。具体的には、修了時には次のような資質を身につけていることを期待します。

1．心理学および関連領域における幅広い知識と領域を俯瞰する広い視野に基づき、科学的、分析的思考力と的確な判断力を発揮して、変化を続ける現代社会の諸問題を見出す力。さらに、専攻する学問分野を中心とする精深な学識と技能を活かし、課題の解決を図る力。
2．研究倫理、職業倫理を遵守し、大学院で培った高度な研究能力を継続発展させ、研究者・専門家として生涯にわたり知的、学問的探求を続ける謙虚な姿勢。
3．専攻する学問分野の発展に寄与し、他の研究者・専門家とも連携し協働して社会の課題解決に貢献し、得られた知見を積極的に社会に還元する発信力。

3．カリキュラム・ポリシー

人間科学専攻博士後期課程（心理学分野）では、「心理学基礎研究」領域と「発達臨床研究」領域において、エキスパートの育成を目指し、体系的で精深な学識を養うためのコースワークと、高度な科学的、実証的研究を遂行する能力を養うためのリサーチワークの両者から成るカリキュラムを編成しています。

心理学分野の博士後期課程では、人間の基礎的な心理学的機序と、その応用領域とも言える発達・教育およびそれらへの臨床的介入に関する学習・研究を、コースワーク科目（「知覚心理学特殊研究」「認知心理学特殊研究」「発達心理学特殊研究(1)(2)」など）においてバランス良く学び、基礎的・応用的な研究能力を培い、最終目標である学位論文の作成を目指します。特に演習科目（「知覚心理学特殊演習(1)(2)」「発達心理学特殊演習１(1)(2)」など）では、内外の独創性が高い研究、質のよい論文などを学びながら、国内外の最新の研究動向をふまえ、各自の研究を吟味し、目指す研究の意義を検討します。そしてリサーチワーク科目では、学位論文を構成する主たる研究について指導教員・副指導教員より学会発表・雑誌論文の作成などの指導を受けることにより、将来自立した研究者として独創的な研究を展開していく能力を育成します。

「心理学基礎研究」領域では、身体内外からの種々の情報を抽出する感覚・知覚の機能と学習・記憶などの高次認知処理機能、さらにはそれらの障害状況などについて、その神経生理学的基盤も考慮に入れ、最新の知見・方法論に基づいて基礎的・応用的研究を展開していきます。

「発達臨床研究」領域では、乳児から高齢者に至る生涯発達の視点に立ち、人間の発達や教育の心理学的原理および発達・教育上の諸問題・障害、さらにはそれらに対する臨床的介入・援助などについて、基礎的・応用的研究を進めていきます。

いずれの領域においても、発展性に富み、将来にわたり学界に貢献する学位論文の作成を目指します。

4．教育研究の目的と目指す修了生像

人間科学専攻心理学分野の「視聴覚情報研究」「発達心理学研究」「臨床心理学研究」の３領域では、いずれも多様な心理学の学習、実験・調査・面接の技法、統計的な処理などの訓練を通して分析的に物事を観察する能力と自分の考えを組み立て説得的に発表する技術を身につけることを目標としている。博士前期課程ではスクール・カウンセラーやセラピスト、公務員の心理職、一般企業の教育・人事職など、また、博士後期課程では研究所員、大学、短期大学、専門学校の教員などの仕事を通して、科学的センスと能力によって広く社会に貢献できる人材を育成する。

11-2. 研究指導スケジュール

時期	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加	指導体制や研究計画等に関し説明を受ける。
	指導体制及び研究計画の確定	指導教員1名・副指導教員1名を決定する。指導教員と相談の上、研究計画を提出する。
	「心理学博士論文演習」の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
随時	研究認可申請書の作成と受審	研究認可申請書を作成し、専攻内および大学の倫理審査を受審する。
7～10月	博士論文中間発表会への参加	2年次生が行う中間発表を通じて研究や博士論文作成の方法について修得する。
3月	年次活動報告書の提出	当該年度の活動を文書で報告する。
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
	「心理学博士論文演習」の履修開始	指導教員による研究指導を随時受ける。
6月	博士論文計画書の提出	博士論文計画書を提出し、指導教員を含む審査委員3名による審査を受ける。
7～10月	博士論文計画発表会	人間科学専攻（心理学領域）の専任教員の前で発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
8～3月	博士論文の作成開始	博士論文計画書が合格した場合は、博士論文の作成を開始し、随時、推敲指導を受ける。
3月	年次活動報告書の提出	当該年度の活動を文書で報告する。
3年次		
4月	ガイダンスへの参加	
	研究計画の確定	指導教員と相談のうえ確定する。
	博士論文題目の提出	
	「心理学博士論文演習」の履修開始	
4～9月	博士論文の推敲指導	指導教員による研究指導を随時受ける。
7月	博士論文中間発表会	人間科学専攻（心理学領域）の専任教員の前で発表を行い、質疑応答を通じて指導を受ける。
10月	博士論文の提出	
11～1月	博士論文審査 最終試験 （博士論文発表会）	
3月	学位授与式	

11-3 履修要項

1. 単位の修得方法

修了要件単位（10単位以上）のうち、本学大学院人間科学専攻博士後期課程において6単位以上を修得する。履修にあたっては次の方法に従わなければならない。

(1) 特殊演習（1）(2）は、博士論文の内容に係わる領域（心理学基礎研究、発達臨床研究のいずれか）において1年次に履修する。

(2) 心理学博士論文演習（1）(2）は、全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位には数えない。

2. 研究指導体制

(1) 入学時に、大学院学生の希望と研究領域および本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、入学後の早い時期に指導教員を決定する。

(2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。

(3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。

（4）毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。

（5）大学院学生は、指導教員が担当する「心理学博士論文演習（1）(2)」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、博士論文を作成する。

3. 在学延長の場合

在学延長を承認された者は、心理学博士論文演習（1）（2）のみ履修することができる。

11-4. 博士論文

1. 博士論文の提出要件

(1) 以下の中間審査の過程を経ていること。

①2年次前期　博士論文の構想を博士論文計画書として提出すること。

②2年次末以降　博士予備論文を提出すること。

(2) 論文の構想は博士論文計画書（目的、方法、分析、予想される結果、主要文献を含む。以下「計画書」という。）として指導教員に提出する。計画書の書き方については「心理学論文作成演習(1)(2)」の授業で指導を行う。なお、計画書を提出する者は、学会やそれに相当する研究会（いずれも国内、海外を問わず）で、発表を前期課程から通算して最低2度はしていることが必要である。計画書の提出は、その年度の6月末日を期限とし、後期課程2年次以上の者がこれを提出できる。博士論文計画書審査委員会（心理学の専任教員全員で構成する。以下「委員会」という。）は計画書の審査委員を決定する。審査委員は原則として指導教員1名と心理学の専任教員2名の計3名があたり、最終審査は委員会で行うものとする。計画書が審査を通れば、学生は計画書の内容で博士予備論文の作成を始める。ただし、この計画書の有効期限は原則として審査後2年間とする。博士論文が審査で不合格となった場合は、計画書も同時に無効となり、その時点から2年間は計画書も再提出できない。

(3) 博士論文の審査を受けるものは、審査の最終結果が出るまでに、査読のある専門誌に1本、あるいはそれに相当する書物、雑誌、モノグラフなどに1本、最低2本の論文（印刷中を含む）がなければならない。

(4) 過去に本学に博士論文を提出し、審査で不合格となった者は、再度、テーマや内容の重複する計画書及び博士論文を提出することはできない。

2. 博士論文の評価基準

聖心女子大学大学院人文社会科学研究科人間科学専攻（心理学）では、博士論文の審査において、以下の諸観点から総合的に判断し、論文の合否を決定することとする。

1．問題意識が明確であり、目的に応じた適切な課題の設定が行われていること。

2．内外の先行研究を十二分に検討した上で、当該研究を適切に位置づけていること。

3．研究目的に照らして、適切な研究方法と、それに応じた分析方法が使われていること。

4．論文の各の論旨が明確であり、論理の展開において整合性や首尾一貫性を有していること。

5．独創性に富み、学術的および社会的な意義が認められること。

11-5. 授業科目一覧

※下記科目の開講状況、履修条件等は当該年度のシラバス等で確認すること。

「区分」●：リサーチワーク科目、無印：コースワーク科目

区分	コード	授業科目	単位	備考
▼「心理学基礎研究」領域				
	YA15	知覚心理学特殊研究	2	
	YA25	認知心理学特殊研究	2	
	YA31	神経心理学特殊研究	2	
	YA32	学習心理学特殊研究	2	
	YA91	知覚心理学特殊演習（1）	2	
	YA92	知覚心理学特殊演習（2）	2	
	YA93	認知心理学特殊演習（1）	2	
	YA94	認知心理学特殊演習（2）	2	
●	YC14	心理学博士論文演習（1）	2	
●	YC15	心理学博士論文演習（2）	2	
▼「発達臨床研究」領域				
	YB21	比較行動学特殊研究	2	
	YB24	発達心理学特殊研究 1	2	
	YB25	発達心理学特殊研究 2	2	
	YB62	家族臨床心理学特殊研究	2	
	YB63	フェミニスト・カウンセリング特殊研究	2	
	YB94	発達心理学特殊演習 1（1）	2	
	YB95	発達心理学特殊演習 1（2）	2	
	YB96	発達心理学特殊演習 2（1）	2	
	YB97	発達心理学特殊演習 2（2）	2	
	YB98	臨床心理学特殊演習 1（1）	2	
	YB99	臨床心理学特殊演習 1（2）	2	
●	YC14	心理学博士論文演習（1）	2	
●	YC15	心理学博士論文演習（2）	2	
▼「教育研究」領域				
	YD11	教育実践特殊研究 1	2	
	YD12	教育実践特殊研究 2	2	
	YD13	教育実践特殊研究 3	2	
	YD14	教育実践特殊研究 4	2	
	YD15	教育実践特殊研究 5	2	
	YD16	教育実践特殊研究 6	2	
	YD17	教育実践特殊研究 7	2	
	YD18	教育実践特殊研究 8	2	
	YD19	教育実践特殊研究 9	2	
	YD21	生涯学習特殊研究 1	2	
	YD22	生涯学習特殊研究 2	2	
	YD23	生涯学習特殊研究 3	2	
	YD24	生涯学習特殊研究 4	2	
	YD31	国際教育特殊研究 1	2	
	YD32	国際教育特殊研究 2	2	
	YD33	国際教育特殊研究 3	2	
	YD34	国際教育協力特殊研究	2	
	YD42	教育実践研究特殊演習 1	2	
	YD43	教育実践研究特殊演習 2	2	
	YD52	生涯学習研究特殊演習 1	2	
	YD53	生涯学習研究特殊演習 2	2	
	YD62	国際教育研究特殊演習 1	2	
	YD63	国際教育研究特殊演習 2	2	
●	YD72	教育研究論文作成演習（1）	2	
●	YD73	教育研究論文作成演習（2）	2	

▼諸規則

大学における諸規則のうち、学生に関係する主な規則は次のとおりです。
規則の内容は、USH-Cloud（学生向けページ）に掲載されています。
なお、在学中に改定・改正されることがありますので、規則を確認する際はその都度、USH-Cloud（学生向けページ）で最新の規則を参照するようにしてください。

聖心女子大学学則
聖心女子大学大学院学則
聖心女子大学人物の育成及び教育研究上の目的に関する規程
聖心女子大学大学院人物の育成及び教育研究上の目的に関する規程
聖心女子大学学位規程
聖心女子大学履修規程　　※第６条第２項及び第７条第３項にて別に定めた内容は、本履修要覧の該当箇所を参照のこと
聖心女子大学大学院履修規程　　※第２条第２項及び第３条第３項にて別に定めた内容は、本履修要覧の該当箇所を参照のこと
聖心女子大学における転科に関する規程
聖心女子大学大学院再入学に関する規程
聖心女子大学大学院長期履修学生取扱い規程
聖心女子大学研究生規程
聖心女子大学大学院研究生規程
聖心女子大学科目等履修生規程
聖心女子大学大学院科目等履修生規程
聖心女子大学研究倫理指針
聖心女子大学における「人を対象とする研究」ガイドライン

聖心女子大学　履修要覧

2024年4月1日発行

発行　聖心女子大学

〒150-8938　東京都渋谷区広尾4丁目3番1号
TEL：03-3407-5811（代表）

http://www.u-sacred-heart.ac.jp